

2019 年度 文部科学省 専修学校による地域産業中核的人材養成事業
地域課題解決実践カリキュラムの開発・実証

IT 系留学生のための「IT ビジネス日本語・文化」強化プログラム開発事業

2019 年度事業 成果報告書

2020 年 3 月

一般財団法人 日本検定基盤財団

目次

1. 事業概要	3
1.1. 事業の趣旨	4
1.1.1. 事業の目的	4
1.1.2. 学習ターゲット・目指すべき人材像	4
1.2. 教育プログラムが必要な背景	5
1.3. 事業の実施体制	8
1.3.1. 事業の構成機関	8
1.3.2. 実施体制のイメージ	8
1.4. 事業計画の全体像	10
2. 調査	12
2.1. 外国人留学生アンケート調査	13
2.1.1. 調査の概要	13
2.1.2. 外国人留学生アンケート調査結果	14
2.1.3. 結果のまとめ	43
2.2. IT企業アンケート調査	45
2.2.1. 調査概要	45
2.2.2. IT企業アンケート調査結果	46
2.2.3. 結果のまとめ	66
2.3. 専修学校アンケート調査	67
2.3.1. 調査概要	67
2.3.2. 専修学校アンケート調査	68
2.3.3. 結果のまとめ	95
2.4. IT企業・IT人材ヒアリング調査	97
2.4.1. IT企業・IT人材調査概要	97
2.4.2. 日本のIT・デジタルコンテンツ系企業及び団体 ヒアリング調査結果	98
2.4.3. 海外のIT企業 ヒアリング調査結果	105
2.4.4. 外国人材 ヒアリング調査結果	110
2.4.5. 結果のまとめ	130
3. 開発	132
3.1. スキル標準骨子	133
3.1.1. 概要	133
3.1.2. スキル標準構成	133
3.2. カリキュラム骨子	134

3.2.1.	教育プログラムの概要.....	134
3.2.2.	構成科目と概要.....	136
3.3.	シラバス.....	138
3.3.1.	シラバス概要.....	138
3.3.2.	今年度の開発.....	138
3.4.	「IT 日本語基礎」教材開発情報収集.....	139
3.4.1.	概要.....	139
3.4.2.	情報収集項目.....	139
3.5.	「IT 実務日本語」教材開発情報収集.....	141
3.5.1.	概要.....	141
3.5.2.	情報収集対象.....	141
3.6.	「キャリア学習」教材開発情報収集.....	143
3.6.1.	概要.....	143
3.6.2.	情報収集対象.....	143
3.7.	「沖縄の地域文化と産業」教材開発情報収集.....	145
3.7.1.	概要.....	145
3.7.2.	情報収集対象.....	145
4.	まとめ.....	147
4.1.	今年度事業の総括.....	148
4.2.	事業終了後の成果活用方針.....	149
5.	巻末付録.....	150

1. 事業概要

- 1.1. 事業の趣旨
- 1.2. 教育プログラムが必要な背景
- 1.3. 事業の実施体制
- 1.4. 事業計画の全体像

1.1. 事業の趣旨

1.1.1. 事業の目的

日本の産業界では人材不足が深刻化しており、特に 2030 年時点で最大約 79 万人の不足に直面する恐れがある IT 業界では喫緊の課題となっている。近年 IT 企業の誘致に熱心に取り組む情報通信関連産業の振興に注力している沖縄県では、県の事業として IT エンジニア等の沖縄移住・転職を支援し人材獲得に努めている。

しかし、日本の大学生・大学院生の大半が AI や IT 関連の職種を志望しておらず、日本人 IT 人材の育成・獲得は容易ではない。一方で、留学生の希望する業種として「IT・情報通信」は人気があり、企業側も積極的に留学生を採用している。日本の IT 人材不足解消に向けて、国内で IT を専攻する留学生の就職・定着が求められている。

本事業では、沖縄県内の専修学校の IT 及び隣接分野の学科で学ぶ留学生に対する「IT ビジネス日本語・文化」教育プログラムの開発に取り組む。そこでは、IT 実務・専門の日本語能力や IT ビジネススキル及び沖縄での生活に関わる教養獲得を目指す。これを通して、IT 人材となり得る留学生の教育モデルを構築し、各地域ならびに日本全体の IT 産業の振興と他分野の専門外国人材養成に寄与する。

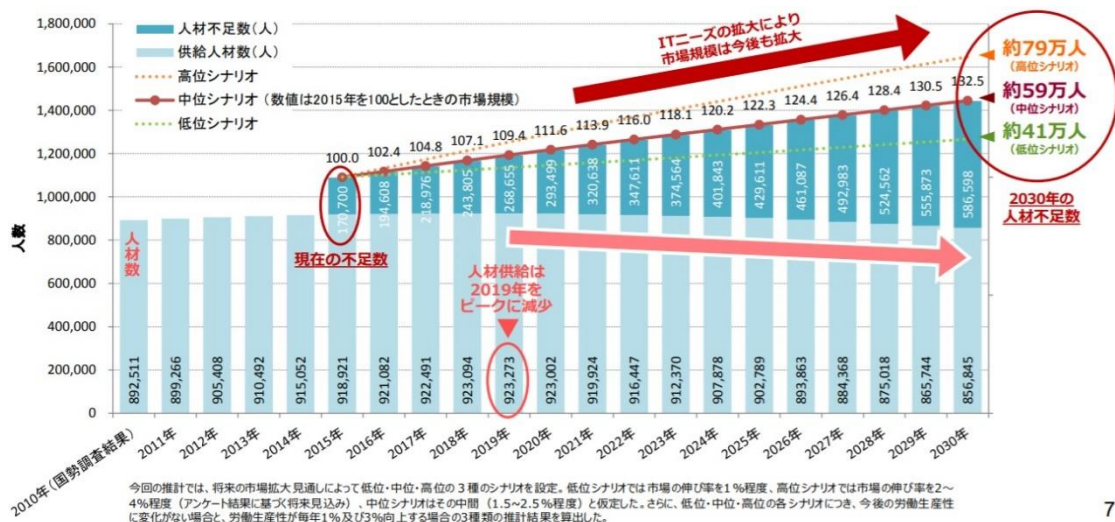
1.1.2. 学習ターゲット・目指すべき人材像

沖縄県内の専修学校の IT 及びデジタルコンテンツ系の学科で学ぶ留学生を学習ターゲットとする。IT やデジタルコンテンツ産業の企業で働くのに必須となる IT スキル・日本語力・教養を備え、沖縄県内の IT 企業等に就職して定着することで、自身の勤める企業や沖縄県の IT 産業及び地域の振興に貢献できる人材となることを目指す。

1.2. 教育プログラムが必要な背景

(1) 外国人 IT 人材の必要性

少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少により、産業界の様々な分野で人材不足が深刻化している。特に、経済産業省(2016)『IT 人材の最新動向と将来推計に関する調査結果～報告書概要版～』の試算によると 2030 年時点で最大約 79 万人の人材不足に直面する恐れがある IT 業界では人材確保は喫緊の課題である。



※経済産業省(2016)「IT 人材の最新動向と将来推計に関する調査結果～報告書概要版～」より抜粋

さらに、経済産業省(2019)『IT 人材需給に関する調査』によれば、「AI やビッグデータ、IoT 等、第 4 次産業革命に対応した新しいビジネスの担い手として、付加価値の創出や革新的な効率化等により生産性向上等に寄与できる IT 人材」と定義された「先端 IT 人材」が 2030 年時点で 55 万人不足する見込みであるという。IoT、AI、ビッグデータ、ブロックチェーン等を活用する新たな社会〈Society5.0〉の実現に向け高度な先端技術を扱うことができる IT 人材の養成が今後ますます求められている。

しかし、2019 年発表されたマイナビによる国内の大学生・大学院生 7342 名を対象とした調査によれば、約 75%が「AI・IT 関連の職種を志望しない」と回答しているように日本人の IT 関連職離れは深刻である。このような現状を背景として外国人 IT 人材の雇用は進んでおり、厚生労働省(2018)『「外国人雇用状況」の届出状況表一覧(平成 29 年 10 月末現在)』によれば日本国内で情報通信業(≡IT 産業)に従事する外国人材は 2017 年 10 月末時点で 52,038 人に上る。さらに、日本労働組合総連合会(2018)『外国人労働者の受入れ

に関する意識調査 2018』では、情報通信業で「職場に外国人労働者がいる」と回答した割合が 47.9%に上がることが明らかになっている。この数値は、全業種における「いる」の回答割合（27.7%）と比較した場合、非常に高いことが分かる。上記の IT 人材不足と日本人学生の IT 関連職離れという現状を考慮すると、今後も外国人 IT 人材の雇用は増加していくと考えられる。ただし、このような外国人材の全員が高い日本語能力を有しているわけではなく、IT スキルと日本語能力を併せ持つ外国人 IT 人材の確保は容易ではない。

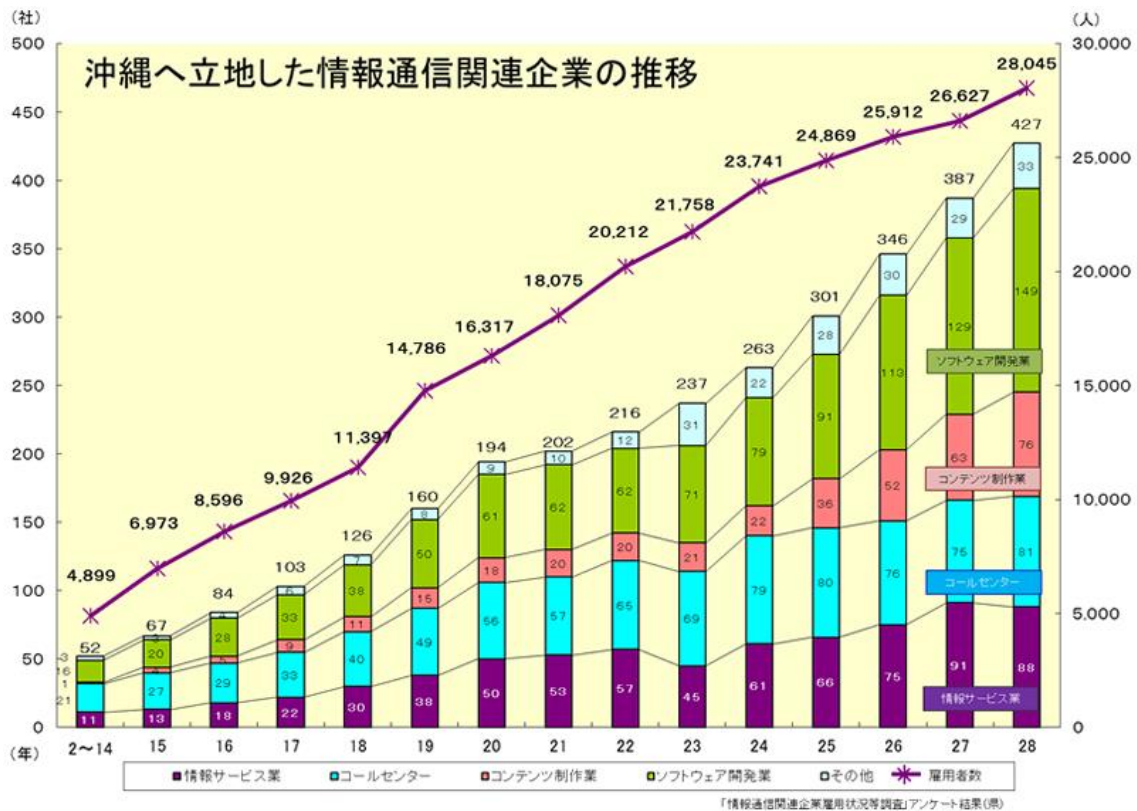
一方で、留学生の希望業種として IT は比較的人気があり、2015 年のキャリアス就活による外国人留学生が希望する業種に関する調査では「IT・情報通信」は「商業・貿易」、「製造業」に続く 3 位にランクしている。企業側も積極的に外国人留学生を採用しているようであり、同調査によれば 60%の「IT・情報通信」企業が外国人留学生を採用している。母国の日本語教育機関や日本国内の日本語学校等を経由して日本の高等教育機関で IT を学んだ外国人留学生は、一定の IT スキルと日本語能力を持っていることが期待できる。日本の IT 人材不足解消に向けて、国内の高等教育機関で IT を専攻する外国人留学生の就職・定着が求められる。

(2) 沖縄の IT 産業振興

産業、人口のあらゆる側面で東京都を中心とした首都圏一極集中はとどまることを知らず、これは IT 産業においても同様である。総務省統計局(2014)『平成 26 年経済センサス－基礎調査』の産業別就業者数の集中度を見ると、IT 産業では 51.1%と半数以上が東京に集中しており、この傾向は現在でも大きく変わっていない。

しかし、近年の情報通信技術の目覚ましい発展によるテレワークの利便性向上やワーク・ライフ・バランスの意識に関する変化から、首都圏に本社がある IT 企業が地方にサテライトオフィスを置くという例も増えてきている。また、中国・インド・東南アジア等にオフショアとして業務をアウトソーシングしていた IT 企業が、企業文化の違いやブリッジ人材確保の困難さから日本国内の地方の IT 企業へのニアショアに切り替える事例もあり、首都圏外の IT 企業の需要も高まっている。さらに、地方自治体によっては企業のスタートアップの支援・補助を行っており、IT ベンチャーの起業場所として地方が検討されやすくなっている。このような背景から様々な地方自治体が、IT 企業の本社・サテライトオフィスの誘致や IT ベンチャー起業の意向を持つ者への情報発信を行っている。

沖縄県も IT 企業の誘致に熱心に取り組み情報通信関連産業の振興に注力している自治体である。国内外の情報通信関連産業の一大拠点を目指すプロジェクトとして、うるま市に沖縄 IT 津梁パークを建設し、現在多数の IT 及びコンテンツ企業が進出している。実際に沖縄県内に立地した IT 企業やコンテンツ系企業数は伸び続けており、2016 年には 427 社に達している。これは、その 10 年前にあたる 2006 年の 126 社の 3 倍以上である。



※「Work in 沖縄」WEB サイト『沖縄の成長産業』より抜粋

さらに、沖縄県の事業として、UI ターン転職・移住したい IT エンジニアと県内企業をマッチングする「IT キャリア沖縄」を行っている。県の成長産業として IT に積極的に投資を行い、「アジア有数の国際情報通信ハブ」の地位を目指す沖縄県では、今後も IT 人材の確保が重要な課題となってくると思われる。

(3) 既存の IT 日本語教育

日本国内で情報通信業（≡IT 産業）に従事する外国人材は 5 万人を超えており、今後もこの数は増えていくことが予想される。しかし、同様に外国人材獲得に力を入れている介護業界や医療業界等に比べ、外国人 IT 人材をターゲットとした日本語教材は現時点で非常に少ない。また、IT ビジネス日本語の授業がいくつかの日本語学校等で提供されているが、それらの実態は通常のビジネス日本語に IT 語彙学習が補足されている程度である。IT 知識や業務経験がある日本語教師が多くないことが想定される以上、日本語学校にこの種の授業・コースを運営することは困難さが伴う。しかし、IT の実務や専門内容に通じた教員を擁する専修学校であれば、この種のプログラムを運営することが可能である。今後需要が伸びることが想定される IT 分野における実務・専門の日本語を対象とする教材やプログラムの開発や実践の場として、専修学校が果たすことができる役割は大きいといえる。

1.3. 事業の実施体制

1.3.1. 事業の構成機関

本事業では一般財団法人日本検定基盤財団（以下、当財団）が事業実施主体となり、以下の教育機関、企業・団体に協力を得て構成した。

(1) 教育機関

名称	都道府県名
学校法人フジ学園専門学校 IT カレッジ沖縄	沖縄県
学校法人ゴレスアカデミー 日本文化経済学院	沖縄県
学校法人宮崎総合学院 宮崎情報ビジネス医療専門学校	宮崎県
学校法人清風明育社 清風情報工科学院	大阪府
国立大学法人 琉球大学	沖縄県

(2) 企業・団体

名称	都道府県名
株式会社 沖縄情報技術研究所	沖縄県
一般社団法人 沖縄専門人材開発研究会	沖縄県

(3) 行政機関

名称	都道府県名
沖縄県 商工労働部 情報産業振興課	沖縄県

1.3.2. 実施体制のイメージ

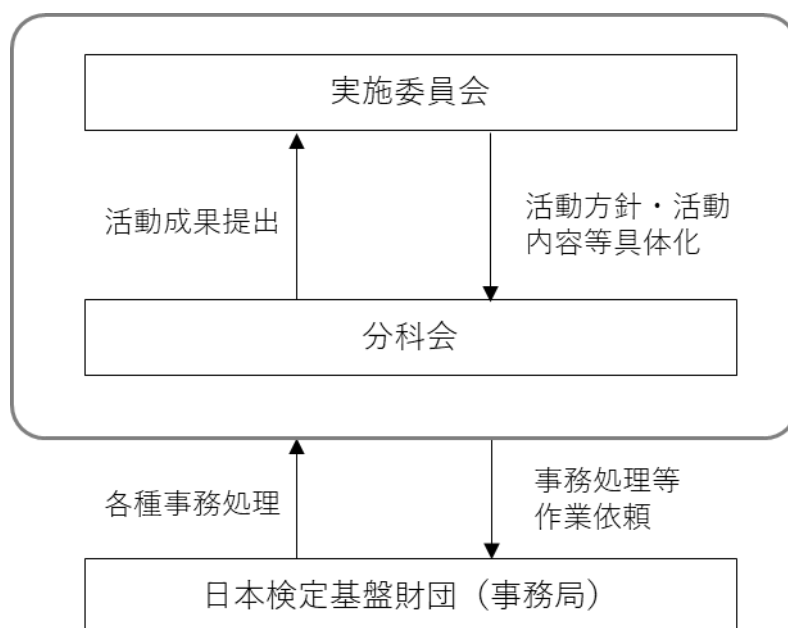
本事業実施に際して、「実施委員会」「分科会」を設置する。

実施委員会は、IT 及びデジタルコンテンツ系学科を設置する専修学校、業界企業・団体、行政機関等で構成される本事業の推進主体である。ここでは、事業全体の活動方針・計画、

各事業活動の実施方針・実施内容、活動成果の評価等の重要事項に関する検討・意思決定や、分科会に対する活動方針具体化、進捗管理等を行う。

分科会は、実施委員会の機関から構成すると共に、必要に応じて他の機関・有識者への参画要請も検討する。分科会では、実施委員会の指示のもと、各事業活動の企画や具体的な仕様の検討、実作業の推進等を担当する。

当財団は、事業全体の進捗や事業経費のマネジメントを行うと共に、上記の実施委員会・分科会の構成機関への連絡・調整、資料準備等の事務作業を担当する。



1.4. 事業計画の全体像

本事業は 2019 年度から 2020 年度にかけて実施する計画で、今年度はその初年度である。各年度の事業活動項目を以下に記載する。

次章以降、本年度の各活動項目の概要と成果を報告する。

(1) 2019 年度事業活動項目

活動種別	活動項目
調査	① 外国人留学生アンケート調査 ② IT 企業アンケート調査 ③ 専修学校アンケート調査 ④ IT 企業・IT 人材ヒアリング調査
開発	① スキル標準骨子 ② カリキュラム骨子 ③ シラバス ④ 「IT 日本語基礎」教材開発情報収集 ⑤ 「IT 実務日本語」教材開発情報収集 ⑥ 「キャリア学習」教材開発情報収集 ⑦ 「沖縄の地域文化と産業」教材開発情報収集
実証	なし
会議	① 実施委員会（3 回） ② 分科会（3 回）

(2) 2020 年度事業活動項目

活動種別	活動項目
調査	なし
開発	① スキル標準完成版 ② カリキュラム完成版 ③ シラバス ④ 「IT 日本語基礎」教材開発 ⑤ 「IT 実務日本語」教材開発 ⑥ 「IT ビジネスケーススタディ」教材開発情報収集・開発

	⑦ 「IT ビジネス PBL」教材開発情報収集・開発 ⑧ 「キャリア学習」教材開発 ⑨ 「沖縄の地域文化と産業」教材開発
実証	① 第 1 回実証講座
会議	① 実施委員会（3 回） ② 分科会（3 回）

2. 調査

2.1. 外国人留学生アンケート調査

2.2. IT 企業アンケート調査

2.3. 専修学校アンケート調査

2.4. IT 企業・IT 人材ヒアリング調査

2.1. 外国人留学生アンケート調査

2.1.1. 調査の概要

(1) 調査目的

本事業では、日本国内の専修学校の IT 及び隣接分野であるデジタルコンテンツ、情報系学科に在籍している外国人留学生を対象にアンケート調査を実施した。本調査では、外国人留学生の現状と抱えている課題（学業、日本での生活、就職など）、外国人留学生の将来の意向（就職希望地や国、希望の労働年数、起業意欲など）、本事業で開発する教育プログラムへの興味などに関わる情報について調査を行った。これにより、教育プログラムを検討する際の基礎資料を収集すると共に、講座の需要を明らかにすることを目的とした。

(2) 調査対象

本調査では、日本国内の専修学校で IT・デジタルコンテンツ・情報系分野を専攻している留学生を対象とした。

(3) 調査手法

日本国内の IT・デジタルコンテンツ・情報系学科を持つ専修学校の中で、外国人留学生受け入れを行っており、実際に一定数の外国人留学生が在籍している学校を 15 項選定し、留学生ご担当者にご協力を依頼することで調査を実施した。その結果、合計 159 名からの回答が寄せられた。

アンケート調査は、回答用 WEB サイトを作成し URL を入力または QR コードを読み取ることでアクセスできるようにした。質問形式は多肢選択形式と自由記述形式の 2 系統である。WEB サイトは日本語版・英語版・ベトナム語版の 3 か国語を同内容で用意することで、日本語での回答に自信がない留学生にも回答がしやすいよう対応した。また、日本語版のアンケートは質問項目、選択肢などにはルビを振った。

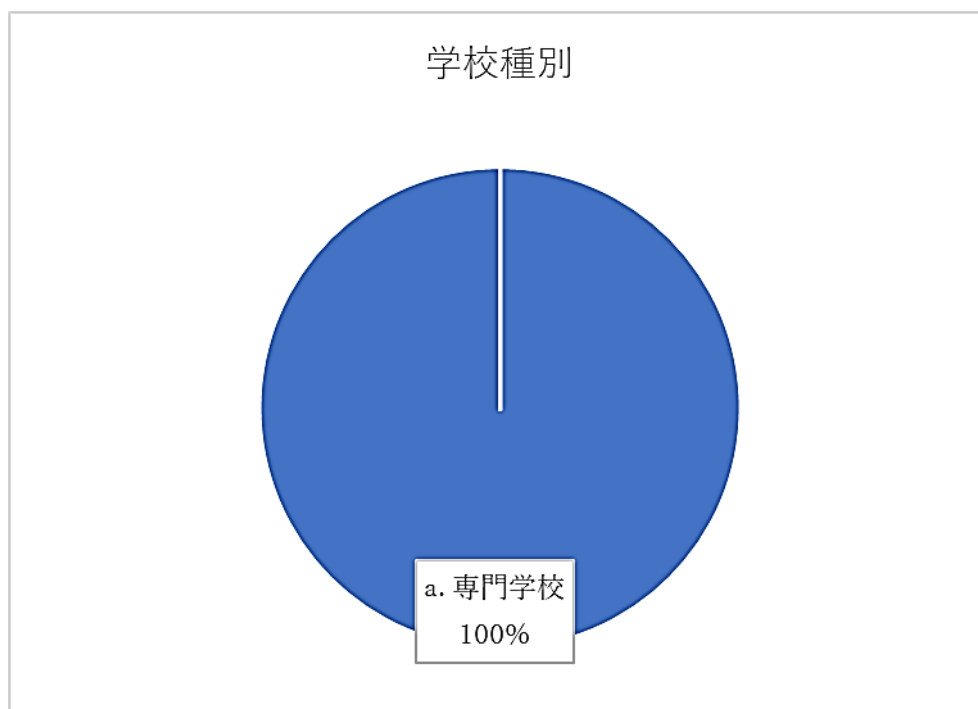
次頁以降、アンケート調査結果を掲載する。その際、質問項目は日本語版のものを記載する。また、提示する結果は 3 か国語のアンケートで集まったすべての回答を合わせたものである。回答が自由記入の項目では、英語・ベトナム語で寄せられた回答は日本語訳を記す。日本語で寄せられた回答は、語彙・文法などが正しくない場合にも修正せずにそのまま提示する。なお、回答者個人の特定を避けるため、質問項目にある「学校名」「学部・学科名」の結果は提示しないこととする。

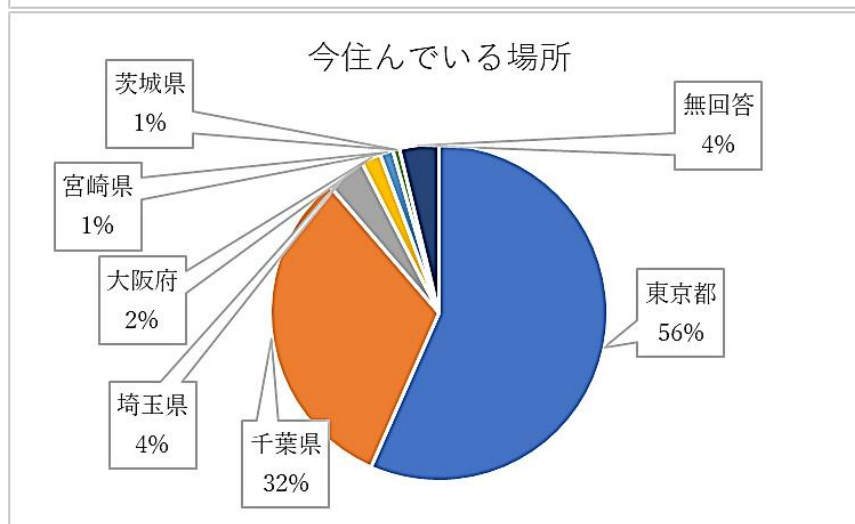
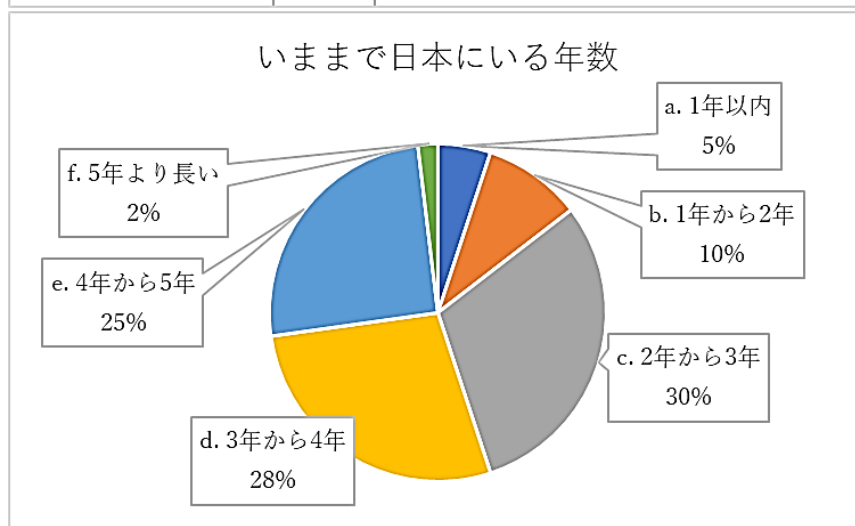
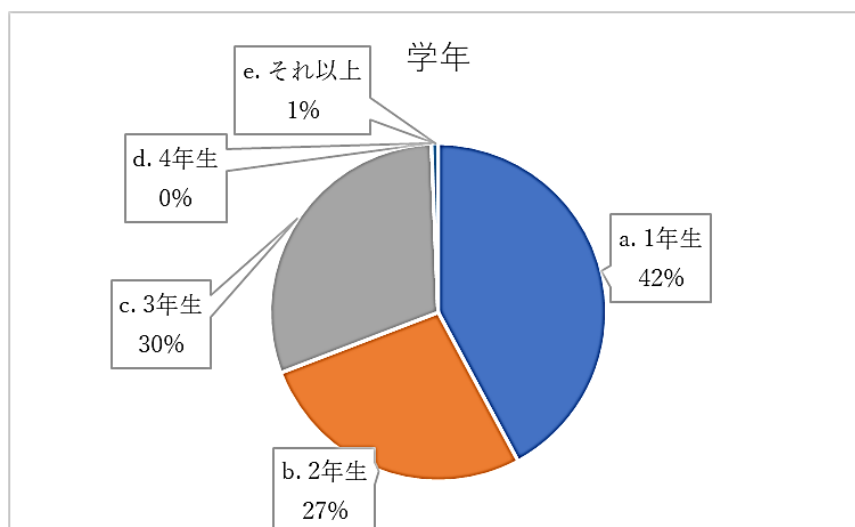
2.1.2. 外国人留学生アンケート調査結果

1. 今のあなたについて

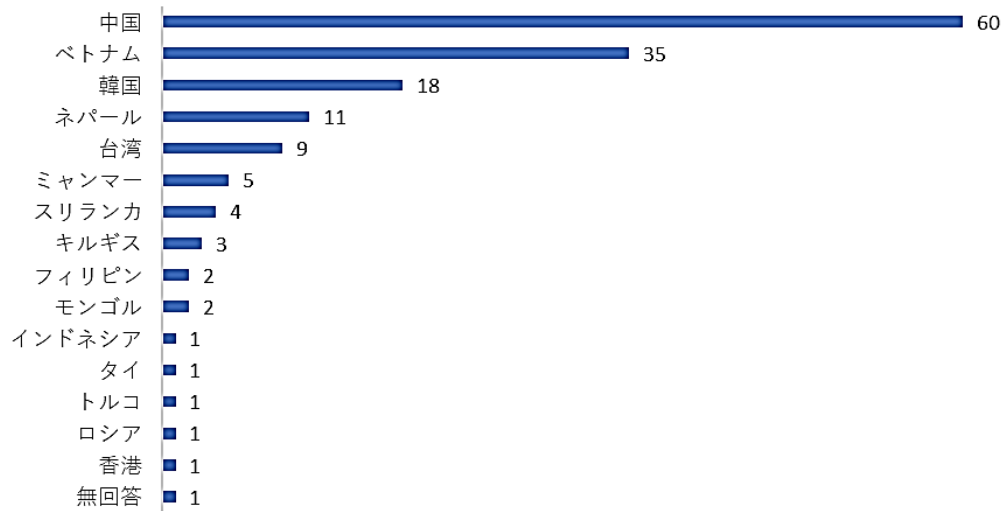
(1) 下の表に答えください。

学校	a. 専門学校 b. 大学 c. 大学院 d. そのほかの学校 (学校名：) (学部・学科名：)		
学年	a. 1 年生 b. 2 年生 c. 3 年生 d. 4 年生 e. それ以上		
いままで 日本に いる 年数	a. 1 年以内 b. 1 年から 2 年 c. 2 年から 3 年 d. 3 年から 4 年 e. 4 年から 5 年 f. 5 年より長い (年)		
今住んで いる場所	(都道府県の名前：)		
出身	(国や地域の名前：)		
年齢	(歳)	性別	

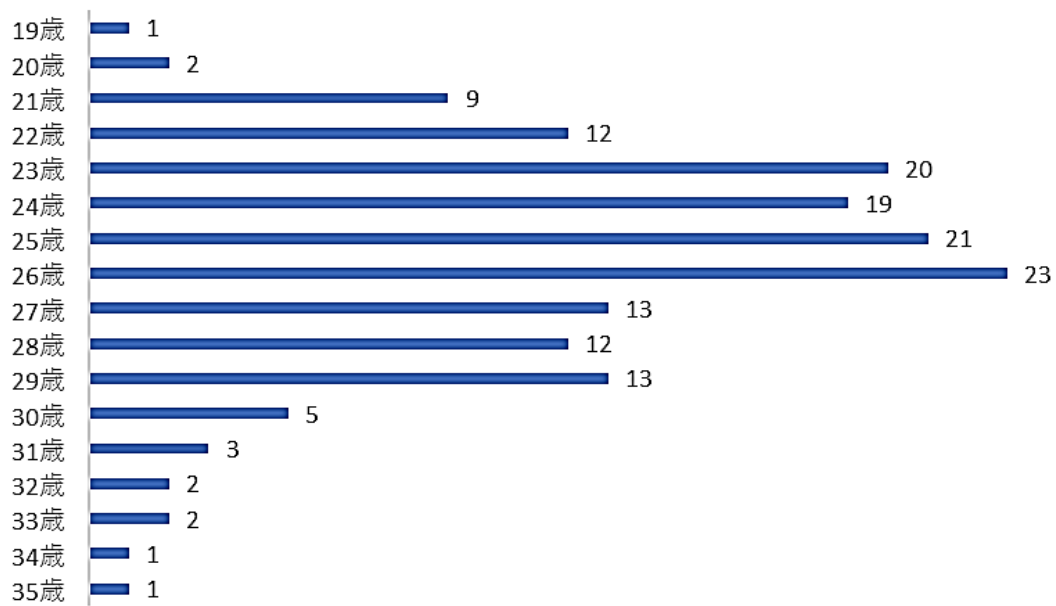


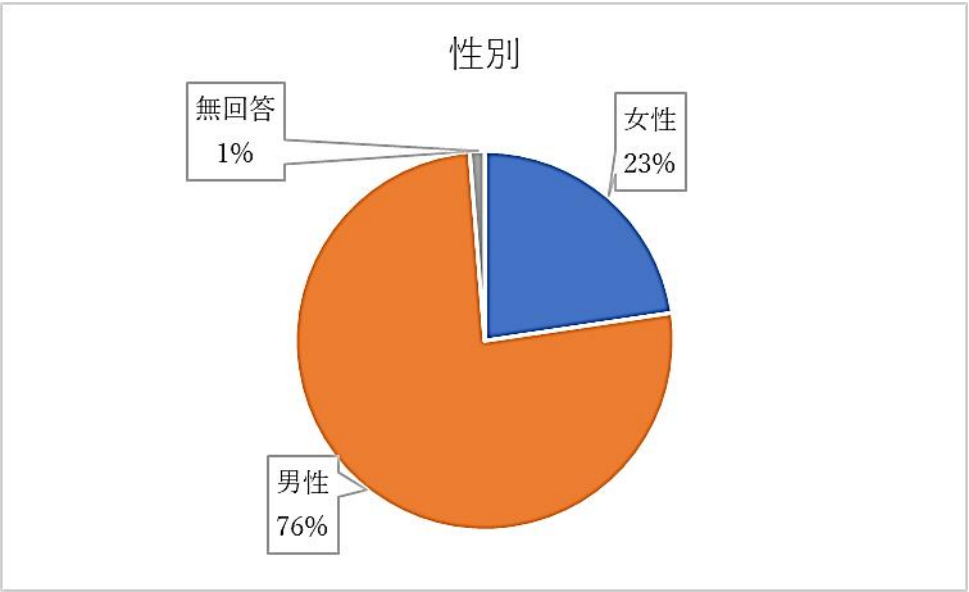


出身（棒グラフ右の数字は人数）



年齢（棒グラフ右の数字は人数）

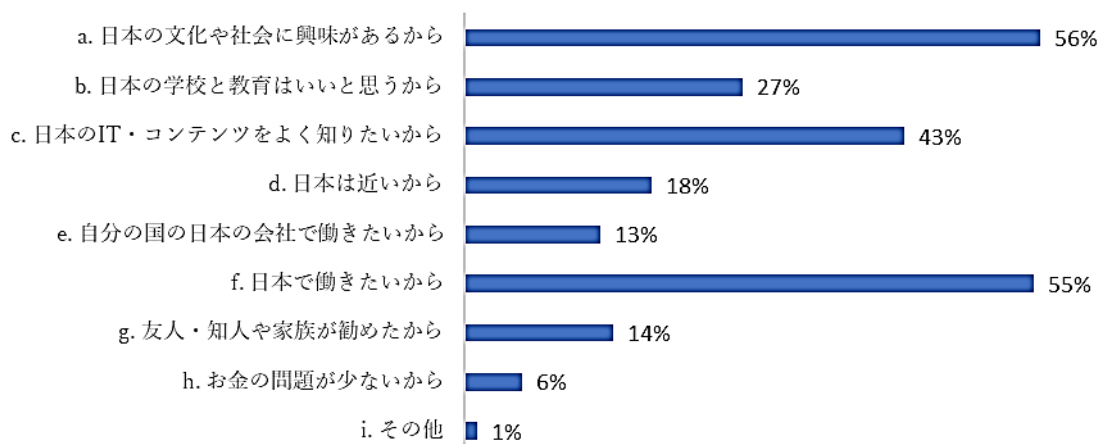




(2) なぜ日本に留学しましたか？ あなたの理由をすべて選んでください。「その他」のときには、() の中に書いてください。

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| a. 日本の文化や社会に興味があるから | b. 日本の学校と教育はいいと思うから |
| c. 日本の IT・コンテンツをよく知りたいから | d. 日本は近いから |
| e. 自分の国の日本の会社で働きたいから | f. 日本で働きたいから |
| g. 友人・知人や家族が勧めたから | h. お金の問題が少ないから |
| e. その他 (|) |

日本に留学した理由

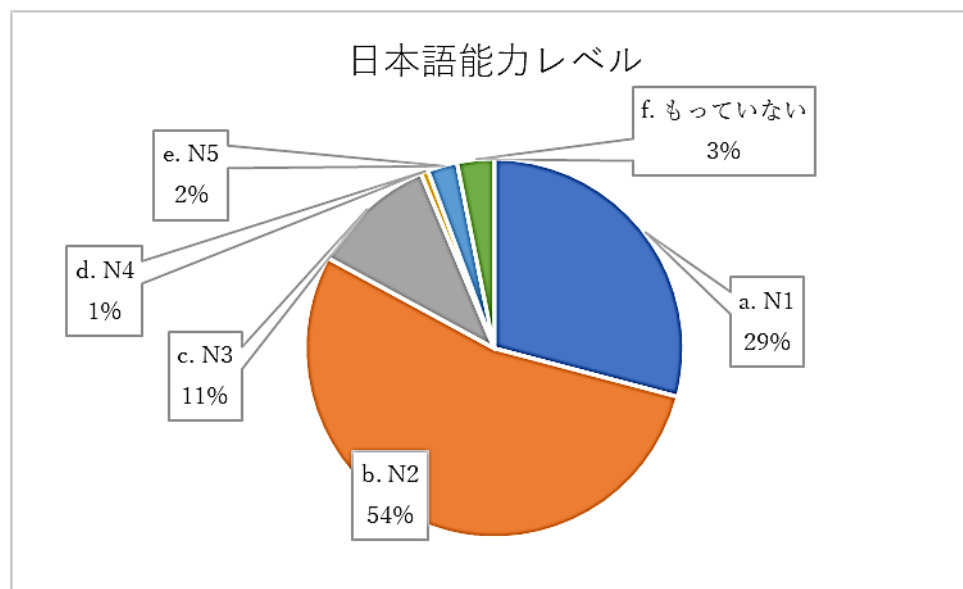


その他

- ・就職しやすい
- ・生活好きなら
- ・母と姉（妹）がこの国で働いていて、この国の IT 企業で働きたかったから（英語）
- ・アニメ文化が好き
- ・将来すべてはテクノロジーによって機能することになるから、テクノロジーについて学びたかった（英語）
- ・留学をしようと思ったら、そして その時は親の期待に日本が進められたから、留学してた。
- ・教育水準が高いところで学びたかったから（ベトナム語）

(3) あなたの今の日本語能力について、1つ選んでください。

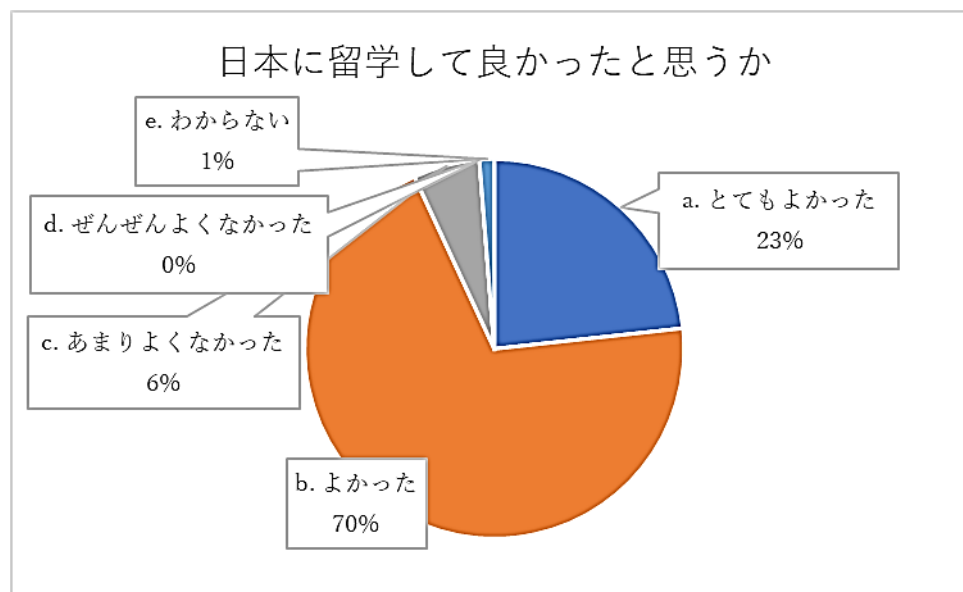
a. N1 b. N2 c. N3 d. N4 e. N5 f. もっていない



2. 日本での生活について

(1) 日本に留学してよかったと思いますか。1つ選んでください。

- | | |
|--------------|---------------|
| a. とてもよかった | b. よかった |
| c. あまりよくなかった | d. ぜんぜんよくなかった |
| e. わからない | |



(2) (1)の理由を書いてください。

- ・ 責任感が強くなってきたからです。
- ・ 自立して3か4年間生活して 成長を感じて嬉しいです
- ・ 環境がいい
- ・ 充実でした
- ・ 卒業してから自分が好きな業界で就職できるし、かわいい日本人の友達もいるし、バイト先の店長と同僚たちも優しくしてくれるから
- ・ 学ぼうとしてたものをきちんと学ぶことができました
- ・ 日本人は冷たい
- ・ 充実
- ・ 周りの友人と先生が優しく扱ってくれてるから
- ・ 自分の能力を伸ばした
- ・ 日本は 安全な国で 良いことが多い。留学生として 生活が難しかった事もあるけど 全体的には 日本にいられて 良かったです。
- ・ 色々勉強できている
- ・ 日本の文化が好きです

- ・コストは高いが結果的には良かったと思う
- ・いろいろ国と勉強しましたから
- ・日本語が前より上手くなったし、漢字も読めるようになりました。学校、アルバイトの先生や友達が優しく、日本に来て良かったです。
- ・いつも忙しいから、精神的に圧力が一杯であり。
- ・いろいろ勉強になりましたからです。
- ・日本で生活して、学校で日本語と専門科を勉強して、いろいろなことを分かりました。
- ・みんなが優しいからです
- ・まじめになった
- ・楽しいからです。
- ・いろいろ母国で体験できとのを体験できた。
- ・自分の成長を感じました
- ・世界の色々な国の友達と会って世界の文化や生活を知ることができ日本の色々なことがたくさん知ることができてよかったと思っています。
- ・安全です みんながマナーをちゃんと守ります 約束 時間をしっかり守ります
- ・日本の文化や IT 知識学んで、日本人の仕事マナーが学べたからです。
- ・自分の国とくらべると日本が良い国ですから、
- ・いろいろな人と出会えて
- ・生活は面白いけど。東京の物価ちょっと高い。大変だと思う
- ・想像したのと違ってます
- ・アニメーションに対して、自分が知りたい知識を身につけることができました。
- ・日本の文化と日本語を知られて、IT 関連の仕事ができました。
- ・生活が便利で、学校も楽しかった。
- ・留学以来日本の文化をもっと学びました。CG 業界はほぼ理解していました。
- ・成長したから
- ・色々体験を得られました、成長しました
- ・悪い事もないいい事もまだだったので
- ・日本に来て専門学校に入らなかったら、いまだに好きではないジュアリー販売仕事をしていると思います。2 回目の人生をもらった感じがします。
- ・色んな人と出会って、見識も伸びました
- ・楽しく勉強しているから
- ・住宅につてよく悩む。
- ・いろいろの経験しました
- ・就職までの道が見えるから
- ・楽しいし、生活に満足しているから

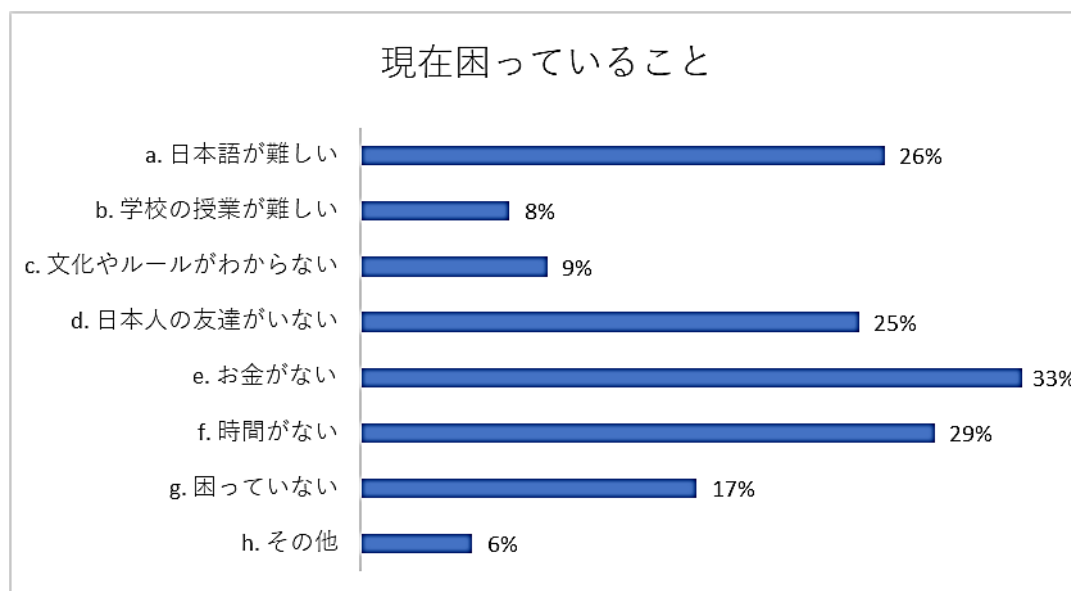
- ・ 中国で自分が想像していた日本とはあまり変わらなかった
- ・ 日本の文化が好きです。アニメやゲームが好きです。
- ・ 年齢もあり、海外でもう一度学校に通いたいという夢があったんですが、それが叶えて一番で答えました。
- ・ 知識が持っている
- ・ いい友人と出会いました
- ・ 一人で暮らして寂しいです。
- ・ 日本での生活が幸せだったから
- ・ 日本のアニメが好きでした。
- ・ 生活がとても便利だと思います！ 今の学校でとてもいい勉強をしました！
- ・ 生活が便利だと思います。
- ・ 成長になりました
- ・ 高い生活費 文化的な問題
- ・ 勉強できた
- ・ 環境がきれいでよかった
- ・ 暮らしやすい
- ・ 便利かつ安全
- ・ 自分の国の文化と違いますから、いろいろなことを勉強しました。
- ・ 様々な経験ができる
- ・ 綺麗な国です。人も優しいです。
- ・ 初めて自分で一人生活しているから、自由と感じている、日本で生活しやすいです。
- ・ 面白いです。
- ・ 他文化で住んでいくのが楽しいからです。
- ・ 日本の飲食習慣と中国近い
- ・ いろんなことにあって、国際視野を広まります。
- ・ 空気も新鮮し、みんなも優しいです
- ・ 韓国と比べて良いところもあるが良くないところもあるからです。
- ・ 日本の文化を着実に体験しました
- ・ 夢が叶えたから
- ・ だんだん 1 人前になっていると感じました
- ・ 好きなことができるから
- ・ 満足しているが、とても満足しているとは言えない。なぜなら、時々私の周りに差別主義者がいることがあり、学校やアルバイト先、公共の場で私を差別してくる。たとえ私が日本語を流暢に話しマナーをわきまえていたとしても、外国人だから

- バカで日本文化を理解していないと思われる。この国の「外人」のイメージはとても強い。(英語)
- ・ 教員はとても教えるのが上手だが、コンピュータの授業や数が足りない。(英語)
 - ・ 生活しやすい。交通機関間も整っているし、給料もいいし、天気も完璧です。(英語)
 - ・ 日本はとても saffull (?) な国だと思う。(英語)
 - ・ 日本での生活はスリランカよりもいい(英語)
 - ・ 給料がよくて、ルールもちゃんとしている(英語)
 - ・ 今日本に住んで IT を勉強しているが、日本は私にとって一番の夢の国だった。今はアルバイトをしているが、卒業後は IT 企業で働いて夢をかなえたい。(英語)
 - ・ お金を稼ぎながら、生活に関する知識を学びたい。(英語)
 - ・ 夢の国に住んでいる。この国で期待していたものはすべて見つけれられたけれど、日本はさらにそれ以上のものを私のような留学生に提供してくれる。(英語)
 - ・ 私は今千葉の専門学校で学んでいる。もっとテクノロジーについて学んで、日本で就職したい。(英語)
 - ・ 生活と日本人のマナーがとて良かったです。
 - ・ 子供のころから IT に興味があった。(英語)
 - ・ IT を学びながら、日本文化を知ったり日本人の友達を作ったりすることができた。また、世界で一番安全な場所である。(英語)
 - ・ 治安が良く、プライバシーの意識が高い。(英語)
 - ・ 便利な環境で、人々も優しい。(英語)
 - ・ 学校とアルバイトがとてもいい。(ベトナム語)
 - ・ 留学したら、生活面で自立心、自主性が高まる。社会に役に立つ人間になりたい。日本は穏やかな国なので、日本に住んでいたい。(ベトナム語)
 - ・ 日本はいい国だから (ベトナム語)
 - ・ 非常いいです
 - ・ 今日本に住んでいるので、自分にとって合っていると思います。(ベトナム語)
 - ・ 安全
 - ・ 生活面で自立心、自主性が高まる。安全でルールが厳格な国で自分を磨ける。(ベトナム語)
 - ・ 勉強面と生活面の経験を積める。(ベトナム語)
 - ・ 安全
 - ・ いろいろなことを学べる。
 - ・ 日本は生活がいいです。
 - ・ 安全な国なので、安心して住める。(ベトナム語)

- ・医療と教育の制度において利用者は誰でも平等に扱われている。ベトナムみたいに利用者の階級や財政状態で差別することはない。日本人は、教育面をはじめいろいろな面からみて、凄く真面目な性格あることが分かった。自分にとって勉強になる。(ベトナム語)
- ・便利で安全な国 (ベトナム語)
- ・自分の生活ができているからです。
- ・いい生活ができている (ベトナム語)
- ・ちゃんと本当の留学する人はみんながそう思うと思います。

(3) 今、困っていることはありますか。あなたが思うことをすべて選んでください。「その他」のときには、() の中に書いてください。

- | | |
|-----------------|----------------|
| a. 日本語が難しい | b. 学校の授業が難しい |
| c. 文化やルールがわからない | d. 日本人の友達がいらない |
| e. お金がない | f. 時間がない |
| g. 困っていない | |
| h. その他 () | |



(4) 日本の生活で不安なこと、分からないことがあれば書いてください。

- ・特になし
- ・なし
- ・上記と同様に就職先が決めるか
- ・特にない

- ・4月から 社会人になるので まだ 尊敬語とか よく分からないことがあるので 不安が あります。
- ・家賃が高すぎるのと、留学生のバイト制限
- ・ないです
- ・特になし。
- ・税金が高すぎるので、将来に納税できますかどうか案じます
- ・日本語の能力で不安です。喋るのはあまり上手いくない。
- ・おかね
- ・やはり就職できるかどうか、ちょっと不安です
- ・ありません
- ・ありません
- ・病気になったら困ります
- ・ない
- ・カタカナがうまく覚えられない
- ・就活できたら、会社の空気を潰されないように
- ・特にないです。
- ・就職
- ・特にありません
- ・住处や就職について不安です。
- ・異文化や人種差別など
- ・難しい漢字が大変です
- ・社交方面
- ・日本の消費水準は比較的高いです。
- ・年齢があるため、日本の会社に新卒で就職できるかが心配。
- ・日本語を喋らないので、日本人の友達がいないます。
- ・たまに人種差別の人がある
- ・今一番不安なことはビザ更新のことです。自分は内定をもらった会社の職種は IT・CG じゃなくて、一般職種です。専門は違いますから、心配です。本当に日本に残って働きたいです。
- ・お金が足りない
- ・日本人を喋ってが良くない。
- ・人と話し時不安です
- ・こんな年齢で就職できるか
- ・今の日本語多分就職できないと思いますが、もし勉強の時間を伸ばすと、アルバイトの時間がない、両立するのは大変です。
- ・特にないです。

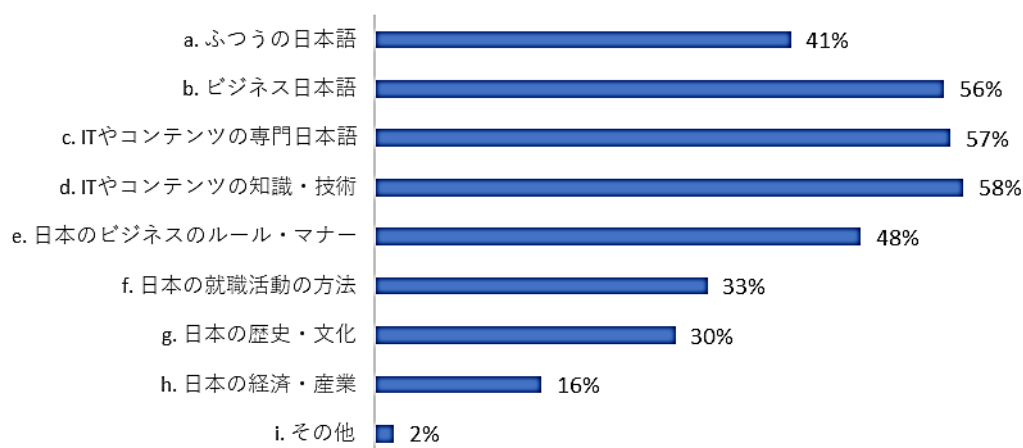
- ・将来が心配
- ・いろいろ
- ・就職ができるか
- ・もう就活が始まるですので 不安だった
- ・就職の問題
- ・主に自分の周りの人々。この国では差別が本当に問題だ。自分たちと異なっているが自分らしくあろうとするすべての人を、人々は差別する。私の日本人の友人たちの多くもそのことに苦しんでいて、自殺を考えている。彼らを助けたいと思うけれども、彼らはこの国にいたいと思っているし、私みたいなガイジンより日本人から支援を受けたがっている… (英語)
- ・学校のお金高いですよー アルバイトの時間たりないです 物価が高いです
- ・自分の専門学校で資格でトヨタやソニー、ヤマハ、富士通といった企業に入社できるのかどうか。(英語)
- ・フィリピン人に対して留学ビザから就労ビザを取得する事がとても厳しいです。その上、日本に働けるかどうか心配になっています。
- ・日本に来て4年になるが、今までに気づいたこととして、ほとんどの日本人は外国人と会話したがない。なぜなのか？最初は言語の障壁が原因だと思っていた。しかし、今は日本語で話せるし理解もできるのに、日本人はいまだに親しく話してくれない。(英語)
- ・医療保険がとても高い。私は1年働いてから入学したけれど、保険料は去年の収入から算出されている。1週間にアルバイトで27時間だけしか働けないのに、どうやったら毎月25,000円も払えるというのか。(英語)
- ・健康保険料が高い (ベトナム語)
- ・変態や痴漢が多い (ベトナム語)
- ・税金
- ・保険料と税金が高い。変態が多い (ベトナム語)
- ・ルールが多いので、全て把握することは難しい。(ベトナム語)
- ・日本の家族文化は難しくて納得がいかない。(ベトナム語)
- ・物価が高い
- ・保険制度が不思議。選択することができない。ベトナムでは、健康保険は加入が義務付けられていない。(ベトナム語)
- ・もし可能なら、様々な原因で留学できない人を支援して欲しい。いい教育環境で勉強すれば、本人の将来に役に立つ。(ベトナム語)
- ・留学生に対してはビザのことが厳しいです。
- ・なし

・今は経済的な問題と時間の問題だけなんですけど、社会人になればなんとか解決できると思います。

(5) もし学校を卒業した後、日本で就職して生活するなら、何を勉強しなければならないと思いますか。あなたが思うものをすべて選んでください。「その他」のときには、()の中に書いてください。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| a. ふつうの日本語 | b. ビジネス日本語 |
| c. IT やコンテンツの専門日本語 | d. IT やコンテンツの知識・技術 |
| e. 日本のビジネスのルール・マナー | f. 日本の就職活動の方法 |
| g. 日本の歴史・文化 | h. 日本の経済・産業 |
| i. その他 (|) |

日本で就職した後、必要だと思う勉強



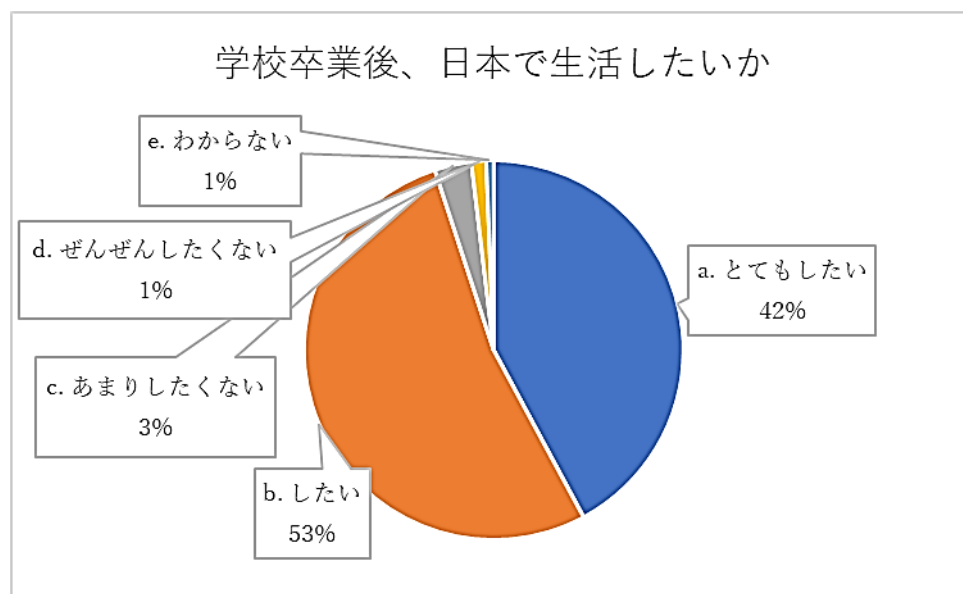
その他

- ・日本人との付き合い方 日本人とどのように生活しています
- ・専門用語をしっかりと勉強すること (ベトナム語)
- ・日本の厳しいルールについて (ベトナム語)
- ・日本人と同様に何でも知る必要がある (ベトナム語)

3. 日本での将来について

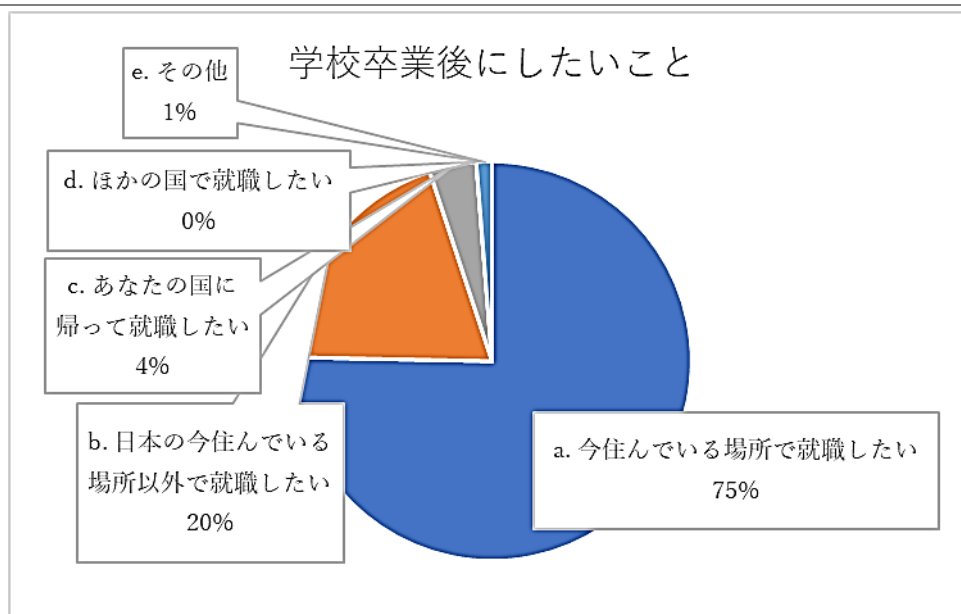
(1) 学校を卒業した後、日本で生活したいですか。あなたが思うものを 1 つ選んでください。

- | | |
|-------------|--------------|
| a. とてもしたい | b. したい |
| c. あまりしたくない | d. ぜんぜんしたくない |
| e. わからない | |



(2) 学校を卒業した後、何をしたいですか。あなたがしたいことを 1 つ選んでください。
「その他」のときには、() の中に書いてください。

- a. 今住んでいる場所で就職したい b. 日本の今住んでいる場所以外で就職したい
c. あなたの国に帰って就職したい d. ほかの国で就職したい
e. その他 ()



(3) (2)の理由を書いてください。

- ・宮崎は田舎なので、可能性が少ないです。
- ・東京というところでの生活が慣れてました
- ・日本はいい国と思っています。就職したいです。場所は関東地方で大丈夫です。
- ・人口があまり多すぎではないの所で住んだら車を買える
- ・東京都の IT 関係の会社より多いから
- ・実務を学びたい
- ・とりあえず
- ・今やっと留学終わったところで帰国したらキャリアも積もらないし時間無駄だと思うからです
- ・企業が少ない
- ・交通面が便利だから
- ・内定をもらいました
- ・日本で 4 月から 入社します。 いつか 帰国して ミャンマーにある 日本の会社でも 就職する予定があります。
- ・入りたい企業に就職したいからです

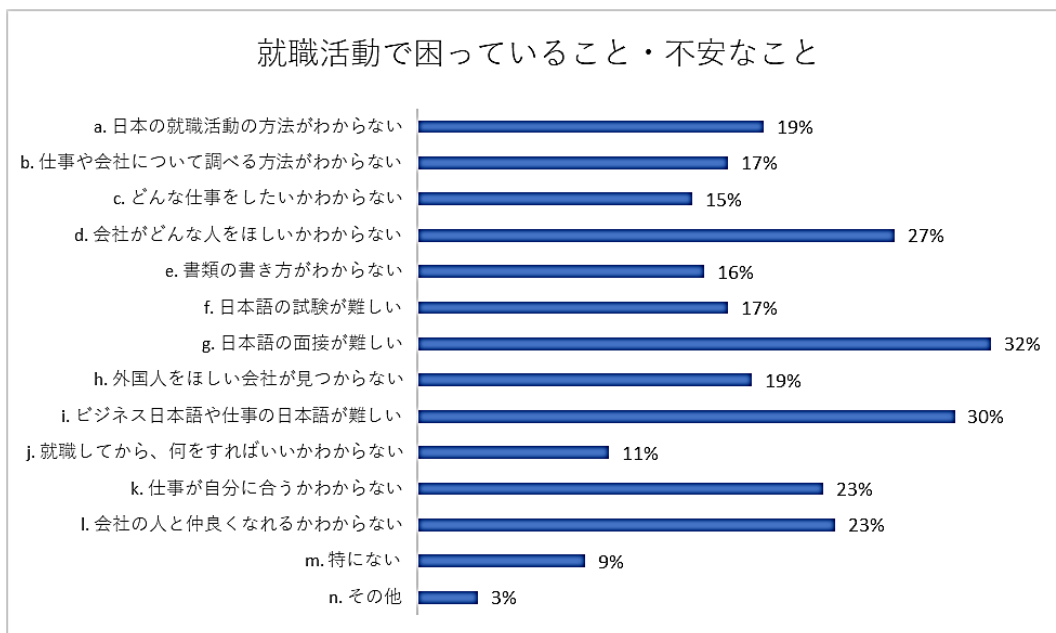
- ・日本に生活したい
- ・先ほど言った通りコストが高い。借金や経済的な問題がある留学生は多かる。学費、生活費などに使った分のお金を稼がないと赤字のままになってしまう。その他、ただ勉強し留学生という肩書きを持っただけでは、未熟と見なされる。社会の経験もなくはない。
- ・新鮮な、新しい事を味わう為に、もっと体験したいと考えていきます。
- ・ビジネスの日本語と日本でのビジネスマナーを勉強したいので、日本で就職のが一番いいかなと思います。
- ・結婚しましたから
- ・他の地域の経験
- ・もっと知識を学びたいからです。
- ・せっかく日本来てからもっと日本のこと知りたいです。
- ・東京で就職したほうがもっと成長できているからです
- ・すみやすいから
- ・第一希望は今住んでいる所の近くに就職したいですが、もし出来なかったら日本のどこでもいいです。
- ・今のところになれてますから。
- ・繁華なところ行ってみたい
- ・東京以外の生活を体験したい。
- ・東京は便利です。
- ・現在 IT の基礎の知識を持っているので、その知識を生かして日本に就職したいとします。
- ・東京で就職したいです。
- ・便利です
- ・日本で働きたいんで…
- ・内定いただいています。勉強したほぼ全ては日本しか通じない知識ですので、日本で働こうと思います
- ・日本で就職したいから
- ・日本の色なところを見たいです。
- ・東京にいい企業がありますから
- ・日本の専門学校を卒業したので そのまま就活で日本で就職したいです
- ・日本で就職して住みたいから
- ・まずは日本で就職して、経験が積んでいたら、また考えます
- ・日本が好きで、日本で就職して日本に住むのが目標です。
- ・東京で住んでいるんだ、就職の機会たくさん多いだから。
- ・日本での生活結構好きです

- ・日本で留学して日本で仕事をするよい機会だと思います。
- ・今の生活が幸せだから
- ・近いです
- ・東京は会社が多くあるから。そして、引っ越しは面倒くさく、お金が掛かります。
- ・特にない
- ・金
- ・会社の社会責任感がある
- ・日本で生活したい
- ・いつも同じ場所に住むと、他のことを分らないからだ。
- ・日本が好きです。
- ・東京で最新の技術と最優の待遇が得られます。
- ・近い場所が良いです。
- ・埼玉が住みやすい、物価も高くないし
- ・仕事
- ・別の国の文化と仕事環境がしたい
- ・環境がいいです,職場のふんいきもいいです
- ・まだこの国で住んでみたいから
- ・東京で就職したいです なぜなら自分は日本のアニメが好きですから 東京は秋葉原がある コミケがある
- ・東京都内ならいいけど東京以外となると引っ越しが不便
- ・実際の経験を畳んで、能力を高めてから、国に帰って、実力を活かしたいと思います
- ・今までずっと大阪に住んでいるから 大阪の雰囲気が好きだから
- ・2年東京で暮らした後、ここに引っ越してきた。東京は大きな都市だし、自分の専門に関係する職を見つけるのがより容易だろう。(英語)
- ・母や姉(妹)の住む場所から近いから(英語)
- ・日本の給料高いし、日本は大好きです 日本の生活は便利です
- ・この街が好きだから(英語)
- ・今住んでいる場所(船橋)で働きたい。きれいな場所だし、施設もそろっている。(英語)
- ・ここで暮らすのはかなりお金がかかるから。(英語)
- ・私が働きたい業界は日本が一番です
- ・お金をもっと稼ぐため。
- ・特になし(英語)
- ・自分が住んでいる地域かどうかは問題じゃない。必要があれば別の地域に移住できる。

- ・自分の国に比べて給料がいいし、家庭を持って人々の暮らしをよくしたい。
- ・宮崎はいいところ。空気はきれいだし、人が少ない。(ベトナム語)
- ・お金を稼ぎたい (ベトナム語)
- ・姉がいるから
- ・親の近くに住みたい (ベトナム語)
- ・日本の文化はいろんな所を知りたいです。
- ・すでに体験しているから (ベトナム語)
- ・お金を稼ぎたい (ベトナム語)
- ・家族と一緒に生きたい。
- ・日本に住んでいたいです
- ・学生に新しい知識を勉強して欲しい。(ベトナム語)
- ・IT エンジニアになって、日本社会に貢献したい。(ベトナム語)
- ・便利から
- ・なし
- ・せっかく日本に来たので知識だけでなく日本人と日本の仕事環境で働いてみたいと思っています。

(4) (2)で「a. 今住んでいる場所で就職したい」「b. 日本の今住んでいる場所以外で就職したい」の人だけ答えてください。就職活動(仕事を探すこと)で困っていること、不安なことはありますか。あなたが思うことをすべて選んでください。「その他」のときには、()の中に書いてください。

- a. 日本の就職活動の方法がわからない
b. 仕事や会社について調べる方法がわからない
c. どんな仕事をしたいかわからない
d. 会社がどんな人をほしいかわからない
e. 書類の書き方がわからない
f. 日本語の試験が難しい
g. 日本語の面接が難しい
h. 外国人をほしい会社が見つからない
i. ビジネス日本語や仕事の日本語が難しい
j. 就職してから、何をすればいいかわからない
k. 仕事が自分に合うかわからない
l. 会社の人と仲良くなれるかわからない
m. 特にない
n. その他 ()

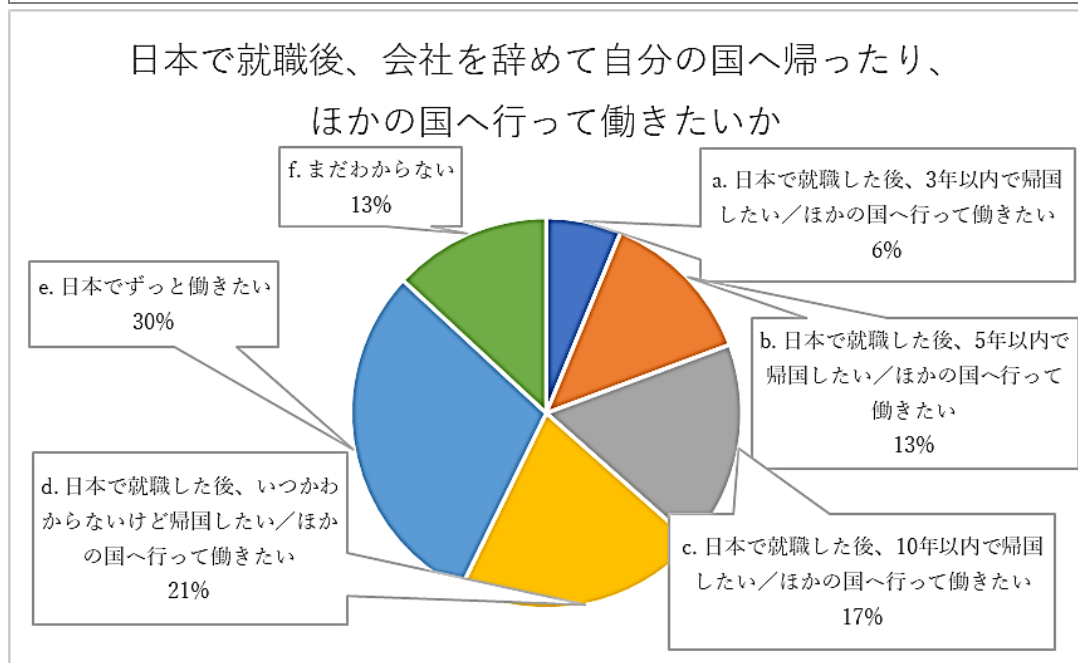


その他

- ・専門学校を卒業するから、決まった会社と自分の専門が合わせてない場合は、ビザを取る事が難しいです。
- ・就職したい留学生が多いが、就職するレベルのスキルを持っている留学生の方が残念ながら少ない。つまり、上記の(困っていること,不安なこと)というのは、ポンコツ留学生たちの言い訳に過ぎないことだと思われる。
- ・ビザを取得する事が心配。

- (6) (2)で「a. 今住んでいる場所で就職したい」「b. 日本の今住んでいる場所以外で就職したい」の人だけ答えてください。日本で就職した後、会社を辞めてあなたの国へ帰ったり、ほかの国へ行って働きたいですか。あなたが思うものを 1つ 選んでください。

- a. 日本で就職した後、3年以内で帰国したい／ほかの国へ行って働きたい
 b. 日本で就職した後、5年以内で帰国したい／ほかの国へ行って働きたい
 c. 日本で就職した後、10年以内で帰国したい／ほかの国へ行って働きたい
 d. 日本で就職した後、いつかわからないけど帰国したい／ほかの国へ行って働きたい
 e. 日本でずっと働きたい
 f. まだわからない



- (7) (2)で「a. 今住んでいる場所で就職したい」「b. 日本の今住んでいる場所以外で就職したい」の人だけ答えてください。(6)の理由を書いてください。

- ・日本社内の雰囲気や、人間関係を見て判断しますが。最初にとにかく 3-5 年の経験を貯めておきたいです。
- ・日本で経験を取って、自分の国に役に立つ
- ・両親のそばにいたい
- ・実務を学んだ後 考えてみる予定
- ・近いから
- ・家族と一緒にいたい
- ・経験したいからです

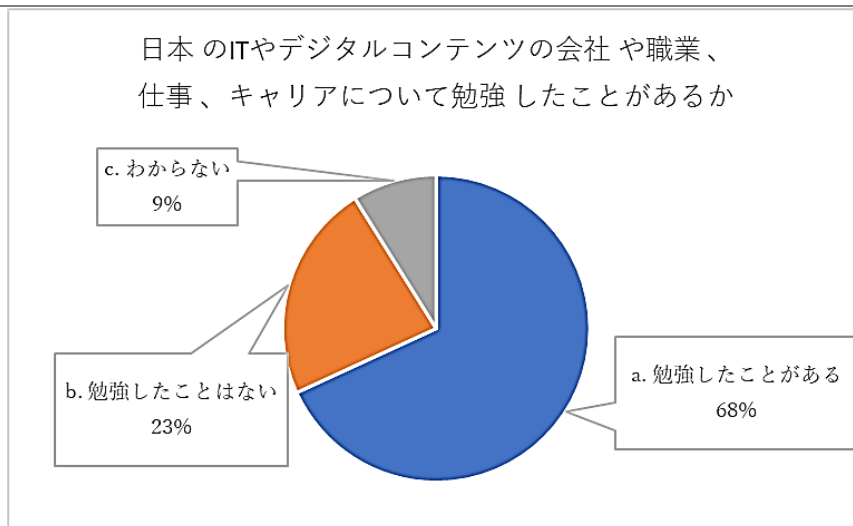
- ・日本が好きだから、日本に生活したい
- ・ひとつの環境で縛られるのが好きではない
- ・日本の社会環境ではあまりにも理由がない、ルールがいいですけど、沢山の嫌です。
- ・日本で住みたいですから！
- ・未来の道はまだわからないですから、とりあえず就職を目指す
- ・去年ぐらい働いて経験を積んで、国へ帰った後働いた経験を使って自分が好きなことをやります
- ・自分の周りを詳しく知っているので安心です
- ・日本で就職して、できれば10年くらいお金と経験を重ねて、ベトナムに帰って自分の会社を営業したいと思っているからです。
- ・ありません
- ・五年後。両親が年寄りになる。国へ帰って。両親世話しなければならない。
- ・日本の環境の方がいいです
- ・アニメーションを会社でもっと勉強したいです。
- ・日本の生活が良いですが
- ・国の未来が暗い。
- ・今の会社で、できるだけ長く居たいです。
- ・国に帰っても就職できるかどうか確実ではないので
- ・日本が好きですから。
- ・今住んでいる家から遠くなったら家を探すお金がかかるのです。
- ・日本住みたいからです
- ・就職したら、ずっと日本に住みたいです。
- ・塞翁が馬なので日本の生活が楽しくてもいつか何かの理由で帰ると思うので。
- ・日本で大好きです。
- ・私はお金を稼ぎたいです。自分の能力で仕事をして貯金します。親が買いたいものを買ってあげて、両親の育ちを報いると思います。
- ・まだわからないから
- ・日本で仕事をしたいです
- ・カナダに行きたいです、まだ若いうちにいろんな経験をしておきたい思います。もう若くないですが。
- ・世界が大きいだから、色々な国を見たい。
- ・特にない
- ・親を養うから
- ・自分の国に戻りたい
- ・以前の自分を見て、帰りたい。

- ・ 家族が国にいるから
- ・ 今は日本のほうがいいと思います、けどその気持ちがいつか変わるかもしれない、自分も分かりません。
- ・ 帰国する予定です
- ・ まだ日本で働いとことないので決められないと思います
- ・ 長い時間で日本で働ければ、疲れそう
- ・ わからないから
- ・ 東京で就職したいです なぜなら自分は日本のアニメが好きですから 東京は秋葉原がある コミケがある
- ・ 実家と家族が国にいるから
- ・ 技術を身につけて、機会があれば、帰国したい
- ・ 両親のこと
- ・ 日本でよい経験を得てから、ほかの国に行く計画を立てている（英語）
- ・ チャンスが多いし、平和で安全だから。（英語）
- ・ 日本で生活して働きたい。（英語）
- ・ この業界では、日本が一番です
- ・ 生活が良かったです。
- ・ 私は発展途上国の出身です。学んだことや身に着けたことは何でも、帰国して国のために還元したいです。（英語）
- ・ 日本は生活や仕事の面でも自分にとって最適な場所だから（ベトナム語）
- ・ 日本人と結婚したい。もしくは、ベトナム人と結婚して、後で日本に呼び寄せたい。（ベトナム語）
- ・ 特に理由はない（ベトナム語）
- ・ 家族と友達がベトナムにいる（ベトナム語）
- ・ 日本に住んでみたいです。
- ・ 日本での生活が好き（ベトナム語）
- ・ 日本社会に貢献したい。子供を発展した国で育てたい。（ベトナム語）
- ・ なし
- ・ 自分が長男なんです。

- (8) (2)で「a. 今住んでいる場所で就職したい」「b. 日本の今住んでいる場所以外で就職したい」の人だけ教えてください。日本で就職して生活するために、日本の IT やデジタルコンテンツの会社や職業、仕事、キャリアについて勉強したことがありますか。下から 1つ選んでください。

a. 勉強したことがある
c. わからない

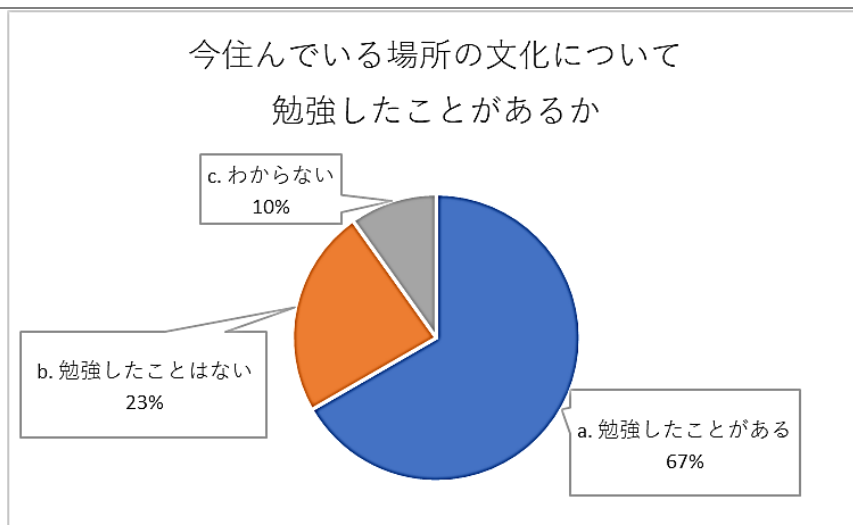
b. 勉強したことはない



- (9) (2)で「a. 今住んでいる場所で就職したい」「b. 日本の今住んでいる場所以外で就職したい」の人だけ教えてください。今住んでいる場所の文化について勉強したことがありますか。下から 1つ選んでください。

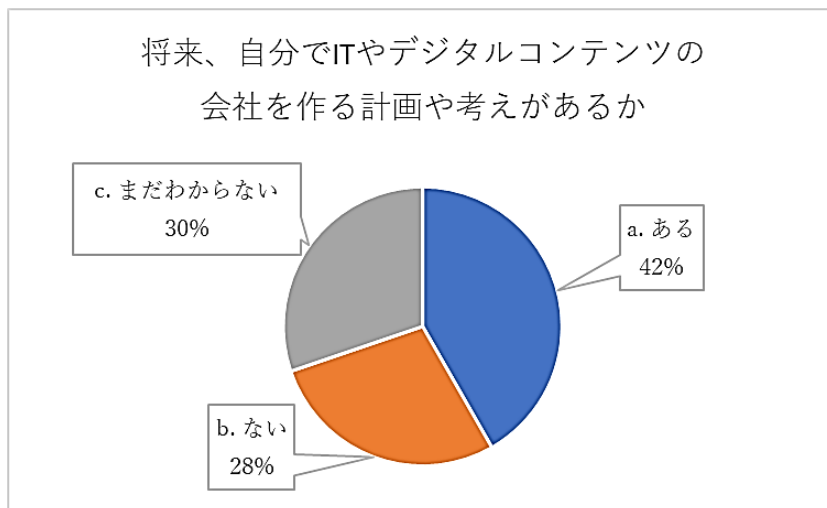
a. 勉強したことがある
c. わからない

b. 勉強したことはない



(10)(2)で「a. 今住んでいる場所で就職したい」「b. 日本の今住んでいる場所以外で就職したい」の人だけ答えてください。将来、自分でITやデジタルコンテンツの会社を作る計画や考えがありますか。下から1つ選んでください。

a. ある b. ない c. まだわからない



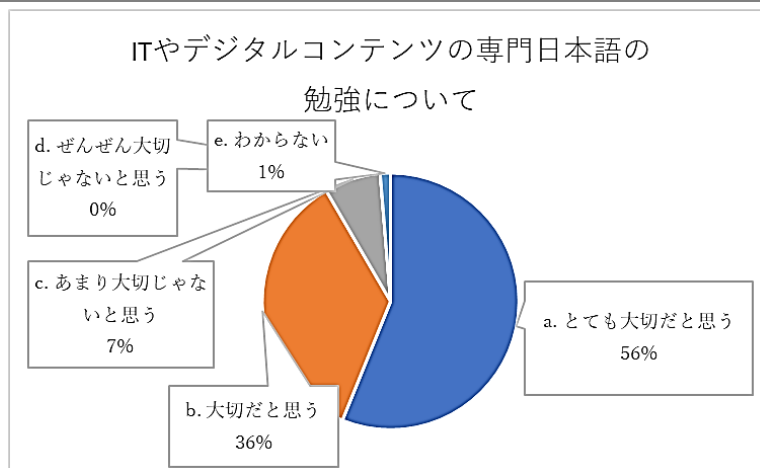
4. 教育プログラムの内容について

(1) わたしたちは、IT やデジタルコンテンツを勉強する外国人留学生のために教育プログラムを作ります。あなたは、下の勉強をどう思いますか。それぞれ1つ選んでください。

① IT やデジタルコンテンツの専門日本語

IT やデジタルコンテンツの会社で使う日本語の勉強をします。

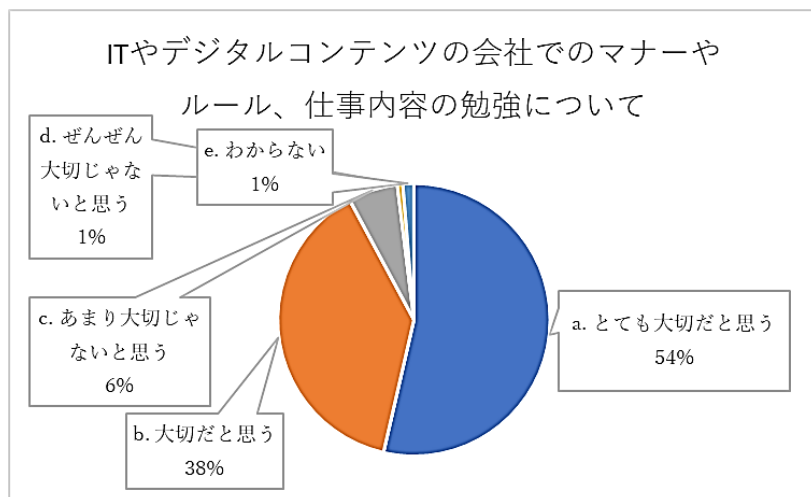
a. とても大切だと思う b. 大切だと思う
c. あまり大切じゃないと思う d. ぜんぜん大切じゃないと思う
e. わからない



② IT やデジタルコンテンツのビジネス

日本の IT やデジタルコンテンツの会社で働く時にある問題とマナーやルール、仕事内容について勉強します。

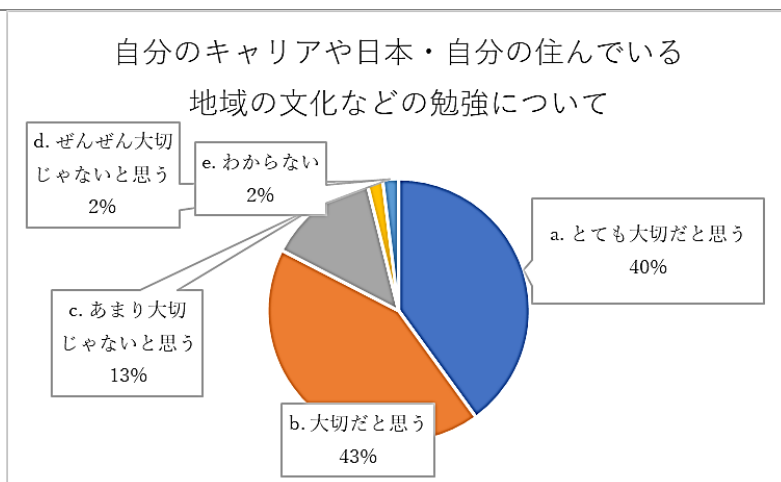
- | | |
|-----------------|------------------|
| a. とても大切だと思う | b. 大切だと思う |
| c. あまり大切じゃないと思う | d. ぜんぜん大切じゃないと思う |
| e. わからない | |



③ キャリアと文化

日本で生活して IT やデジタルコンテンツの会社で働くために、自分のキャリアや日本・自分の住んでいる地域の文化などについて勉強します。

- | | |
|-----------------|------------------|
| a. とても大切だと思う | b. 大切だと思う |
| c. あまり大切じゃないと思う | d. ぜんぜん大切じゃないと思う |
| e. わからない | |



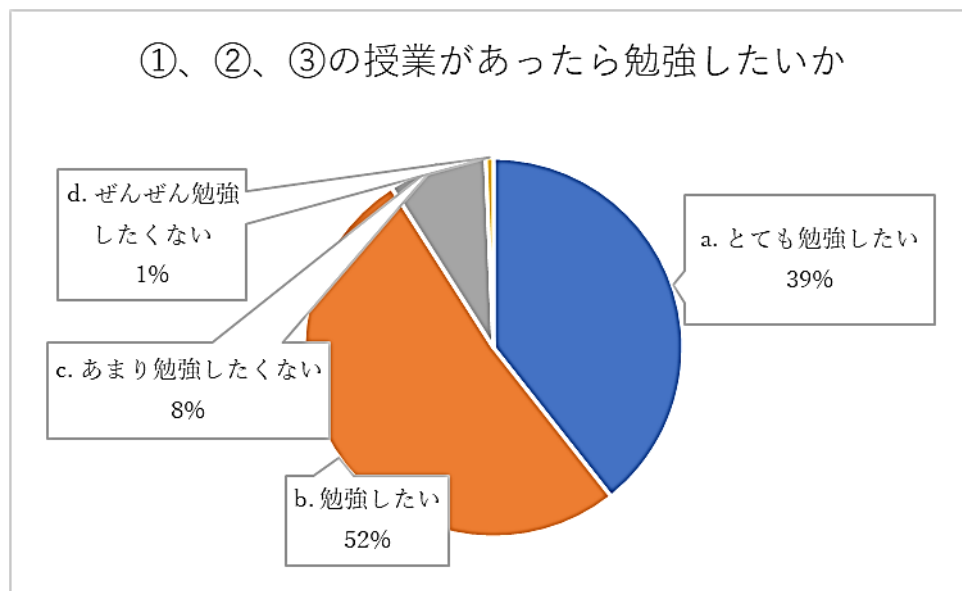
(2) (1)もし①、②、③の授業があったら、勉強したいですか。1つ選んでください。

a. とても勉強したい

b. 勉強したい

c. あまり勉強したくない

d. ぜんぜん勉強したくない



(3) もし日本の IT やデジタルコンテンツの教育や留学生教育、私たちへ意見があったら、書いてください。

- ・留学生応募するの会社も多くて、面接する時の話し方と履歴書の書き方を留学生に教えたら、いいと思います。
- ・なし
- ・ないかもしれませんがありませんか
- ・留学生教育 中途半端な制限かけたりするより、来日する留学生の層を上げた方がよいと思われる。理由としては、ポンコツ留学生が減り、真面目な留学生が増えるだろう。後、個人は母国のイメージを背負って海外で生きているので、国際的な勘違いも減るであろう。結論としては、根本がしっかりしているのであれば、留学生教育とか言って難しく考えなくて良いのでは と
- ・特にありません
- ・もっと就職と日本会社のことが知りたいです
- ・日本で就職したい留学生にサポートをしてほしいです、例えば就活についての授業をしていただきたいです。
- ・とりあえず無いです。
- ・教育を言うことは、技術を教えるだけではなく、人を育成も留学生に目をつけてください。

- ・特にありません。
- ・IT 系に詳しいないので、特にありません。
- ・就職活動の内容を知らない留学生に対して、詳しく説明してほしいです。
- ・お金さえかからなければ外国人同士の交流もあり良いと思う。でも強制的だと逆に抵抗ができてやる気が起きない
- ・一生懸命勉強します。
- ・私は日本語が上手じゃなくて内の学校の専門知識を勉強の最初時はよく困っていることがある。その時、先生は何を言っているが全然わからない、それで IT に関する日本語単語や知識など本当に知りたいと思う。
- ・特にないです
- ・ありません
- ・日本人と外国人留学生の交流を強化すること
- ・ありません（英語）
- ・ない（英語）
- ・日本語のレッスンもあった方がいいと思います。
- ・これからは IT やデジタル技術の時代ですから、テクノロジーを学ぶことは重要だと思います。外国人材に注意を向けてくれてありがとうございます。（英語）
- ・実習に問題がある（ベトナム語）
- ・頑張って勉強します。
- ・現場で先生と先輩と一緒に実習している時、世代の違いのせいかコミュニケーションを取るのが難しい。自分の仕事を好きではないと長く続けていくことはできない。キャリア開発、キャリアデザインのセミナーちゃんに行って欲しい。（ベトナム語）
- ・参加したい。
- ・特にありません

2.1.3. 結果のまとめ

今回実施した外国人留学生アンケートの調査結果について、調査項目を構成する大項目ごとに特に注目すべき点のまとめを行う。

1. 今のあなたについて

この項目では、回答した外国人留学生のプロフィールを把握することができる。今回の調査に回答した外国人留学生の数は 159 名であるが、全員が専修学校の学生である。居住地は東京都、千葉県、埼玉県といった首都圏が多くなっており、9 割を超えている。出身国・地域でみると最も多いのが中国であり、全体の約 38% を占める 60 人となっている。続いてベトナム、韓国、ネパール、台湾となっており、昨今の留学生全体の出身国・地域の傾向と同一である。性別を見ると、男性が 4 分の 3 を超える割合となっており、女性の留学生数を圧倒している。日本学生支援機構の調査では留学生の男女比はそれほど大きな差が付かないことから、この分野には男性が特別多いという特殊性があると考えられる。

日本に留学した理由としては、「日本の文化や社会に興味があるから」と「日本で働きたいから」という回答が半数を超えている。また、「日本の IT・コンテンツに興味があるから」という回答も 4 割以上の回答者から選択された。アジア圏の回答者が多い中、距離的な近さや金銭面の理由はあまり選択されないことから、日本にする理由としては日本への興味が重要な要素となることが分かった。回答者の日本語能力は「N2」という回答が一番多く、約半数であった。また、「N1」という回答も 3 割程度あり、比較的日本語習熟度の高い学生が多いということが分かった。一方で、「N4」「N5」のレベルの学生も一定数いることが分かった。

2. 日本での生活について

日本に留学してよかったかどうかという質問に対しては、「とてもよかった」「よかった」の合計が 9 割以上となっており、外国人留学生の大半は日本での留学生活に満足しているということが分かる。一方で、困っていることについては 3 分の 1 が「お金がない」と回答しており、金銭面で苦勞していることが分かる。そのため、アルバイトに忙しいことも理由となっているのか、「時間がない」という回答も約 3 割となっている。また、「日本語が難しい」「日本人の友達がいない」といった選択肢も 4 分の 1 程度選ばれており、日本になじむことの難しさが反映されていると思われる。「その他」としては、将来的な金銭面や就職に関するものや、人種差別に関するものがあつた。

日本で就職するのに勉強する必要があることについては、半数以上が「IT やコンテンツの知識・技術」を挙げている。また、同数程度が「ビジネス日本語」「IT やコンテンツの専門日本語」を選択しており、専門的な知識・スキルと仕事をするための日本語の両方が留学生にとって重要であると考えられていることが分かった。

3. 日本での将来について

卒業後に日本で生活したいという回答は95%であり、ITやデジタルコンテンツ等を専攻する外国人留学生の大半がそのまま日本に居住していきたいという意見を持っていることが分かる。また、卒業後したいことについては、「今住んでいる場所で就職したい」「日本の今住んでいる場所以外で就職したい」がそれぞれ75%と20%であり、日本に残りたい留学生の多くは、現在居住している地域で就職したいと考えていることが分かった。就職活動に関する不安な点では、約3割が日本語での面接やビジネスや仕事の日本語に不安を覚えていることが分かった。

留学生たちの希望職種としては、自分たちの専攻するITやデジタルコンテンツの職を挙げる回答者が大半である。しかし、それ以外の仕事や「就職できればどの仕事でもいい」という留学生も少数いた。日本で働いた後、帰国したり他の国行ったりする気があるかの質問に対しては、約3割が「日本でずっと働きたい」と言っているが、半数以上が一定期間に日本で働いた後に日本を離れることになると考えていることが分かる。その大半は帰国するようであり、理由としては家族を挙げるものがよく見られる。

就職に向けて日本のITやデジタルコンテンツの会社や職業、仕事、キャリアについて勉強したことがあるかという問いには、7割近くが「勉強したことがある」と回答している。日本での就職意欲が高い層であるため、何らかの情報収集や就職活動対策は行っていることが想定される。また、今住んでいる場所の文化等について学んだことがあるかという質問にも約7割が「勉強したことがある」と回答している。起業意欲に関しては42%が「ある」と回答するなど、比較的高いことが分かった。

4. 教育プログラムの内容について

ここでは、本事業で開発を目指す教育プログラムへの興味を聞いている。まず、ITやデジタルコンテンツの専門日本語に関しては、半数以上が「とても大切だと思う」と回答している。「大切だと思う」も含めてポジティブな回答は9割を超えており、外国人留学生の大半から必要であると考えられているようだ。つづいて、ITやデジタルコンテンツのビジネスについて学ぶ科目に関しても、専門日本語同様に半数以上が「とても大切だと思う」を選択している。「大切だと思う」も含めれば9割を超えるため、本内容も重要であるとみなされていることが分かる。キャリア学習と地域文化学習に関しては、「とても大切だと思う」が40%であり、「大切だと思う」も合わせると8割程度である。先の2つの内容に比べれば割合が低くはなっているが、それでも多くの留学生から重要であると考えられていることが分かる。そして、上記の内容を組み合わせた教育プログラムへの興味を聞いたところ、「とても勉強したい」「勉強したい」合計で9割以上となった。したがって、このような内容の教育プログラムは、留学生の興味を引き、受講したいと思わせるものであることが分かった。

2.2. IT 企業アンケート調査

2.2.1. 調査概要

(1) 調査目的

本事業では、沖縄県内の IT 職を募集している企業に対しアンケート調査を実施した。本調査では、外国人材雇用に関する情報（雇用経験、雇用した人材の出身・経歴、採用条件・方法、待遇、課題など）や本事業に関する意見・感想等を調査する。ここで得た情報は、教育プログラムを検討する際の基礎資料とすると共に、事業活動の周知と事業活動への協力可能性を把握することを目的とした。

(2) 調査対象

本調査では、沖縄県内の IT 企業及び IT 関連職を募集している企業を対象に調査を実施した。

(3) 調査手法

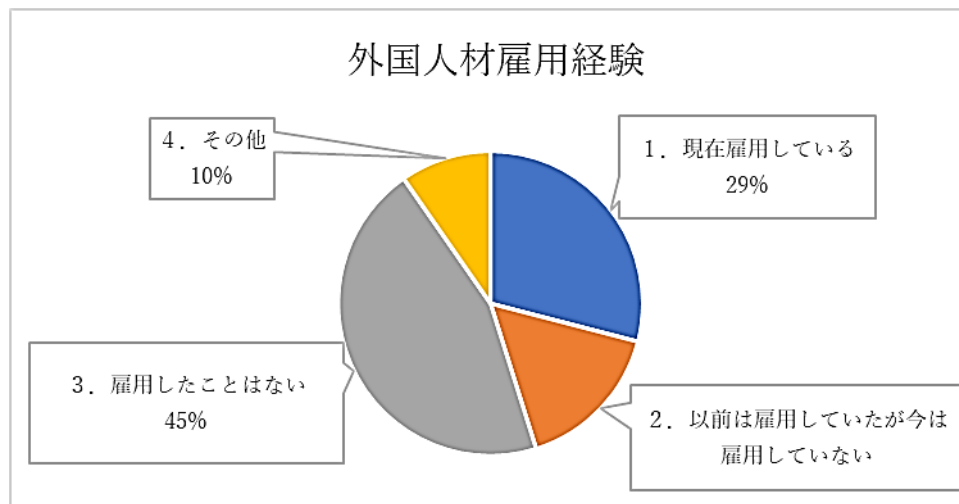
調査項目に関して情報収集を行うための質問で構成される調査票を作成し、同時に同一の質問項目及び選択肢等が記載された WEB サイトを作成した。質問形式は多肢選択形式と自由記述形式の 2 系統である。そして、沖縄県内の IT 企業及び IT 関連職を募集している企業 150 社をリストアップし、この調査票を郵送した。回収方法は調査票の返送だけでなく、同封した依頼状に WEB サイトの URL 及び QR コードを記載することで、オンラインでの回答も可能にした。その結果、31 社からの回答があった。

次頁以降、本アンケート調査結果を掲載する。

2.2.2. IT 企業アンケート調査結果

(0) 外国人材を雇用したことはありますか。次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。「4. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | |
|--------------|------------------------|
| 1. 現在雇用している | 2. 以前は雇用していたが今は雇用していない |
| 3. 雇用したことはない | 4. その他 |

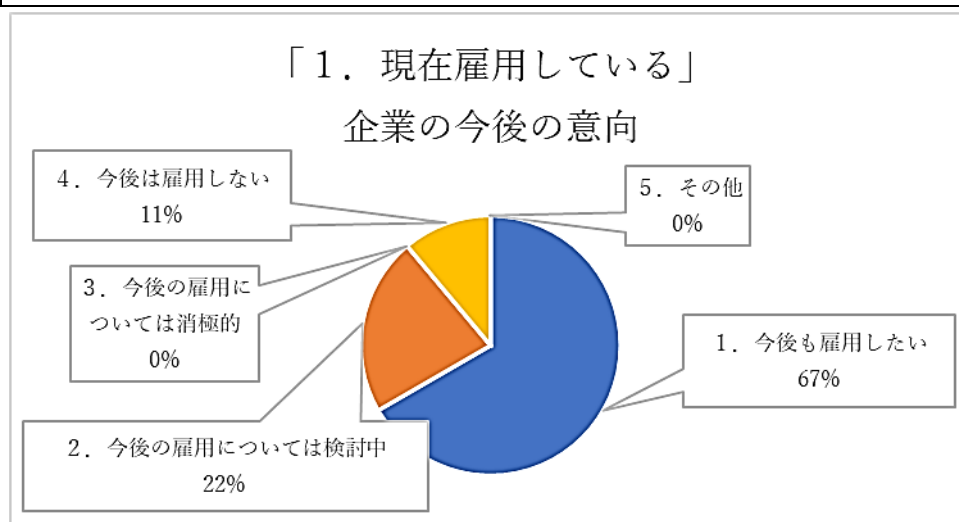


その他

- ・以前正社員として雇用しており、スキル不足で退職、現在は協力会社より2名社内にて就業中
- ・4月入社予定
- ・ビジネスパートナー社からの派遣

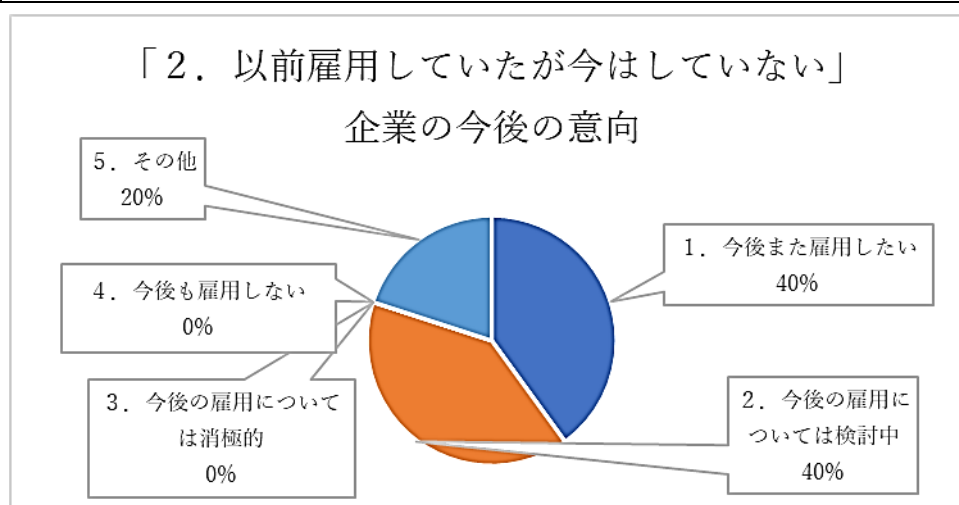
(0)で「1. 現在雇用している」をご回答された方にお伺いします。今後、採用も含めて外国人材の雇用について、次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。
「5. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 今後も雇用したい | 2. 今後の雇用については検討中 |
| 3. 今後の雇用については消極的 | 4. 今後は雇用しない |
| 5. その他 | |



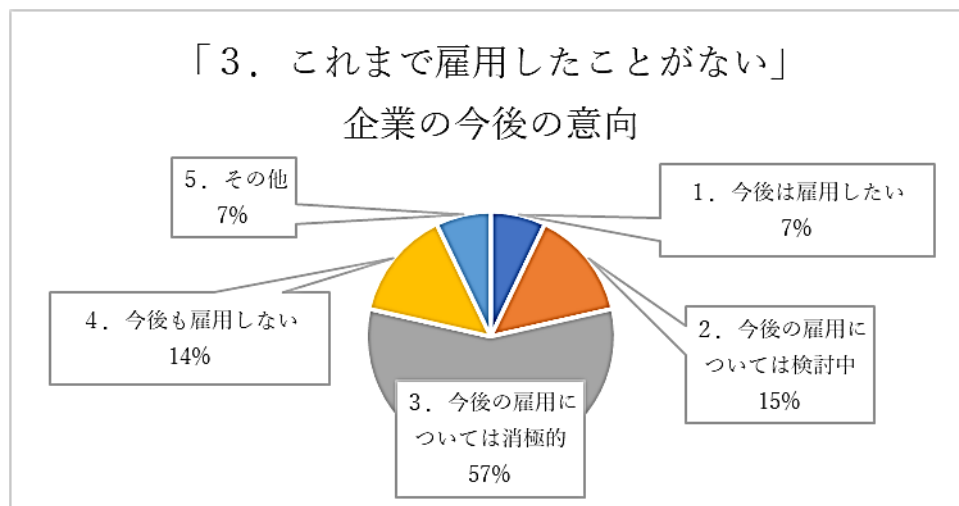
(0)で「2. 以前雇用していたが今はしていない」をご回答された方にお伺いします。今後、採用も含めて外国人材の雇用について、次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。「5. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 今後また雇用したい | 2. 今後の雇用については検討中 |
| 3. 今後の雇用については消極的 | 4. 今後も雇用しない |
| 5. その他 | |

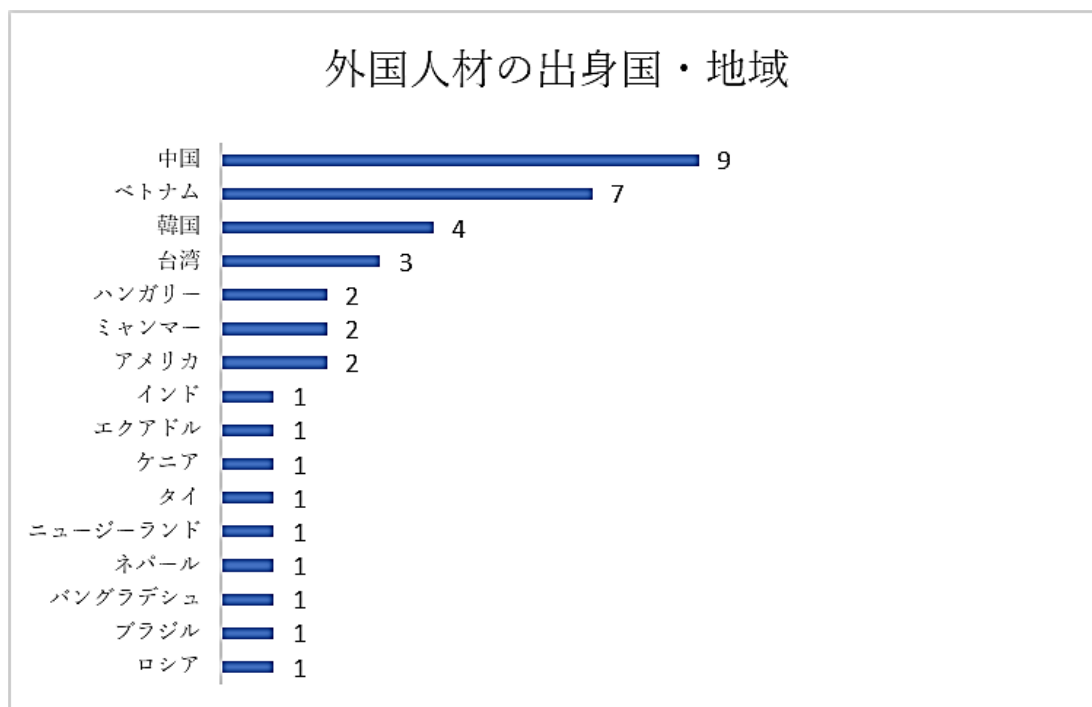


(0)で「3. これまで雇用したことがない」をご回答された方にお伺いします。今後、採用も含めて外国人材の雇用について、次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。「5. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 今後は雇用したい | 2. 今後の雇用については検討中 |
| 3. 今後の雇用については消極的 | 4. 今後も雇用しない |
| 5. その他 | |

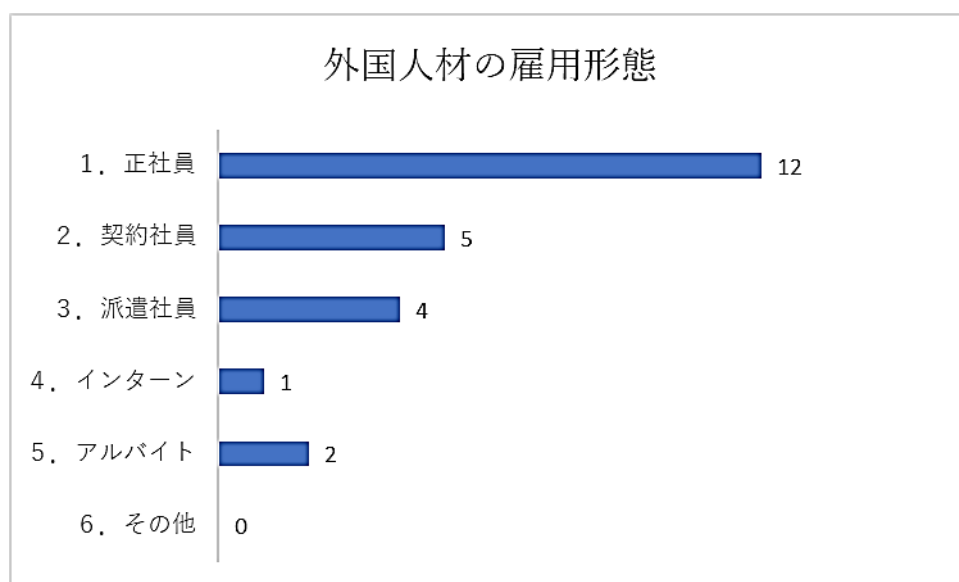


(1) これまでに採用した外国人材の出身国・地域を教えてください。人数で上位5か国までご記入ください。



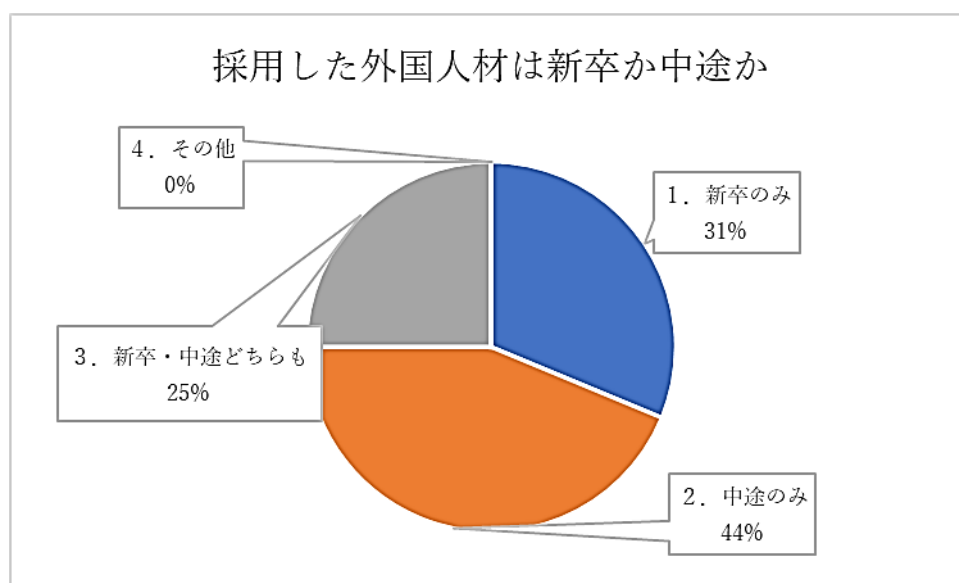
(2) これまでに採用した外国人材の雇用形態はどれに当てはまりますか。次の選択肢の中から該当するものをすべて選んでください。「6. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | | |
|----------|----------|---------|
| 1. 正社員 | 2. 契約社員 | 3. 派遣社員 |
| 4. インターン | 5. アルバイト | 6. その他 |



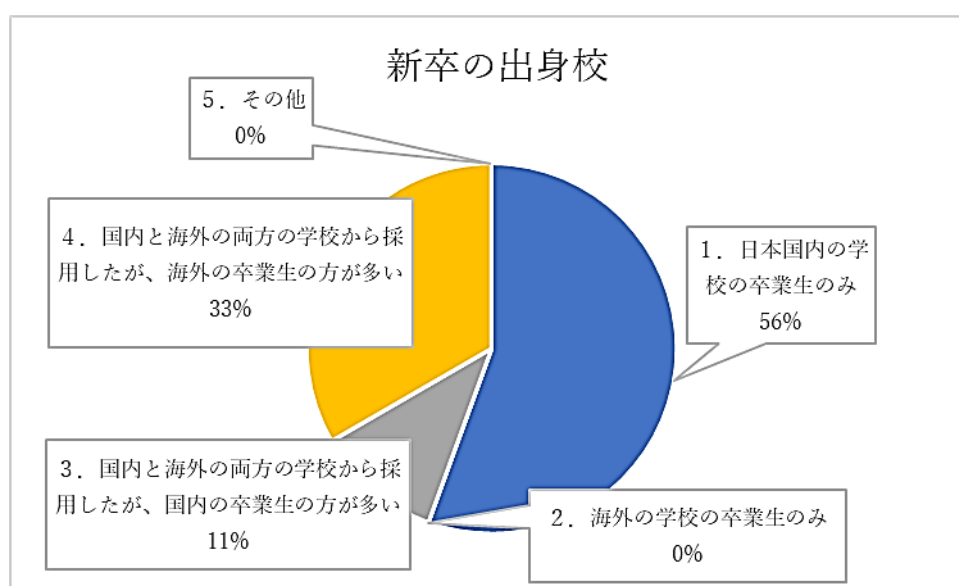
(3) (2)で「1. 正社員」と「2. 契約社員」とご回答された方にお伺いします。これまでに採用した外国人材は以下のどれに当てはまりますか。次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。「4. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | | |
|---------|---------|--------------|
| 1. 新卒のみ | 2. 中途のみ | 3. 新卒・中途どちらも |
| 4. その他 | | |



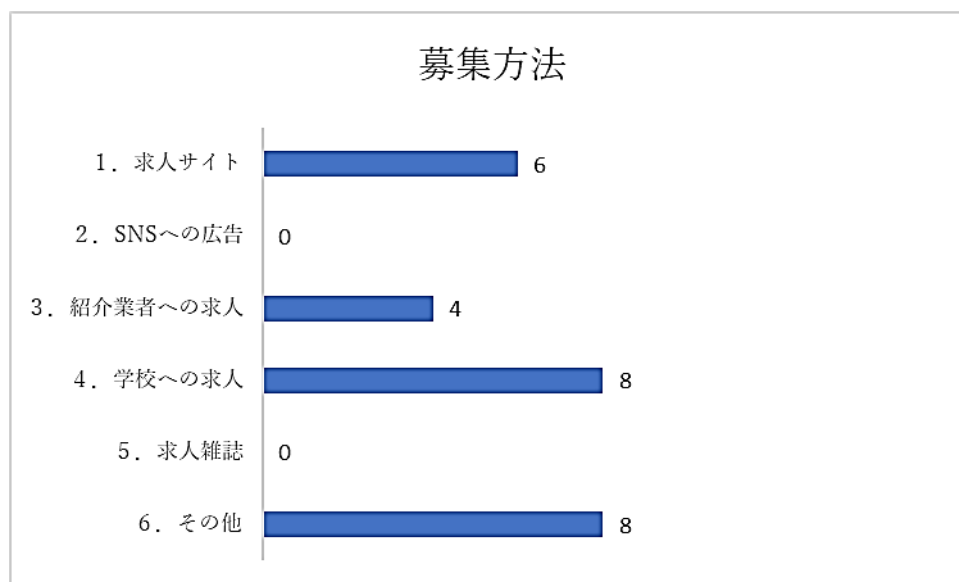
- (4) (3)で「1. 新卒のみ」または「3. 新卒・中途どちらも」とご回答された方にお伺いします。これまでに雇用した新卒について、次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。「5. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

1. 日本国内の学校の卒業生のみ
2. 海外の学校の卒業生のみ
3. 国内と海外の両方の学校から採用したが、国内の卒業生の方が多い
4. 国内と海外の両方の学校から採用したが、海外の卒業生の方が多い
5. その他



- (5) これまでに外国人を雇用する際に、どのような募集方法を採用しましたか。次の選択肢の中から該当するものをすべて選んでください。「6. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | | |
|-----------|-------------|-------------|
| 1. 求人サイト | 2. SNS への広告 | 3. 紹介業者への求人 |
| 4. 学校への求人 | 5. 求人雑誌 | 6. その他 |

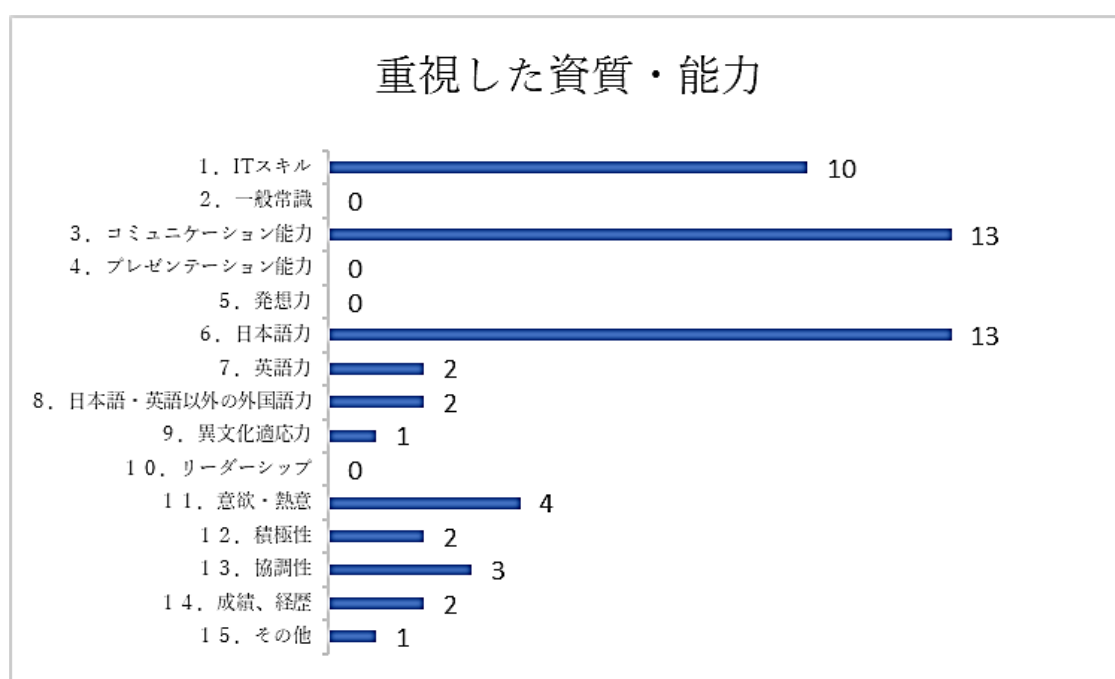


その他

- ・システム開発会社の社員の派遣（委任）での就業
- ・ハローワーク、職業訓練校
- ・ハローワーク
- ・県主催の合説
- ・紹介

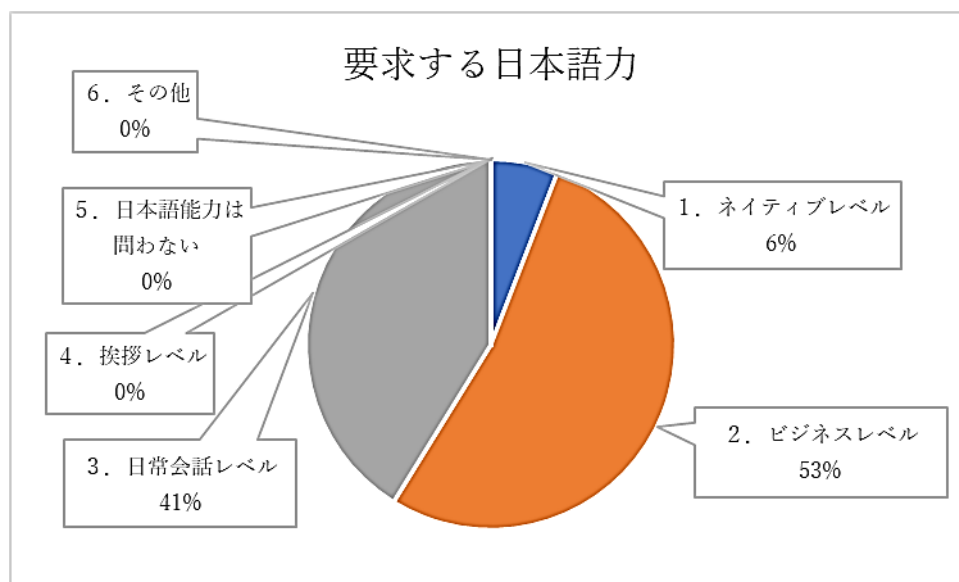
- (6) これまでの外国人材の採用の際に、どのような資質・能力を重視しましたか。次の選択肢の中から該当するものを **3つまで** 選んでください。「15. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. ITスキル | 2. 一般常識 |
| 3. コミュニケーション能力 | 4. プレゼンテーション能力 |
| 5. 発想力 | 6. 日本語力 |
| 7. 英語力 | 8. 日本語・英語以外の外国語力 |
| 9. 異文化適応力 | 10. リーダーシップ |
| 11. 意欲・熱意 | 12. 積極性 |
| 13. 協調性 | 14. 成績、経歴 |
| 15. その他 | |



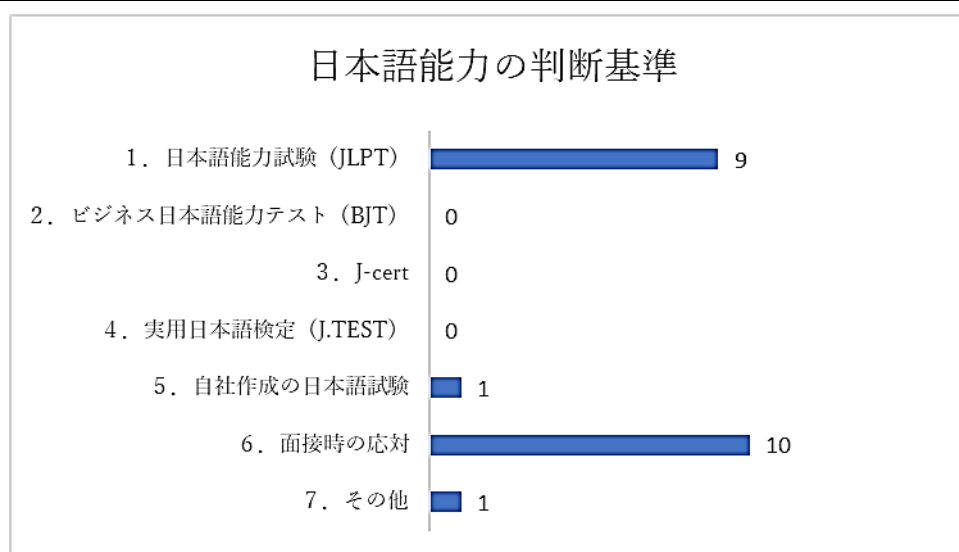
(7) 外国人材を採用する際、どの程度の日本語力を要求していますか。次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。「6. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | | |
|-------------|---------------|------------|
| 1. ネイティブレベル | 2. ビジネスレベル | 3. 日常会話レベル |
| 4. 挨拶レベル | 5. 日本語能力は問わない | 6. その他 |



- (8) (7)で「1. ネイティブレベル」、「2. ビジネスレベル」、「3. 日常会話レベル」、「4. 挨拶レベル」または「6. その他」とご回答された方にお伺いします。これまで採用した外国人材の日本語能力を判断する基準として何を重視しましたか。次の選択肢の中から該当するものをすべて選んでください。「7. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1. 日本語能力試験 (JLPT) | 2. ビジネス日本語能力テスト (BJT) |
| 3. J-cert | 4. 実用日本語検定 (J.TEST) |
| 5. 自社作成の日本語試験 | 6. 面接時の応対 |
| 7. その他 | |

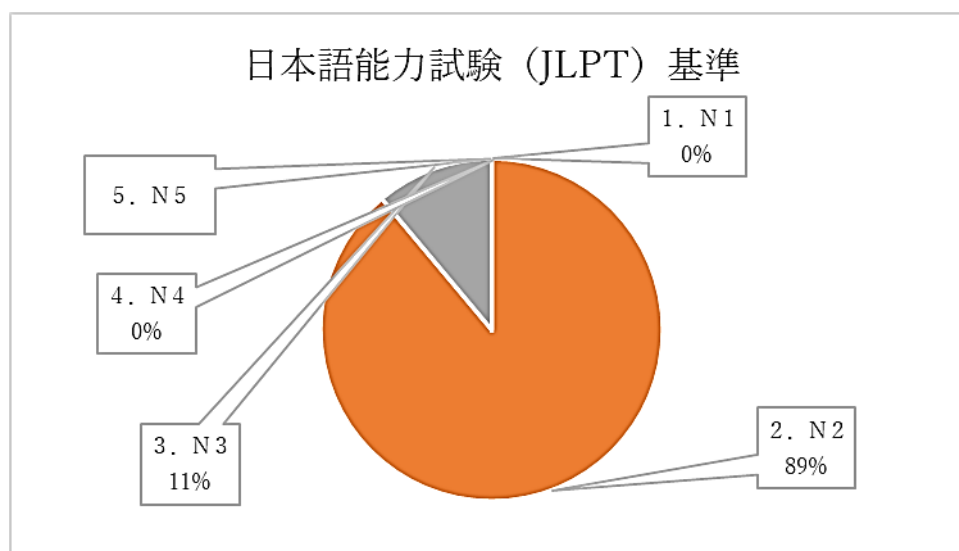


その他

・ NAT-TEST

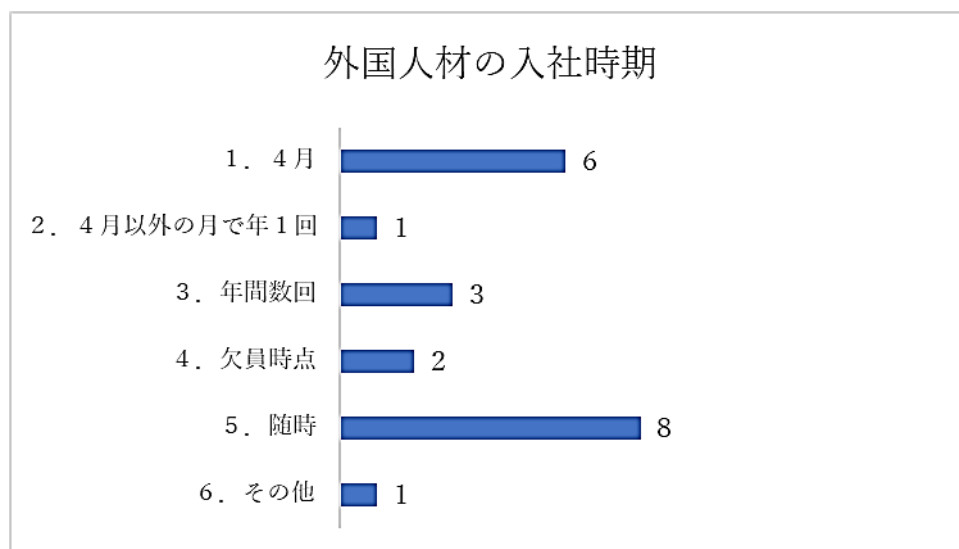
- (9) (8)で「1. 日本語能力試験 (JLPT)」とご回答された方にお伺いします。どの程度のレベルを基準としましたか。次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。

- | | | |
|-------|-------|-------|
| 1. N1 | 2. N2 | 3. N3 |
| 4. N4 | 5. N5 | |



- (10)採用した外国人材の入社時期はいつですか。次の選択肢の中から該当するものをすべて選んでください。「6. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | | |
|---------|---------------|---------|
| 1. 4月 | 2. 4月以外の月で年1回 | 3. 年間数回 |
| 4. 欠員時点 | 5. 随時 | 6. その他 |



(11)外国人材を雇用した理由について、次の選択肢の中から該当するものを 3 つまで 選んでください。「9. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

1. 日本人社員が持っていないスキルを補うため
2. 優秀な人材確保のため
3. 海外関連業務または海外進出のため
4. 外国語を話せる人材が必要
5. 日本人の人材が不足している
6. 新しい発想を必要としている
7. 社内の人材活性化
8. ダイバーシティ強化のため
9. その他

外国人材雇用理由

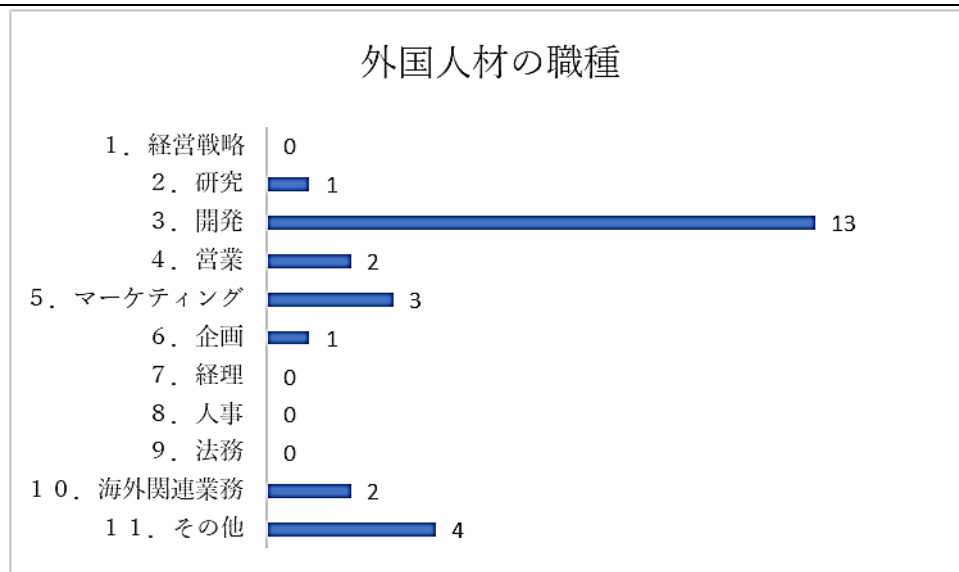


その他

・結果、外国籍であった。

(12) これまでに採用した外国人材が就いた職種は、どのようなものがありますか。次の選択肢の中から該当するものをすべて選んでください。「11. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | | |
|--|------------|-------|
| 1. 経営戦略 | 2. 研究 | 3. 開発 |
| 4. 営業 | 5. マーケティング | 6. 企画 |
| 7. 経理 | 8. 人事 | 9. 法務 |
| 10. 海外関連業務(アウトソーシング対応・海外マーケティング・ローカライズ等) | | |
| 11. その他 | | |

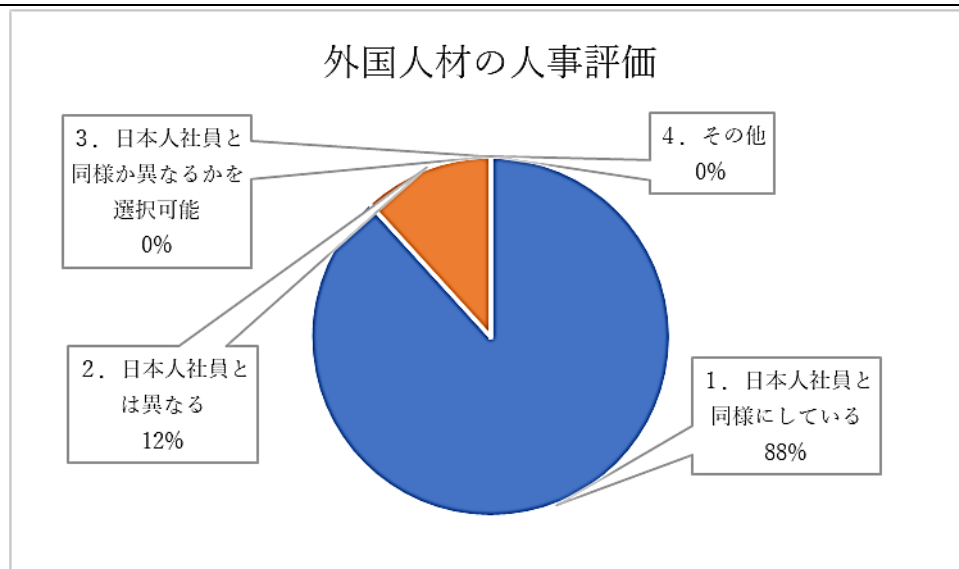


その他

- ・講師
- ・機械設計
- ・コールセンター
- ・販売接客

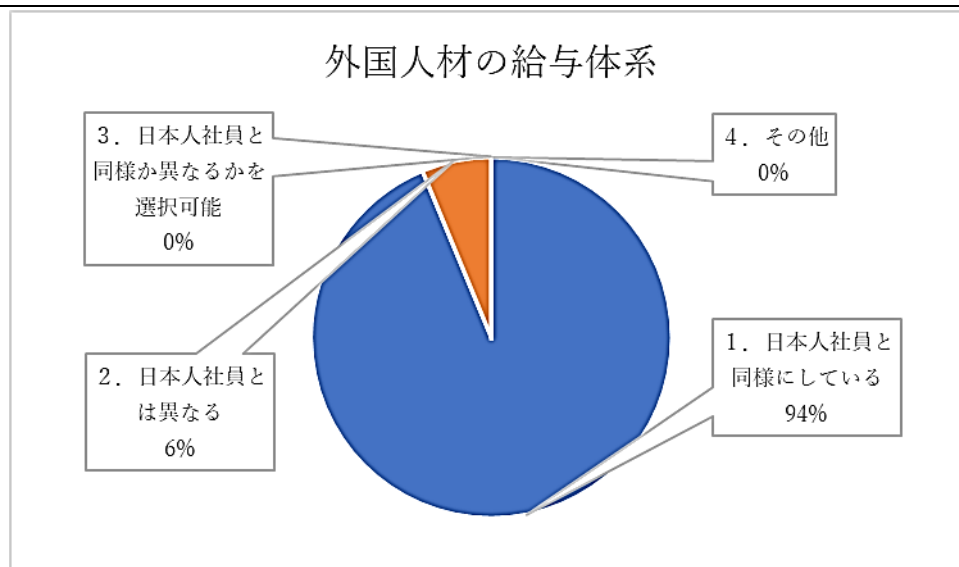
(13)貴社では外国人材の人事評価をどのように行っていますか。次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。「4. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | |
|-----------------------|---------------|
| 1. 日本人社員と同様にしている | 2. 日本人社員とは異なる |
| 3. 日本人社員と同様か異なるかを選択可能 | 4. その他 |



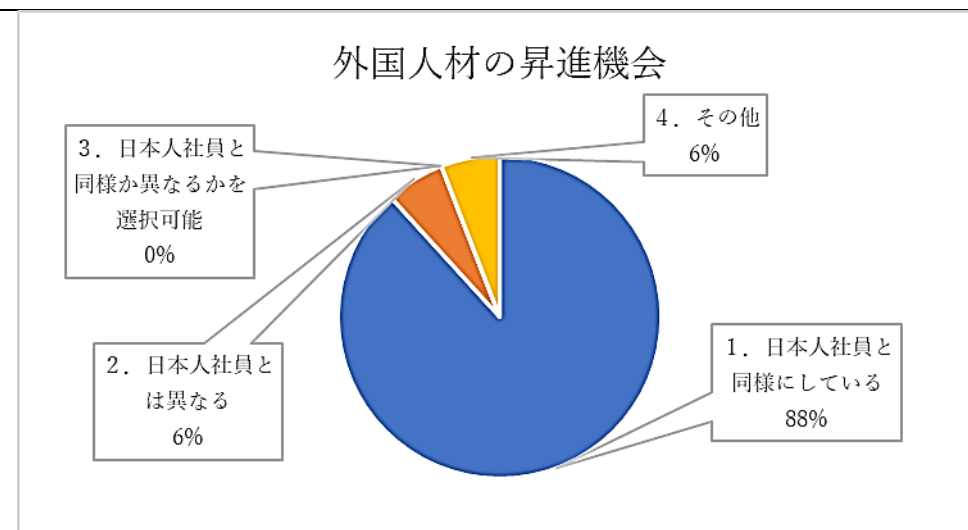
(14)外国人材の給与体系について、次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。「4. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | |
|-----------------------|---------------|
| 1. 日本人社員と同様にしている | 2. 日本人社員とは異なる |
| 3. 日本人社員と同様か異なるかを選択可能 | 4. その他 |



(15)外国人材の昇進機会について、次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。
「4. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

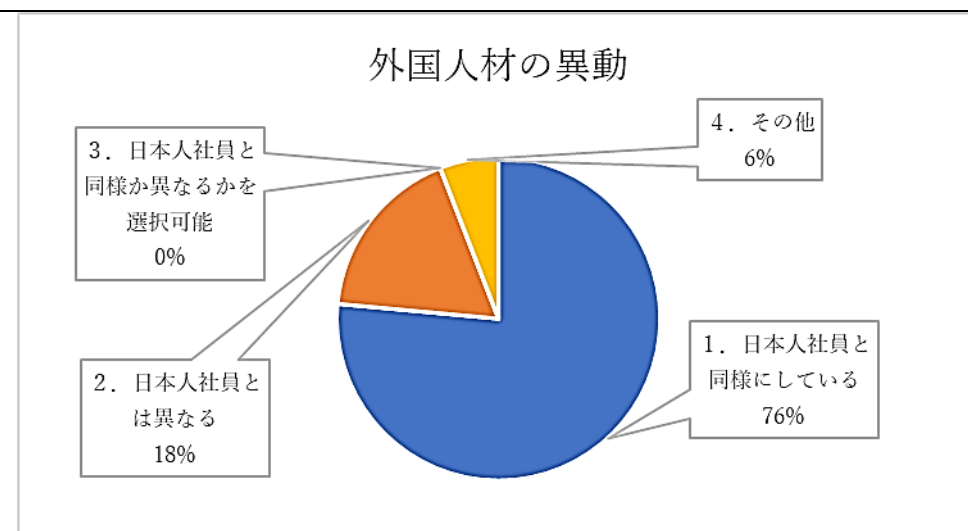
- | | |
|-----------------------|---------------|
| 1. 日本人社員と同様にしている | 2. 日本人社員とは異なる |
| 3. 日本人社員と同様か異なるかを選択可能 | 4. その他 |



その他の具体的記述はなし。

(16)外国人材の異動について、次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。
「4. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

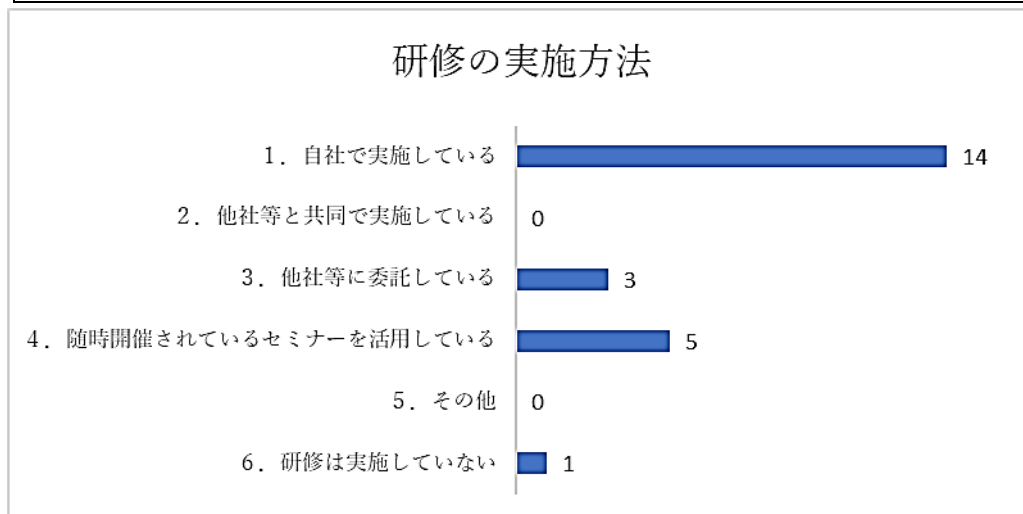
- | | |
|-----------------------|---------------|
| 1. 日本人社員と同様にしている | 2. 日本人社員とは異なる |
| 3. 日本人社員と同様か異なるかを選択可能 | 4. その他 |



その他の具体的記述はなし。

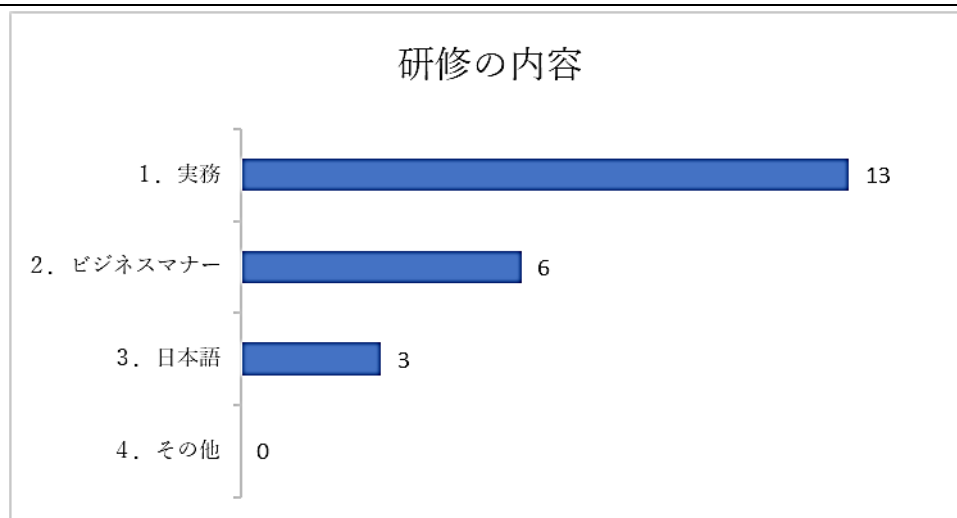
(17)外国人材に対する研修の実施方法について、次の選択肢の中から該当するものをすべて選んでください。「5. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | |
|---------------|-------------------------|
| 1. 自社で実施している | 2. 他社等と共同で実施している |
| 3. 他社等に委託している | 4. 随時開催されているセミナーを活用している |
| 5. その他 | 6. 研修は実施していない |



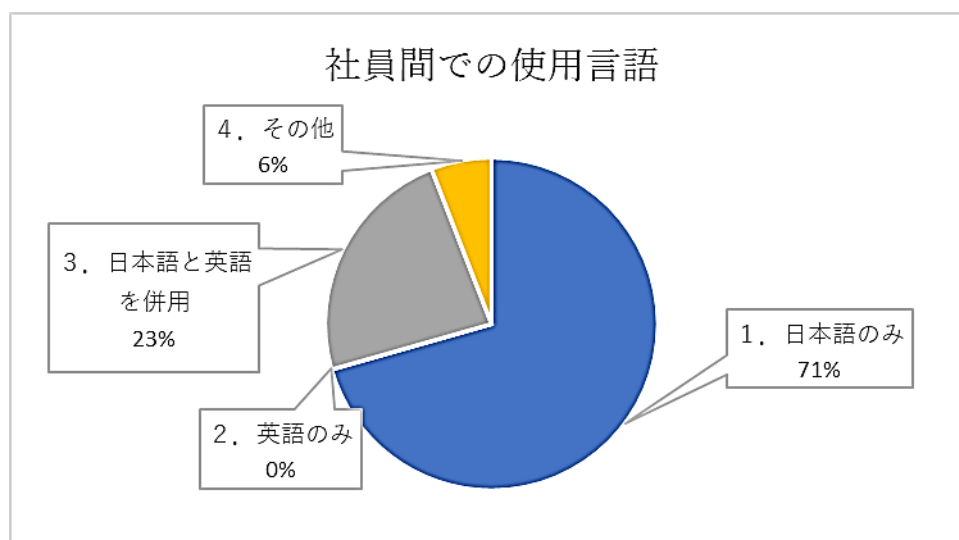
(18)(17)で「1. 自社で実施している」、「2. 他社等と共同で実施している」「3. 他社等に委託している」、「4. 随時開催されているセミナーを活用している」、「5. その他」のいずれかをご回答された方にお伺いします。外国人材に行う研修の内容について、次の選択肢の中から該当するものをすべて選んでください。「4. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | | | |
|-------|------------|--------|--------|
| 1. 実務 | 2. ビジネスマナー | 3. 日本語 | 4. その他 |
|-------|------------|--------|--------|



(19) 貴社の社員間での使用言語について、次の選択肢の中から該当するものを 1つ 選んでください。「4. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

1. 日本語のみ 2. 英語のみ 3. 日本語と英語を併用 4. その他



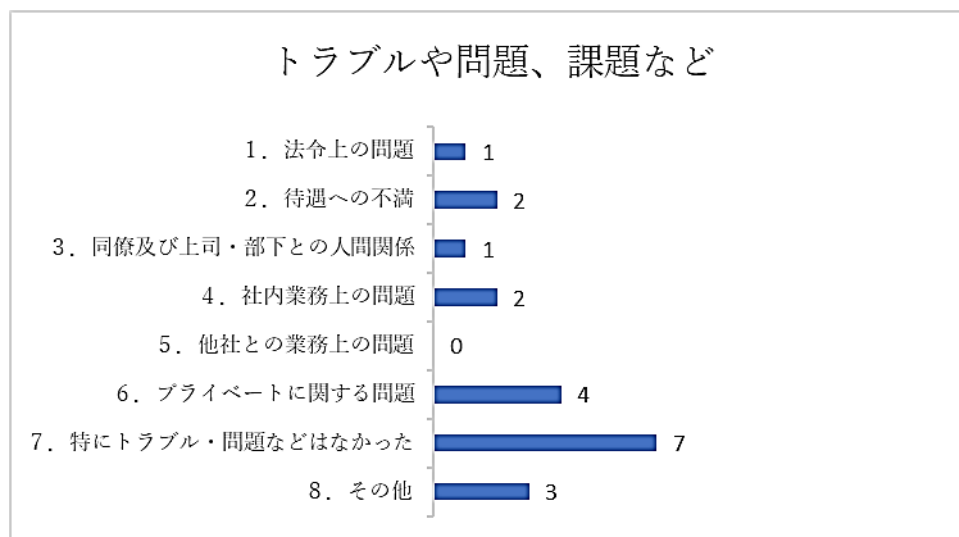
その他の具体的記述はなし。

(20) 貴社で外国人材を採用したことによって、どのような効果が得られましたか。具体的にご記入ください。

- ・特に効果は得られなかったが、それを期待していたわけではないので問題ない。
- ・教育機関なのでカリキュラムに反映、海外へ事業所展開ができた
- ・不明
- ・人材の確保、異文化交流
- ・海外業務の受託に結びついた
- ・日本人社員とのコミュニケーション活発化や、オンボーディングへの意識醸成向上化。
- ・グローバル化への意識向上
- ・応募者の方へ外国籍の方も採用していることをアピールすることで、会社がグローバル化していることのアピールとなり更に興味をもってもらえた。
- ・親会社を含めた、新たなビジネスチャンスの創出に寄与している。
- ・外国人のお客様対応ができるようになった。 翻訳してもらえた。
- ・人手不足を補った。

(21) 貴社で外国人材を雇用した際、トラブルや問題、課題などがありましたか。次の選択肢の中から該当するものをすべて選んでください。

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 法令上の問題 | 2. 待遇への不満 |
| 3. 同僚及び上司・部下との人間関係 | 4. 社内業務上の問題 |
| 5. 他社との業務上の問題 | 6. プライベートに関する問題 |
| 7. 特にトラブル・問題などはなかった | 8. その他 |

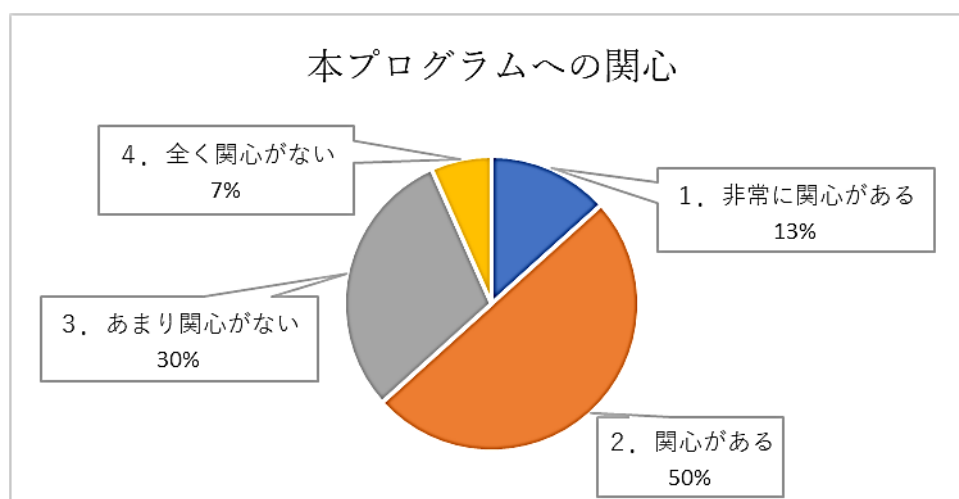


(22) (21) でご回答された項目について、可能な範囲で具体的にご記入ください。

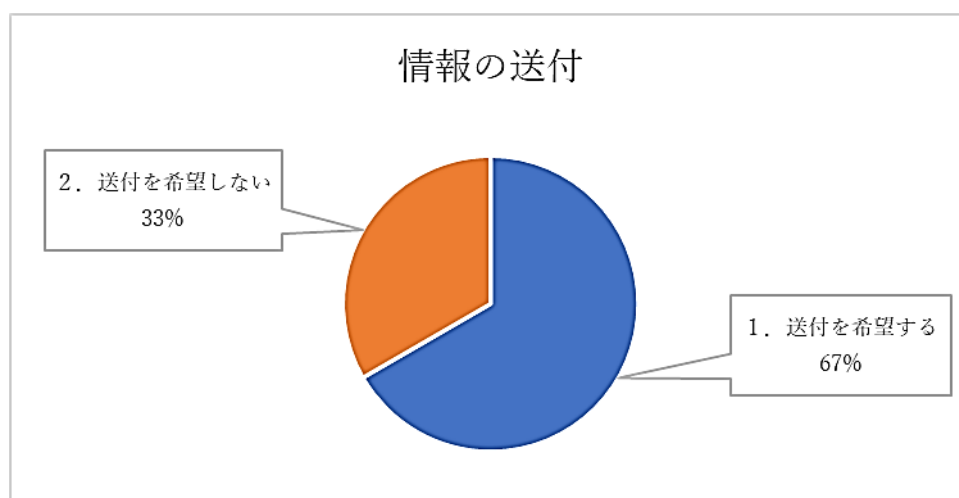
- ・教育機関なので、講師と学生間の指導上の課題が発生した。
- ・日本語のレベル感によるタスクのスピード感阻害。または、日常生活での補助から日本人社員の工数問題。
- ・就労ビザが下りなかったことがある。
- ・韓国の方はきちっとされており、あいまいな文化や状況判断に理解をしてもらうのが難しかった。
- ・習慣の違いで、お客様に迷惑をかけた。(業務中のスマホ(ゲーム)、服装、生活態度)

(23)現在、文部科学省の委託事業の一環で専門学校や企業及び業界団体等との連携のもと、日本語能力、IT スキル、日本や沖縄に関する教養を身に付け、沖縄または日本に定着し IT 産業に従事する外国人 IT 人材の養成を目的とする教育プログラム事業を推進しています。本プログラムにご関心はございますか。次の選択肢の中から該当するものを **1つ** 選んでください。

- | | |
|-------------|------------|
| 1. 非常に関心がある | 2. 関心がある |
| 3. あまり関心がない | 4. 全く関心がない |

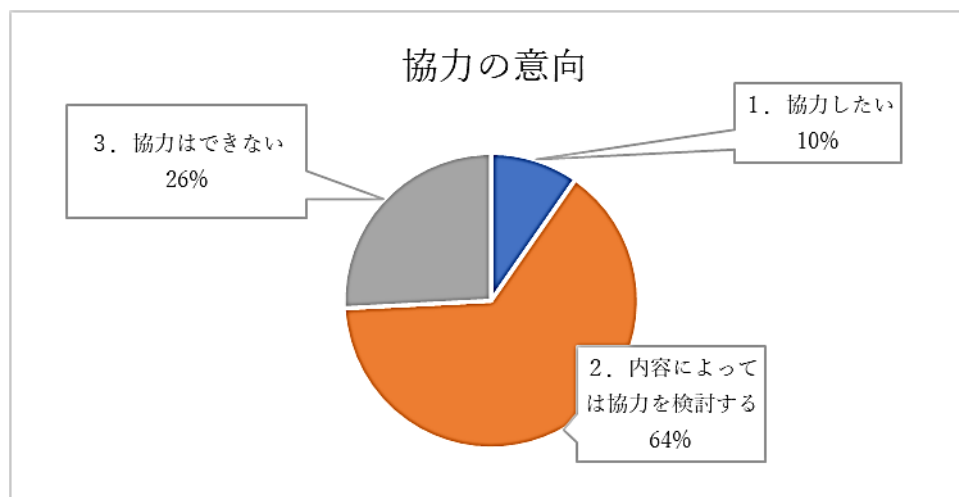


(24)今後、沖縄県内の IT 企業様に向けて、上記の教育プログラムの進捗や事業活動成果の報告、人材育成などの情報提供活動を行っていきたいと考えております。御社にもこのような活動の情報をお送りしてもよろしいでしょうか。次の選択肢の中から該当するものを **1つ** 選んでください。



(25)上記の教育プログラム開発に際して、さらなる調査や教材開発、実証などを企画・実施します。その際には、沖縄県内の IT 及びデジタルコンテンツ系企業の皆様に実施協力を依頼する予定です。御社の協力のご意向について、次の選択肢の中から該当するものを 1つ 選んでください。

- | | |
|------------|-------------------|
| 1. 協力したい | 2. 内容によっては協力を検討する |
| 3. 協力はできない | |



(26)外国人 IT 人材養成の取組みや教育プログラムに関して、ご意見・ご要望があれば、ご記入ください。

- ・事業の成果物を取り入れて、活用したい。
- ・技術力をしっかり身につけていることが重要と思います。日本の IT 系専門学校で広く見られる、実務で通用しない穴埋め問題中心の資格の取得を目標にするのではなく、実務に対応できる技術力を身につけるプログラムが必要です。
- ・PBL、OJT 講座の内容で外国人も活用可能としたい
- ・コミュニケーションが取れる環境にあれば考えても良い。高度人材であれば考えてみたい。海外のように、IT 系企業以外の企業への IT 人材の活用を考えるべき。
- ・IT で開発言語がいくら英語だからといっても、開発工程における業務の調整は日本語になる事がほとんど。その業務調整に携われる程度の日本語能力がない中であれば、全ての業務時間を開発工数に充てることが難しく、日本語の向上について、いくらか時間を取られるのが現実である。その課題をクリアできてこそ、外国人 IT 人材を心置きなく全ての業務時間で開発に集中させられるため、当該課題をクリアしていただければと考える。なお、企業毎の必要 IT スキルは別途必要となる。
- ・IT 技術は事前に Java などの言語とコンピューター基礎などの教育でいいと思いますが、日本語検定の 2 級が受かる内容、期間が必要かと思います。

2.2.3. 結果のまとめ

IT 企業アンケート調査結果について、注目すべき点のまとめを行う。まず、前提となる外国人材雇用経験であるが、現在雇用している企業は3割に満たない。しかし、雇用経験がある企業や、入社予定がある企業、協力会社やパートナー企業からの派遣がいる企業を含めると、今回ご回答いただいた企業の半数以上になることが分かった。また、雇用経験がある企業は、今後の雇用意向があつたり検討中であつたりする割合が多いのに対し、雇用経験がない企業は今後の雇用にも消極的な割合が多いことも分かった。

外国人材の出身国・地域としては、中国が最も多く挙げられた。つづいて、ベトナム、韓国、台湾も複数の企業から挙げられており、留学生の出身国・地域とも一致する点がある。雇用形態としては、多くの企業が正社員として採用している。採用する外国人材の経歴は、「中途のみ」という企業が最も多く、つづいて「新卒のみ」が多く挙げられ、「新卒・中途どちらも」という企業も4分の1ほどあつた。したがって、新卒・中途ともに一定のチャンスがあるといえる。新卒に関しては、日本国内の学校を卒業した外国人材の採用が主流であつた。

外国人材採用の際に重視する能力・資質として最も多く選ばれたのは日本語力とコミュニケーション能力であつた。やはり、日本の企業であるため日本語ができる人材を求める傾向にあることが分かる。また、ITのスキルも重要な要素になっている。日本語力に関しては、半数がビジネスレベルを求めており、日常会話レベルと答えた企業よりも多かった。また、社内の使用言語が日本語のみと回答する企業が多かったことから、やはり業務上の会話を日本語で行うことができる能力が求められることが分かる。日本語力を図るための基準としては、面接時の応対が最も多く挙げられており、同様に日本語能力試験（JLPT）も基準とされることが多いようだ。日本語能力試験（JLPT）でみた場合、採用する基準となるレベルは「N2」と回答する企業が多数であつた。

入社時期としては、年度始まりの4月と「随時」という回答が多く集まった。外国人材の雇用理由としては優秀な人材の確保という回答が多く挙げられた。採用された外国人材が従事するのは、開発の仕事が大半であつた。人事評価、給与体系、昇進機会、異動に関しては、大半の企業が日本人と同じようにしていると回答している。したがって、待遇等において外国人であるから優遇されたり、不利に扱われたりするという傾向はあまりないということが分かる。外国人材雇用で起きたトラブルに関してはあまり多く挙げていない。最も多い回答は「特にトラブル・問題などはなかった」であるが、具体的に挙げられたトラブル事例に関しては、ケーススタディ等に活用したい。

また、本事業に対する興味等についても質問している。「非常に興味がある」と「関心がある」を合わせて6割を超えていることから、企業から見ても本事業及び開発するプログラムは一定の関心を得ていることが分かった。最後にいただいた意見では、やはり日本語力の向上と実践的なITスキルの要請が挙げられているため、開発する教育プログラムのカリキュラムにしっかりと盛り込んでいくことが必要となる。

2.3. 専修学校アンケート調査

2.3.1. 調査概要

(1) 調査目的

本事業では、IT や隣接分野の学科を持つ専修学校に対しアンケート調査を実施した。本調査では、外国人留学生に関する情報（留学生受入状況、留学生の出身・日本語力・学力・就職状況、課題など）や本事業に関する意見・感想等を調査する。ここで得た情報は、教育プログラムを検討する際の基礎資料とすると共に、事業活動の周知と事業活動への協力可能性を把握することを目的とした。

(2) 調査対象

本調査では、日本国内の IT・デジタルコンテンツ・情報系学科を持つ専修学校を対象に調査を実施した。

(3) 調査手法

調査項目に関して情報収集を行うための質問で構成される調査票を作成し、同時に同一の質問項目及び選択肢等が記載された WEB サイトを作成した。質問形式は多肢選択形式と自由記述形式の 2 系統である。そして、IT・デジタルコンテンツ・情報系の学科を有する専修学校 300 校をリストアップし、この調査票を郵送した。回収方法は調査票の返送だけでなく、同封した依頼状に WEB サイトの URL 及び QR コードを記載することで、オンラインでの回答も可能にした。その結果、74 校からの回答があった。

次頁以降、本アンケート調査結果を掲載する。

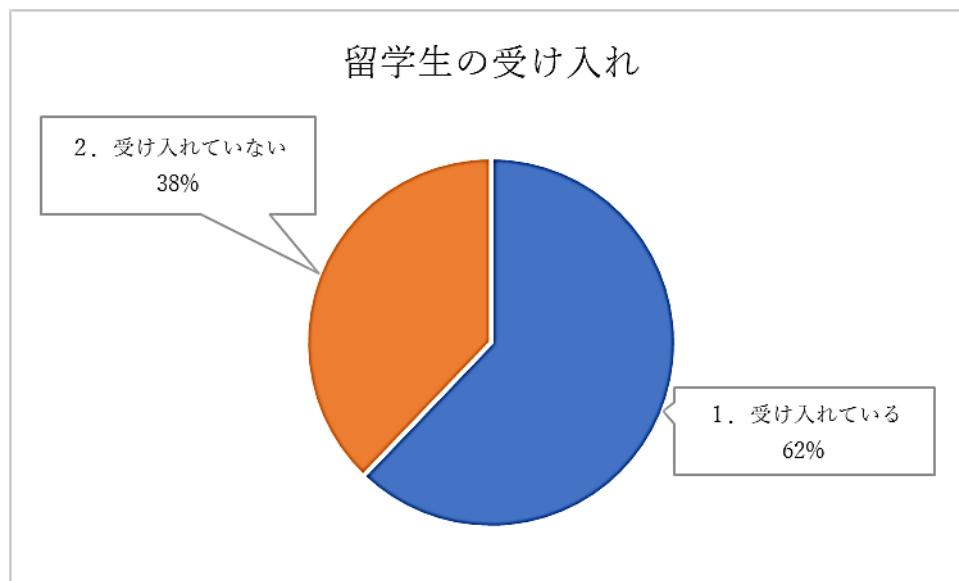
2.3.2. 専修学校アンケート調査

I. 留学生教育について

- (1) 御校では留学生の受け入れを行っていますか。当てはまる選択肢を 1 つ選んで○を付けてください。

1. 受け入れている

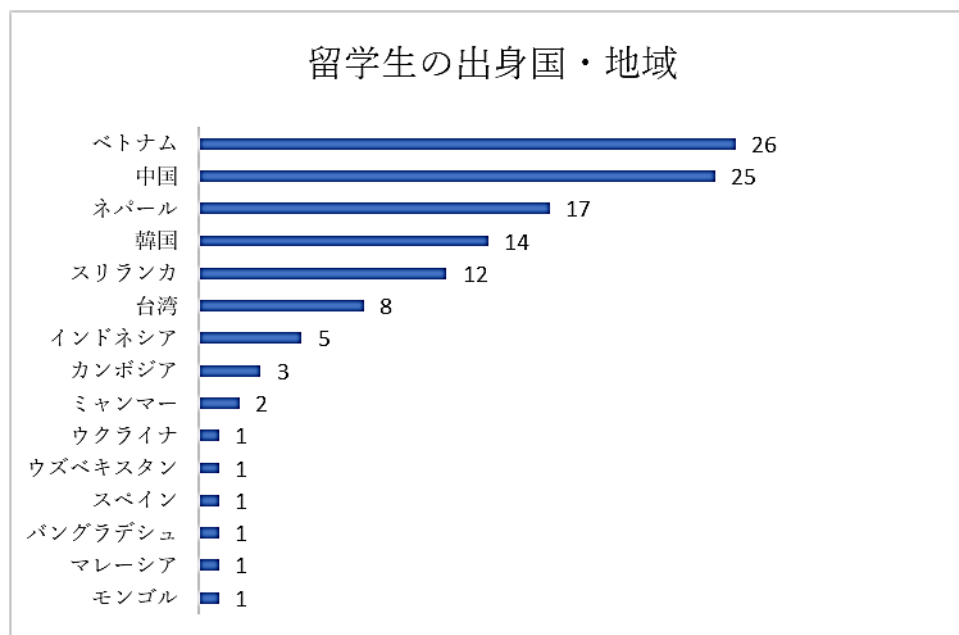
2. 受け入れていない



- (2) 御校で留学生受け入れを行っている学科名と、当該学科のおおよその学生数及び留学生数をご記入ください。

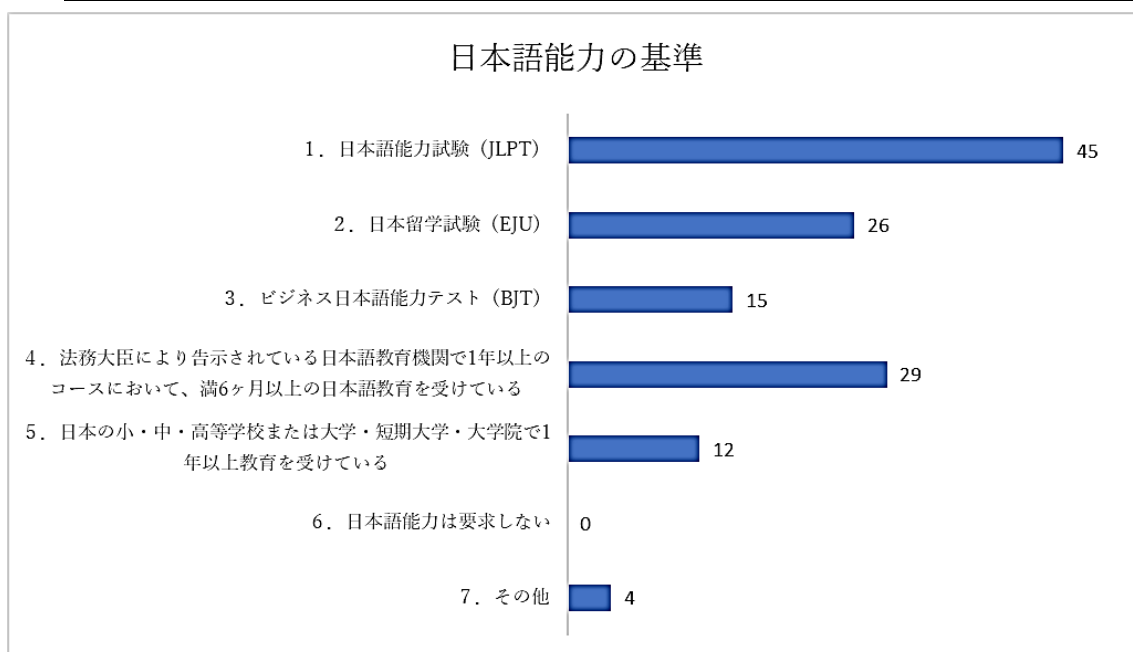
→本項目はご回答いただいた学校の特定につながるため記載しない。

(3) 御校で受け入れている留学生の出身国・地域について、上位3つまでご記入ください。



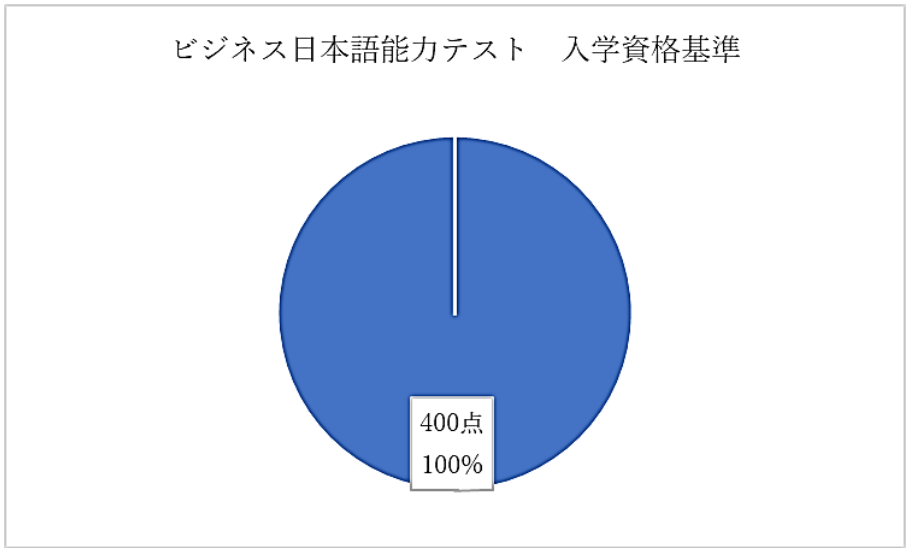
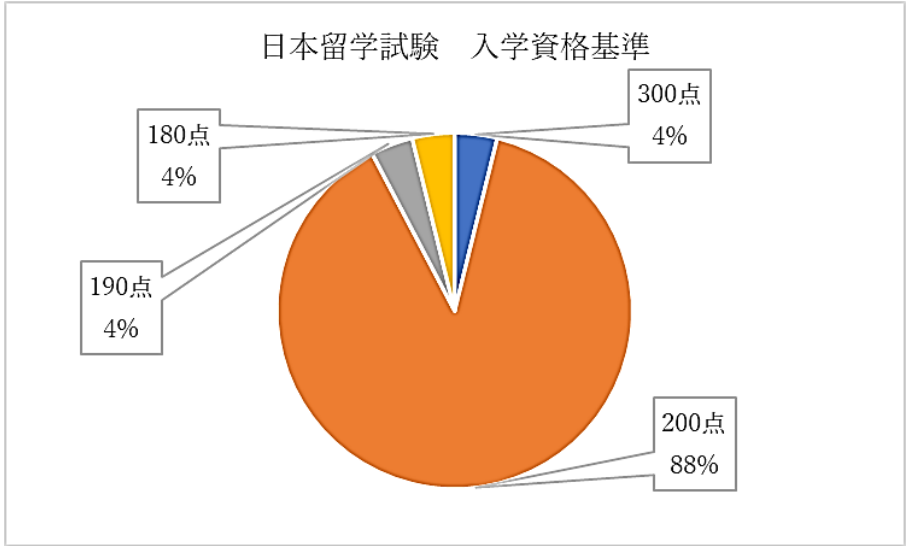
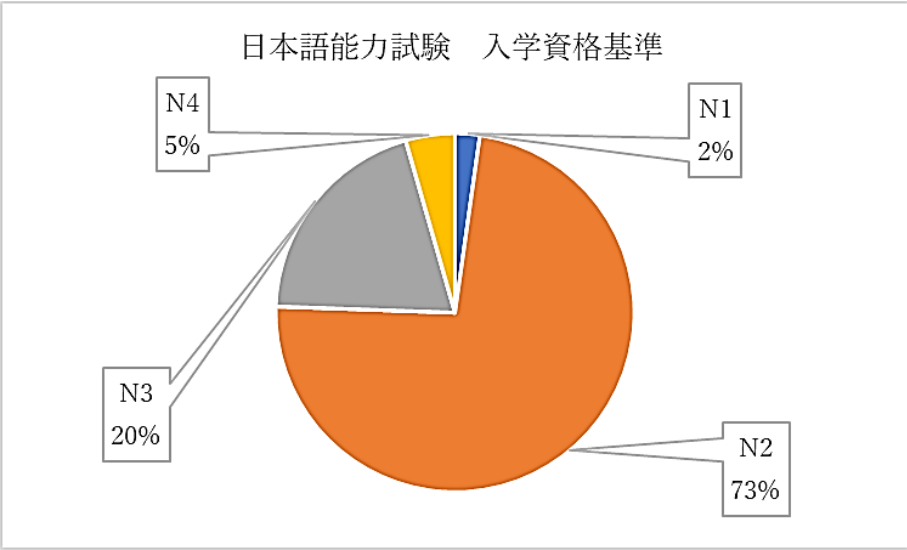
(4) 御校の留学生の入学資格として、どの程度の日本語能力を基準としていますか。当てはまる選択肢を**すべて**選んで○を付けてください。また、基準となる試験等のレベル、点数等を具体的にご記入ください。「7. その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

1. 日本語能力試験 (JLPT): N ()
2. 日本留学試験 (EJU): () 点
3. ビジネス日本語能力テスト (BJT): () 点
4. 法務大臣により告示されている日本語教育機関で1年以上のコースにおいて、満6ヶ月以上の日本語教育を受けている
5. 日本の小・中・高等学校または大学・短期大学・大学院で1年以上教育を受けている
6. 日本語能力は要求しない
7. その他 ()



その他

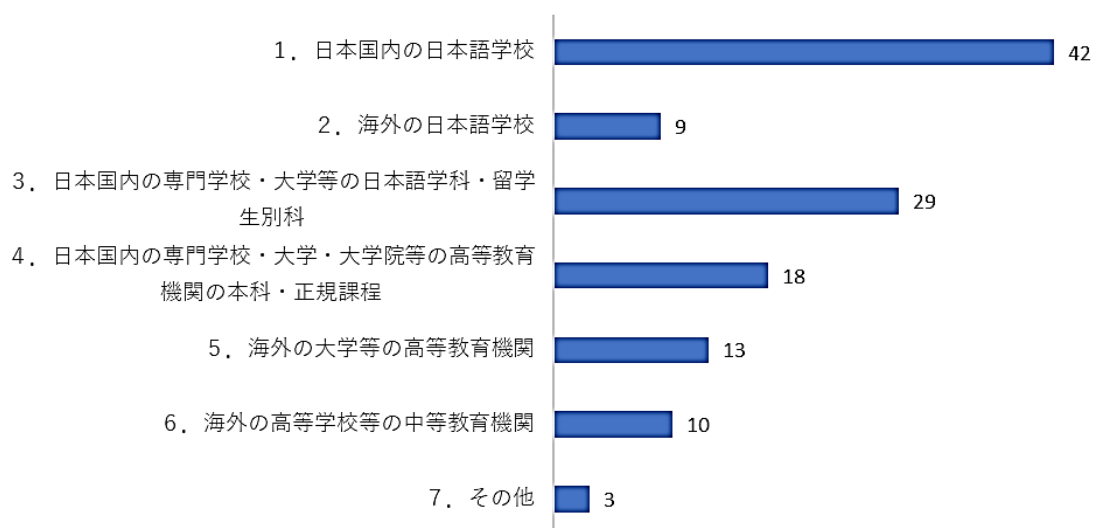
- ・ J.TEST C 級、上記資格と同等レベル
- ・ J.TEST C 級以上
- ・ 本校独自の日本語試験及び作文、面接による。
- ・ 入学選考時の日本語筆記試験



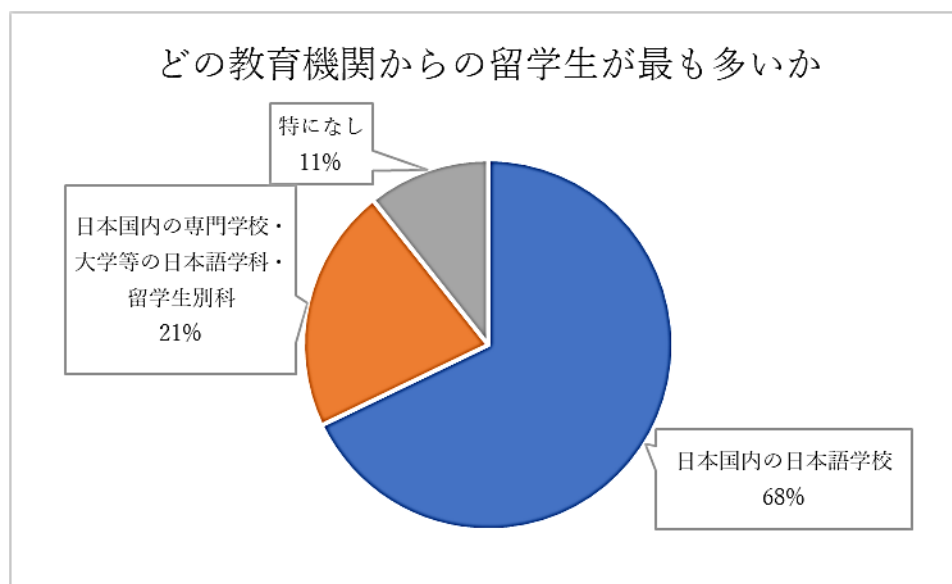
- (5) 御校の留学生は、どのような教育機関から進学・入学されていますか。当てはまる選択肢を**すべて**選んで○を付けてください。「7. その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

1. 日本国内の日本語学校
2. 海外の日本語学校
3. 日本国内の専門学校・大学等の日本語学科・留学生別科
4. 日本国内の専門学校・大学・大学院等の高等教育機関の本科・正規課程
5. 海外の大学等の高等教育機関
6. 海外の高等学校等の中等教育機関
7. その他 ()

進学・入学してくる教育機関



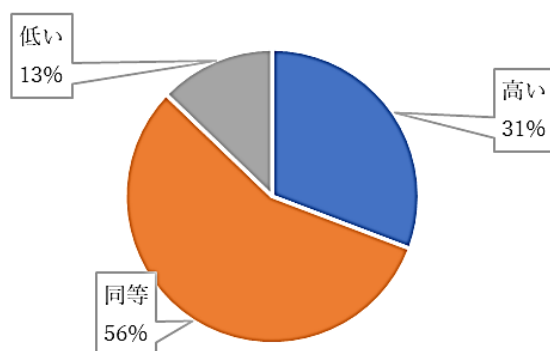
- (6) 上記質問項目(5)の中で、どの教育機関からの留学生が最も多いですか。具体的にご記入ください。



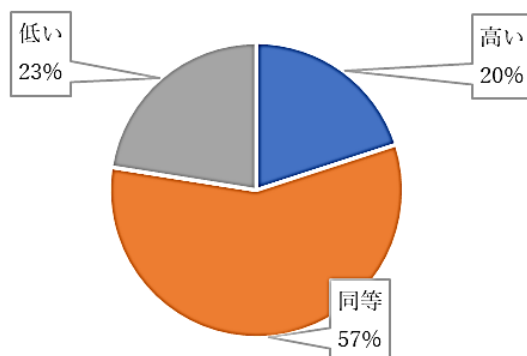
- (7) 御校で留学生教育を行う中で、日本人学生と比較して、留学生全般にどのような特性があると感じますか。当てはまる選択肢を**すべて**選んで○を付けてください。「6. その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

1. 学習へのモチベーションが（ 高い ・ 同等 ・ 低い ）
2. 基礎学力が（ 高い ・ 同等 ・ 低い ）
3. 専門知識・技術の習得が（ 早い ・ 同等 ・ 遅い ）
4. 自身のキャリアに対する意識が（ 高い ・ 同等 ・ 低い ）
5. 就職に苦労する学生が（ 多い ・ 同等 ・ 少ない ）
6. その他（ ）
7. 日本人学生と比較して特筆する特性はない

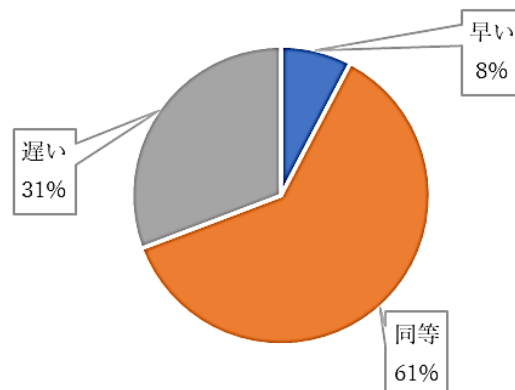
日本人学生との比較
1. 学習へのモチベーション



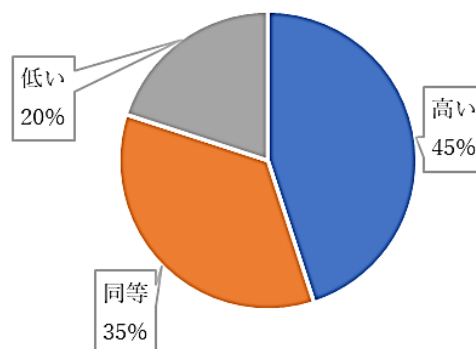
日本人学生との比較
2. 基礎学力



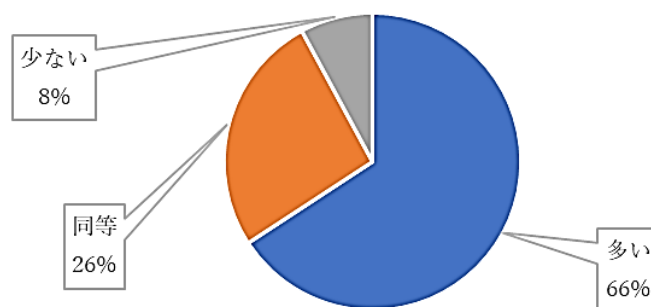
日本人学生との比較
3. 専門知識・技術の習得



日本人学生との比較
4. 自身のキャリアに対する意識

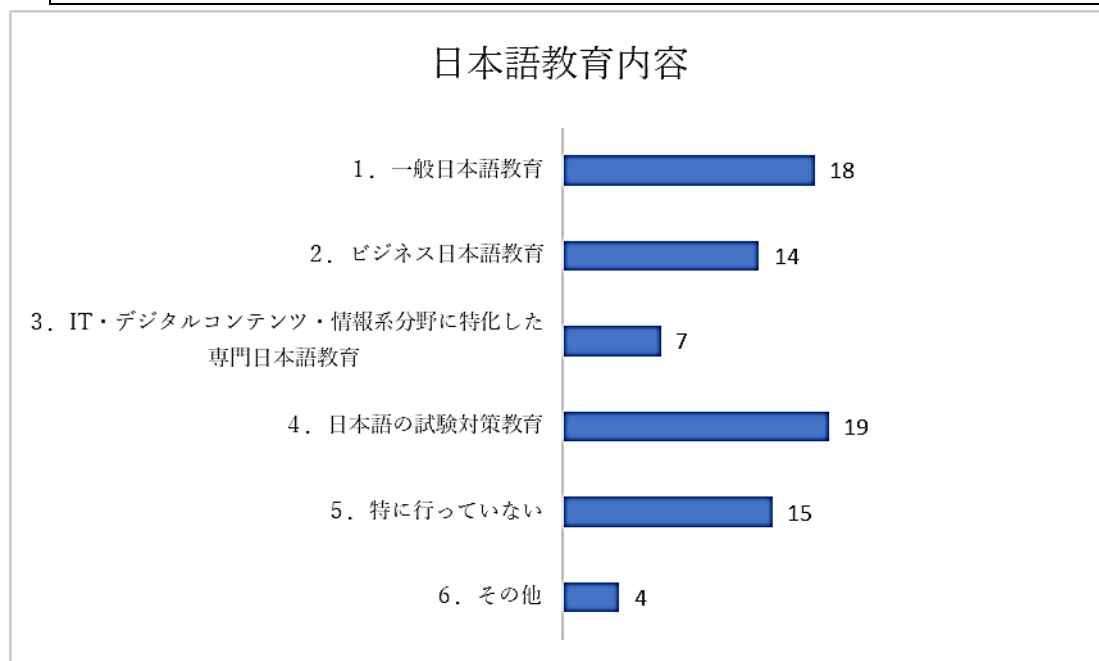


日本人学生との比較
5. 就職に苦労する学生



- (8) 留学生を対象として、御校ではどのような日本語教育を行っていますか。当てはまる選択肢をすべて選んで○を付けてください。「6. その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

- | | |
|-----------------------------------|--------------|
| 1. 一般日本語教育 | 2. ビジネス日本語教育 |
| 3. IT・デジタルコンテンツ・情報系分野に特化した専門日本語教育 | |
| 4. 日本語の試験対策教育 | 5. 特に行っていない |
| 6. その他（ | ） |

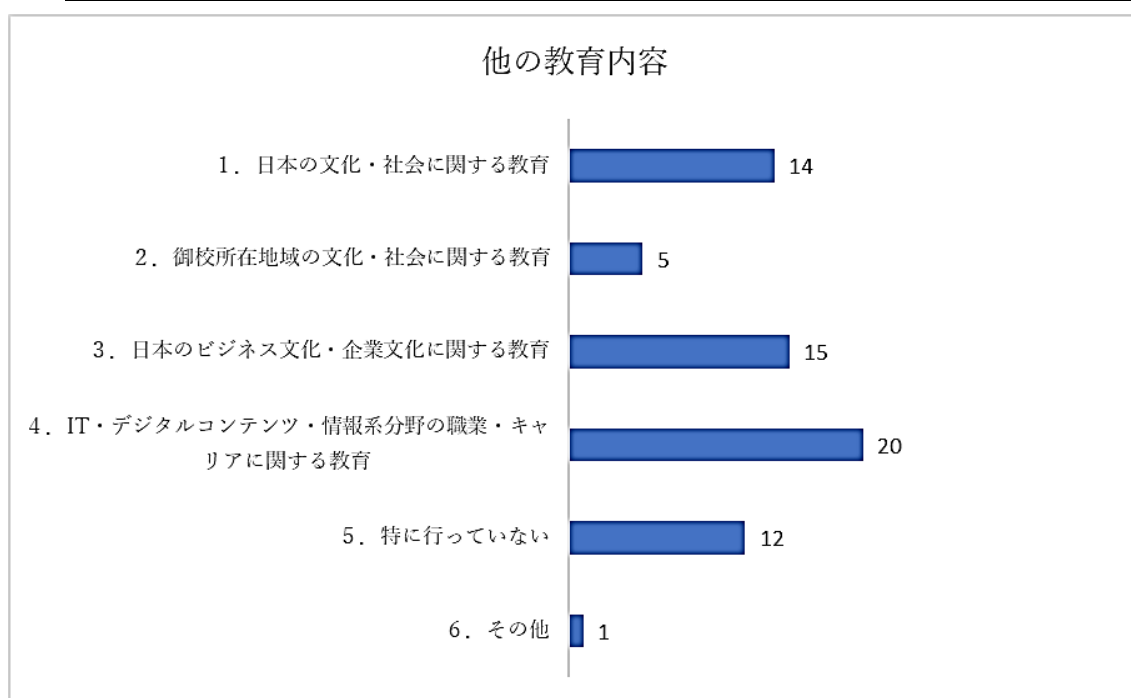


その他

- ・必要な場合に、授業・資格試験の補講的なもの
- ・特別日本語講座（入学時日本語能力が低い学生対象）
- ・日本語が不自由な学生に対し日本語教育
- ・必要に応じて本学内日本語学科の授業を受けている。

(9) 留学生を対象として、御校では IT・デジタルコンテンツ系分野の専門科目や日本語教育の他にどのような教育を行っていますか。当てはまる選択肢をすべて選んで○を付けてください。「6. その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

1. 日本の文化・社会に関する教育
2. 御校所在地域の文化・社会に関する教育
3. 日本のビジネス文化・企業文化に関する教育
4. IT・デジタルコンテンツ・情報系分野の職業・キャリアに関する教育
5. 特に行っていない
6. その他（ ）

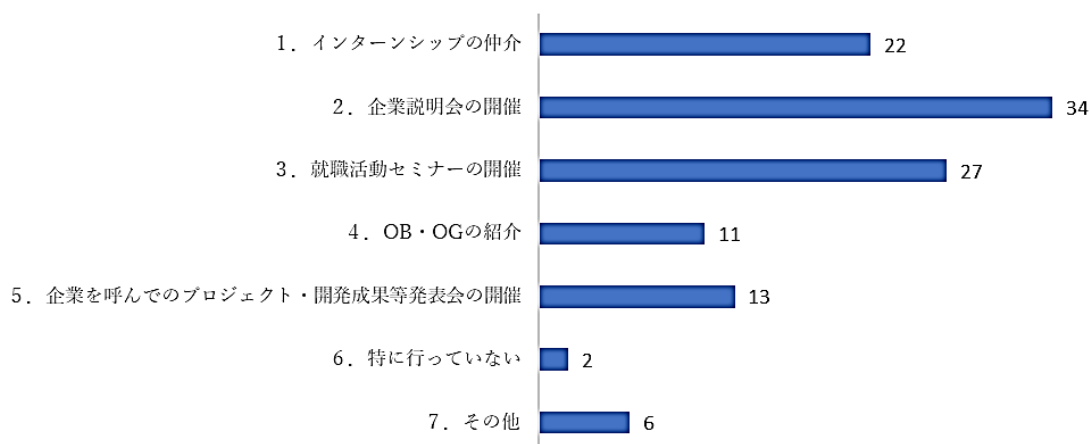


その他
・SPI

(10)留学生に対する日本での就職の支援として、御校ではどのような取り組みを行っていますか。当てはまる選択肢を**すべて**選んで○を付けてください。「7. その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

- | | |
|------------------------------|-------------|
| 1. インターンシップの仲介 | 2. 企業説明会の開催 |
| 3. 就職活動セミナーの開催 | 4. OB・OGの紹介 |
| 5. 企業を呼んでのプロジェクト・開発成果等発表会の開催 | |
| 6. 特に行っていない | |
| 7. その他 () | |

就職の支援の取り組み

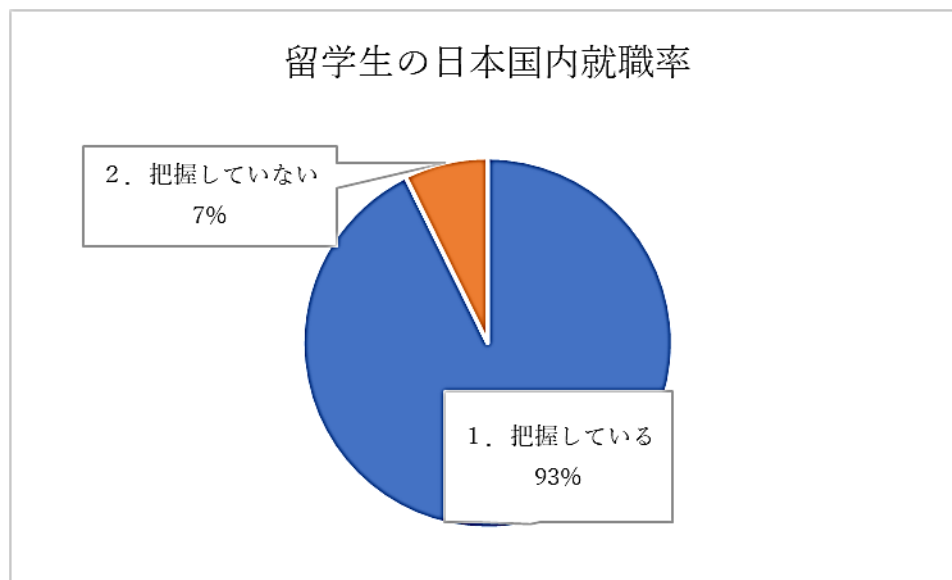


その他

- ・企業と提携しての奨学金制度
- ・企業とのマッチング作業
- ・留学生対応教員により、個別対応している。
- ・ハローワーク等
- ・進学期の留学生に「日本語ビジネスマナー講座」を3日間開催。
- ・個別対応

(11)御校の留学生の日本国内就職率について調査し把握しておられますか。把握されている場合は、就職率をご記入ください。

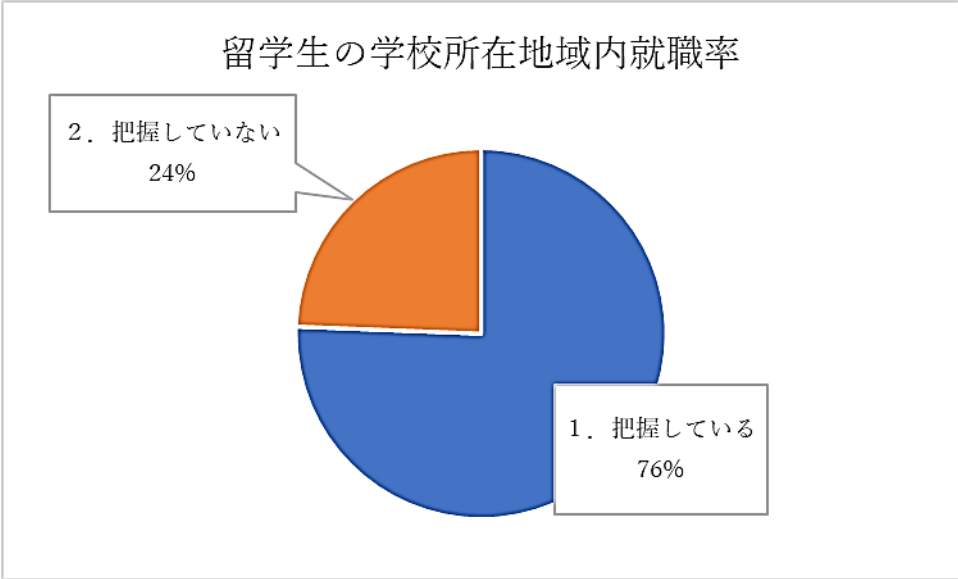
1. 把握している (約 %)	2. 把握していない
------------------------	------------



就職率			
最大値	最小値	平均値	中央値
100%	0%	72.9%	87.5%

(12)御校の留学生の御校所在地域内就職率について調査し把握しておられますか。把握されている場合は、就職率をご記入ください。

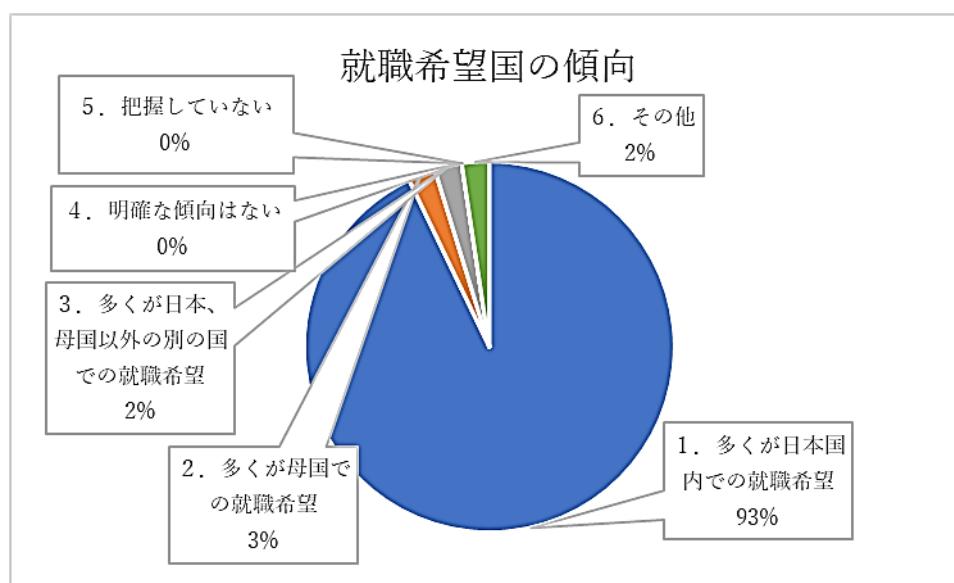
1. 把握している（約 %）	2. 把握していない
-------------------------	------------



就職率			
最大値	最小値	平均値	中央値
100%	0%	39%	20.5%

(13)御校の留学生の就職希望国の傾向について、次の選択肢の中から該当するものを1つ選んで○を付けてください。「6. その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 多くが日本国内での就職希望 | 2. 多くが母国での就職希望 |
| 3. 多くが日本、母国以外の別の国での就職希望 | |
| 4. 明確な傾向はない | 5. 把握していない |
| 6. その他 (|) |

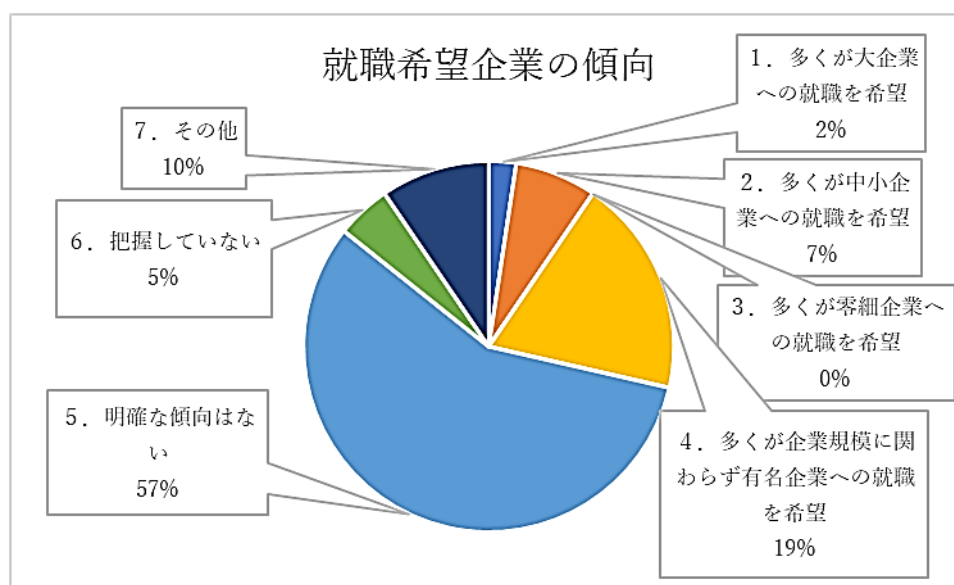


その他

・東京への就職希望

(14)御校の留学生の就職希望企業の傾向について、次の選択肢の中から該当するものを1つ選んで○を付けてください。「7. その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

1. 多くが大企業への就職を希望
2. 多くが中小企業への就職を希望
3. 多くが零細企業への就職を希望
4. 多くが企業規模に関わらず有名企業への就職を希望
5. 明確な傾向はない
6. 把握していない
7. その他 ()



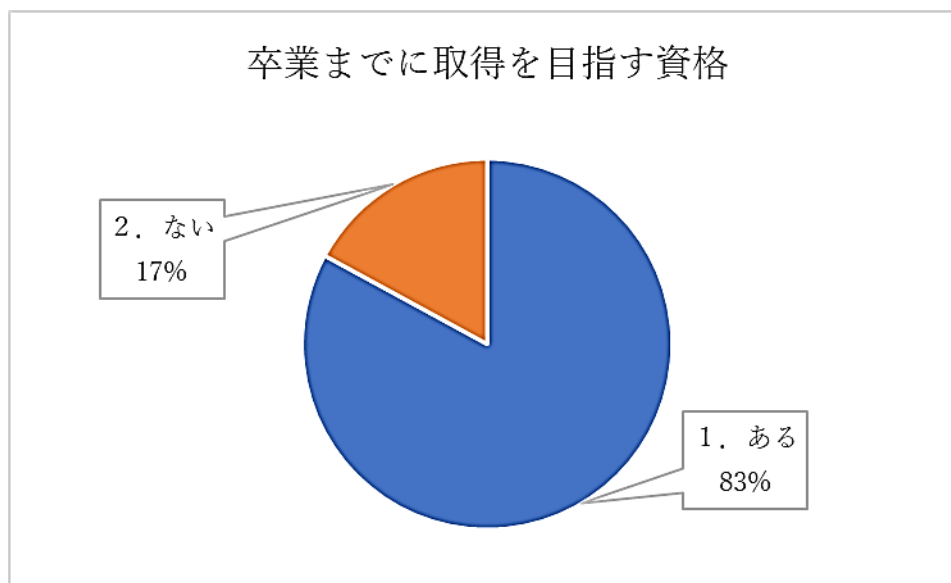
その他

- ・東京の大きな会社を希望している
- ・多くが学科に関連する企業への就職を希望
- ・就労ビザが確実に取れる可能性が高い企業への就職を希望
- ・規模は問わない

(15) 御校の留學生がカリキュラム上卒業までに取得を目指す資格はありますか。次の選択肢の中から該当するものを**1つ**選んで○を付けてください。「1. ある」を選択する場合には、主要な資格の具体的な名称を**3つ**までご記入ください。

1. ある
() () ()

2. ない



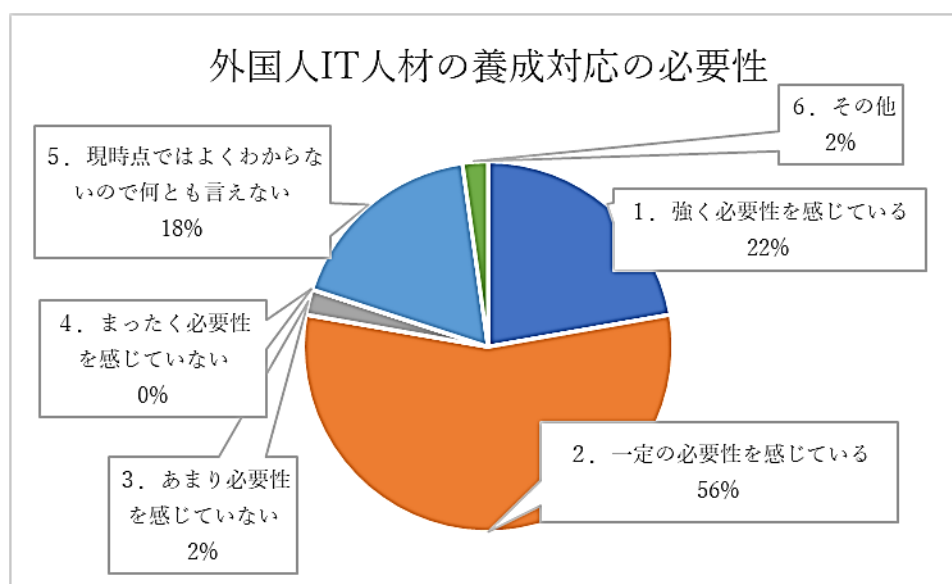
- ・日本語能力試験 N1 または N2、サービス接遇検定、ワープロ検定
- ・基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、MOS
- ・JLPT、Oracle Certified Java Programamer、電気工事士
- ・文部科学省後援情報検定情報活用試験、文部科学省後援情報検定情報システム試験
- ・日本語能力試験（N1）、基本情報技術者、工事担任者
- ・簿記検定 2・3 級、文書処理検定 Excel3 級、文書処理検定 word3 級
- ・国家 2 級自動車整備士、アーク溶接技能、低圧電気取扱技能
- ・簿記 2 級、ワード 3 級、エクセル 3 級
- ・ビジネス能力検定、簿記検定、情報処理検定
- ・ガス技能講習修了、SA-2F、A-2F
- ・N2
- ・サートィファイ技能認定、日商・全経簿記検定、ビジネス能力検定
- ・日本語ワープロ、情報処理技能検定 表計算、基本情報技術者
- ・日本語能力試験、IT パスポート試験、基本情報技術者修了認定試験
- ・全経簿記検定 2 級、MOS 検定 Excel、MOS 検定 Word
- ・基本情報技術者試験、2 次元 C A D 利用技術者検定試験（2 級）
- ・基本情報技術者試験、JLPT N1,N2

- ・基本情報技術者試験、w e b クリエイター能力認定試験、マイクロソフトオフィススペシャリスト
- ・JLPTN2・N3、日本語ワープロ検定 3 級・4 級、PJC（実践日本語コミュニケーション検定）レベル C-以上
- ・Java プログラミング能力認定試験 3 級、ICT プロフィシエンシー検定 4 級、日本語能力試験 N2
- ・基本情報技術者、応用情報技術者、C G クリエイター検定
- ・情報処理技術者、Oracle 認定 Java プログラム Bronze、情報活用試験 3 級
- ・入力スピード検定、ワープロ検定、表計算
- ・基本情報技術者試験、I T パスポート試験、色彩検定
- ・計算実務検定、表計算検定
- ・情報処理系
- ・JLPT N2、IT パスポート
- ・J 検（情報システム試験・情報活用試験・情報デザイン試験）、情報処理技術者試験、C G クリエイター検定
- ・I T パスポート試験、基本情報技術者試験
- ・日本語能力試験、I T パスポート、情報活用試験
- ・日本語能力試験 3 級
- ・基本情報技術者試験、工事担任者 AI・DD 総合種、電気主任技術者 3 種
- ・C A D 利用技術者試験、表計算、日本語ワープロ
- ・簿記 3 級、日本語ワープロ検定、表計算検定・ホームページ作成検定

II. 現状の課題等について

(16)経済産業省が2016年に発表した『IT人材の最新動向と将来推計に関する調査結果』の試算によると、2030年時点で最大約79万人の人材不足に直面する恐れがあるとされるIT産業では人材確保が緊縛の課題となっております。IoT、AI、ビッグデータ、ブロックチェーン等を活用する新たな社会〈Society5.0〉の実現に向け高度な先端技術を扱うことができるIT人材がますます求められる中で、日本人IT人材だけでなく外国人IT人材の養成も今後ますます重要な課題となってくるものと思われる。御校ではこのような社会情勢を受けて、対応の必要性を感じておられますか。「6. その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1. 強く必要性を感じている | 2. 一定の必要性を感じている |
| 3. あまり必要性を感じていない | 4. まったく必要性を感じていない |
| 5. 現時点ではよくわからないので何とも言えない | |
| 6. その他 () | |

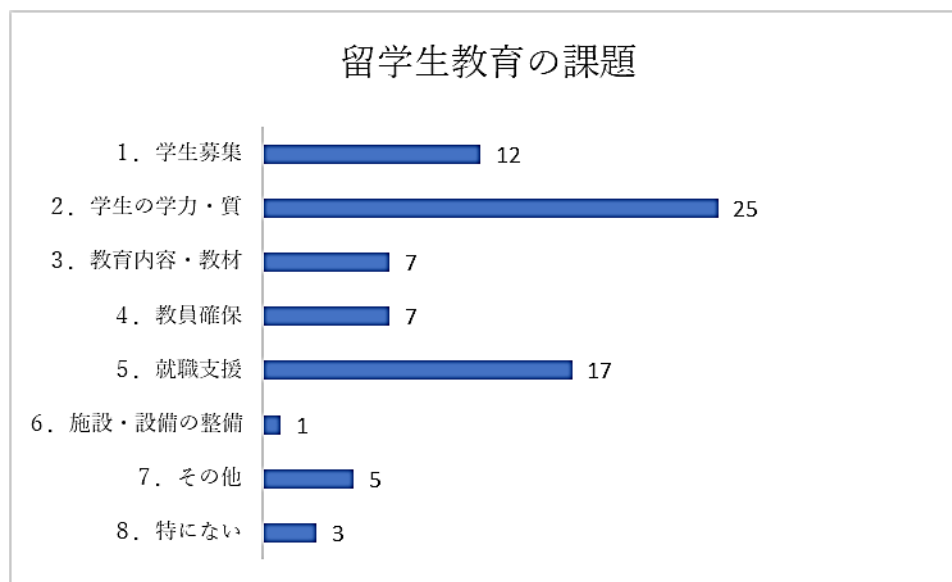


その他

・必要性を感じているが、留学生に特化した対応は検討していない。

(17)御校の留学生への教育について、課題と感じていることはありますか。次の選択肢の中から該当するものを**すべて**選んで○を付け、可能な範囲で具体的に課題を記入してください。

1. 学生募集	()
2. 学生の学力・質	()
3. 教育内容・教材	()
4. 教員確保	()
5. 就職支援	()
6. 施設・設備の整備	()
7. その他	()
8. 特にない	()



1. 学生募集

・学費面

・同業他校でも日本人学生不足のため、留学生確保に乗り出してきているので地方の学校は首都圏の学校に比べ獲得が難しくなっている。

・福島の人を選ぶ学生が少ない

- ・学習意欲・日本語能力・経費支弁能力の見極め
- ・多国籍化を進めたい
- ・意欲はあるが学費支弁能力により進学を断念する学生もいるため、そういった留学生への奨学金等サポート体制に課題を感じている。
- ・目的意識と日本語能力を見極めること
- ・アルバイトの時間を守っていつ学生の選別
- ・日本語学校での出席、成績が低い学生の出願が増えてきた
- ・留学生向け広報への対応（多言語対応）、入国審査関係の事務強化
- ・提出書類の偽造や経費支弁能力の確認
- ・留学生の募集を開始したばかりで、募集のノウハウがない。

2. 学生の学力・質

- ・学生の日本語力、コミュニケーション能力の向上
- ・日本語能力不足（特に漢字能力）
- ・日本語理解力の差（留学生間，日本人と留学生間）
- ・日本語基礎・専門用語等基礎学力
- ・日本語能力の低い学生が多くなってきている、また日本語学校時代にオーバーワークをしてしまっている学生も多い。
- ・日本の学生と一緒に勉強するので、日本語能力を重視する。
- ・日本語レベルの向上、総合学力、積極性や学習意欲
- ・日本語能力の不足
- ・中華圏の学生は日本語(漢字)が出来るのでその他の地域の学生と差が出る
- ・日本語能力の低さ
- ・日本語能力
- ・日本語能力、授業の質
- ・日本語能力の向上について
- ・入学後に、日本語力の伸びない学生・意欲を失う学生・経費支弁に支障を来す学生
- ・入学時の新入生の学力差（特に日本語）の均一化
- ・非漢字圏からの留学生が多くなったためか、日本語学校卒業時の日本語レベルが全体的に低くなっているように思われる。
- ・日本語能力の向上
- ・数学力などの基礎学力。
- ・基本情報、ITパスポートの説明を読み取ることが難しい様子である。
- ・日本語理解力
- ・日本語力の向上
- ・増加に伴い、日本語能力と目的意識の低い学生も増えてきた

- ・他文化理解

3. 教育内容・教材

- ・母国語での補助教材不足
- ・留学生受け入れから 3 年の学校ですので、常によりよくなっていくことが必要だと思っています。
- ・日本語理解度の差が大きい
- ・授業の進度についていけるか。内容、理解度
- ・ルビをふらないと分からない。
- ・日本語、日本文化の教育の充実

4. 教員確保

- ・留学生、特に非漢字圏学生の急増に、対応できる教員が確保できない
- ・IT 関係教員不足
- ・専任教員の雇用
- ・外国語を話せる教員
- ・学生数が増えた際のスムーズな教員の確保・補充ができる体制づくり
- ・売り手市場のためか自己の権利を強く主張する傾向が強いほか、自身の能力を過大評価している方が多く、なかなか良い人材を確保できない。
- ・目的意識の低い留学生の増加に伴い、授業以外の指導スタッフが必要になってきた
- ・留学生対応可能な教員
- ・力のある教員を確保したい
- ・専門知識のある語学のできる教員の確保

5. 就職支援

- ・就職先の開拓
- ・非漢字圏学生向け求人、特に首都圏求人を開拓したいが、人員に限界がある
- ・就労ビザが容易に取得できる企業不足
- ・各校の留学生も多くなってきており、留学生受け入れ企業の数に限られてきているので今後就職させる企業確保に苦労しそうである。
- ・日本語の向上
- ・求人数が少ない
- ・本校ではなかなかビザの降りる就職が難しい
- ・専門の職員がいらない
- ・業種職種の理解について。就職指導（履歴書・面接）。就職先の開拓。
- ・新規留学生受け入れ企業開拓

- ・留学生主採用（非漢字圏）する企業が少ない
- ・業種によっては苦勞するものがまだある
- ・企業と留学生の間の意識のミスマッチの増加
- ・教員の留学生理解とその指導
- ・専門学校からの就職先を広げてほしい
- ・卒業生を出していないので、就職支援の方法がわからない。

6. 施設・設備の整備

- ・寮などの住居の確保
- ・学食での食事、礼拝室の設置など

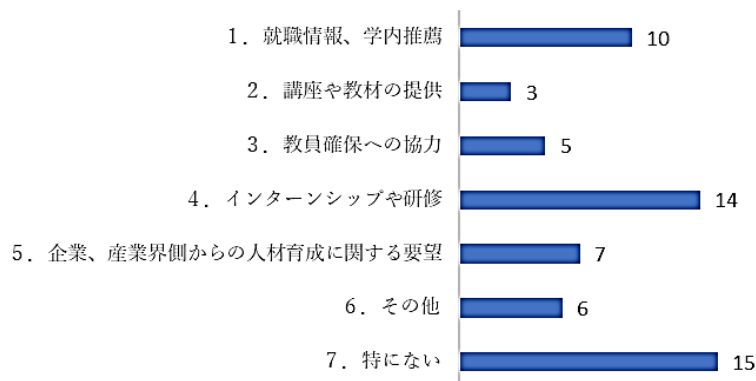
7. その他

- ・在学中に保証人として、日本の方（原則的）又は、日本在中の方
- ・文化の違い
- ・一部の留学生が著しく日本語理解力が低い
- ・就労ビザを確実に取得するための支援体制の確立
- ・個人情報保護等の観点から留学生のアルバイト先を完全に把握することは非常に難しく、日本社会全体で対策を図る必要があるものと思われる。
- ・生活支援
- ・特定技能との差別化

(18) 企業、産業界との連携について、御校が現在課題と感じていることはありますか。次の選択肢の中から該当するものをすべて選んで○を付け、可能な範囲で具体的に課題を記入してください。

1. 就職情報、学内推薦	()
2. 講座や教材の提供	()
3. 教員確保への協力	()
4. インターンシップや研修	()
5. 企業、産業界側からの人材育成に関する要望	()
6. その他	()
7. 特になし	

企業、産業界との連携の課題



1. 就職情報、学内推薦

- ・まだ就職実績がないので、これから検討していきたいと思っております
- ・留学生の就職のハードル
- ・外国人雇用を考えている企業が少ないので、開拓が必要です。
- ・外国人留学生を受け入れる企業情報
- ・求職数が圧倒的に足りない
- ・合同説明会の案内はあるが、その中でどれだけの企業が留学生を採用したいのかが不明。その点を明確にしたい。
- ・情報が少ない

- ・まだ留学生を採用する企業が少ない為、もっと採用してくれる企業の増加を望む
- ・留学生向けというのは県内では厳しい

2. 講座や教材の提供

- ・日本独特の就活マナーや入社後のイメージがわかるような教材が外国人向けにわかりやすく提供されると良い

3. 教員確保への協力

- ・主に、IT・情報系の授業をする非常勤講師の不足
- ・教員不足に対しての情報提供
- ・現役の方に教えていただくのが理想だが、業務上難しいケースが多い。

4. インターンシップや研修

- ・1日インターンシップではない中長期的なインターンシッププログラム
- ・インターンシップに対して、積極的に受け入れる企業情報
- ・専門分野の企業数が少ない
- ・提携企業の確保
- ・インターンシップの時期や内容
- ・留学生を受け入れてくれるインターンシップ企業の情報が欲しい
- ・悪質なインターンの見極め
- ・留学生のための合同説明会や就職セミナーの開催
- ・留学生が増えれば受け入れ先を確保できない可能性がある。

5. 企業、産業界側からの人材育成に関する要望

- ・具体的に育成して欲しい内容（求める能力）が乏しい。
- ・どのレベルの学生が欲しいのか？

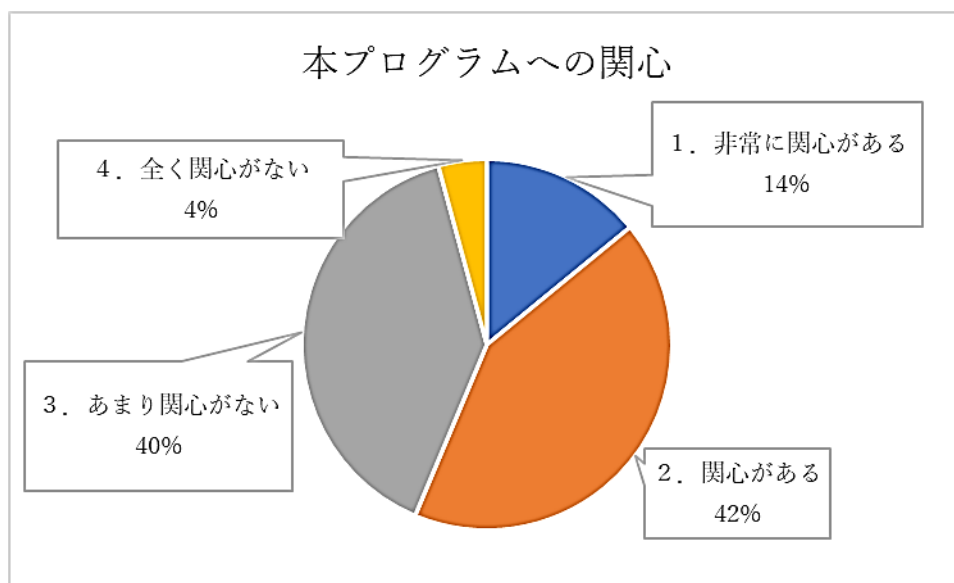
6. その他

- ・地域性からなのか留学生に対するネガティブな心象を変化させること
- ・就労ビザについての理解・基本的な事項を理解していない企業が多い。またそれら企業に対するフォローが国として県として、市として何ら行われていない。
- ・具体的な取り組みはまだ行っていない。
- ・まだまだ地域によっては留学生を取る企業が少ない
- ・まだそこまで行っていないので
- ・留学生の在留資格に関する認識の向上

III. 本事業について

(19)文部科学省の委託事業の一環で専門学校や企業及び業界団体等との連携のもと、日本語能力、専門スキル、日本に関する教養を身に着け、日本に定着し IT・デジタルコンテンツ・情報系産業に従事する外国人材の養成を目的とする教育プログラム事業を推進しています。本プログラムにご関心はございますか。次の選択肢の中から該当するものを1つ選び、○をつけてください。

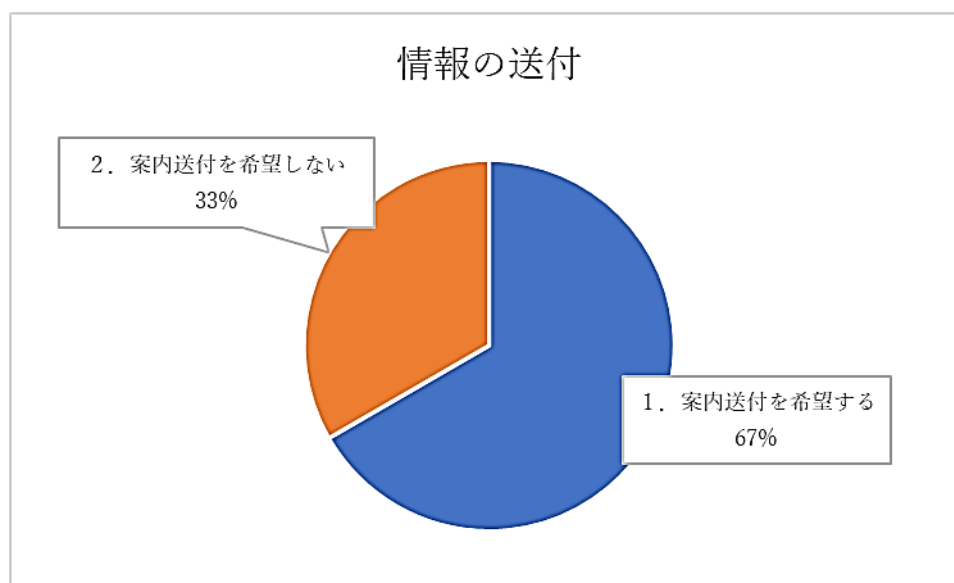
- | | |
|-------------|------------|
| 1. 非常に関心がある | 2. 関心がある |
| 3. あまり関心がない | 4. 全く関心がない |



(20) 今後、IT・デジタルコンテンツ・情報系分野の専門学校様に向けて、上記の教育プログラムの進捗や事業活動成果の報告、人材育成などの情報提供活動を行っていきたいと考えております。御校にもこのような活動のご案内をお送りしてもよろしいでしょうか。次の選択肢の中から該当するものを**1**つ選び、○をつけてください。

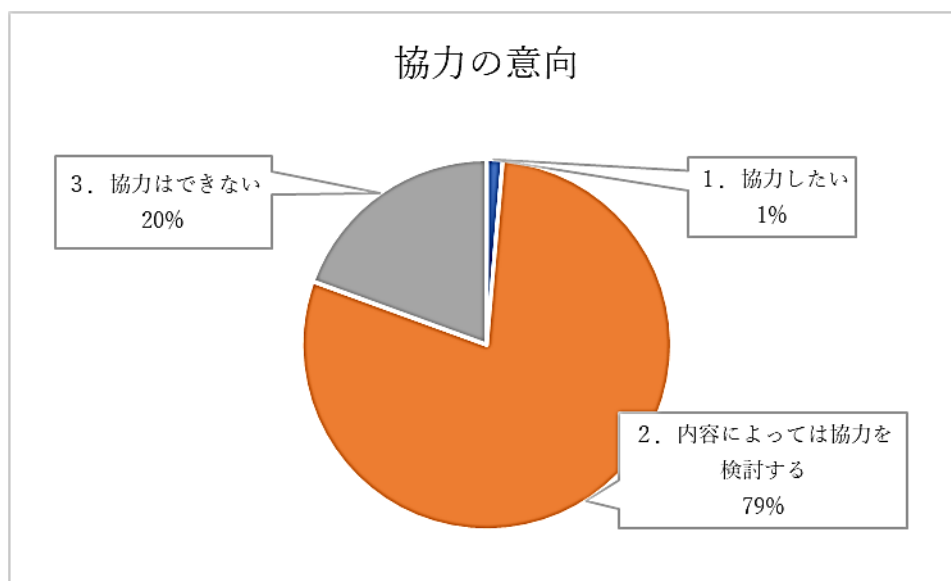
1. 案内送付を希望する

2. 案内送付を希望しない



(21)上記の教育プログラム開発に際して、さらなる調査や教材開発、実証、成果普及などを企画・実施します。その際には、IT・デジタルコンテンツ・情報系分野の専門学校の皆様へ実施協力を依頼する予定です。御校の協力のご意向について、次の選択肢の中から該当するものを1つ選び、○をつけてください。

- | | |
|------------|-------------------|
| 1. 協力したい | 2. 内容によっては協力を検討する |
| 3. 協力はできない | |



2.3.3. 結果のまとめ

今回実施した専修学校アンケートの調査結果について、調査項目を構成する大項目ごとに特に注目すべき点のまとめを行う。

I. 留学生教育について

IT・デジタルコンテンツ・情報系の専修学校を対象とした調査の結果、回答いただいた学校のうち 62%が留学生を受け入れていた。留学生の出身国・地域を受け入れ数上位から挙げてもらった結果、ベトナムが最も多く挙がっている。また、中国もほぼ同数挙がっており、ネパール、韓国、スリランカ、台湾が続く。この結果は、本事業の留学生アンケートの結果とほとんど一致している。入学に必要な日本語能力の基準としては、今回回答いただいた学校の中で留学生受け入れを行っている全校が日本語能力試験 (JLPT) を挙げた。その中で、基準となるのは N2 レベルという回答が多かった。専修学校への進学元としては、日本国内の日本語学校と大学・専修学校の留学生別科等が主流であることも分かった。

日本人学生と外国人留学生との比較を行った場合、「学習へのモチベーション」「基礎学力」「専門知識・技術の習得」の面では半数以上が同等であると回答している。一方で、留学生は「自身のキャリアに対する意識」は高いが、「就職に苦勞する学生」は多いという結果となった。

留学生に対する日本語教育としては、「一般日本語教育」や「日本語の試験対策教育」が多く挙げられている。「IT・デジタルコンテンツ・情報系分野に特化した専門日本語教育」は少数の学校のみで行われているが、多くの学校では行っていないことが分かる。さらに、専門や日本語以外の教育内容では、職業やキャリアに関する教育が一定程度行われていることが分かった。就職支援の取り組みとしては、「企業説明会の開催」が最も多く挙げられたほか、「就職活動セミナーの開催」「インターンシップの仲介」なども比較的多かった。留学生の就職率の面では 100%の学校もあれば、0%と課題を抱えている学校もあった。学校側の把握している範囲では、日本で就職したいという学生が大半であるが、企業の規模や知名度という面では選択に明確な傾向はないようである。卒業までに取得を目指す資格としては様々なものが挙げられたが、基本情報技術者試験や IT パスポート等の IT に直接関係する資格や MOS や日本語ワープロ検定のようなパソコン関係の資格、そして日本語能力試験の N1 や N2 が多く挙がっている。

II. 現状の課題等について

外国人 IT 人材養成への対応の必要性については、「強く必要性を感じている」または「一定の必要性を感じている」と答えた割合が 8 割近くなっている。留学生教育における課題としては、「学生の学力・質」と「就職支援」が比較的多く挙がっている。企業、産業界との連携における課題としては、「インターンシップや研修」が比較的多く挙がっているが、

「特にない」と答える学校が最多であった。

Ⅲ. 本事業について

本プログラムへの関心という点では、半数以上の学校が「非常に関心がある」または「関心がある」と回答している。さらに、3分の2の学校が成果や今後の情報について「案内送付を希望する」と回答していることから、本事業及び開発するプログラムは一定の需要があり、興味をひくものであることが分かった。協力の意向に関しては、8割が「協力したい」または「内容によっては協力を検討する」と回答している。

2.4. IT 企業・IT 人材ヒアリング調査

2.4.1. IT 企業・IT 人材調査概要

(1) 調査目的

企業側から見た外国人 IT 人材や外国人 IT 人材から見た日本の企業に関する情報を調査することによって、本事業の教育プログラムを検討する際の基礎資料を収集することを目的とした。

(2) 調査対象

本調査では、以下の 3 系統を調査対象とし、計 24 件のヒアリングを実施した。

- | | |
|--------------------------|------|
| ①日本の IT・デジタルコンテンツ系企業及び団体 | 5 件 |
| ②海外の IT 企業 | 5 件 |
| ③外国人材 | 14 件 |

(3) 調査手法

①では、外国人材を活用している日本の IT・デジタルコンテンツ系企業及び団体を対象とした調査した。そこでは、先述した IT 企業アンケートにご協力いただいた企業や本事業の趣旨にご賛同いただいた企業の担当者にヒアリングを実施した。また、②では、日本から発注を受けている海外の IT 企業を調査対象とした。そこでは、ベトナムで活動する日系企業の協力を得てネットワークを活用し、調査対象を選出し実施した。③においては、日本の IT 企業で働いている外国人材を対象にした調査を行った。その際、日本国内の IT 企業で働く複数の外国人材に協力を得て、彼らのネットワークを通じて調査対象を選出し、ヒアリング対象者を選出した。

次頁以降、本ヒアリング調査結果を掲載する。なお、今回ご協力いただいた企業及び人材の容易な特定を避けるために、企業名・個人名及び詳細な企業・人材プロフィールは記載しないこととする。

2.4.2. 日本の IT・デジタルコンテンツ系企業及び団体 ヒアリング調査結果

(1) 沖縄県内の企業①

I. 外国人材の雇用状況

- ・現在 3 名の外国人材を雇用している。
- ・出身国・地域はベトナム、台湾、ケニア。
- ・インドネシア出身の人材の雇用経験もあるが退職済み。
- ・また、4 月に入社予定のベトナム人の方が 1 名いる。

II. 雇用の経緯

- ・海外進出を始めるにあたり、よりグローバルな人材を確保するため。
- ・特に英語が話せる人材を欲しい。
- ・これからも外国人材を雇用していきたい。

III. 外国人材の特徴

- ・台湾、ケニアの 2 名は日本語堪能。ベトナムの人材は英語で会話している。
- ・がんばっている方が多いという印象。やる気に満ち溢れていてハングリーさが強い。また、日本で働きたい、スキル活かしたいという意識が日本人より強いと感じる。
- ・日本人は英語ができない方が多いが、外国籍の方は第二言語の英語がよくできる

IV. 外国人材雇用によって得られた効果

- ・社内外でグローバルな意識・環境の企業であると認識してもらえるようになった。

V. これまでに経験した問題やトラブル、課題となっていること

- ・言葉の壁の問題がある。すでに退職したインドネシア出身の方は、日本語はある程度上手だった。しかし、所属した部署では電話対応の業務があり、顧客から電話を受けて問題解決をしなければならなかった。日常会話は問題なくとも、電話対応は難しかったようだ。
- ・求人に苦労している。募集を出して、これまでに中国や韓国の方から応募もあったが採用には至っていない。
- ・日本語が話せないベトナムの方に対して、業務以外の面でサポートをできていないかもしれないという不安がある。例えば、病院の受診や家族の予防接種の予約といったところでもっとサポートができたかもしれない。
- ・新卒のベトナム人の方を採用したが、入社直前に懐妊が分かったため、入社を 1 年遅らせることとなった。

VI. 本事業、IT 専攻の留学生教育への意見、感想

- ・やはり、最も重視しているのは、IT のスキルである。それに加え、日本語能力が高ければ理想である。基準としては日本能力試験 N2 レベルとしている。日常会話は問題ない状態であってほしい。
- ・日本の企業や社会制度についても、教育していただけるとよいかもしれない。例えば、社会保険料がどのくらい引かれるかなど。思った以上に引かれていて驚いていたのを見たことがある。また、国によって違っている一般常識等も教えておいていただけると、就職後も暮らしていきやすいと思われる。

(2) 沖縄県内の企業②

I. 外国人材の雇用状況

- ・約 10 年前に台湾出身の人材を雇用したが、現在は退職済み。
- ・今後社内の受け入れ態勢・制度を整えて、雇用を検討したい。

II. 雇用の経緯

- ・台湾から発注があり、台湾と沖縄を行き来しながら働くことができる人材を募集していた。そこで沖縄の学校を卒業する台湾の学生が応募してきて、自社の望む人材とマッチしたため採用した。

III. 外国人材の特徴

- ・日本語は全然問題がなかった

IV. 外国人材雇用によって得られた効果

- ・台湾からの発注に対応することができた。

V. これまでに経験した問題やトラブル、課題となっていること

- ・ビジネスマナーを教える前に現場についたこともあってか、報連相ができなかった。台湾で家族などに何かあると、連絡なくすぐに帰ってしまうことがあり、このような場合その後も何日か連絡が取れないこともあった。
- ・退職の理由は、本人の望む業務と会社のニーズとの不一致だった。会社としては、沖縄と台湾の行き来や、台湾に常駐して仕事をしてほしかったが、本人は沖縄で働きたかった。
- ・今後受け入れ態勢が整えば、外国人材を雇用していきたい。その際は、沖縄で採用した人材に、技術や日本企業的文化を身に付けてもらい、母国にある自社の支社で長期的に仕事ができる人材を活用していきたい。

VI. 本事業、IT 専攻の留学生教育への意見、感想

- ・留学生はアピールできる資格を持っていると有利になると思う。自社としては、情報セキュリティスペシャリスト等のセキュリティ系の資格を持っている方を求めている。
- ・日本語と自身の母語の他に英語もできれば、さらに強みになる。英語がかなりできれば、必ずしも日本語ができなくても採用されることもあると思われる。
- ・日本人にとっての「当たり前」が、必ずしもほかの国でもそうであるとは限らない。報連相のようなビジネスマナー等もある程度知っておいてもらえるとより良い。
- ・沖縄に定着する人材の養成という面では、沖縄の方言を少し勉強しておくのがいいと思う。

(3) 東京都の団体

I. 外国人材の雇用状況

- ・現在ベトナム人を 2 名雇用している
- ・その他に 4 名のベトナム人の雇用経験がある

II. 雇用の経緯

- ・ベトナムを対象とした SNS 運用を行うことになり、ベトナム語で SNS の投稿やコンテンツを作成できる人材が必要になったため

III. 外国人材の特徴

- ・これまでに採用した方々は、日本語能力試験 N2 以上だったため、口頭のコミュニケーションには問題はなかった。
- ・思ったことや自身の意見はストレートに言うタイプの方が多かったので、不満をためていないか心配になることはなかった。
- ・英語に自信がある方もいたため、英語を使う仕事を日本人のスタッフと協力して行いたがる等、ハングリーさがあった。
- ・業務中はとてもまじめに仕事をしている。

IV. 外国人材雇用によってえられた効果

- ・ベトナム語での SNS 運用が行えるようになっただけでなく、別事業で開発している e ラーニングコンテンツのベトナム語翻訳も担当してくれているため、留学生向けのコンテンツを作成することができるようになった。

V. これまでに経験した問題やトラブル、課題となっていること

- ・転職や退職の決断が速いと感じた。よりやりたい仕事があったからと 1 か月で退職して

しまったことがあった。

- ・日本の労働文化に馴染もうとする意識が強かったのか、自ら進んで残業したり仕事を持ち帰ろうとしたりすることがあった。繁忙期でもなく急ぎの作業でもないため、そのようなことをする必要はないということ伝えたが、気づくと残業しているため上司が常に気にしなくてはいけなかった。
- ・私物やゴミを共有スペースに放置していることが頻繁にあった。単純に忘れていただけかと思い、あまり細かいことで注意する必要はないかと直接言わなかったが、同様のことが続いたため注意したところ、言われるまで問題ないと思っていたことが分かった。
- ・客からの問い合わせがあり確認すべき上司が不在だった時に、自分で判断して話を進めてしまった。その結果、仕事に結びつかずに終わってしまい、そのことに上司が偶然気づくまで一切報告がなかった。
- ・財団ではフレックスな出勤時間の精度を採用しているが、出勤時間に常に数分遅刻していることに気が付いた。その埋め合わせとして数分は残業すればよいと持っていたみたいだが、出勤時間ちょうどに呼び出しがあった際いなかったことから発覚した。
- ・遅刻や欠勤の連絡が直前である。もちろん急な場合には仕方がないが、前日中に予想できていたことや少なくとももっと早く連絡できたであろうことが多かった。

VI. 本事業、IT 専攻の留学生教育への意見、感想

- ・日本の企業で就職する場合には、多くの場合日本語を使うことになる。したがって、在学中にコミュニケーションに支障のない日本語能力の習得が求められる。ビジネス日本語は企業によって異なっていたり、業務内容によってはそこまで要求されない場合もある。しかし、可能ならば、自身の専門である IT やコンテンツの専門用語や表現はしっかり身につけておくのが有効だと思う。
- ・企業が集中していることもあり、首都圏で働きたいという方が多くなるのは仕方がない。地方に定着する人材を養成するためには、ただ住んでいるだけではわからないその地域の良さや文化等を教えて、愛着を持たせることが必要になる。そういった意味で地域文化学習は必須である。
- ・外国人留学生にとって不安なことは、しっかり就職できるかということであろう。そのため、学校と業界・企業がしっかり連携することが大切である。業界・企業は学校側に対して求める人材像を提示する必要がある、学校側もニーズに応じた人材養成ができれば理想的だ。また、実践的な仕事が学べるようインターンシップや開発のプロジェクトを行うイベント等もあればいいと思う。

(4) 大阪府の企業（沖縄にサテライトオフィス、ベトナムに支社）

I. 外国人材の雇用状況

- ・ベトナム支社にてベトナム人の人材を雇用している。
- ・現在3名雇用しており、入れ替わりはあるが常時3～5名在籍。
- ・これまでに通算15名程度雇用している。

II. 雇用の経緯

- ・ベトナム支社を設立するにあたり、現地スタッフとして雇用している。マネジメントは現地在住の日本人が行っている。

III. 外国人材の特徴

- ・残業は基本的に嫌がり、昼寝の時間が必要な場合がある
- ・日本よりも共同体意識が強く、社員の祝い事やパーティーが大切になる。
- ・旧正月（テト）にはボーナスを払う必要がある。対象句を考えている人間はボーナス貰ってからやめる。
- ・採用時の給料や昇給について金額交渉するのは当たり前。
- ・面接に無断欠席するものが多い。
- ・退職した企業の数を経験として見る文化があり、転職・退職に全く抵抗がない。

IV. 外国人材雇用によってえられた効果

- ・ベトナム語と日本語の翻訳作業を自社で行うことができ、SNS マーケティングやコンサルで活用できている。

V. これまでに経験した問題やトラブル、課題となっていること

- ・基本的な衛生感覚が違ふと感じる。スタッフは問題ないと感じているが、日本人の来客があると、汚いと感じられてしまうことがある。
- ・日本人には通じる曖昧な指示でも、ベトナム人スタッフには明確で詳細に説明しないと通じないことが多い。しかし、これは日本語能力が上げれば理解度も上がっていくので次第に解消される問題である。
- ・作業の内容よりも作業した事実を重視していることがある。例えば、仕事で相手方の企業にある内容についてメールで連絡するようスタッフに伝えた。しかし、スタッフのメールには連絡する内容の肝心な部分が抜け落ちていた。そのことをスタッフに伝えても、「自分はメールをした」という事実の方を主張していた。
- ・仕事の締め切りは、日本人相手に設定する期限よりもかなり前に設定しなければいけない。ベトナムでは、「頑張ってやったけれども間に合わなかった場合には仕方がない」というような考え方をする方が多いように感じる。
- ・報連相は仕事の常識という文化ではないので、あえてマニュアル化して意識させなければ定着しない。

- ・お金の貸し借りの話が職場で出ることがある。自身もスタッフに借金の相談を受けたことがあり、断った経験がある。実際にスタッフ同士で貸し借りがあったこともあった。
- ・自社で起こったことではないが、人と人同士の物理的な距離感の問題について聞いたことがある。ベトナム人は日本人よりも相手との物理的な距離感がかなり近い。それにより、日本人は不愉快に感じたり、日本人が恋愛感情的に勘違いをしてしまったりするような場合があったようだ。

VI. 本事業、IT 専攻の留学生教育への意見、感想

- ・衛生面や距離感等、日本人に対して嫌な思いをさせないような日本の社会常識を身に付けさせることも重要だと思う。このような内容に関しては、技能実習生向けの教材などで適したものがあるという話も聞いた。

(5) 東京都の企業（中国に関連会社）

I. 外国人材の雇用状況

- ・中国人の人材を現地で雇用している。

II. 雇用の経緯

- ・日本国内の IT 人材が不足している中、より人件費が安い国へオフショアでアウトソーシングすることで人員を確保しコストを安くしたいという意向があった。

III. 外国人材の特徴

- ・基本的にはまじめで、日本に興味のある人が多い。
- ・英語を話せる人材はあまりいない。

IV. 外国人材雇用によってえられた効果

- ・人材不足とコストの問題を一定程度クリアできている。

V. これまでに経験した問題やトラブル、課題となっていること

- ・日本側の問題でもあるが、あいまいな表現が多い設計書だった場合、思ってもいないようなほど違うものが提出される場合もあった。
- ・オフショアを開始した当初は、お互いの文化を紹介し合うレクリエーション等を開催して日中双方の仕事の文化差を埋めようと努めた。おかげでメンバーの多くを知ることができて仕事がしやすくなった。しかし、このようなレクリエーションを今は行っていないため、現在のメンバーの顔や仕事の仕方等が分からない状態になってしまっている。
- ・中国の人件費が上がっており、沿岸部や都市部ではもう割安なコストであるとは言えなくなっている。したがって、このまま現状を続けていくのは難しいと思われる。中国の

内陸に拠点を移すという話もあるが、質の高いエンジニアやブリッジ人材を確保できるかどうかという点では不透明である。そこで、英語が通じやすく人件費がより安い国、例えばフィリピンやインドにオフショア先の移転を検討しているという話もある。

- ・開始当初からいた現地のメンバーの中で優秀な方が会社をやめることになった。ヘッドハンティングされたのか、待遇に不満があったのか、何らかの事情があるのか、全く教えてくれなかった。そのため、優秀な人材の流失阻止のために今後どのように対策すべきか分からない。

VI. 本事業、IT 専攻の留学生教育への意見、感想

- ・企業としては優秀な人材に長く働いてもらえればうれしいが、人材の入れ替わりが激しい業界でもある。定着してもらいやすいように、企業側が働きやすい環境をいかに整えるかも重要な要素になる。

2.4.3. 海外の IT 企業 ヒアリング調査結果

(1) ベトナムの IT 企業①

I. 日本企業との業務年数

・ 7 年

II. これまで日本企業と業務をしてきて経験したトラブルや問題の具体的エピソード

- ・お客様の会社の技術を学ぶために日本でトレーニング研修をしたところ、帰国後早々に退社してしまった。受け入れてくれたお客様からも激怒され失注することになってしまった。
- ・日本側の仕様書の曖昧であったり、日本とベトナムでの違いがあったりと不十分な場合がある。それにより、ベトナム側での開発物に日本側が期待していた機能が実装されておらずトラブルになったことがあった。
- ・通訳の文章翻訳レベルにばらつきがあり、ベトナム語から日本語に翻訳する時に中途半端な翻訳ソフトを一部利用することがあった。しかし、不正確な日本語が出力されてしまった結果、日本人には理解不能な文章になり、結局日本人が再修正する羽目になった。

III. トラブルや問題への対応

- ・日本語での指示は短文で分かりやすく書いてもらう。
- ・翻訳の質が危ない雰囲気の場合は、当社側の日本人がチェックを入れる。
- ・仕様書に載っていること以外には行わないということを事前に発注先に徹底している。

IV. 日本企業との業務で満足している点・不満な点

- ・日本の企業は、お金払いに関して非常にきちんとしている。その点に関しては満足している。ベトナム企業はその点が非常に悪い。
- ・日本の企業は決断までのスピードが非常に遅い。

V. その他、日本の IT 企業・産業に対する意見・感想など

- ・リードタイムがギリギリになってからの発注が多く、担当人材の調整などに非常に苦労することが多い。受託側のことをもう少し考えたビジネスの進め方をして欲しい。

(2) ベトナムの IT 企業②

I. 日本企業との業務年数

・ 7 年

II. これまで日本企業と業務をしてきて経験したトラブルや問題の具体的エピソード

- ・デザインの受託時にレベルが低いというクレームが発生する。ベトナム人デザイナーは指示書通りのデザイン以外を行わず、また黄金率などのグローバルレベルのデザインの基本を知らない人も多い。そのため、これではお話にならないとクレームを受けることもある。
- ・日本の親会社がメイン取引先であり、日本側が他の外注先との比較を行った。その際、こちらのケアレスミス率の高いとして全量チェックが行われることになり、クレームが多数発生した。しかし、実際には日本側の他の外注先でもケアレスミス率は変わらないことが判明した。
- ・日本の親会社本社で抱えている中国や台湾などの漢字圏出身の人材と比べ、日本語が伝わりにくいという実情がある。そのことで、親会社側から話がきちんと伝わらないということでクレームが発生した。

III. トラブルや問題への対応

- ・社内での改善ミーティングを行い、本社へ改善レポートを提出し、作業レベルの向上に取り組んでいることをアピールした。それを通して、本社のスタッフから信頼を得られるように取り組んだ。

IV. 日本企業との業務で満足している点・不満な点

- ・日本側のディレクターが書く指示書自体が、そもそも精度が低いので、その点が不満である。

V. その他、日本の IT 企業・産業に対する意見・感想など

- ・特になし。

(3) ベトナムの IT 企業③

I. 日本企業との業務年数

- ・11 年

II. これまで日本企業と業務をしてきて経験したトラブルや問題の具体的エピソード

- ・日本のビジネス事情や IT 産業をベトナム人 PM が理解しきれていない。そのため、要件定義などが上手く行かず、見積りが実際の業務と乖離し、実際に請け負うと次々と想定していなかった開発業務が発生する。その結果、費用も人材も予想以上にかかってしまう案件が頻繁ある。

- ・お客様の窓口が日本人技術者ではない場合に、こちら側の担当者が日本留学経験者であっても、先方が何を求めているかが理解できず、コミュニケーションが取りきれないことがある。
- ・ストレス耐性が日本人と比べると弱い。そのためか、日本企業特有の曖昧な指示による発注やお客様自身がタスク管理不足などで複数の難題に直面した時に、自身では処理し切れずストレスを抱え込んでしまう。このようなことがきっかけで、場合によっては退社にまでつながってしまったりする。

Ⅲ. トラブルや問題への対応

- ・日本人の PMO がサポートすることでこれまでは対応してきたが、まだ根本的な解決には至っていない。人材育成面での課題となっている。

Ⅳ. 日本企業との業務で満足している点・不満な点

- ・一度決まったことは確実に実施してくれるという点は満足である。
- ・不満な点は、意思決定遅いことである。実際に相手側の社長が来訪しても、意思決定まで数ヶ月かかる。

Ⅴ. その他、日本の IT 企業・産業に対する意見・感想など

- ・デフレが進んでいることで IT 人材の給与水準も低くなっている。そのような状況で、技術力ではなく、価格のみを見て発注先を判断してしまう日本企業は多いと感じている。

(4) ベトナムの IT 企業④

Ⅰ. 日本企業との業務年数

- ・7 年

Ⅱ. これまで日本企業と業務をしてきて経験したトラブルや問題の具体的エピソード

- ・通訳を通して面接をしているため、候補者のコミュニケーション力や地頭の良さが面接のみでは見抜ききれない。そのため、入社後に日本側の求める内容への理解力の差が社員間で大きく出てしまうこともある。
- ・グループ企業内からの注文がほとんどであり、発注元のなるグループ企業の担当者は、わざわざベトナムに発注したいと思っているわけではない。そのため、事業開始当初は本心ではこちらに発注したいとは思っていない日本側と、いかに上手くコミュニケーションをとるかで苦労した。

Ⅲ. トラブルや問題への対応

- ・入社テストにハッカーランクを用いることで、エンジニアとしての経験以上に地頭の良い人材を見抜いて採用することができるようになった。その結果、日本側とのコミュニケーショントラブルは格段に減った。

IV. 日本企業との業務で満足している点・不満な点

- ・グループ企業間取引ではあるが、日本の企業内のように様々な拘束条件を出してこない。グループ企業としても収支以外特に拘束がないため比較的自由に活動できることについては満足している。

V. その他、日本の IT 企業・産業に対する意見・感想など

- ・外国人エンジニアを使う時に英語を使えれば、コミュニケーションを含めた業務効率が格段に上がる。日本の IT 企業はもっと英語を使うべきである。

(5) ベトナムの IT 企業⑤

I. 日本企業との業務年数

- ・10 年

II. これまで日本企業と業務をしてきて経験したトラブルや問題の具体的エピソード

- ・日越双方で発生する被害者意識がトラブル発生時に不満として出る。日本側は、トップが勝手に決定してきた不慣れなオフショア開発をやらされているという意識や感覚が強い。一方ベトナム側としても、日本側の不十分な設計によって起きる問題の責任を負わされるという意識がある。
- ・日本側が業務改善に向けて問題の発生原因の洗い出しや対策立案を行う際に、責任を被せようという発想で課題原因を追及する体質がある。例えば日本側の設計ミスの件数は統計や数値に表しにくい、バグ件数は明確に示すことができるため、ベトナム側に責任を振られやすい。
- ・日本人が書いているはずなのに日本語になっていない設計書や仕様書の記述や、曖昧な表現が頻繁に見られる。それにより、仕様を理解することが困難な事案が多い。例えば、「～しない時は～しない」といった表現は、「～の時は～する」と記載すべきであるし、「あれ」「これ」を「こう」といった不明瞭な指示語を多用した記述も目に余る。

III. トラブルや問題への対応

- ・TV 会議などを使い、良質なコミュニケーションを取るよう心掛けている。それにより、日本とベトナム双方が歩み寄れるような打合せを行いたい。また、誰がやっても差が出ないような各種ルール（品質管理、セキュリティ管理、開発手順、禁止事項）を制定するこ

とによって品質維持と向上を図っている。

IV. 日本企業との業務で満足している点・不満な点

- ・ベトナムがなくては業務が回らないという感覚で依頼いただけているケースでは、特に満足して仕事ができる。
- ・不満は現状特にないが、しいて言えば日本企業は効率アップに向けた取り組みが不足していると感じる。また、日本国内の外注先への対応と比べると手取り足取りのサポートが少ないと思う。

V. その他、日本の IT 企業・産業に対する意見・感想など

- ・日本の企業は、目先の案件を消化するためや、ベトナムが今流行っているからやってみるかというような目先のことに視点が行きがちであると感じる。しかし、管理者クラスにおいては 3 年後 5 年後にどういう開発体制を作るべきかという中長期的な視点で、オフショア活用を検討して頂きたい。この 10 数年でベトナムオフショア開発の品質レベル・技術レベルは間違いなく向上してきている一方で、価格はまだそれほど大きく変化していない。今すぐ検討することで早い段階でのコスト面での効率化が図れるだけでなく、人材不足への対応も図れるはずである。

2.4.4. 外国人材 ヒアリング調査結果

(1) A 氏（ベトナム出身 20 代 女性）

◎企業業種

- ・ソフトウェア開発・AI 開発

◎職務内容

- ・マーケティング AI の研究・開発

◎日本企業で経験したトラブルや問題やそれに対する意見

I. 就職活動

- ・日本人と一緒にグループディスカッションが難しかった。うまくグループの輪に入ることができず、役割が与えられなかった。
- ・大学のキャリアセンターで面接の練習をした。さらに、日本語の発音に自身がなかったので、音大の講師に時給を払って発音を聞いてもらうことで練習した。
- ・転職の場合は自分のスキルや仕事の経歴をアピールできる。でも、日本の新卒の就活は自分の性格をアピールしなければならない。

II. 待遇

- ・自分の業績や勤務態度とは関係なく、所属部署の業績が赤字だからボーナスが低かった。事務の同期は決まった仕事をして、自分はイノベティブな仕事をしている。それなのに、ボーナスが低いことには不満がある。
- ・毎年 2 回自己評価、目標設定シートを記入するのは面倒くさい。さらに、それに対して上司からのフィードバックがないのは不満。

III. 職場環境

- ・中間管理職・部長の異動が多いので、直属の上司とのコミュニケーションがないことは不満。
- ・職場はフレキシブルで、音楽を聴きながら仕事をしていてもいい。
- ・同期と仲がいい。4 か月間の研修があり、プライベートでも仲良くなれた。

IV. 企業文化

- ・仕事の進むスピードが遅い。リスクを受け入れなくて、慎重すぎる。新規の顧客に対しては、入念に調査を行ってからビジネスを開始する方針を取っている。自分の所属部署は海外企業も顧客とするので、特に進みにくい。

- ・日本企業の人材育成方法が目指しているのはジェネラリスト。だから、専門家が育っていない。中間管理職もそう。それが理由で、検討に時間がかかったり、理解が及ばなかったりしている。

V. 日本語能力

- ・会議の時に、アピールしたいポイントを日本語でスムーズに言えない。それが、「やりたいことができない」につながっている。

VI. その他

- ・ベトナムでは2、3年で転職するのは普通。スキルアップを重視している。日本は長く働くこと重視だから、仕事内容や企業文化に合うかを考えなくてはならない。

◎本事業への意見など

- ・特になし

(2) B氏（ミャンマー出身 30代 男性）

◎企業業種

- ・EC サイト運営

◎職務内容

- ・システム開発（プロジェクトリーダー）

◎日本企業で経験したトラブルや問題やそれに対する意見

I. 就職活動

- ・グループディスカッションが難しかった。どれくらい発言できるか見られるのはハードルが高く、緊張する。
- ・SPIの結果やITの資格がIT技術よりも重視されている。これらも日本語で行われているため難しい。
- ・面接では技術は分からないはず。しかし、自分の作ったポートフォリオを見てももらえることも少なかった。
- ・内定はもらっていたが、卒業までにインターンで働いていた企業が自分のスキルを評価してくれたため、その企業に就職した。

II. 待遇

- ・部門賞や社長賞等の表彰を受けた。プロジェクトリーダーとして登用もされており、自

分のスキルがしっかり評価されていると感じる。

- ・給料はそこそこもらっている。ただし、新卒として入社した社員は給料が上がりにくいので、あと1年くらいで転職・スキルアップしたい。

III. 職場環境

- ・部長とは仲が良く、パワハラもない。外国人のマネジメントになれている。
- ・チームや同じ部署の人とは仲良くなった。しかし、他の部署には、挨拶してくれない人や返事をしてくれない人もいる。
- ・ミャンマーの会社は、社員が家族みたいである。そこが日本とは違う。

IV. 企業文化

- ・残業はなく出社時間もフレキシブル。
- ・職場に、仕事ができない・使えない人が多い。一度採用されたらクビにならず、普通に残ってられる。仕事のできない上司が多い。頑張っているひとへの評価が低いと思う。ミャンマーでは、仕事ができない人はランクが下がっていき辞めていく。
- ・会議が多い。不要なものもたまにある。全体会議とかが挙げられる。

V. 日本語能力

- ・社内のコミュニケーションは問題ない。お客様とのビジネス会話はまだまだだと感じる。

VI. その他

- ・リモートワークがもう少し広く導入されるといい。今は病気で出社できない人だけが認められている。

◎本事業への意見など

- ・留学生は、日本語学校などに行って日本人よりも長い期間勉強しているから、同期よりも年を取っている。日本人よりも頑張って、スキルがあることを人事に見せないと採用されるのは難しい。そういったことを学べるようなプログラムだといい。

(3) C氏（モンゴル出身 30代 男性）

◎企業業種

- ・EC サイト運営

◎職務内容

- ・WEB ディレクション

◎日本企業で経験したトラブルや問題やそれに対する意見

I. 就職活動

- ・就職活動の開始が遅かったため、大手の募集時期は過ぎていてベンチャーを受けた。
- ・日本人は暗黙の了解が多くて、はっきりと言わない。面接で自分に問題があったとしても、教えてもらえない。自分が知らないマナーがあるのではないかと不安だった。
- ・海外展開する予定の企業に入社したが、既に在籍している外国人はみな中途採用された人材であった。会社は新卒の外国人を雇用するためのノウハウがなかったので、在留資格などについて自分で調べて対応することになった。

II. 待遇

- ・特に不満はなかった。

III. 職場環境

- ・上司とは、はっきり意見を言い合える仲だったので問題はなかった。しかし、事情を知らない周りは、いつもけんかしていると思っていたようだった。

IV. 企業文化

- ・残業がある程度あった。36 協定の範囲内だったので、残業代が出なかったのは不満だった。
- ・残業するのが普通になり、18 時を過ぎてからやる気を出す人もいた。効率的ではないと思った。
- ・承認のため、社内で文書を回すのは時間がとられてもったいないと思う。
- ・仕事に関する決断はモンゴルより遅い。
- ・会議は多かったが、それが悪いとは思わなかった。

V. 日本語能力

- ・小学生の時に日本で3年間暮らしていたため、日本語にほとんど問題はない。名刺を出して初めて外国人だと気づかれるため、話のネタになった。
- ・日本語が上手だといわれることが多かったが、無意識の「(外国人なのに)」という言外の意味を感じてしまう。どこか一步引いているように感じる。

VI. その他

- ・モンゴルに帰国後は、日本企業の子会社で AI 開発のプロジェクトマネージャーとして約3年働いた。日本企業の良い点は、お金にきっちりしていることであり、モンゴル企業のようにごたつくことはない。安心して仕事ができるし、クオリティも高くなる。不

満なのは、現場を下に見ている点である。労働力として買われているという印象を受けてしまう。こちら側の意見が通りにくい一方で、要件をころころ変える企業が多い。また、ブリッジエンジニアやプロジェクトマネージャーの問題でもあるが、「お前らの仕事だろ」と上から来るような中間管理職が相手だと、精神的にキツイ。このような、上下関係はイライラするが、従ってくれというスタンスの企業が多いと感じる。

◎本事業への意見など

- ・留学生や外国人材には、日本人同士ではわかるニュアンスが伝わりづらい。分からないときには再度確認するといった基本的なことを教えるのも重要だと思う。

(4) D 氏（ベトナム出身 20 代 女性）

◎企業業種

- ・ 1 社目：情報通信
- ・ 2 社目：オフショア開発、IT 人材派遣

◎職務内容

- ・ 1 社目：店舗での接客
- ・ 2 社目：営業及び契約企業での常駐ブリッジ人材

◎日本企業で経験したトラブルや問題やそれに対する意見

I. 就職活動

- ・ 3 社受けて、期間として 1 か月程度で決まったが、苦しかった。
- ・ 入社した会社はテスト 2 回、面接 3 回と採用試験が 5 回もあった。もっとシンプルにしてほしい。

II. 待遇

- ・ 不満はない。

III. 職場環境

- ・ 不安なことも多かったが、分からないことは日本人社員が優しく指導してくれた。
- ・ ハラスメントもなく快適に働けた。

IV. 企業文化

- ・ 日本の企業は本当に決断が遅いと感じる。例えば、「検討させていただきます」と言われた後、2 週間待たされるというのもよくある。

- ・日報やレポートといった書類仕事が多すぎると感じる。その意味については理解しているが、それによって残業することになったりもする。

V. 日本語能力

- ・日本語はある程度できたが、IT に関する言葉は全然知らなかったので、勉強して知識をためてきた。
- ・常駐する企業が変わると使っているビジネス用語が違って、時々意味が分からなくなる。それでも、分からないと言えば教えてもらえる。

VI. その他

- ・英語が得意だが、今の仕事では英語を全く使わない。英語を使う仕事をしたいので、今後日本を離れてシンガポールやフィリピンで働いてみたい。最終的には経験を積んでベトナムと日本の架け橋となるような仕事をしたい。例えば、IT 人材が少ない日本への人材派遣を考えている。

◎本事業への意見など

- ・留学生は（ベトナム人）は分かっていないときでも、「分かった」と言ってしまう人がいる。分からないときにはちゃんと言うような習慣を付けさせる方がよい。
- ・面接はとても緊張したので、練習ができるような仕組みがあるとよい。面接を経験した方と留学生が交流するセミナーがあればいいと思う。

(5) E 氏（台湾出身 20 代 女性）

◎企業業種

- ・EC サイト運営

◎職務内容

- ・営業（1 年目）
- ・マーケティング（2 年目以降）

◎日本企業で経験したトラブルや問題やそれに対する意見

I. 就職活動

- ・大学の留学生に対する就職活動サポートが充実していて、説明会などに関する準備は大丈夫だった。
- ・面接は苦労した。グループディスカッションや 1 対 1 の面接は難しかった。当時 N2 だったが、それでも難しいと思う。

- ・就職活動では、大学で勉強したことやスキルについて問われていないと感じる。でも、そういうものだと知っていたので特に違和感はなかった。

II. 待遇

- ・不満を感じている。自分が生み出した価値がうまく評価に反映されていないと感じる。給料は足りないと思うし、やる気が下がる。業績よりも経験・役職・年齢が優先されていると思う。台湾は欧米と同じように成果重視だし、過程よりも結果で評価してほしい。

III. 職場環境

- ・様々な国籍の人がいて、ダイバーシティを重視している。しかし、上は男ばかりで、昇進について男女での差を少し感じる。能力のある女性の先輩たちが重要な役職についていない。
- ・営業の部署にいた時は、飲み会でセクハラがあった。会社の対応は遅くて不満だった。
- ・人材の入れ替わりが激しい。2～3年で変わっている。

IV. 企業文化

- ・1年目の営業の時は残業が多く、辞めたくなった。部署が変わってよかった。
- ・承認に時間がかかる。承認を受けるレイヤーが多い。このようなところまでプロセス重視だと感じる。仕事のペースが落ちてしまう。
- ・会議が長い。必要のない会議も多いと思う。自分は発言しない、参加する必要のない会議が多いと思う。
- ・総合職は、入社後まで配属先が分からない。積極的に自分の希望を言うことが大切だと思う。

V. 日本語能力

- ・Yes/No がはっきりしないことが多く、あとで確認しなくてはいけない。はっきりしない話し方のせいで結論が出なくて、会議多くなる。

VI. その他

- ・チームワークを重視して、確認をこまめに行い、タスクを共有する。これはいいことだと思う。

◎本事業への意見など

- ・希望職種につくためには、専門や興味・関心があることを示しておいた方がいいと知っておいてほしい。

(6) F 氏（中国出身 30 代 男性）

◎企業業種

- ・ 1 社目：コンサルティング（知的財産）
- ・ 2 社目：コンサルティング（IT）
- ・ 3 社目：EC サイト運営

◎職務内容

- ・ 1 社目：コンサルタント
- ・ 2 社目：コンサルタント
- ・ 3 社目：マーケティング用プラットフォーム開発

◎日本企業で経験したトラブルや問題やそれに対する意見

I. 就職活動

- ・ 日本の就活のイメージがつかなくて少し大変だった。
- ・ 説明会での言葉遣いが普段の生活の言葉と違っていて大変だった。
- ・ グループディスカッションでは、評価項目がわからなくて探り探り状態であったが、留学生同士や日本人の同期と情報交換して対策することでポイントが分かってきた。
- ・ 日本の就活ではスキルや専攻は二の次でポテンシャルを重視している。転職ではスキルや経験が重視されている。中国は専門性を重視している。中国式も日本式もどちらもメリットとデメリットがある。行きたい分野のスキルを持っている人には中国式はいいと思う。

II. 待遇

- ・ 評価はフェアに行われていると思う。成果に対する評価はされている。
- ・ 昇進については、周りを見てみると外国人だからか遅れていると思う。

III. 職場環境

- ・ 現在の会社では上司と 1 対 1 のミーティングが定期的にあるので、コミュニケーションは取れている。
- ・ 1 社目の時のコンサルでは先輩・後輩の関係性が強く、敬語を使えないと怒られた。パワハラも経験した。「中国人だから〜〜〜」という品のない言葉で怒られた。

IV. 企業文化

- ・ 1 社目のコンサルは残業が多く、先輩より早く帰ろうとすると注意された。
- ・ 決断に時間がかかると感じている。現在の会社でも考えてすぐ実行ではなく「もう少し

考えてみよう」というのが多い。それ自体は悪いことではないが、スピードが遅くなる
と思う。承認作業が多いがそれは仕方がない。

- ・周りを見ると、めちゃくちゃ仕事をしている人とそうじゃない人がいると思う。

V. 日本語能力

- ・敬語以外では特に困ったことはない。

VI. その他

- ・特になし。

◎本事業への意見など

- ・日本語の支援は必要だと思う。面接の言葉はあまり難しくないが、業界研究や企業の事業内容を知るためには専門用語は知っているだけでも役に立つと思う。
- ・キャリア相談できる場が必要。
- ・外国人雇用に積極的な企業を知れる場があるといいと思う。
- ・“外国人留学生だから”という特徴を活かせる場があればいいと思う。

(7) G 氏（台湾／オーストラリア出身 20代 女性）

◎企業業種

- ・1社目：EC サイト運営
- ・2社目：アプリケーションサービス提供

◎職務内容

- ・1社目：マーケティング
- ・2社目：データ分析

◎日本企業で経験したトラブルや問題やそれに対する意見

I. 就職活動

- ・オーストラリアで実施していた日本企業の説明会に参加した。1年目は自分のやりたいことがよくわからないまま挑み、面接でも何と求められているのかわからず失敗した。オンラインで日本企業が求める人材の情報収集を行い、2年目に内定をもらった。
- ・面接は日本語と英語で行い、専攻は不問、サークルやグループでの経験が重視された。転職では、経験が重視されて即戦力として採用された。

II. 待遇

- ・台湾は転職時に昇給するので、会社にいる間は給料は変わらないらしい。日本では少しずつ上がっていく。給料に関しては満足と言えば満足だが、もう少し良くていいかなとは思う。不満というほどではない。

III. 職場環境

- ・日本人の国民性なのか自分の思っていることを言わない。マネージャーには Yes ばかり。違う意見は会議の場では言いにくいので、言わない。
- ・上司と 1 対 1 の面談があるので、言いたいことがあればそこで言う。

IV. 企業文化

- ・会議が長く、決断の遅さを感じる。何も決まらないこともある。
- ・報告のみの会議もある。メールでいいと思う。
- ・1 社目はブラックと言われたくないのかクビにせずにキープしている人が多かった。一方で、新卒で入る人が入社後希望部署に入れず短期でやめるのも見た。今の会社はスタートアップで、中途の人が多。両方の会社に給料泥棒はいるが、前の会社の方が多かった。

V. 日本語能力

- ・話すときは問題ないが、メールの時の敬語が難しい。前の会社では先輩のチェックを受けられた。今は勉強したが、まだ書く時は大変だと感じる。

VI. その他

- ・微妙なニュアンスが分からず勘違いしてしまった。あるプロジェクトで他の人が担当になったと思っていたら、締め切り直前で自分が担当だったことが分かった。他の人たちの協力で何とかなった。
- ・新人の仕事として議事録の作成を指示されたが、取ることができなかった。

◎本事業への意見など

- ・実際の職場文化が分かるような教育内容があるのがいい。実際に働かないとわからないことがある。だから、インターンシップは取り入れるべき。

(8) H 氏 (スリランカ出身 20 代 男性)

◎企業業種

- ・情報通信

◎職務内容

- ・ 安否確認用システム企画

◎日本企業で経験したトラブルや問題やそれに対する意見

I. 就職活動

- ・ 大分の大学に通っていたが、東京・福岡等と比べると地方には情報の格差があると感じた。また、最終面接は交通費を出してもらえるが、合同説明会・一次面接・二次面接等は自費になるため移動が多いのは大変だった。
- ・ 地方には外国人を雇用した経験がある企業が少ないので、ビザが下りるかの不安もあり、大都市の企業にした。

II. 待遇

- ・ 福利厚生も良く、給料ももらえていると思う。年功序列の制度は根強いので、業績への評価は給料には反映されていないと思う。

III. 職場環境

- ・ 上司とは何でも話せる。外国人の部下を抱える上司用のマネジメント研修があるようだ。
- ・ 女性や外国人の登用も進んでおり、管理職についている。
- ・ 自分のいる本社ではコンプライアンスが厳しく、ハラスメントはない。支店にいる外国人の同期からは、日本語の発音に関して怒られるという話は聞いた。また、名前が呼びにくいという理不尽な理由で、先輩に怒られたりしたこともあったようだ。

IV. 企業文化

- ・ 初期配属はスキルに全然関係がないことがある。
- ・ サービス残業はよく聞く。実際に残業は多い。
- ・ 在宅勤務やフレックスを会社として推奨しているが、実際に行おうとすると年配の上司に嫌がられたり、承認されない。
- ・ 本社は電話会議等効率化を進めているが、支店は昭和的で会議・打ち合わせを1時間以上でも続けている。効率が悪いが変えようとしない。

V. 日本語能力

- ・ 自分ではなく同僚の経験だが、日本語のメールを書く際に文面が失礼だと怒られたことがあった。自分が見ても大して失礼ではないように感じたが、外国人だからという部分があったのかもしれない。

VI. その他

- ・微妙なニュアンスが分からず勘違いしてしまった。あるプロジェクトで他の人が担当になったと思っていたら、締め切り直前で自分が担当だったことが分かった。他の人たちの協力で何とかなった。
- ・新人の仕事として議事録の作成を指示されたが、取ることができなかった。
- ・賃貸の部屋を借りたいときに外国人だからという理由で断られる。ただ、勤務先を伝えらると変わる場合がある。

◎本事業への意見など

- ・留学生は日本における最低限のマナーは知っておくべきだと思う。日本の常識を伝えた方がよい。

(9) I 氏（中国出身 30 代 女性）

◎企業業種

- ・病院用システム開発

◎職務内容

- ・システム設計・企画・開発

◎日本企業で経験したトラブルや問題やそれに対する意見

I. 就職活動

- ・日本人と同じプロセスで就職活動を行っていた。説明会に参加し、WEB テストやエントリーシートも通って、面接にたどり着いた時点で「外国人を採用する気がない」と言われたことが2回あった。
- ・グループディスカッションでは N2 レベルでも、言いたいことが言えなくて大変だった。
- ・中国での就職活動は、手書きの書類もなくオンラインで申し込み、面接へと進んでいった。能力や知識を問われ、直属の上司になる人物面接されるからイメージが付きやすく良かった。

II. 待遇

- ・不満がある。有休が少なく、給料も多いとは言えない。今の会社自体マネージャークラスの給料が高いとは言えない。
- ・業績は評価されていると思う。
- ・無能な上司が役職を解かれたのを見て、会社上好印象を持った。

III. 職場環境

- ・ 社内の雰囲気はとてもいい。上司とも話せるし、敬語じゃなくてもいい。生活の面でも困ったことがあれば相談できる。
- ・ 地震があったとき会社から安否確認の連絡が来て感動した。

IV. 企業文化

- ・ 会社の決断は早め。簡単な事項だったら1回の会議で決めて、すぐに開始する。スピードにおいてはストレスを感じない。
- ・ 仕事ができない、やる気がない人たちが、簡単な作業をする人員として会社に残っている。年配だが役職もなく、7時間程度の勤務。中国だったら首になっていると思う。

V. 日本語能力

- ・ 電話で話すときは緊張する。敬語での応対が難しい。

VI. その他

- ・ 中国ではインターンでしっかり仕事を学んでから入社することが多く、研修もほとんどない。日本は入社後しっかり研修をするから、就活の面接の時にスキルや知識を問わないのだと思う。個人的には中国式の方がいい。仕事の環境が分かった状態で始められる。日本だと配属部署も分からない状態で入社することもある。
- ・ 自分ではなく友人の話だが、リーダーがひどいようで、ちゃんと評価もされないし、昇進もできないらしい。オフィスで皆の前で怒られることもあるようで、そういうのは嫌だ。
- ・ 日本は安全ではあるけれど、酔っ払いが多い。また、夜ランニングをしているとついて来る人がいたり、露出してくる人に遭ったこともあり、100%安全とも言えないかもしれない。

◎本事業への意見など

- ・ 日本語は大切なので、基本の日本語習得して言いたいことを言えるようにすべき。ビジネス日本語は会社によっても違う場合もあるから、就職してからでもいいと思う。

(10) J氏（モンゴル出身 30代 男性）

◎企業業種

- ・ 求人情報サイト運営

◎職務内容

- ・ 広告テクノロジー部門のバックエンドエンジニア

◎日本企業で経験したトラブルや問題やそれに対する意見

I. 就職活動

- ・ インターンシップを複数回経験し、それらの企業を受けた。受けた企業は WEB テストがなく、面接時に IT の課題に取り組むという方式だった。
- ・ インターンの申し込みの際には WEB テストを受けなければいけなかった。日本語だったので面倒だった。

II. 待遇

- ・ 本社はアメリカの外資系企業なので、給与や評価のシステムはアメリカと同じ。ボーナスや昇進に関しても完全成果制。日本の年功序列が嫌で日本企業は受けなかった。

III. 職場環境

- ・ 毎週 1 時間上司とミーティングすることができるのでコミュニケーションは常にとれる。他にも用があれば、いつでもメッセージを送っていい。
- ・ 仕事ができない人がクビなのは見たことがない。ただ昇進していけないだけ。
- ・ ハラスメントは、個人的には見たことがない。

IV. 企業文化

- ・ 残業は全くない。会議も比較的多くない。
- ・ 何か問題があればチームで話し合い改善していける。
- ・ 意思決定も早い。

V. 日本語能力

- ・ 職場は英語なので、困ったことはない。

VI. その他

- ・ 家を探すときに、外国人は入れない物件が多い。日本人と同じ仕事をしているのにおかしいと思う。

◎本事業への意見など

- ・ 就職のサポートが大切だと思う。WEB テストは留学生には難しいと思う。例えば、企業と共同で Hackathon のイベントを行って、日本人とチームになって開発をする経験をするといいと思う。

(11) K氏（ベトナム出身 20代 女性）

◎企業業種

- ・ソフトウェア開発

◎職務内容

- ・ベトナム人技術者と常駐先の日本企業とのブリッジ人材

◎日本企業で経験したトラブルや問題やそれに対する意見

I. 就職活動

- ・日本での経験はない。ベトナムではサイトに履歴書をアップロードして、見た企業から連絡があれば、面接日を相談するという流れだった。

II. 待遇

- ・ベトナム企業の日本支店だが、日本人も働いており日本の水準に合わせてある。不満はない。

III. 職場環境

- ・日本人もベトナム人もやさしい。困ったときは助けてくれる。
- ・仕事に対しては、日本人の方が厳しい。
- ・パワハラやセクハラはない。

IV. 企業文化

- ・労働時間は日本式に調整されているためベトナムより長い。
- ・常駐先は残業が普通。結婚したばかりだから遅くまで働くのは嫌だが、結婚して小さい子供がいる人も残業が多い状態。

V. 日本語能力

- ・ビジネス日本語が難しい。書類の作成では、提出前に日本人に一度見てもらっている。

VI. その他

- ・クライアントによって書類形式が違い、慣れていなかったためミスしたこともある。
- ・別の企業に常駐している友人の話だが、毎日進捗状況報告のレポートを作らなければいけない。それが理由で、残業になっている。また、勤務時間は8時から17時半なのに、他の人たちは帰宅しない。19時過ぎてもみんな残っている。早く帰ると白い目で見られるようだ。

◎本事業への意見など

- ・一番大切なのは日本語だと思う。上手になれば仕事もうまくいく。友達が、IT の技術はあるが日本語が上手じゃないため、仕事でうまく自分の技術を生かせていない。
- ・学生のうちからビジネス日本語や専門の日本語を勉強した方がいい。

(12) L 氏（カナダ／マカオ出身 30 代 男性）

◎企業業種

- ・ソフトウェア開発

◎職務内容

- ・地図アプリ開発（2 年目まで）
- ・英国の企業との窓口、開発の技術面の調整（3 年目以降）

◎日本企業で経験したトラブルや問題やそれに対する意見

I. 就職活動

- ・学校にも求人があったが、外国人を採用している企業は多くなかった。3～4 割の企業しか採用していなかったなので、選ぶのが大変だった。おそらく、学校の求人以外を探せばもっとあったかもしれない。
- ・WEB テストはあまり受けなかったが、何度か SPI は受けた。日本語で質問が書かれているし、内容も専門的なことではなく、常識のようなものをたくさんこたえなければいけなかったから難しかった。
- ・会社によって異なるが、面接は 2 回から 4 回くらいあった。マカオでは 1 回メールで連絡して面接日程を調整して、面接後に連絡をもらう。当日即採用もあった。日本と比べればプロセスは少ない。

II. 待遇

- ・給料に不満はないし、スキルは評価されていると思う。ただ、明確な評価制度があればいいと思う。評価基準が明らかになっていない。

III. 職場環境

- ・上司とはコミュニケーションをとる機会がちゃんとある。
- ・ハラスメントは直接見たことはない。

IV. 企業文化

- ・必要のないミーティングが多い。定例ミーティングは、特に議論や課題、アジェンダがあるわけでもなく、ただ週に1回集まるだけのもの。
- ・決断がなかなかできないときもあるが、そういう場合には遅くなってしまうからトップダウンで決定する。そうするとみんなが納得できないような決定になることもある。
- ・仕事のできない人でもクビにはならない。それがいいことか悪いことかは分からない。

V. 日本語能力

- ・長文のメールを自分で書こうとすると時間がかかる。もう少し頑張りたい。

VI. その他

- ・家を借りようとする、物件の選択肢が狭くなる。
- ・友人の経験で、自分も同意するところだが、日本のIT企業は最新の技術の活用に取り組んでいない。新しいことがあっても社内で取り入れていかない。

◎本事業への意見など

- ・会社に入るにあたっては資格が重要かもしれない。
- ・日本語力は重要になる。ビジネス日本語は企業に入ってからでも大丈夫だと思う。

(13) M氏（スリランカ出身 30代 男性）

◎企業業種

- ・EC サイト運営

◎職務内容

- ・WEB デザイン、WEB ディレクション

◎日本企業で経験したトラブルや問題やそれに対する意見

I. 就職活動

- ・普段の大学の講義が英語であったため、エントリーシートを日本語で書くのが難しかった。
- ・外国人を採用したい企業が大学に来てセミナーや面接を行った。就活プロセスが大学内での活動で済んだため、それほど難しくはなかった。
- ・日本企業の採用後の配属が不透明なので、自分にできる仕事は何なのか悩んだ
- ・SPI は、限られた時間青のような問題を解くことで何を見ることができなのか分からなかった。面接では、自分がどんな仕事をしたいか、何をやりたいかを語った。具体的に専攻に関する専門的なことは話していない。

II. 待遇

- ・パフォーマンスの評価が明確になっていないのが少し不満かもしれない。
- ・昇給はゆっくりで、上の人がいなくなれば上がりやすい。
- ・昇進は平等だ。

III. 職場環境

- ・上司と1対1で話す機会がちゃんとある。会社が勧めている。
- ・パワハラ、セクハラは見たことがない。

IV. 企業文化

- ・残業はほとんどない。月20時間もなく、多くても1日1時間から2時間。
- ・会議は30分で区切ることになっている。長いということはない。ただし、人数が多すぎて何も決まらないこともある。関係があると持った人を全員呼んだ結果だが、そのような場合には人数を区切ってもう一度行う。
- ・大企業なので、承認プロセスが長い。上の人たち3~4人に承認してもらわなければならない。縦割りの影響もある。フィードバックが速くなればいいと思う。

V. 日本語能力

- ・メールやチャットで全部を分かっているときがある。読むのに時間がかかるため、複数人でのやり取りだとおいていかれることがある。どうしてもわからなかったら、直接聞きに行くようにしている。
- ・ニュアンスが分からず、文面だけでは相手が怒っているのかそうではないのかが分からない場合がある。逆に、自分が敬語をあまり意識しないで話していると相手から怒っていると勘違いされたこともあった。

VI. その他

- ・物事をストレートに言いすぎて、怖いといわれることがあった。もっとちゃんとコミュニケーションをとっていかうと思っている。
- ・クレジットカードやローンが原因不明で審査に落ちることがあった理由が分からないから、改善方法がなくて困る。
- ・日本はプロセスやルールを変えたがらない。小さなことでもほとんど変えようとしない。
- ・地方に行くとメニューが日本語だけで分からないことがあった。

◎本事業への意見など

- ・学生のうちにプロジェクトやマネジメントを実際に体験してみるのがいいと思う。仕事

で行うようなプロジェクト実際にやったり、人をマネジメントする訓練は経験して損はない。

(14) N 氏（韓国出身 20 代 男性）

◎企業業種

- ・ 1 社目：EC サイト運営
- ・ 2 社目：EC サイト運営

◎職務内容

- ・ 1 社目：事業開発
- ・ 2 社目：事業開発

◎日本企業で経験したトラブルや問題やそれに対する意見

I. 就職活動

- ・ 割と短く感じた。10 月には入社だったので、2 か月程度だった。プロセスとしては、1 回書類審査があり、1 回 WEB テスト、次に 1 回ホテルで説明会・面接、2 回オンラインでの面接、最終面接は東京に来て顔合わせのような感じだった。
- ・ 韓国の就活方式と似ているが、韓国の方がテスト重視だと思う。テストで大半の候補者を落とす。また、韓国のテストは試験場で行い、試験監督もいる。日本のほうが WEB で自宅で受けることも可能だし、内容も簡単だったと思う

II. 待遇

- ・ 1 社目の給料に関しては当初満足していた。しかし、他の IT 企業に就職していた友人と給料の話になると、外資の方が高いことを知り不満を持つようになった。そのため、外資系の今の職場に転職した。現在の給料には満足している。
- ・ 前の職場では、自身が残した結果以上に評価されていた気がする。会社として未来への投資をしているという感じだった。一方、今の会社では結果をそのままその通り評価している。

III. 職場環境

- ・ 前の職場でも今の職場でも上司と 1 対 1 で話すことができる機会が定期的にある。
- ・ ハラスメントに関して、自分自身は経験したことはない。しかし、前の職場では営業の部署ではよくあると聞いた。体育会系でハラスメント祭りらしい。

IV. 企業文化

- ・日本企業はスピードが遅くリスクを恐れるというが、その通りだと思う。物事をきちんとやらなければいけないという意識が強い。ちゃんと自分ができる範囲のことでないと、やるとは言わない。前の職場も今の職場もそのような面では同じ。韓国企業では、自分の能力を上回るような仕事も取りに行く。失敗することもあるが、それが推奨されている。
- ・前の職場では年功序列はなかったと思う。結果を出せないと昇進、昇級はないため、10年経っても昇進しない人もいれば、ガツガツやる人はすぐに昇進していった。今の職場も似たようなかんじだ。

V. 日本語能力

- ・日本語は 1 つの単語ごとに色々な意味やニュアンスを含む場合がある。複雑な話をする場合や条件づけて話す場合にボキャブラリーが足りなくて適切な単語が思いつかず、おおざっぱな単語を使ってしまうことがある。それにより大きなトラブルになることはないが、明確に表現できないことで、例えば 2、3 回のメールの往復で済むような要件が確認のため 4、5 回になってしまうようなことはある。

VI. その他

- ・特になし。

◎本事業への意見など

- ・IT 業界は転職をどんどんした方がいいと個人的には思う。実力があれば年収を上げやすいし、転職は裏切り行為ではないと思ってほしい。業界から自分への評価を見て待遇を挙げていくのはいいことだと思う。こういう IT 業界のキャリアに関することを留学生に教えてあげてほしい。

2.4.5. 結果のまとめ

今回実施したヒアリング調査結果について、対象ごとに特に注目すべき点のまとめを行う。

①日本の IT・デジタルコンテンツ系企業及び団体

ここでは、外国人材の雇用している日本国内の企業・団体と海外に外国人を雇用している支社・関連会社がある企業を対象として、計 5 社から回答を得た。

国内の企業・団体は基本的に日本語能力が高い外国人材を雇用していることが分かった。また、日本語能力だけでなく英語も第二言語として話すことができれば、強みになるということも分かった。外国人材の特徴や起こったトラブルという面では、報連相ができていないことによるものが多く挙げられた。また本事業への意見として、IT のスキルも重要視されることが述べられており、資格を取得したり、実践的な開発プロジェクトを経験したりすることも重要であることが分かる。また、沖縄に定着させるためにも、地域文化や方言を学ぶことが重要という意見もあった。これらの内容は、本事業で開発する教育プログラムのカリキュラム内容に活用することとする。

海外の支社、関連会社を持つ企業からは、現地の外国人材とのコミュニケーションの難しさや要求した仕事と挙がってきた成果のズレに関する内容が回答されている。このようなコミュニケーション上の問題を解決するためのブリッジ人材の不足が深刻な中、日本で IT を学ぶ外国人留学生は就職した企業においてそのような役割を担当する可能性もある。このような内容も、本事業で開発する教育プログラムの教育内容に盛り込むことができる。

②海外の IT 企業

ここでは、日本から開発の発注を受けている企業を対象としたヒアリング調査を行った。今回の調査では、日本からのオフショア発注のアウトソーシング先として人気のベトナムの IT 企業 5 社から回答をいただいた。

ヒアリング対象となったベトナムの企業は、どれもここ数年で日本の企業との業務を始めたばかりではなく、7 年以上は継続している。これらの企業から上がった意見の中で最も多かったのは、日本側からくる仕様書が不明確であったり、分かりにくかったりするということである。これが理由となりトラブルが頻発していることから、これはベトナム側の人材の日本語能力不足の問題だけでなく、日本側の企業の問題であるということが分かる。日本企業に対して満足しているという点では、金銭的にもめないことや約束を守ることが挙げられている。一方で、不満なこととしては決断の遅さが挙げられている。このような内容に関しても、ブリッジ人材の業務に関わる内容であるため、外国人留学生が知っておくべき事例として、本事業で開発する教育プログラムの内容に活用できるものと考えられる。

③外国人材

さらに、日本の IT 企業で働く外国人材に対しても、ヒアリング調査を行った。そこで、日本企業で働くにあたって経験したことや課題、それらへの意見について情報を収集した。そして、「Ⅰ. 就職活動」「Ⅱ. 待遇」「Ⅲ. 職場環境」「Ⅳ. 企業文化」「Ⅴ. 日本語能力」「Ⅵ. その他」の項目に分ける形で結果を提示した。

「Ⅰ. 就職活動」の項目では、苦勞したこととして日本語での WEB テストやグループディスカッションが多くの回答者によって挙げられている。また、採用に至るまでのプロセスが長いことや、専門やスキルではなく性格やポテンシャルを評価して採用することに対する疑問も良く挙げられた。「Ⅱ. 待遇」の項目では、満足している人と不満がある人に分かれている。「Ⅲ. 職場環境」では、多くの回答者が上司とのコミュニケーションを定期的にとることができていると述べている。また、ハラスメントが全くないという回答も多かった。「Ⅳ. 企業文化」では、日本企業の決断の遅さや会議の多さが大半の回答者によって指摘されている。「Ⅴ. 日本語能力」の面では、敬語に苦勞しているとの声が多い。今回ヒアリング対象となった外国人材は比較的日本語能力が高い層であり、就職活動時に N2、現在は N1 を取得しているか、幼いころに日本に居住した経験がありかなりネイティブに近いレベルで話すことができる人が多かったが、依然として敬語や長文のメールなどには苦勞しているようだ。さらに、「Ⅵ. その他」で様々な意見が述べられているが、特に家を借りるのに不自由するという点は複数人から挙げた。これらの内容はすべて、本事業で開発するプログラムの教育内容の参考としたい。

本事業への意見としてどのようなことを留学生教育に盛り込むべきかという質問も行っているが、やはり日本語能力の重要さが多くの回答者から挙げられている。また、実践的な仕事の体験やキャリアについて支援・教育することの重要さも指摘された。これらに関しても、教育内容に盛り込んでいきたい。

3. 開発

- 3.1. スキル標準骨子
- 3.2. カリキュラム骨子
- 3.3. シラバス
- 3.4. 「IT 日本語基礎」教材開発情報収集
- 3.5. 「IT 実務日本語」教材開発情報収集
- 3.6. 「キャリア学習」教材開発情報収集
- 3.7. 「沖縄の地域文化と産業」教材開発情報収集

3.1. スキル標準骨子

3.1.1. 概要

本教育プログラムにおけるスキル標準は、IT 実務・専門の日本語能力や IT ビジネススキル及び沖縄での生活に関わる教養を身に着けた人材に必要な知識・スキルを体系化したものとして開発する。今年度は、スキル標準の構成を検討し、大項目にあたる領域からより個別的な知識・スキルを検討しスキル標準の骨子表を作成する。

3.1.2. スキル標準構成

「日本語」「IT ビジネス」「教養」の3領域に整理する。「ビジネス」の領域では、IT や隣接分野を学ぶ留学生にとって必須となる基礎的な IT 関連の日本語に関する知識・スキルと、IT 分野の企業で実務を行う際に必要となる実践的な日本語に関わる知識・スキルに分類できる。「IT ビジネス」の領域では、沖縄・日本の企業文化に適応して業務やトラブル等に対応できるようになるために必要なスキルと、実践的な開発作業を行うために必要なスキルに分類する。「教養」の領域では、沖縄・日本で IT 人材としてキャリアを築いていくために必要な知識と、沖縄に関する一般的な知識に分類した。これらの中項目をもとに必要となる個別的知識とスキルを整理し、スキル標準の骨子表を作成した。スキル標準の骨子表は巻末付録に掲載する。

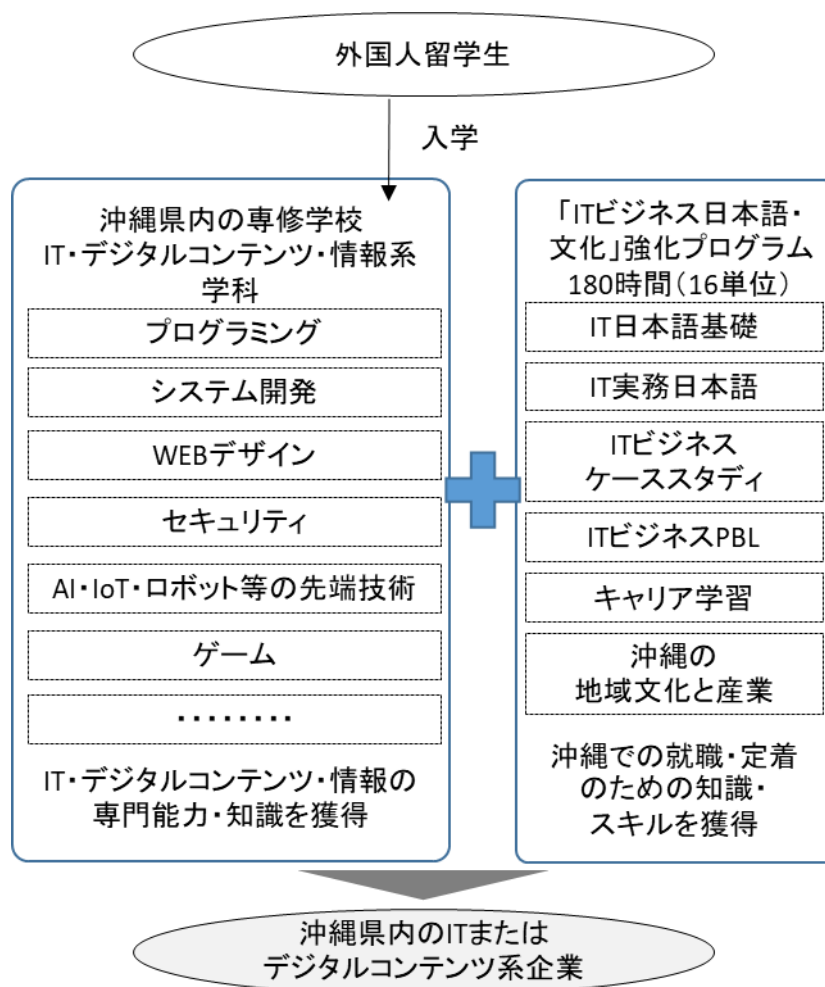
3.2. カリキュラム骨子

3.2.1. 教育プログラムの概要

本事業で開発する教育プログラムは、IT 企業で働くのに必須となる IT やビジネスのスキル・日本語能力・教養を備え、沖縄県内の IT 企業等に就職して定着する外国人高度 IT 人材の育成を目的とする。下表に本プログラムの概要を記載する。

名称	IT 系留学生のための「IT ビジネス日本語・文化」強化プログラム
ポリシー	IT 企業で働くのに必須となる IT やビジネスのスキル・日本語能力・教養を備え、沖縄県内の IT 企業等に就職して定着する高度外国人材を養成し、沖縄県の IT 産業及び地域の発展・振興に寄与する。
時間数	総学習時間 180 時間（16 単位）
入学要件	以下の要件を満たす者を入学対象者とする。 ・ 沖縄県内の専修学校に在籍する外国人留学生 ・ IT・デジタルコンテンツ・情報系学科に在籍 ・ 沖縄または日本で就職を検討している
学習成果	以下の要件を満たす人材の養成を目標とする。 ・ 日本で起業するためのビジネスに関わる能力を有している ・ 先端技術とそれを活用したビジネスに関わる能力を有している ・ 国内外の市場・文化・社会に精通し、国内外でビジネスを展開するために必要な語学力を有している
科目構成	<日本語> IT 日本語基礎、IT 実務日本語 <IT ビジネス> IT ビジネスケーススタディ、IT ビジネス PBL <教養> キャリア学習、沖縄の地域文化と産業

上記の内容を踏まえ、本教育プログラムの概念図を以下に掲載する。



3.2.2. 構成科目と概要

前述の教育プログラムを構成する各科目の概要・時間数の想定を下表に示す。本教育プログラムは、「日本語」「IT ビジネス」「教養」の3つの領域で構成される教育を展開する。

「日本語」領域は、「IT 日本語基礎」と「IT 実務日本語」の授業を提供する。「IT 日本語基礎」では、まだ IT 専門用語になじみがない外国人留学生向けに基礎的な IT 関連の語彙・表現と読解を中心とした内容とする。「IT 実務日本語」では、IT の専門知識を学んだり実務に携わったりする際に必要となる IT 語彙・表現と、実務の場面を想定した日本語のモデル会話を学ぶ。

「IT ビジネス」領域では、「IT ビジネスケーススタディ」と「IT ビジネス PBL」の2科目を用意する。「IT ビジネスケーススタディ」では、IT 企業において外国人材が働く際に起き得るトラブルやコンフリクト等を学び話し合うことで、沖縄や日本の企業文化・労働観等に関する知識を得る。「IT ビジネス PBL」では、実際にチームを組んで日本語を使いながらプロジェクトを実践する形式の学習（PBL=Project Based Learning）を実施する。

さらに、「教養」領域として、「キャリア学習」では沖縄・日本の IT 産業で働くことの意義や自身のキャリアについて考え、「沖縄の地域文化と産業」では沖縄に中長期的に生活する際に知っておくべき知識を学ぶ。次頁に各科目の概要を示す。

領域	科目名	科目概要・開発方針	時間数
日本語	IT 日本語基礎	まだ日本語能力が日本語能力試験 N3 程度で、多くの外来語や難解な漢語を含む IT 専門用語になじみがない 1 年次の留学生向けに、IT 分野で頻出する基礎的な語彙・表現の学習と読解を中心とした内容とする。	45 時間 4 単位
	IT 実務日本語	IT の専門知識を学んだり実務に携わったりする際に必要となる IT 語彙・表現と、企画、要件定義、設計、開発、テスト、導入、運用管理といった実務の場面を想定した日本語のモデル会話を学ぶ。	22.5 時間 2 単位
IT ビジネス	IT ビジネス ケーススタディ	IT 企業において外国人材が働く際に起き得るトラブルやコンフリクト等を実際の事例をもとにしたケースを通じて学び、グループやクラスで話し合うことで、予め沖縄や日本の企業文化・労働観等を知り対応できるようにする。	22.5 時間 2 単位
	IT ビジネス PBL	実際にチームを組んで日本語を使いながら IT の開発プロジェクトに挑戦する形式の学習 (PBL=Project Based Learning) を実施することにより、実践的な技術と実務上の日本語能力の双方を向上させる。	45 時間 4 単位
教養	キャリア学習	沖縄・日本の IT 産業で働くための方法や働くことの意味・意義や中長期的な自身の IT 産業におけるキャリアについて考える。	22.5 時間 2 単位
	沖縄の地域文化と産業	沖縄で就職し、中長期的に居住する場合に知っておくべき地域の文化や産業に関する知識を学ぶ。	22.5 時間 2 単位
総学習時間 180 時間 16 単位			

3.3. シラバス

3.3.1. シラバス概要

カリキュラム骨子に基づき、各科目の学習目標、学習概要、学習内容（各コマの学習項目）、教科書、評価方法等の項目を定めたシラバスの暫定版を開発する。

3.3.2. 今年度の開発

今年度は、教材開発用に情報収集を行った「IT 日本語基礎」「IT 実務日本語」「キャリア学習」「沖縄の地域文化と産業」について、上記の項目に従いシラバス暫定版を開発した。今年度開発した全てのシラバスは巻末付録に掲載する。

3.4. 「IT 日本語基礎」教材開発情報収集

3.4.1. 概要

本事業で開発する教育プログラムでは、「日本語」領域を構成する科目として、「IT 日本語基礎」を提供する。ここでは、まだ日本語能力が日本語能力試験 N3 程度で、多くの外来語や難解な漢語を含む IT 専門用語になじみがない外国人留学生向けに、IT 分野で頻出する基礎的な語彙・表現の学習と読解を中心とした内容を学ぶ。

今年度は、これらの科目の授業に活用できる既存の教材書籍等の情報を収集し、シラバス暫定版の参考とすることとした。収集した資料は次年度に分析を行い、過不足を検討して教材開発の方針を決定する。

3.4.2. 情報収集項目

「IT 日本語基礎」の教育内容検討および次年度以降の教材開発に向けて、以下の 2 系統に関して情報収集を実施した。

(1) 外国人留学生に対する IT・情報リテラシー教育を目的とする教材・書籍・資料等

外国人留学生対象のパソコンや Microsoft Office のソフトウェア入門書、IT リテラシーの教材を 10 例収集した。

(2) 日本人を対象とした情報や IT に関する基礎的な教材・書籍・資料等

日本人の高校生が情報の科目で使用する教科書を 16 例収集した。

以下に情報収集対象とした事例の一覧を掲載する。各事例の情報収集結果は巻末付録に掲載する。

- (1) 外国人留学生に対する IT・情報リテラシー教育を目的とする教材・書籍・資料等
- ①留学生のためのパソコン入門
 - ②留学生のための日本語で学ぶパソコンリテラシー
 - ③留学生のための IT テキスト
 - ④留学生のための IT リテラシー

- ⑤日本語でできる！外国人のためのパソコンのきほん
- ⑥留学生のためのかんたん Word 入門
- ⑦留学生のためのかんたん Excel 入門
- ⑧留学生のためのかんたん Word/Excel/PowerPoint 入門
- ⑨留学生のための PowerPoint 2016 ワークブック ルビ付き
- ⑩留学生のための Python [基礎編] ワークブック ルビ付き

(2) 日本人を対象とした情報や IT に関する基礎的な教材・書籍・資料等

- ①社情 311 最新社会と情報 新訂版
- ②社情 312 高校社会と情報 新訂版
- ③情科 307 最新情報の科学 新訂版
- ④情科 308 情報の科学 新訂版
- ⑤高等学校情報教科書（新課程）社会と情報
- ⑥社会と情報 Next
- ⑦改訂版 高等学校 社会と情報
- ⑧改訂版 高等学校 情報の科学
- ⑨高等学校 社会と情報
- ⑩高等学校 情報の科学
- ⑪新・社会と情報
- ⑫新・情報の科学
- ⑬社会と情報
- ⑭見てわかる社会と情報
- ⑮情報の科学
- ⑯新・見てわかる社会と情報

3.5. 「IT 実務日本語」教材開発情報収集

3.5.1. 概要

本事業で開発する教育プログラムでは、「日本語」領域を構成する科目として、「IT 実務日本語」を提供する。ここでは、IT の専門知識を学んだり実務に携わったりする際に必要となる IT 語彙・表現と、実務の場面を想定した日本語のモデル会話を学ぶ。

今年度は、これらの科目の授業に活用できる既存の教材書籍等の情報を収集し、シラバス暫定版の参考とすることとした。収集した資料は次年度に分析を行い、過不足を検討して教材開発の方針を決定する。

3.5.2. 情報収集対象

「IT 実務日本語」の教育内容検討および次年度以降の教材開発に向けて、以下の 2 系統に関して情報収集を実施した。

(1) 日本の IT 及びデジタルコンテンツ系産業に従事する外国人材に対する IT 日本語教育を目的とした教材・書籍・資料等

外国人材対象の IT 業務のための日本語の教材を 3 例収集した。

(2) 日本人を対象とした IT のビジネス現場で使用する実践的な IT 英語の教材・書籍・資料等

日本人 IT 技術者や IT 企業の社員が、業務に関する英語を学ぶことができるような教材を 13 例収集した。

以下に情報収集対象とした事例の一覧を掲載する。各事例の情報収集結果は巻末付録に掲載する。

- (1) 日本の IT 及びデジタルコンテンツ系産業に従事する外国人材に対する IT 日本語教育を目的とした教材・書籍・資料等
- ①しごとの日本語 IT 業務編
 - ②Japanese for IT Business: Japanese Textbook for IT Professionals

③デジタルコンテンツを学ぶ留学生のためのカタカナ語表現練習帳

(2) 日本人を対象とした、IT のビジネス現場で使用する実践的な IT 英語の教材・書籍・資料等

- ①エンジニアのための英会話超克服テキスト—実戦!テクニカル・ミーティング
- ②プレゼンを 100%成功させる!! IT エンジニアの英語
- ③IT エンジニアのゼロから始める英語勉強法
- ④エンジニアのための英文メールライティング入門
- ⑤BeNative! IT の英語
- ⑥現場で困らない! IT エンジニアのための英語リーディング
- ⑦IT プロジェクトの英語
- ⑧IT エンジニアのための場面別英会話&キーフレーズ
- ⑨SE のための IT 英語入門——SE の現場シリーズ
- ⑩IT エンジニアが覚えておきたい英語動詞 30
- ⑪IT・デジタルワーカーのための英会話
- ⑫パソコンと IT に強くなる英会話—これで私もオフィスの主役
- ⑬パソコン様 IT 英語を教えて!—パソコンにまつわる様々な事象から学ぶ (IT 英語を
教えて!シリーズ)

3.6. 「キャリア学習」教材開発情報収集

3.6.1. 概要

本事業で開発する教育プログラムでは、「教養」領域を構成する科目として、「キャリア学習」を提供する。ここでは、沖縄・日本の IT 産業で働くための方法や働くことの意味・意義や中長期的な自身の IT 産業におけるキャリアについて考える。

今年度は、これらの科目の授業に活用できる既存の教材書籍等の情報を収集し、シラバス暫定版の参考とすることとした。収集した資料は次年度に分析を行い、過不足を検討して教材開発の方針を決定する。

3.6.2. 情報収集対象

「キャリア教育」の教育内容検討および次年度以降の教材開発に向けて、以下の 2 系統に関して情報収集を実施した。

(1) 外国人留学生を対象とする日本での就職・キャリア形成に関する教材・書籍・資料等

外国人留学生が日本で就職活動を行う際に役立つ書籍を 5 例収集した。

(2) 日本人の学生を主な対象とする就職・キャリア形成に関する教材・書籍・資料等

日本人の学生が、進学・就職を控えて自身のキャリアや働くことの意味について考えるための教材を 11 例収集した。

以下に情報収集対象とした事例の一覧を掲載する。各事例の情報収集結果は巻末付録に掲載する。

(1) 外国人留学生を対象とする日本での就職・キャリア形成に関する教材・書籍・資料等

- ①これで安心! 外国人留学生のための日本就職オールガイド
- ②留学生のための就職内定ワークブック
- ③外国人留学生のための就職活動テキスト
- ④シャドーイング 日本語を話そう 就職・進学・アルバイト面接編
- ⑤伸ばす! 就活能力・ビジネス日本語力: 日本で働くための「4 つの能力」養成ワーク

ブック

(2) 日本人の学生を主な対象とする就職・キャリア形成に関する教材・書籍・資料等

- ①高校生のキャリアノート
- ②みらいのジブンの設計図
- ③高校生の進路ノート ベーシック
- ④高校生の進路ノート スタANDARD
- ⑤受かる! 自己分析シート
- ⑥絶対内定 2021 自己分析とキャリアデザインの描き方
- ⑦マイナビ 2021 オフィシャル就活 BOOK 内定獲得のメソッド 自己分析適職へ導く
書き込み式ワークシート
- ⑧「納得の内定」をめざす 就職活動 1 冊目の教科書
- ⑨「会社四季報」業界地図
- ⑩この業界・企業でこの「採用テスト」が使われている!
- ⑪高等学校キャリア教育支援プログラム 職業キャリア教育

3.7. 「沖縄の地域文化と産業」教材開発情報収集

3.7.1. 概要

本事業で開発する教育プログラムでは、「教養」領域を構成する科目として、「沖縄の地域文化と社会」を提供する。ここでは、沖縄で就職し、中長期的に居住する場合に知っておくべき地域の文化や産業に関する知識を学ぶ。

今年度は、これらの科目の授業に活用できる既存の教材書籍等の情報を収集し、シラバス暫定版の参考とすることとした。収集した資料は次年度に分析を行い、過不足を検討して教材開発の方針を決定する。

3.7.2. 情報収集対象

「キャリア教育」の教育内容検討および次年度以降の教材開発に向けて、以下の2系統に関して情報収集を実施した。

(1) 外国人留学生に対する日本文化及び日本の産業に関する教育を目的とする教材・書籍・資料等

外国人留学生や外国人ビジネスパーソンを対象とした日本文化や歴史・産業などの情報を提供する教材を11例収集した。

(2) 日本人を対象とした、日本国内の地域文化及び産業に関する教育を目的とした教材・書籍・資料等

日本人が、日本国内の地域、特に沖縄の文化や歴史・産業などを学ぶことができるような書籍や教科書17例収集した。

以下に情報収集対象とした事例の一覧を掲載する。各事例の情報収集結果は巻末付録に掲載する。

- (1) 外国人留学生に対する日本文化及び日本の産業に関する教育を目的とする教材・書籍・資料等
- ①現代日本の暮らし

- ②留学生のための日本史
- ③日本のしきたり
- ④留学生と中学生・高校生のための日本史入門 信長から安保法制まで
- ⑤クローズアップ日本事情 15 日本語で学ぶ社会と文化
- ⑥話そう考えよう 初級 日本事情
- ⑦留学生のための 時代を読み解く上級日本語
- ⑧マンガで学ぶ日本語表現と日本文化―多辺田家が行く!!
- ⑨ポップカルチャーで学ぶ初中級日本語
- ⑩留学生のための日本事情入門
- ⑪体験しよう日本の文化

(2) 日本人を対象とした、日本国内の地域文化及び産業に関する教育を目的とした教材・書籍・資料等

- ①沖縄県の歴史
- ②沖縄の歴史と文化
- ③沖縄の農業 近世から現代への変遷
- ④教材 DVD 沖縄の人々の暮らし
- ⑤沖縄観光とホスピタリティ産業
- ⑥沖縄まるごと大百科〈1〉沖縄の自然
- ⑦沖縄まるごと大百科〈2〉沖縄の暮らし
- ⑧沖縄まるごと大百科〈3〉沖縄の産業
- ⑨沖縄まるごと大百科〈4〉沖縄のことばと文化
- ⑩沖縄まるごと大百科〈5〉沖縄の歴史
- ⑪沖縄地域産業の未来
- ⑫47都道府県調べて楽しい!!あなたのまちの凄い!地場産業めぐり〈3〉自然と技術の融合 中国・四国・九州・沖縄編
- ⑬未来経済都市沖縄
- ⑭ニッポンを解剖する!沖縄図鑑
- ⑮沖縄島建築 建物と暮らしの記録と記憶(味なたてもの探訪)
- ⑯三訂版 高等学校 琉球・沖縄の歴史と文化
- ⑰新訂版 これだけは知っておきたい琉球・沖縄のこと

4. ま と め

4.1. 2019 年度事業の総括

4.2. 事業終了後の成果活用方針

4.1. 今年度事業の総括

今年度の事業活動は、次年度以降に教育プログラムを具体化して開発していくために必要な情報の調査が主たるものであった。

特に、アンケート調査は3種類行った。外国人留学生アンケート調査では、日本国内の専修学校のIT・デジタルコンテンツ・情報系学科で学ぶ外国人留学生の現状と課題及び将来の意向に関する情報を計159名から収集した。IT企業アンケートでは、本事業の対象地域であり、県の成長産業としてITに積極的に投資を行い、「アジア有数の国際情報通信ハブ」の地位を目指す沖縄県内のIT及びデジタルコンテンツ系企業における外国人IT人材の雇用の現状と課題に関する情報の収集を目的として調査を行い、31社から回答を得た。専修学校アンケートでは、IT・デジタルコンテンツ・情報系学科をもつ日本国内の専修学校を対象として、外国人留学生の受け入れや教育内容、現状と課題に関する情報を収集することとし、74校から回答を得た。

ヒアリング調査では、外国人IT人材を活用する日本のIT・デジタルコンテンツ系企業及び団体、日本から発注を受けている海外の企業、日本のIT企業で働くIT人材を対象とした。それぞれで、どのような課題を抱えていたり、トラブルを経験しているのかを聞いたうえで、本事業へのアドバイスもいただいた。

上記の大規模な調査の結果を参考として、本事業のスキル標準やカリキュラムの骨子を作成・修正した。

また、教育事例・教材事例調査や教材開発情報収集では、本事業で開発する教育プログラムと整合性の高い先行事例を発見することができた。これについては積極的にカリキュラムに取り入れながら、次年度の新規教材の開発方針を検討していきたい。

4.2. 事業終了後の成果活用方針

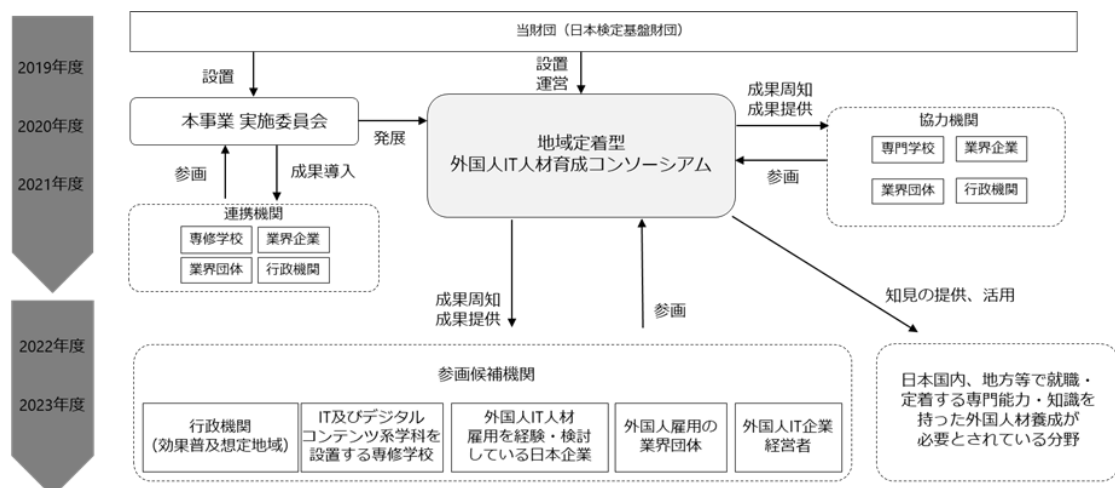
現段階での本事業終了後の成果の活用方針のイメージ図を以下に示す。

本事業期間内から事業終了後の 2021 年度の間では、まず当財団が事業推進主体として設置する実施委員会に参画する機関に対し、成果の導入を行う。これと並行して、教材開発・改良や効果普及想定地域等への成果普及といった事業活動を継続・拡大するために、実施委員会をもとにした発展的な組織である「地域定着型外国人 IT 人材育成コンソーシアム」を設立する。さらに当該コンソーシアムの活動を通して、本事業の事業活動に協力した外部の専修学校・業界企業・業界団体、行政機関等に成果の周知・提供を進めると共に、コンソーシアムへの参画を呼び掛け、組織の拡大を図る。

2022 年度から 2023 年度にかけては、連携機関・協力機関の協力を得て規模を拡大したコンソーシアムを足場に、効果普及想定地域等への成果の普及を図る。地方自治体等の行政機関や IT 産業振興に積極的な地域の IT 及びデジタルコンテンツ系学科を設置する専修学校、外国人 IT 人材雇用を経験・検討している日本企業、外国人雇用の業界団体、外国人 IT 企業経営者等に成果の周知・提供を行うと共に、コンソーシアムへの参画を呼び掛ける。

さらに、本事業の教育プログラムをモデルとして、一般的なビジネス日本語教育ではカバーしきれない他分野における専門能力・知識を持った地域定着型外国人材養成のプログラム開発にも活用することを検討する。

以上の活動を通じて事業終了後も継続的に成果の発展・周知・普及活動を推進する。



5. 巻末付録

- (1) 外国人留学生アンケート調査票
- (2) IT 企業アンケート調査票
- (3) 専修学校アンケート調査票
- (4) スキル標準骨子
- (5) シラバス
- (6) 「IT 日本語基礎」教材開発情報収集
- (7) 「IT 実務日本語」教材開発情報収集
- (8) 「キャリア学習」教材開発情報収集
- (9) 「沖縄の地域文化と産業」教材開発情報収集

留学生対象アンケート調査票

1. 今のあなたについて

(1) 下の表に答えください。

学校	a. 専門学校 b. 大学 c. 大学院 d. そのほかの学校 (学校名：) (学部・学会名：)		
学年	a. 1 年生 b. 2 年生 c. 3 年生 d. 4 年生 e. それ以上		
いままで日本にいる年数	a. 1 年以内 b. 1 年から 2 年 c. 2 年から 3 年 d. 3 年から 4 年 e. 4 年から 5 年 f. 5 年より長い (年)		
今住んでいる場所	(都道府県の名前：)		
出身	(国や地域の名前：)		
年齢	(歳)	性別	

(2) なぜ日本に留学しましたか？ あなたの理由をすべて選んでください。「その他」のときには、()の中に書いてください。

a. 日本の文化や社会に興味があるから c. 日本の IT・コンテンツをよく知りたいから e. 自分の国の日本の会社で働きたいから g. 友人・知人や家族が勧めたから e. その他()	b. 日本の学校と教育はいいと思うから d. 日本は近いから f. 日本で働きたいから h. お金の問題が少ないから
--	---

(3) あなたの今の日本語能力について、1 つ選んでください。

a. N1 b. N2 c. N3 d. N4 e. N5 f. もっていない
--

2. 日本での生活について

(1) 日本に留学してよかったと思いますか。1 つ選んでください。

a. とてもよかった c. あまりよくなかった	b. よかった d. ぜんぜんよくなかった
----------------------------	--------------------------

e. わからない

(2) (1)の理由を書いてください。

(3) 今、困っていることはありますか。あなたが思うことをすべて選んでください。「その他」のときには、()の中に書いてください。

a. 日本語が難しい

b. 学校の授業が難しい

c. 文化やルールがわからない

d. 日本人の友達がいない

e. お金がない

f. 時間がない

g. 困っていない

h. その他 ()

(4) 日本の生活で不安なこと、分からないことがあれば書いてください。

(5) もし学校を卒業した後、日本で就職して生活するなら、何を勉強しなければならないと思いますか。あなたが思うものをすべて選んでください。「その他」のときには、()の中に書いてください。

a. ふつうの日本語

b. ビジネス日本語

c. IT やコンテンツの専門日本語

d. IT やコンテンツの知識・技術

e. 日本のビジネスのルール・マナー

f. 日本の就職活動の方法

g. 日本の歴史・文化

h. 日本の経済・産業

i. その他 ()

3. 日本での将来について

(1) 学校を卒業した後、日本で生活したいですか。あなたが思うものを 1つ 選んでください。

a. とてもしたい

b. したい

c. あまりしたくない

d. ぜんぜんしたくない

e. わからない

(2) 学校を卒業した後、何をしたいですか。あなたがしたいことを 1つ 選んでください。「その他」のときには、()の中に書いてください。

a. 今住んでいる場所で就職したい

b. 日本の今住んでいる場所以外で就職したい

c. あなたの国に帰って就職したい

d. ほかの国で就職したい

e. その他 ()

(3) (2)の理由を書いてください。

(4) (2)で「a. 今住んでいる場所で就職したい」「b. 日本の今住んでいる場所以外で就職したい」の人だけ答えてください。就職活動（仕事を探すこと）で困っていること、不安なことはありますか。あなたが思うことをすべて選んでください。「その他」のときには、() の中に書いてください。

a. 日本の就職活動の方法がわからない

b. 仕事や会社について調べる方法がわからない

c. どんな仕事をしたいかわからない

d. 会社がどんな人をほしいかわからない

e. 書類の書き方がわからない

f. 日本語の試験が難しい

g. 日本語の面接が難しい

h. 外国人をほしい会社が見つからない

i. ビジネス日本語や仕事の日本語が難しい

j. 就職してから、何をすればいいかわからない

k. 仕事が自分に合うかわからない

l. 会社の人と仲良くなれるかわからない

m. 特にない

n. その他 ()

(5) (2)で「a. 今住んでいる場所で就職したい」「b. 日本の今住んでいる場所以外で就職したい」の人だけ答えてください。どんな仕事がしたいですか。あなたが思うものを 1つ 選んでください。「その他」のときには、() の中に書いてください。

a. IT の仕事（システム開発、ソフトウェア開発、インターネット・WEB など）

b. デジタルコンテンツの仕事（ゲーム、アニメーション、CG、VR・AR など）

c. IT やデジタルコンテンツ以外の仕事 ()

d. 就職できればどの仕事でもいい

e. その他 ()

(6) (2)で「a. 今住んでいる場所で就職したい」「b. 日本の今住んでいる場所以外で就職したい」の人だけ答えてください。日本で就職した後、会社を辞めてあなたの国へ帰ったり、ほかの国へ行って働きたいですか。あなたが思うものを 1つ 選んでください。

a. 日本で就職した後、3年以内で帰国したい／ほかの国へ行って働きたい

b. 日本で就職した後、5年以内で帰国したい／ほかの国へ行って働きたい

c. 日本で就職した後、10年以内で帰国したい／ほかの国へ行って働きたい

d. 日本で就職した後、いつかわからないけど帰国したい／ほかの国へ行って働きたい

- e. 日本でずっと働きたい
- f. まだわからない

- (7) (2)で「a. 今住んでいる場所で就職したい」「b. 日本の今住んでいる場所以外で就職したい」の人だけ答えてください。(6)の理由を書いてください。

- (8) (2)で「a. 今住んでいる場所で就職したい」「b. 日本の今住んでいる場所以外で就職したい」の人だけ答えてください。日本で就職して生活するために、日本の IT やデジタルコンテンツの会社や職業、仕事、キャリアについて勉強したことがありますか。下から 1 つ選んでください。

- a. 勉強したことがある
- b. 勉強したことはない
- c. わからない

- (9) (2)で「a. 今住んでいる場所で就職したい」「b. 日本の今住んでいる場所以外で就職したい」の人だけ答えてください。今住んでいる場所の文化について勉強したことがありますか。下から 1 つ選んでください。

- a. 勉強したことがある
- b. 勉強したことはない
- c. わからない

- (10) (2)で「a. 今住んでいる場所で就職したい」「b. 日本の今住んでいる場所以外で就職したい」の人だけ答えてください。将来、自分で IT やデジタルコンテンツの会社を作る計画や考えがありますか。下から 1 つ選んでください。

- a. ある
- b. ない
- c. まだわからない

4. 教育プログラムの内容について

- (1) わたしたちは、IT やデジタルコンテンツを勉強する外国人留学生のために教育プログラム作ります。あなたは、下の勉強をどう思いますか。それぞれ 1 つ選んでください。

① IT やデジタルコンテンツの専門日本語

IT やデジタルコンテンツの会社で使う日本語の勉強をします。

- a. とても大切だと思う
- b. 大切だと思う
- c. あまり大切じゃないと思う
- d. ぜんぜん大切じゃないと思う
- e. わからない

② IT やデジタルコンテンツのビジネス

日本の IT やデジタルコンテンツの会社で働く時にある問題とマナーやルール、仕事内容について勉強します。

- | | |
|-----------------|------------------|
| a. とても大切だと思う | b. 大切だと思う |
| c. あまり大切じゃないと思う | d. ぜんぜん大切じゃないと思う |
| e. わからない | |

③ キャリアと文化

日本で生活して IT やデジタルコンテンツの会社で働くために、自分のキャリアや日本・自分の住んでいる地域の文化などについて勉強します。

- | | |
|-----------------|------------------|
| a. とても大切だと思う | b. 大切だと思う |
| c. あまり大切じゃないと思う | d. ぜんぜん大切じゃないと思う |
| e. わからない | |

(2) (1)もし①、②、③の授業があったら、勉強したいですか。1つ選んでください。

- | | |
|---------------|----------------|
| a. とても勉強したい | b. 勉強したい |
| c. あまり勉強したくない | d. ぜんぜん勉強したくない |

(3) もし日本の IT やデジタルコンテンツの教育や留学生教育、私たちへ意見があったら、書いてください。

--

質問は以上となります。ご協力ありがとうございました。

Questionnaire**5. About you**

(4) Please fill in this table.

Your School	a. College (Senmon Gakko) b. University (Daigaku)		
	c. Graduate School (Daigakuin) d. Others		
	(School name: _____)		
	(Faculty / Department: _____)		
Your School / Academic Year	a. 1st year b. 2nd Year c. 3rd Year d. 4th Year		
	e. 5th years or above		
How long have you lived in Japan?	a. less than 1 year b. 1 – 2 years c. 2 – 3 years		
	d. 3 – 4 years e. 4 – 5 years f. more than 5 years (years)		
Address	(Prefecture: _____)		
Nationality			
Age	(years old)	Sex	

(5) Why did you choose Japan as your study destination? Please check all that apply to you. If you checked “Others”, please fill out the form specifically.

a. Because you are interested in Japanese culture and society. b. Because of high quality educational standards. c. Because you want to know Japanese IT and digital contents. d. Because Japan is relatively near to your country. e. Because you want to work for a Japanese-affiliated company in your country. f. Because you want to work in Japan in the future. g. Because your family or friends recommended you. h. Because of relatively low cost / tuition. i. Others ()

(6) Please choose your Japanese proficiency based on JLPT.

6. About your life in Japan

(6) How satisfied are you with your study and life in Japan?

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| a. Very satisfied | b. satisfied |
| c. Not very satisfied | d. Not satisfied at all |
| e. Not sure | |

(7) What are the reasons for the answer of the question item (1)? Please describe in below form.

--

(8) Do you have any troubles or worries for now? Please check all that apply to you. If you checked “Others”, please fill out the form specifically.

- | |
|---|
| <p>a. Japanese language is difficult.</p> <p>b. Classes and lectures are difficult.</p> <p>c. Not really used to Japanese culture, customs and manners.</p> <p>d. Not having Japanese friends.</p> <p>e. Not having money.</p> <p>f. Not having enough time.</p> <p>g. N/A</p> <p>h. Others ()</p> |
|---|

(9) If you have any questions or worries about your life in Japan, please describe in below form.

--

(10) Please check all knowledge and skills that you think are necessary in order to work in Japan after you graduate. If you checked “Others”, please fill out the form specifically.

- | |
|--|
| <p>a. General Japanese.</p> <p>b. Business Japanese.</p> <p>c. Technical Japanese used in IT and digital content fields.</p> <p>d. Technical knowledge and skills in IT and digital content fields.</p> <p>e. Japanese business manners and rules.</p> <p>f. Job hunting methods in Japan.</p> |
|--|

- g. Japanese culture and history
- h. Japanese economy and industries
- i. Others ()

7. About your future in Japan

(11) Do you want to keep living in Japan after you graduate?

- a. Very much.
- b. kind of.
- c. Not really.
- d. Not at all.
- e. Not sure.

(12) What do you want to do after you graduate? If you checked “Others”, please fill out the form specifically.

- a. To work in the area where you live for now.
- b. To work in Japan but not in the area where you live for now.
- c. To work in your country.
- d. To work in a country other than your country and Japan.
- e. Others ()

(13) What are the reasons for the answer of the question item (2)? Please describe in below form.

(14) **For those who chose answer [a. To work in the area where you live for now.] or answer [b. To work in Japan but not in the area where you live for now.] in question item (2),** do you have any worries or concerns about job hunting?

Please check all that apply to you. If you checked “Others”, please fill out the form specifically.

- a. Not understand the job hunting system and methods in Japan.
- b. Not know how to get information about jobs or companies.
- c. Not know what kind of job you want.
- d. Not know the ideal candidate profile for Japanese companies.
- e. Not know how to fill out documents.
- f. Written examinations in Japanese are difficult.
- g. Job interviews in Japanese are difficult.
- h. Not found companies that recruit foreigners.
- i. Business Japanese are hard and language used in workplace is unfamiliar.
- j. Not know procedures after finding a job.

k. Not sure whether the job is suitable for you or not.

l. Not sure if you can get along with your colleagues.

m. N/A

n. Others ()

- (15) **For those who chose answer [a. To work in the area where you live for now.] or answer [b. To work in Japan but not in the area where you live for now.] in question item (2),** What kind of job do you want? If you checked “Jobs that are not related to IT or Digital content” or “Others”, please fill out the form specifically.

a. IT related jobs (system development, software development, web design, etc.)

b. Digital content related jobs (game, animation, CG, VR/AR, etc.)

c. Jobs that are not related to IT or Digital content ()

d. No matter what kinds of job it is, as long as you can find one.

e. Others ()

- (16) **For those who chose answer [a. To work in the area where you live for now.] or answer [b. To work in Japan but not in the area where you live for now.] in question item (2),** is there possibility that you will leave the job in Japan and have further career path outside Japan?

a. You want to leave the job in Japan within 3 years and work in your country or other countries.

b. You want to leave the job in Japan within 5 years and work in your country or other countries.

c. You want to leave the job in Japan within 10 years and work in your country or other countries.

d. You want to leave the job in Japan someday and work in your country or other countries.

e. You want to continue to advance your career in Japan.

f. Not sure.

- (17) **For those who chose answer [a. To work in the area where you live for now.] or answer [b. To work in Japan but not in the area where you live for now.] in question item (2),** what are the reasons for the answer of the question item (6)? Please describe in below form.

- (18) **For those who chose answer [a. To work in the area where you live for now.] or answer [b. To work in Japan but not in the area where you live for now.] in question item (2),** have you ever learned about the job qualifications, job descriptions, recruiting companies or potential career paths and sorts of information to work in the field of IT and digital content ?

a. I have.

b. I have not.

c. No sure.

- (19) **For those who chose answer [a. To work in the area where you live for now.] or answer [b. To work in Japan but not in the area where you live for now.] in question item (2),** have you ever learned about the culture of the area where you live for now?

a. I have.

b. I have not.

c. Not sure.

- (20) **For those who chose answer [a. To work in the area where you live for now.] or answer [b. To work in Japan but not in the area where you live for now.] in question item (2),** do you have any plans to build your own IT or digital content company?

a. Yes

b. No

c. Not sure

8. About the Educational Program

- (4) We are designing a program that support international students in Japan who major in IT and digital content field. Please indicate your view points to each of these followings

④ Technical Japanese in IT and digital content fields

Learn about the specific language and technical term used in IT and digital content fields.

a. Very important

b. Important

c. Not very important

d. Not important at all

e. Not sure

⑤ Business of IT and digital content companies

Learn about problems in the workplace, rules and manners.

a. Very important

b. Important

c. Not very important

d. Not important at all

e. Not sure

⑥ Career and Culture

Learn more about the culture of Japan and the area where you live for now and how to develop your career in Japan.

a. Very important

b. Important

c. Not very important

d. Not important at all

e. Not sure

(5) If we provide lectures as suggest above in (1), (2) and (3), would you like to attend?

a. Very much.

b. kind of.

c. Not really.

d. Not at all.

e. Not sure.

(6) If you have any suggestions about our educational program for international students who major in IT and digital content fields, please describe in below form.

Thank you for your cooperation.

Niên Khóa 2019

Dưới sự ủy thác của Bộ Giáo Dục Nhật Bản

Phiếu khảo sát về tình hình thực tế của du học sinh về các nội dung liên quan đến
công nghệ thông tin và kỹ thuật số

Phiếu thăm dò thông tin về du học sinh

9. Các thông tin về bản thân bạn

(7) Hãy trả lời vào khung dưới đây

Trường học	a. Trường chuyên môn (Senmon Gakko) b. Đại học (Daigaku) c. Trường sau đại học (Daigakuin) d. Khác (Tên trường :) (Tên khoa :)		
Năm học	a. Năm nhất b. Năm 2 c. Năm 3 d. Năm 4 e. Khác		
Thời gian du học tại Nhật cho đến thời điểm hiện tại	a. Dưới 1 năm b. Từ 1 đến 2 năm c. Từ 2 đến 3 năm d. Từ 3 đến 4 năm e. Từ 4 đến 5 năm f. Trên 5 năm (....năm)		
Nơi sinh sống tại Nhật	(Tên tỉnh thành :)		
Xuất xứ	(Tên vùng miền:)		
Tuổi	(Tuổi)	Giới tính	

(8) Tại sao bạn lại quyết định Nhật Bản là nơi để du học? (Hãy chọn tất cả những đáp án phù hợp)

- a. Có hứng thú về văn hóa và xã hội Nhật Bản
- b. Vì Nhật Bản có nền giáo dục và nhiều trường học tốt
- c. Muốn học hỏi thêm nền công nghệ thông tin của Nhật Bản
- d. Vì Nhật Bản gần
- e. Vì muốn làm việc cho công ty Nhật Bản tại Việt Nam
- f. Vì muốn làm việc tại Nhật Bản

- a. Tiếng Nhật thông dụng
 - b. Tiếng Nhật chuyên dụng trong kinh doanh
 - c. Tiếng Nhật chuyên dụng trong công nghệ thông tin hoặc các ngành nghề tùy chọn
 - d. Hiểu biết về công nghệ thông tin hoặc các ngành nghề tùy chọn
 - e. Hiểu biết về các luật lệ và thông tục của Nhật Bản
 - f. Hiểu biết về quá trình tìm việc của Nhật Bản
 - g. Hiểu biết về văn hóa và lịch sử Nhật Bản
 - h. Hiểu biết về kinh tế và nông nghiệp Nhật Bản
 - i. Khác
- (..... Hãy viết ra suy nghĩ riêng của bạn)

11. Về tương lai tại Nhật Bản

(21) Bạn có muốn làm việc tại Nhật Bản sau khi tốt nghiệp không?

- a. Rất muốn
- b. Muốn
- c. Không mong muốn lắm
- d. Hoàn toàn không muốn
- e. Không xác định

(22) Hãy khoanh vào mong muốn của bạn sau tốt nghiệp

- a. Làm việc gần nơi đang sinh sống (tại Nhật)
 - b. Làm việc khác nơi đang sinh sống (tại Nhật)
 - c. Trở về nước và tìm việc làm
 - d. Tìm việc làm ở một quốc gia khác
 - e. Khác
- (..... Hãy viết ra lựa chọn riêng của bạn)

(23) Hãy giải thích vì sao bạn muốn như vậy vào ô dưới đây

(24) Dành cho những bạn đã chọn đáp án (a) hoặc (b) ở câu (2). Hãy khoanh vào những bất an hoặc khó khăn bạn mắc phải khi tìm công việc tại Nhật

- a. Không hiểu rõ phương thức tìm việc tại Nhật

- b. Không biết cách tìm công việc hoặc công ty tuyển dụng
 - c. Chưa xác định được bản thân sẽ làm gì
 - d. Không biết công ty muốn tuyển dụng nhân lực như thế nào
 - e. Không biết cách điền các loại giấy tờ
 - f. Cảm thấy khó khăn bởi các kì thi tiếng Nhật
 - g. Phỏng vấn bằng tiếng Nhật gây khó khăn
 - h. Không tìm được các công ty tuyển dụng người nước ngoài
 - i. Cảm thấy khó khăn với các ngành nghề sử dụng tiếng Nhật
 - j. Không biết chuẩn bị gì cho việc tìm kiếm việc
 - k. Không biết bản thân mình có phù hợp với công việc không
 - l. Cảm thấy bất an về việc có kết bạn được trong công ty hay không
 - m. Không lo lắng hay bất an gì cả
 - n. Khác
- (..... Hãy viết ra lo lắng riêng của bạn)

(25) Dành cho những bạn đã chọn đáp án (a) hoặc (b) ở câu (2). Hãy khoanh vào công việc/ ngành nghề bạn muốn làm nhất

- a. Công việc liên quan đến IT (như là: Sáng lập hệ thống, Sáng lập phần mềm, Thiết kế web, trình duyệt và các nội dung khác)
 - b. Công việc liên quan đến nội dung kĩ thuật số (Digital Content) (như là: Game, Animation, CG, VR•AR và các nội dung khác)
 - c. Những công việc khác ()
 - d. Chỉ cần có công việc thì ngành nghề nào cũng được
 - e. Khác
- (..... Hãy viết ra lựa chọn riêng của bạn)

(26) Dành cho những bạn đã chọn đáp án (a) hoặc (b) ở câu (2). Bạn có dự định về việc thôi việc và trở về nước làm việc hoặc hoạt động ở quốc gia khác không?

- a. Trong vòng 3 năm sẽ thôi việc và trở về nước/ làm việc tại quốc gia khác
- b. Trong vòng 5 năm sẽ thôi việc và trở về nước/ làm việc tại quốc gia khác
- c. Trong vòng 10 năm sẽ thôi việc và trở về nước/ làm việc tại quốc gia khác

- d. Chưa xác định rõ thời gian nhưng sẽ thôi việc và trở về nước/ làm việc tại quốc gia khác
- e. Sẽ làm việc tại Nhật không thời hạn
- f. Chưa xác định

(27) Dành cho những bạn đã chọn đáp án (a) hoặc (b) ở câu (2). Hãy trình bày lí do cho câu (6) vào ô dưới

(28) Dành cho những bạn đã chọn đáp án (a) hoặc (b) ở câu (2). Vì mục tiêu làm việc về các lĩnh vực công nghệ thông tin và nội dung kĩ thuật số (Digital Content) tại Nhật, thì các bạn đã có kiến thức về công ty tuyển dụng, nội dung công việc, hay các ngành nghề liên quan chưa?

- a. Đã có tìm kiếm và hiểu biết sơ
- b. Chưa có kiến thức gì
- c. Không biết

(29) Dành cho những bạn đã chọn đáp án (a) hoặc (b) ở câu (2). Bạn đã trang bị kiến thức về văn hóa Nhật Bản và đặc biệt là nơi mình đang sống chưa?

- a. Đã có tìm kiếm và hiểu biết sơ
- b. Chưa có kiến thức gì
- c. Không biết

(30) Dành cho những bạn đã chọn đáp án (a) hoặc (b) ở câu (2). Trong tương lai, bạn có suy nghĩ về kế hoạch mở công ty riêng của mình về IT hoặc nội dung kĩ thuật số (Digital Content) không?

- a. Có
- b. Không
- c. Chưa xác định
- d. Khác ()

12. Về nội dung của chương trình đào tạo

(7) Để phục vụ cho mục tiêu học tập về IT và nội dung kĩ thuật số (Digital Content) của người nước ngoài tại Nhật Bản, chúng tôi sẽ thiết kế những khoa đào tạo chuyên môn. Hãy cho chúng tôi biết ý kiến của bạn về những nội dung khóa học dưới đây.

- ⑦ Nhật ngữ chuyên dụng trong IT và Nội dung kỹ thuật số (Digital Content)
Học về tiếng Nhật sẽ được sử dụng trong công ty làm về IT và Nội dung kỹ thuật số (Digital Content)

- a. Tôi nghĩ là rất quan trọng
- b. Tôi nghĩ là quan trọng
- c. Tôi nghĩ nó không quan trọng

- d. Tôi nghĩ nó hoàn toàn không quan trọng
- e. Tôi không có ý kiến đặc biệt gì

⑧ Business IT và Nội dung kỹ thuật số (Digital Content)

Học về luật lệ, nội dung công việc, những thông lệ cần thiết cho việc làm việc tại công ty liên quan đến IT và Nội dung kỹ thuật số (Digital Content)

- a. Tôi nghĩ là rất quan trọng
- b. Tôi nghĩ là quan trọng
- c. Tôi nghĩ nó không quan trọng
- d. Tôi nghĩ nó hoàn toàn không quan trọng
- e. Tôi không có ý kiến đặc biệt gì

⑨ Nghề nghiệp và Văn hóa

Học về những định hướng phát triển bản thân và văn hóa Nhật Bản hoặc văn hóa nơi mình sống

- a. Tôi nghĩ là rất quan trọng
- b. Tôi nghĩ là quan trọng
- c. Tôi nghĩ nó không quan trọng
- d. Tôi nghĩ nó hoàn toàn không quan trọng
- e. Tôi không có ý kiến đặc biệt gì

(8) Nếu các giờ học được nêu ở trên được triển khai thì bạn có muốn tham dự lớp học không?

- a. Rất muốn học
- b. Khá muốn học
- c. Không muốn học lắm
- d. Hoàn toàn không muốn học

(9) Nếu bạn có suy nghĩ gì về chương trình đào tạo IT và nội dung kỹ thuật số (Digital Content) thì hãy điền vào ô dưới đây

Đây là phần cuối của phiếu khảo sát. Chân thành cảm ơn sự hợp tác của bạn.

外国人 IT 人材雇用の現状と課題に関する実態調査
企業アンケート

(0) 外国人材を雇用したことはありますか。次の選択肢の中から該当するものを 1つ 選んでください。「4. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | |
|--------------|------------------------|
| 1. 現在雇用している | 2. 以前は雇用していたが今は雇用していない |
| 3. 雇用したことはない | 4. その他 |

(0-1) (1)で「1. 現在雇用している」をご回答された方にお伺いします。今後、採用も含めて外国人材の雇用について、次の選択肢の中から該当するものを 1つ 選んでください。「5. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 今後も雇用したい | 2. 今後の雇用については検討中 |
| 3. 今後の雇用については消極的 | 4. 今後は雇用しない |
| 5. その他 | |

(0-2) (1)で「2. 以前雇用していたが今はしていない」をご回答された方にお伺いします。今後、採用も含めて外国人材の雇用について、次の選択肢の中から該当するものを 1つ 選んでください。「5. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 今後また雇用したい | 2. 今後の雇用については検討中 |
| 3. 今後の雇用については消極的 | 4. 今後も雇用しない |
| 5. その他 | |

(0-3) (1)で「3. これまで雇用したことがない」をご回答された方にお伺いします。今後、採用も含めて外国人材の雇用について、次の選択肢の中から該当するものを 1つ 選んでください。「5. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 今後は雇用したい | 2. 今後の雇用については検討中 |
| 3. 今後の雇用については消極的 | 4. 今後も雇用しない |
| 5. その他 | |

◎上記質問項目(0)で「1. 現在雇用している」、「2. 以前は雇用していたが今は雇用していない」、「4. その他」とご回答された方は、以降の質問項目(1)から(26)までご回答ください。

「3. 雇用したことはない」と回答された方は、質問項目(23)から(26)までご回答ください。

(1) これまでに採用した外国人材の出身国・地域を教えてください。人数で上位5か国までご記入ください。

--

(2) これまでに採用した外国人材の雇用形態はどれに当てはまりますか。次の選択肢の中から該当するものをすべて選んでください。「6. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | | |
|----------|----------|---------|
| 1. 正社員 | 2. 契約社員 | 3. 派遣社員 |
| 4. インターン | 5. アルバイト | 6. その他 |

(3) (2)で「1. 正社員」と「2. 契約社員」とご回答された方にお伺いします。これまでに採用した外国人材は以下のどれに当てはまりますか。次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。「4. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | | |
|---------|---------|--------------|
| 1. 新卒のみ | 2. 中途のみ | 3. 新卒・中途どちらも |
| 4. その他 | | |

(4) (3)で「1. 新卒のみ」または「3. 新卒・中途どちらも」とご回答された方にお伺いします。これまでに雇用した新卒について、次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。「5. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 日本国内の学校の卒業生のみ |
| 2. 海外の学校の卒業生のみ |
| 3. 国内と海外の両方の学校から採用したが、国内の卒業生の方が多い |
| 4. 国内と海外の両方の学校から採用したが、海外の卒業生の方が多い |
| 5. その他 |

(5) これまでに外国人を雇用する際に、どのような募集方法を採用しましたか。次の選択肢の中から該当するものをすべて選んでください。「6. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | | |
|-----------|-------------|-------------|
| 1. 求人サイト | 2. SNS への広告 | 3. 紹介業者への求人 |
| 4. 学校への求人 | 5. 求人雑誌 | 6. その他 |

(6) これまでの外国人材の採用の際に、どのような資質・能力を重視しましたか。次の選択肢の中から該当するものを3つまで選んでください。「15. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. IT スキル | 2. 一般常識 |
| 3. コミュニケーション能力 | 4. プレゼンテーション能力 |
| 5. 発想力 | 6. 日本語力 |
| 7. 英語力 | 8. 日本語・英語以外の外国語力 |
| 9. 異文化適応力 | 10. リーダーシップ |
| 11. 意欲・熱意 | 12. 積極性 |
| 13. 協調性 | 14. 成績、経歴 |
| 15. その他 | |

(7) 外国人材を採用する際、どの程度の日本語力を要求していますか。次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。「6. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | | |
|-------------|---------------|------------|
| 1. ネイティブレベル | 2. ビジネスレベル | 3. 日常会話レベル |
| 4. 挨拶レベル | 5. 日本語能力は問わない | 6. その他 |

(8) (7)で「1. ネイティブレベル」、「2. ビジネスレベル」、「3. 日常会話レベル」、「4. 挨拶レベル」または「6. その他」とご回答された方にお伺いします。これまで採用した外国人材の日本語能力を判断する基準として何を重視しましたか。次の選択肢の中から該当するものをすべて選んでください。「7. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1. 日本語能力試験 (JLPT) | 2. ビジネス日本語能力テスト (BJT) |
| 3. J-cert | 4. 実用日本語検定 (J.TEST) |
| 5. 自社作成の日本語試験 | 6. 面接時の応対 |
| 7. その他 | |

(9) (8)で「1. 日本語能力試験 (JLPT)」とご回答された方にお伺いします。どの程度のレベルを基準としましたか。次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。

- | | | |
|-------|-------|-------|
| 1. N1 | 2. N2 | 3. N3 |
| 4. N4 | 5. N5 | |

(10) 採用した外国人材の入社時期はいつですか。次の選択肢の中から該当するものをすべて選んでください。「6. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | | |
|---------|---------------|---------|
| 1. 4月 | 2. 4月以外の月で年1回 | 3. 年間数回 |
| 4. 欠員時点 | 5. 随時 | 6. その他 |

(11) 外国人材を雇用した理由について、次の選択肢の中から該当するものを3つまで選んでください。「9. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | |
|-------------------------|------------------|
| 1. 日本人社員が持っていないスキルを補うため | 2. 優秀な人材確保のため |
| 3. 海外関連業務または海外進出のため | 4. 外国語を話せる人材が必要 |
| 5. 日本人の人材が不足している | 6. 新しい発想を必要としている |
| 7. 社内の人材活性化 | 8. ダイバーシティ強化のため |
| 9. その他 | |

(12) これまでに採用した外国人材が就いた職種は、どのようなものがありますか。次の選択肢の中から該当するものをすべて選んでください。「11. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | | |
|--|------------|-------|
| 1. 経営戦略 | 2. 研究 | 3. 開発 |
| 4. 営業 | 5. マーケティング | 6. 企画 |
| 7. 経理 | 8. 人事 | 9. 法務 |
| 10. 海外関連業務(アウトソーシング対応・海外マーケティング・ローカライズ等) | | |
| 11. その他 | | |

(13) 貴社では外国人材の人事評価をどのように行っていますか。次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。「4. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | |
|-----------------------|---------------|
| 1. 日本人社員と同様にしている | 2. 日本人社員とは異なる |
| 3. 日本人社員と同様か異なるかを選択可能 | 4. その他 |

(14) 外国人材の給与体系について、次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。「4. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- | | |
|-----------------------|---------------|
| 1. 日本人社員と同様にしている | 2. 日本人社員とは異なる |
| 3. 日本人社員と同様か異なるかを選択可能 | 4. その他 |

(15) 外国人材の昇進機会について、次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。「4. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- 1. 日本人社員と同様にしている 2. 日本人社員とは異なる
- 3. 日本人社員と同様か異なるかを選択可能 4. その他

(16) 外国人材の異動について、次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。「4. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- 1. 日本人社員と同様にしている 2. 日本人社員とは異なる
- 3. 日本人社員と同様か異なるかを選択可能 4. その他

(17) 外国人材に対する研修の実施方法について、次の選択肢の中から該当するものをすべて選んでください。「5. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- 1. 自社で実施している 2. 他社等と共同で実施している
- 3. 他社等に委託している 4. 随時開催されているセミナーを活用している
- 5. その他 6. 研修は実施していない

(18) (17)で「1. 自社で実施している」、「2. 他社等と共同で実施している」、「3. 他社等に委託している」、「4. 随時開催されているセミナーを活用している」、「5. その他」のいずれかをご回答された方にお伺いします。外国人材に行う研修の内容について、次の選択肢の中から該当するものをすべて選んでください。「4. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- 1. 実務 2. ビジネスマナー 3. 日本語 4. その他

(19) 貴社の社員間での使用言語について、次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。「4. その他」と回答される場合は、具体的にご記入ください。

- 1. 日本語のみ 2. 英語のみ 3. 日本語と英語を併用
- 4. その他

(20) 貴社で外国人材を採用したことによって、どのような効果が得られましたか。具体的にご記入ください。

--

(21) 貴社で外国人材を雇用した際、トラブルや問題、課題などがありましたか。次の選択肢の中から該当するものをすべて選んでください。

- | | | |
|---------------------|---------------|--------------------|
| 1. 法令上の問題 | 2. 待遇への不満 | 3. 同僚及び上司・部下との人間関係 |
| 4. 社内業務上の問題 | 5. 他社との業務上の問題 | 6. プライベートに関する問題 |
| 7. 特にトラブル・問題などはなかった | 8. その他 | |

(22) (21) でご回答された項目について、可能な範囲で具体的にご記入ください。

--

(23) 現在、文部科学省の委託事業の一環で専門学校や企業及び業界団体等との連携のもと、日本語能力、IT スキル、日本や沖縄に関する教養を身に付け、沖縄または日本に定着し IT 産業に従事する外国人 IT 人材の養成を目的とする教育プログラム事業を推進しています。本プログラムにご関心はございますか。次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。

- | | |
|-------------|------------|
| 1. 非常に関心がある | 2. 関心がある |
| 3. あまり関心がない | 4. 全く関心がない |

(24) 今後、沖縄県内の IT 企業様に向けて、上記の教育プログラムの進捗や事業活動成果の報告、人材育成などの情報提供活動を行っていきたいと考えております。御社にもこのような活動の情報をお送りしてもよろしいでしょうか。次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 送付を希望する | 2. 送付を希望しない |
|------------|-------------|

(25) 上記の教育プログラム開発に際して、さらなる調査や教材開発、実証などを企画・実施します。その際には、沖縄県内の IT 及びデジタルコンテンツ系企業の皆様に実施協力を依頼する予定です。御社の協力のご意向について、次の選択肢の中から該当するものを1つ選んでください。

- | | |
|------------|-------------------|
| 1. 協力したい | 2. 内容によっては協力を検討する |
| 3. 協力はできない | |

(26) 外国人 IT 人材養成の取組みや教育プログラムに関して、ご意見・ご要望があれば、ご記入ください。

--

○ご回答者様について（※よろしければ可能な範囲でご記入ください）

会社名	
所在地	
従業員数	約（ ）名

部署・お役職		
ご氏名		
ご連絡先	TEL	
	Mail	

※御校の IT・デジタルコンテンツ・情報系学科における留学生の受け入れ、教育等の現状
についてお聞かせください。

(1) 御校では留学生の受入れを行っていますか。当てはまる選択肢を **1 つ** 選んで○を付けてください。

2. 受け入れていない

※ (1) で「2. 受け入れていない」を選択された方は、質問項目(19)から(22)にご回答ください。

- | 学科名 | 学生数 | 留学生数 |
|--------|---------|---------|
| () 学科 | 約 () 人 | 約 () 人 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| その他の学科 | | |
| 合計 | | |

- () () ()

1. 日本語能力試験（JLPT）： N（ ）
2. 日本留学試験（EJU）： （ ）点
3. ビジネス日本語能力テスト（BJT）： （ ）点
4. 法務大臣により告示されている日本語教育機関で1年以上のコースにおいて、満6ヶ月以上の日本語教育を受けている
5. 日本の小・中・高等学校または大学・短期大学・大学院で1年以上教育を受けている
6. 日本語能力は要求しない
7. その他（ ）

1. 日本国内の日本語学校
2. 海外の日本語学校
3. 日本国内の専門学校・大学等の日本語学科・留学生別科
4. 日本国内の専門学校・大学・大学院等の高等教育機関の本科・正規課程
5. 海外の大学等の高等教育機関
6. 海外の高等学校等の中等教育機関
7. その他（ ）

- | |
|--|
| |
|--|

- (7) 御校で留学生教育を行う中で、日本人学生と比較して、留学生全般にどのような特性があると感じますか。当てはまる選択肢を**すべて**選んで○を付けてください。「6. その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 学習へのモチベーションが（ 高い ・ 同等 ・ 低い ） |
| 2. 基礎学力が（ 高い ・ 同等 ・ 低い ） |
| 3. 専門知識・技術の習得が（ 早い ・ 同等 ・ 遅い ） |
| 4. 自身のキャリアに対する意識が（ 高い ・ 同等 ・ 低い ） |
| 5. 就職に苦労する学生が（ 多い ・ 同等 ・ 少ない ） |
| 6. その他（ ） |
| 7. 日本人学生と比較して特筆する特性はない |

- (8) 留学生を対象として、御校ではどのような日本語教育を行っていますか。当てはまる選択肢を**すべて**選んで○を付けてください。「6. その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

- | | |
|-----------------------------------|--------------|
| 1. 一般日本語教育 | 2. ビジネス日本語教育 |
| 3. IT・デジタルコンテンツ・情報系分野に特化した専門日本語教育 | |
| 4. 日本語の試験対策教育 | 5. 特に行っていない |
| 6. その他（ ） | |

- (9) 留学生を対象として、御校では IT・デジタルコンテンツ系分野の専門科目や日本語教育の他にどのような教育を行っていますか。当てはまる選択肢を**すべて**選んで○を付けてください。「6. その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 日本の文化・社会に関する教育 |
| 2. 御校所在地域の文化・社会に関する教育 |
| 3. 日本のビジネス文化・企業文化に関する教育 |
| 4. IT・デジタルコンテンツ・情報系分野の職業・キャリアに関する教育 |
| 5. 特に行っていない |
| 6. その他（ ） |

- (10) 留学生に対する日本での就職の支援として、御校ではどのような取り組みを行っていますか。当てはまる選択肢を**すべて**選んで○を付けてください。「7. その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

- | | |
|------------------------------|--------------|
| 1. インターンシップの仲介 | 2. 企業説明会の開催 |
| 3. 就職活動セミナーの開催 | 4. OB・OG の紹介 |
| 5. 企業を呼んでのプロジェクト・開発成果等発表会の開催 | |
| 6. 特に行っていない | |
| 7. その他 () | |

- (11) 御校の留学生の日本国内就職率について調査し把握しておられますか。把握されている場合は、就職率をご記入ください。

- | | |
|------------------------|------------|
| 1. 把握している (約 %) | 2. 把握していない |
|------------------------|------------|

- (12) 御校の留学生の御校所在地域内就職率について調査し把握しておられますか。把握されている場合は、就職率をご記入ください。

- | | |
|------------------------|------------|
| 1. 把握している (約 %) | 2. 把握していない |
|------------------------|------------|

- (13) 御校の留学生の就職希望国の傾向について、次の選択肢の中から該当するものを**1つ**選んで○を付けてください。「6. その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 多くが日本国内での就職希望 | 2. 多くが母国での就職希望 |
| 3. 多くが日本、母国以外の別の国での就職希望 | |
| 4. 明確な傾向はない | 5. 把握していない |
| 6. その他 () | |

- (14) 御校の留学生の就職希望企業の傾向について、次の選択肢の中から該当するものを**1つ**選んで○を付けてください。「7. その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

- | |
|----------------------------|
| 1. 多くが大企業への就職を希望 |
| 2. 多くが中小企業への就職を希望 |
| 3. 多くが零細企業への就職を希望 |
| 4. 多くが企業規模に関わらず有名企業への就職を希望 |
| 5. 明確な傾向はない |
| 6. 把握していない |
| 7. その他 () |

- (15) 御校の留学生がカリキュラム上卒業までに取得を目指す資格はありますか。次の選択肢の中から該当するものを **1つ** 選んで○を付けてください。「1. ある」を選択する場合には、主要な資格の具体的な名称を **3つ** までご記入ください。

- | | | | | | | |
|-------|---|---|---|---|---|---|
| 1. ある | (|) | (|) | (|) |
| 2. ない | | | | | | |

II. 現状の課題等について

- (16) 経済産業省が 2016 年に発表した『IT 人材の最新動向と将来推計に関する調査結果』の試算によると、2030 年時点で最大約 79 万人の人材不足に直面する恐れがあるとされる IT 産業では人材確保が緊縛の課題となっております。IoT、AI、ビッグデータ、ブロックチェーン等を活用する新たな社会〈Society5.0〉の実現に向け高度な先端技術を扱うことができる IT 人材がますます求められる中で、日本人 IT 人材だけでなく外国人 IT 人材の養成も今後ますます重要な課題となってくるものと思われる。御校ではこのような社会情勢を受けて、対応の必要性を感じておられますか。「6. その他」を選択する場合には、具体的にご記入ください。

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1. 強く必要性を感じている | 2. 一定の必要性を感じている |
| 3. あまり必要性を感じていない | 4. まったく必要性を感じていない |
| 5. 現時点ではよくわからないので何とも言えない | |
| 6. その他 (|) |

- (17) 御校の留学生への教育について、課題と感じていることはありますか。次の選択肢の中から該当するものを **すべて** 選んで○を付け、可能な範囲で具体的に課題を記入してください。

- | | | |
|-------------|---|---|
| 1. 学生募集 | (|) |
| 2. 学生の学力・質 | (|) |
| 3. 教育内容・教材 | (|) |
| 4. 教員確保 | (|) |
| 5. 就職支援 | (|) |
| 6. 施設・設備の整備 | (|) |
| 7. その他 | (|) |
| 8. 特になし | | |

- (18) 企業、産業界との連携について、御校が現在課題と感じていることはありますか。次の選択肢の中から該当するものを**すべて**選んで○を付け、可能な範囲で具体的に課題を記入してください。

1. 就職情報、学内推薦	()
2. 講座や教材の提供	()
3. 教員確保への協力	()
4. インターンシップや研修	()
5. 企業、産業界側からの人材育成に関する要望	()
6. その他	()
7. 特になし	

III. 本事業について

- (19) 文部科学省の委託事業の一環で専門学校や企業及び業界団体等との連携のもと、日本語能力、専門スキル、日本に関する教養を身に付け、日本に定着し IT・デジタルコンテンツ・情報系産業に従事する外国人材の養成を目的とする教育プログラム事業を推進しています。本プログラムにご関心はございますか。次の選択肢の中から該当するものを**1つ**選び、○をつけてください。

1. 非常に関心がある	2. 関心がある
3. あまり関心がない	4. 全く関心がない

- (20) 今後、IT・デジタルコンテンツ・情報系分野の専門学校様に向けて、上記の教育プログラムの進捗や事業活動成果の報告、人材育成などの情報提供活動を行っていきたいと考えております。御校にもこのような活動のご案内をお送りしてもよろしいでしょうか。次の選択肢の中から該当するものを**1つ**選び、○をつけてください。

1. 案内送付を希望する	2. 案内送付を希望しない
--------------	---------------

- (21) 上記の教育プログラム開発に際して、さらなる調査や教材開発、実証、成果普及などを企画・実施します。その際には、IT・デジタルコンテンツ・情報系分野の専門学校の皆様に実施協力を依頼する予定です。御校の協力のご意向について、次の選択肢の中から該当するものを**1つ**選び、○をつけてください。

1. 協力したい	2. 内容によっては協力を検討する
3. 協力できない	

(22) 本事業の IT・デジタルコンテンツ・情報系分野の外国人材育成の取り組みや教育プログラムに関して、ご意見・ご要望があれば、ご記入ください。

--

○ご回答者様について（※よろしければ可能な範囲でご記入ください）

学校名	
所在県名	

お役職		
ご氏名		
ご連絡先	TEL	
	Mail	

全学生数	約	名	留学生数	約	名
大卒学生数	約	名	社会人学生数	約	名

質問は以上となります。ご回答ありがとうございました。

IT系留学生のための「ITビジネス日本語・文化」強化プログラム 知識・スキル標準						
領域	科目	知識・スキル	①	②	③	④ ⑤
日本語	IT日本語基礎	日本語でインターネットを利用し情報を調べ、整理することができる。				
		Word、Excel、PowerPoint等を日本語で使用する事ができる。				
	IT実務日本語	ネットリテラシーや知的財産権について日本語で理解することができる。				
		IT分野の日本語の語彙・表現を理解することができる。				
		履歴書を書いたり、面接を受けることができる。				
ITビジネス	ケーススタディ	指示や自身の担当範囲を理解することができる。				
		業務について質問したり、疑問点を確認することができる。				
		自身の業務の進捗やトラブルを報告することができる。				
		相手が求めている情報を適切に提供することができる。				
		自身の状況を説明し、相談することができる。				
教養	PBL	トラブルや仕様変更に対して適切に対応することができる。				
		要件定義書や仕様書を読み、理解することができる。				
		トラブル事例の内容を理解することができる。				
		トラブル事例の原因を理解することができる。				
		トラブルを回避したり、解決する方法を検討することができる。				
教養	キャリア学習	自分であったらどうするかを、ロールプレイで実践することができる。				
		ほかの学習者のロールプレイを見て、良い点や問題点を指摘することができる。				
		プロジェクトの内容を理解することができる。				
		自分が担当する箇所について理解し、責任をもって作業することができる。				
		プロジェクトチームの仲間と、日本語で会話することができる。				
教養	沖縄の地域文化と産業	チームの仲間とプロジェクトを完成させることができる。				
		日本及び沖縄のIT産業の動向について理解している。				
		IT業界における職種や仕事内容を理解している。				
		IT人材の社会的役割を理解している。				
		日本及び沖縄のIT産業で働くためのキャリアパスを持っている。				
教養	沖縄の地域文化と産業	IT人材としてのキャリアプランを持っている。				
		沖縄の地理や気候について理解している。				
		沖縄の歴史について理解している。				
		沖縄の食文化について理解している。				
		沖縄の伝統文化について理解している。				
教養	沖縄の地域文化と産業	沖縄の産業について理解している。				
		沖縄の県民性や現代文化について理解している。				

科目名	IT 日本語基礎	領域	日本語
目標	Microsoft Office の代表的なソフトウェアの使い方や、ネットリテラシーや知的財産権などの情報倫理、IT の技術分野に関わる内容を日本語理解できるようになり、語彙や表現を習得する。		
概要	本科目は、日本語能力試験 N3 程度で多くの外来語や難解な漢語を含む IT 専門用語になじみがない外国人留学生向けに、日本語でのパソコン入門や IT・デジタルコンテンツ・情報系分野で頻出する語彙・表現の学習と読解を中心とした内容とする。		
内容	第 1 回 Word の基本 (1) 第 2 回 Word の基本 (2) 第 3 回 Excel の基本 (1) 第 4 回 Excel の基本 (2) 第 5 回 PowerPoint の基本 (1) 第 6 回 PowerPoint の基本 (2) 第 7 回 情報倫理 (1) 第 8 回 情報倫理 (2) 第 9 回 基礎理論 (1) 第 10 回 基礎理論 (2) 第 11 回 アルゴリズムとプログラミング (1) 第 12 回 アルゴリズムとプログラミング (2) 第 13 回 コンピュータ構成要素 (1) 第 14 回 コンピュータ構成要素 (2) 第 15 回 システム構成要素 (1) 第 16 回 システム構成要素 (2) 第 17 回 ソフトウェア (1) 第 18 回 ソフトウェア (2) 第 19 回 ハードウェア (1) 第 20 回 ハードウェア (2) 第 21 回 ヒューマンインターフェイス (1) 第 22 回 ヒューマンインターフェイス (2) 第 23 回 マルチメディア (1) 第 24 回 マルチメディア (2) 第 25 回 データベース (1) 第 26 回 データベース (2) 第 27 回 ネットワーク (1) 第 28 回 ネットワーク (2)		

	第29回 セキュリティ (1) 第30回 セキュリティ (2)
教科書	※次年度事業で開発
評価	※次年度事業で設定
備考	

科目名	IT 実務日本語	領域	日本語
目標	実際に IT やデジタルコンテンツの職場で使う可能性がある、専門日本語やビジネス日本語の語彙・表現を習得する。		
概要	本科目は、IT の専門知識を学んだり実務に携わったりする際に必要となる IT 語彙・表現と、企画、要件定義、設計、開発、テスト、導入、運用管理といった実務の場面を想定した日本語のモデル会話を学ぶ。		
内容	第1回 求人情報、面接 第2回 自己紹介 第3回 指示の理解と確認 第4回 打ち合わせ 第5回 単体テスト 第6回 進捗報告 第7回 遅延・ミス 第8回 仕様変更 第9回 結合テスト 第10回 システムテスト 第11回 オペレーションデモ 第12回 アフターサポート 第13回 仕様書の読解 第14回 要件定義 第15回 まとめ		
教科書	※次年度事業で開発		
評価	※次年度事業で設定		
備考			

科目名	キャリア学習	領域	教養
目標	IT 人材のキャリアに関する基本的な知識を身に着ける。		
概要	沖縄・日本の IT 産業で働くための方法や働くことの意味・意義や中長期的な自身の IT 産業におけるキャリアについて考える。		
内容	第 1 回 IT 人材とは何か 役割 第 2 回 IT 人材とは何か 仕事・現場 第 3 回 IT 業界の最新動向 IT をめぐる社会の動き 第 4 回 IT 業界の最新動向 IT 産業の動向 第 5 回 IT 人材の職業意識 社会的責任、倫理と規範 第 6 回 IT 人材の職業意識 顧客志向、コンプライアンス 第 7 回 IT 人材の職業意識 専門職 第 8 回 IT 人材の職業意識、サービス、自己管理 第 9 回 IT 人材に必要な能力 ビジネススキル 第 10 回 IT 人材に必要な能力 チームワーク 第 11 回 IT 人材に必要な能力 ラーニングスキル 第 12 回 IT 人材に必要な能力 サービス業視点 第 13 回 IT 人材のキャリアパス形成 キャリアパス 第 14 回 IT 人材のキャリアパス形成 キャリアプラン 第 15 回 IT 人材のキャリアパス形成 キャリアビジョン		
教科書	※次年度事業で開発		
評価	※次年度事業で設定		
備考			

科目名	沖縄の地域文化と産業	領域	教養
目標	自身が暮らす沖縄についての理解を深める。		
概要	沖縄で就職し、中長期的に居住する場合に知っておくべき地域の文化や産業に関する知識を学ぶ。		
内容	第1回 沖縄の地理 第2回 沖縄の歴史(1) 第3回 沖縄の歴史(2) 第4回 沖縄の歴史(3) 第5回 沖縄の伝統文化 第6回 沖縄の現代文化 第7回 沖縄の産業(1) 第8回 沖縄の産業(2) 第9回 沖縄の方言 第10回 沖縄の食文化 第11回 沖縄の偉人 第12回 沖縄の県民性 第13回 沖縄の暮らし 第14回 沖縄と世界 第15回 まとめ		
教科書	※次年度事業で開発		
評価	※次年度事業で設定		
備考			

「IT 日本語基礎」教材開発情報収集

(1) 外国人留学生に対する IT・情報リテラシー教育を目的とする教材・書籍・資料等

①

書籍名	留学生のためのパソコン入門
著者／編者	澤海真理
発行元	株式会社インフォテック・サーブ
価格	1,800 円＋税
対象	大学・専門学校等で学ぶ外国人留学生
目次	【Windows 入門】 単元 1 Windows の基本操作 ・ Windows の起動 ・ Windows の画面構成 ・ マウス操作 ・ キーボードの名称と役割 ・ ファイル ・ ソフトウェアの利用とファイルの作成 ・ フォルダー ・ Windows の終了 【Word】 単元 2 Word の基礎 ・ Word の起動 ・ 新規作成 ・ Word の画面構成 ・ 文書を閉じる ・ Word の終了 単元 3 文字入力 ・ 日本語の入力 ・ 文字の削除 ・ 文字の変換 ・ I M E の使用 単元 4 文書作成 ・ 文章の入力 ・ 保存 ・ 範囲選択と配置変更 ・ コピー・貼り付け ・ 書式設定

	単元 5 表の作成 ・文書を開く ・表の挿入 ・文字の入力 ・表の編集 ・表の移動 ・ページ設定 ・印刷 【Excel】 単元 6 Excel の基礎 ・Excel の起動 ・新規作成 ・Excel の画面構成 ・数値の入力 ・日本語の入力 ・数式の入力 ・Book を閉じる ・Excel の終了 単元 7 データ入力と関数 ・データの入力 ① ・オートフィルの使用 ① ・データの入力 ② ・関数 ・関数の利用 ・オートフィルの使用 ② ・保存 単元 8 表作成 ・Book を開く ・書式設定 ・表示形式 ・文字の配置 ・罫線 ・挿入・削除 ・上書き保存 単元 9 グラフ作成 ・縦棒グラフの作成
--	--

	・ ページ設定と印刷 【PowerPoint】 単元 10 PowerPoint の基礎 ・ PowerPoint の起動 ・ 新規作成 ・ PowerPoint の画面構成 ・ データの入力 ・ 保存 ・ PowerPoint を閉じる ・ PowerPoint の終了 単元 11 スライドの作成 ・ プレゼンテーションを開く ・ スライドの挿入 ・ データの入力 ・ 図形の挿入 ・ 表の挿入 ・ 図の挿入 ・ 上書き保存 単元 12 スライドの編集 ・ 書式設定 ・ 箇条書きの変更 ・ 図形の変更 ・ 表の編集 ・ 図の編集 単元 13 スライドショーの実行 ・ テーマの設定 ・ アニメーションの設定 ・ スライドショーの実行 ・ 配布資料の印刷 【情報倫理】 単元 14 インターネットと情報モラル ・ インターネットの使用ルール 単元 15 知的財産権 ・ 他人の権利は侵害しない
内容	留学生が、パソコンの基本操作から Word・Excel・PowerPoint などの Microsoft のソフトの使用方法について 1 冊で学べる入門書となっている。

	これによって、大学・専門学校等の高等教育機関で学ぶ留学生が、レポートや論文の作成、統計・グラフ等の作成、プレゼンテーション資料の作成といった作業を行うことができるようになる。また、【情報倫理】の単位ではネットリテラシーについて扱われている。 漢字やカタカナにはルビが振られているほか、文体も非常に平易で留学生にとって理解がしやすい形で作られている。また、補助教材として外国語対応表があり、重要語彙が日本語・英語・ベトナム語・中国語（簡体字）・ロシア語という並びでリスト化されているため、これらの言語の話者には学習がしやすい。【情報倫理】の項目で知的財産権についての記述もあるため、オンライン上から言説をそのまま持ってくる無断引用や剽窃が許されないことであるという点についても学習者は学ぶことができる。
--	--

②

書籍名	留学生のための日本語で学ぶパソコンリテラシー
著者／編者	橋本恵子、金子大輔、西村靖史、宮川 幹平、岡本 尚志、林 泰子（著） 張浩帆、崔殷赫、大塚良治（翻訳）
発行元	共立出版
価格	2,200 円＋税
対象	大学・専門学校等で学ぶ外国人留学生
目次	第 1 章 Windows の基本操作 1.1 Windows8.1 の起動と終了 1.2 ウィンドウサイズの変更・移動 1.3 フォルダの作成 1.4 スタート画面に戻る 1.5 シャットダウン 1.6 日本語入力 1.7 多言語入力 1.8 単語登録 第 2 章 Word の操作と活用 2.1 Word の基本操作 2.2 ファイルの保存と呼び出し、終了 2.3 編集の基本操作 2.4 コピーと移動 2.5 文字飾り 2.6 ページレイアウト

2.7	置換
2.8	イラストの挿入（クリップアート）
2.9	ワードアート
2.10	表の作成
2.11	図形の作成
2.12	ヘッダーとフッター
2.13	印刷
2.14	ビジネス文書の基本フォーマット
	章末問題
第3章 Excel の操作と活用	
3.1	Excel（表計算ソフト）の機能
3.2	Excel の基本操作
3.3	Excel のデータ入力
3.4	集計ファイルの作成
3.5	Excel を使ったグラフの作成
3.6	Excel を使った集計・分析の基礎
3.7	Excel を使ったデータ分析
	章末問題
第4章 PowerPoint の操作と活用	
4.1	PowerPoint の基礎
4.2	見栄えのよいスライドの作成
4.3	プレゼンに説得力を持たせる
4.4	注目を促すスライドの作成
4.5	プレゼンの準備
4.6	プレゼンの実施
	章末問題
第5章 インターネットの活用	
5.1	Web ブラウザの基本操作
5.2	検索サイト
5.3	検索サイトを用いた情報検索
5.4	パソコン以外の活用
5.5	Web コミュニケーション
5.6	Web 活用上の注意

	5.7 電子メール 章末問題 第6章 情報倫理—インターネット社会と情報倫理— 6.1 情報倫理の重要性 6.2 情報の特性 6.3 情報社会の「光」と「影」 6.4 著作権 6.5 個人情報 6.6 情報倫理と道徳的判断 章末問題 第7章 ビデオ編集 7.1 実習のための事前準備 7.2 ムービー制作の基本 7.3 映像情報の編集1：詳細設定 7.4 映像情報の編集2：アニメーション効果 7.5 音声情報の編集 7.6 文字情報の編集 7.7 終わりに 第8章 Web ページの制作 8.1 HTML の基礎 8.2 HTML の応用 8.3 Web サイトの構築 章末問題 付 録（検定情報等） 解 答 重要語彙リスト（3か国語訳）
内容	本書は、パソコンリテラシーを学ぶ留学生を対象とした、日本語能力と同時にパソコン操作能力の向上を図るための教科書である。 本文中の漢字にはすべてルビをふり、各章の要約および重要語彙リストに中国語、韓国語、英語の3か国語を付記している。練習問題には日本事情や日本文化を学べるような内容を取り上げており、留学生が興味を持って課題に取り組めるよう心掛けているようだ。高等学校や専門学校、日本語学校

	等で学ぶ留学生にも使用できるとともに、情報教育のためのみならず、パソコンを使用した作文指導など、日本語教育の教科書としても最適の 1 冊となっている。
--	---

③

書籍名	留学生のための IT テキスト
著者／編者	森由紀、平井智子（著） 久保田学（監）
発行元	日経 BP 社
価格	2,180 円＋税
対象	大学・専門学校等で学ぶ外国人留学生
目次	第 1 章 基本操作と文字の入力 第 2 章 ビジネス文書の作成 第 3 章 表の作成と編集 第 4 章 オブジェクトの挿入 第 5 章 基本操作と表の作成 第 6 章 計算式と関数 第 7 章 グラフ 第 8 章 関数の活用 第 9 章 プレゼンテーションの作成 第 10 章 プレゼンテーションのデザイン 第 11 章 コンピュータ概論
内容	近年、日本の大学、専門学校に留学に来ている国外からの学生が増えている。その場合、まず 1～2 年間ほど日本語の勉強をしたのち、さらに専門的な知識やスキルを身に着けるために、専門学校や大学に入学するというパスをたどることが多い。このとき十分に日本語が身につけていない段階で専門的な教育に入ってしまうために、通常の日本語のテキストでは使いにくく、学校側がテキストに独自にルビを振って対応しているという状況がある。 本書はそうした日本語にまだ十分慣れていない留学生向けの IT スキルのテキストとして、漢字にルビを振ったテキストとして企画したものである。漢字表記とカタカナ表記にルビを振っており、ひらがな表記以外の読みを苦手とする留学生に最適である。しかも日本文化に関する文書や就職活動の際に使用する文書を作成してみることで、日本での就職に役立つ知識を身に付けながら、IT スキルを習得できるようになっている。

④

書籍名	留学生のための IT リテラシー
著者／編者	秋山崇
発行元	株式会社インフォテック・サーブ
価格	1,800 円＋税
対象	大学・専門学校等で学ぶ外国人留学生
目次	Introduction ハードウェアとソフトウェア 単元 1 コンピュータの種類 単元 2 コンピュータの基本構成 単元 3 プロセッサとメモリ 単元 4 オペレーティングシステム データベース 単元 5 データベースの構築 単元 6 データベース管理システム ネットワーク 単元 7 ネットワークの基本構成 単元 8 インターネット技術 セキュリティ 単元 9 情報セキュリティの概要 単元 10 情報セキュリティ対策 単元 11 暗号技術 単元 12 認証技術 情報システム 単元 13 システムの構成 単元 14 システムの評価指標 マルチメディアとヒューマンインタフェース 単元 15 マルチメディア技術 単元 16 ヒューマンインタフェース技術 プロジェクトマネジメント

	単元 17 システム開発技術 単元 18 データ構造とアルゴリズム 単元 19 プログラミング 単元 20 プロジェクトマネジメント サービスマネジメント 単元 21 サーマネジメント 単元 22 システム監査 企業と法務 単元 23 企業活動と組織形態 単元 24 業務把握と業務改善 単元 25 企業会計 単元 26 企業法務 経営戦略 単元 27 経営戦略マネジメント 単元 28 技術戦略マネジメント システム戦略 単元 29 情報システム戦略 単元 30 システム企画
内容	本書は、留学生が情報処理の基礎知識を学習するための入門書である。漢字とカタカナにはふりがなを振り、情報処理に興味をもてるようにイラストを多用して内容が構成している。また、難解な用語の説明もなるべく平易な表現に留めており、わかりやすいテキストを目指して作られている。 さらに、本書に登場する重要な IT 用語に関しては、日本語と外国語の対応表を用意している。そのため、日本語、英語、ベトナム語、中国語、ロシア語でそれぞれの単語が示す言葉を一目でわかることができる。

⑤

書籍名	日本語でできる！外国人のためのパソコンのきほん
著者／編者	深澤のぞみ、濱田美和、後藤寛樹、深川美帆（著）
発行元	株式会社スリーエーネットワーク
価格	1,500 円＋税
対象	外国人一般
目次	1 日本語で入力しよう

	(日本語入力の基本を知る；ひらがなを入力する；カタカナを入力する；漢字を入力する；英語や数字を入力する；記号を入力する) 2 日本語で情報検索をしよう (インターネットの基本を知る；情報を検索する；検索結果を見る；情報を保存する；いろいろな情報検索) 3 日本語でメールを作成しよう (メールの構成を知る；基本のメールを送信する；受信したメールに返信する；メールをほかの人に転送する；メールにファイルを添付する；いろいろなメール) 4 日本語で文書を作成しよう (文書の構成を知る；基本的な文書を作成する；文書に表を入れる；文書に図を入れる；文書を整える；いろいろな文書) 5 日本語でプレゼンスライドを作成しよう (プレゼンスライドの構成を知る；基本のスライドを作成する；スライドに図や表を入れる；アニメーションを使う；原稿や配布資料を作成する) 付録 情報セキュリティー・情報モラル (情報セキュリティーと個人情報；メールとセキュリティー；著作権)
内容	外国人が日本語でパソコンを使えるように、日本語入力やインターネットなど、日本語の IT の基本的な知識と使い方を解説している書籍である。コンピューターを使う際に注意すべきセキュリティーやマナーといった IT リテラシーについても説明されている。練習問題があるため知識を確認することもできる。英語、中国語、韓国語に対応した語彙リストが付いているため、これらの言語の話者にはさらに分かりやすくなっている。

⑥

書籍名	留学生のためのかんたん Word 入門
著者／編者	榎村麻里子、松下孝太郎、津木裕子、平井智子、山本光、両澤敦子 (著)
発行元	株式会社技術評論社
価格	1,480 円＋税
対象	Word の基本を身につけたい留学生及び留学生に Word を教える先生
目次	1 章 パソコン操作と日本語入力の基本編 1-1 パソコンの種類と起動 1-2 マウスの操作 1-3 Windows の画面とアプリケーションの起動 1-4 キーボードの名称と機能

1-5	ローマ字・ひらがな・漢字
1-6	タッチタイピング
1-7	入力モードと日本語 IME
1-8	ひらがなの入力と漢字変換
2 章	フォルダーやファイル操作の基本編
2-1	ウィンドウの操作
2-2	ファイル／フォルダーの作成と移動
2-3	ファイル／フォルダーの表示の変更
2-4	ファイルの拡張子
3 章	Word 編
3-1	Word の基本
3-1-1	Word の起動と終了，保存フォルダーの作成
3-1-2	Word の画面
3-1-3	「新規文書の作成」と「文書を閉じる」
3-1-4	文書の保存
3-1-5	文書の読み込み
3-1-6	文書の印刷
	練習問題
3-2	入力操作の基本
3-2-1	ひらがなの入力と改行
3-2-2	文節の変更と漢字変換
3-2-3	ひらがなからカタカナ，ローマ字への変換
3-2-4	文字の削除と挿入
3-2-5	文字の検索と置換
3-2-6	文字のコピーと貼り付け
	練習問題
3-3	文字と段落の書式
3-3-1	フォントの設定
3-3-2	段落の設定
3-3-3	行間の設定
3-3-4	インデント
3-3-5	書式のコピーとクリア
	練習問題
3-4	箇条書き
3-4-1	箇条書きの設定
3-4-2	段落番号の設定

3-4-3 箇条書きの設定テクニック
練習問題
3-5 表の作成
3-5-1 表の作成
3-5-2 表のサイズ変更と移動
3-5-3 行や列の追加や削除
3-5-4 セルの結合と文字の配置
3-5-5 表のデザイン
3-5-6 罫線の変更
練習問題
3-6 グラフィック要素 1
3-6-1 ワードアートの挿入
3-6-2 画像の挿入
3-6-3 画像の調整
3-6-4 画像の配置
3-6-5 オンライン画像の挿入
3-7 グラフィック要素 2
3-7-1 スクリーンショット
3-7-2 テキストボックスの挿入
3-7-3 テキストボックスの設定
3-7-4 図形の挿入と設定
練習問題
3-8 グラフィック要素 3
3-8-1 ページの背景色
3-8-2 オンライン画像の挿入
3-8-3 図の体裁とアート効果
3-8-4 図形の書式
練習問題
3-9 はがきの作成
3-9-1 はがき（文面）の作成
3-9-2 はがき（宛名面）の作成
3-9-3 差し込み印刷
練習問題
3-10 スマートアート
3-10-1 スマートアートの使い方
3-10-2 デザインの変更

	3-10-3 図形の追加 練習問題 3-11 レイアウトの工夫 3-11-1 ページ区切り 3-11-2 段組み 3-11-3 段区切り 3-11-4 セクション区切り 練習問題 3-12 長文の作成に便利な機能 3-12-1 スタイルと見出し 3-12-2 目次の作成 3-12-3 表紙の作成 3-12-4 ドロップキャップ 練習問題 3-13 グリーティングカード 3-13-1 ページの向きと背景 3-13-2 オンライン画像の挿入 3-13-3 図の挿入とテキストの追加 練習問題 3-14 文書作成の応用例 1 3-14-1 ページ設定 3-14-2 テキストの挿入 3-14-3 書式の設定 3-14-4 箇条書きの設定 3-14-5 文字の配置 練習問題 3-15 文書作成の応用例 2 3-15-1 ヘッダーとフッターの設定 3-15-2 表の挿入 3-15-3 表の編集 3-15-4 表のデータ入力 3-15-5 表のスタイル設定 練習問題
内容	本書は、留学生のための Word の簡単な入門書である。日本語教育機関を卒業したレベルの留学生が対象となっている。漢字が得意ではない学生のために、はっきりとした見やすい総ルビになっている。また、練習問題で入

	力する文字にもすべてふりがなを振ってある。 Word の学習では、文書を作りながら学べるよう、豊富なサンプルと練習問題を用意している。サンプルは現役の専門学校と大学の先生による教材のため、Word の学習はもちろん、日本の習慣やマナーなどの身近で役立つ例になっている。また、日本語のローマ字対応表、IME、キーボードやパソコン操作の基本も盛り込んであるため、日本語でパソコンを使うための入門書としても使うことができる。
--	---

⑦

書籍名	留学生のためのかんたん Excel 入門
著者／編者	煤村麻里子、松下孝太郎、津木裕子、平井智子、山本光、両澤敦子（著）
発行元	株式会社技術評論社
価格	1,480 円＋税
対象	Excel の基本を身につけたい留学生、留学生に Excel を教える先生
目次	1 章 パソコン操作と日本語入力の基本編 1-1 パソコンの種類と起動 1-2 マウスの操作 1-3 Windows の画面とアプリケーションの起動 1-4 キーボードの名称と機能 1-5 ローマ字・ひらがな・漢字 1-6 タッチタイピング 1-7 入力モードと日本語 IME 1-8 ひらがなの入力と漢字変換 2 章 フォルダーやファイル操作の基本編 2-1 ウィンドウの操作 2-2 ファイル／フォルダーの作成と移動 2-3 ファイル／フォルダーの表示の変更 2-4 ファイルの拡張子 3 章 Excel 編 3-1 Excel の基本 3-1-1 Excel の起動と終了、保存フォルダーの作成 3-1-2 Excel の画面 3-1-3 シートの作成と削除 3-1-4 ブックの保存 3-1-5 ブックの読み込み 3-1-6 シートの印刷

3-1-7 テンプレート
練習問題
3-2 セル操作の基本
3-2-1 セルとシートの基本
3-2-2 データの入力と修正
3-2-3 データの消去, セルの削除・挿入
3-2-4 データのコピーと移動
3-2-5 オートフィル
3-2-6 セルの表示形式
練習問題
3-3 セルの編集
3-3-1 表示形式
3-3-2 配置
3-3-3 フォント
3-3-4 罫線
3-3-5 塗りつぶし
練習問題
3-4 表の編集
3-4-1 表のスタイル (書式) 設定
3-4-2 テーブルの並べ替えと解除
3-4-3 条件付き書式
3-4-4 表の検索と置換
練習問題
3-5 式と計算の基本
3-5-1 式の入力と計算
3-5-2 合計の計算
3-5-3 関数を使った合計の計算
3-5-4 平均の計算
3-5-5 スパークライン
練習問題
3-6 相対参照・絶対参照
3-6-1 相対参照
3-6-2 絶対参照
3-6-3 複合参照
練習問題
3-7 表の式と計算

3-7-1	割合の計算
3-7-2	達成率の計算
	練習問題
3-8	グラフ機能
3-8-1	円グラフの作成
3-8-2	グラフの移動とサイズ変更
3-8-3	グラフの色やレイアウト, スタイルの変更
	練習問題
3-9	棒グラフ
3-9-1	棒グラフの作成
3-9-2	棒グラフの種類や表示の変更
3-9-3	グラフシート
	練習問題
3-10	折れ線グラフ・箱ひげ図
3-10-1	折れ線グラフの作成
3-10-2	箱ひげ図
	練習問題
3-11	シート間の参照と画像・図形の挿入
3-11-1	別シートのセルを参照
3-11-2	コメントの挿入と削除
3-11-3	画像の挿入
3-11-4	図形の挿入
	練習問題
3-12	関数と数式の基本
3-12-1	関数の基本
3-12-2	合計
3-12-3	平均
3-12-4	最大
3-12-5	最小
	練習問題
3-13	条件分岐と論理式
3-13-1	IF 関数と条件分岐
3-13-2	IFS 関数と複数の条件分岐
3-13-3	COUNTIF 関数
	練習問題
3-14	データの抽出

	3-14-1 リスト形式 3-14-2 フィルターの設定と解除 3-14-3 データの抽出と解除 3-14-4 いろいろな抽出方法 3-14-5 複数項目のデータの抽出 練習問題 3-15 データの並べ替え 3-15-1 リスト形式 3-15-2 データの並べ替え 3-15-3 複数項目の並べ替え 練習問題
内容	本書は、留学生のための Excel の簡単な入門書である。先に挙げた『留学生のためのかんたん Word 入門』と同様に、日本語教育機関を卒業したレベルの留学生が対象となっている。漢字が得意ではない学生のために、はっきりとした見やすい総ルビになっている点、練習問題で入力する文字にもすべてふりがなを振ってある点なども同じである。 Excel の内容だけではなく、日本語のローマ字対応表、IME、キーボードやパソコン操作の基本も盛り込んであるため、Word のものと同様に、日本語でパソコンを使うための入門書としても使うことができる。

⑧

書籍名	留学生のためのかんたん Word/Excel/PowerPoint 入門
著者／編者	榎村麻里子、松下孝太郎、津木裕子、平井智子、山本光、両澤敦子（著）
発行元	株式会社技術評論社
価格	1,980 円＋税
対象	Office の基本を身につけたい留学生，留学生に Office を教える先生
目次	1 章 パソコンや入力操作の基本編 1-1 パソコンの種類と起動 1-2 マウスの操作 1-3 Windows の画面とアプリケーションの起動 1-4 キーボードの名称と機能 1-5 ローマ字・ひらがな・漢字 1-6 タッチタイピング 1-7 入力モードと日本語 IME 1-8 ひらがなの入力と漢字変換 2 章 フォルダーやファイル操作の基本編

2-1	ウィンドウの操作
2-2	ファイル／フォルダーの作成と移動
2-3	ファイル／フォルダーの表示の変更
2-4	ファイルの拡張子
3 章	Word 編
3-1	Word の基本
3-1-1	Word の起動と終了，保存フォルダーの作成
3-1-2	Word の画面
3-1-3	「新規文書の作成」と「文書を閉じる」
3-1-4	文書の保存
3-1-5	文書の読み込み
3-1-6	テンプレート
3-1-7	文書の印刷
3-2	入力操作の基本
3-2-1	ひらがなの入力と改行
3-2-2	文節の変更と漢字変換
3-2-3	ひらがなからカタカナ，ローマ字への変更
3-2-4	文字の削除と挿入
3-2-5	文字の検索と置換
3-2-6	文字のコピーと貼り付け
3-3	書式設定
3-3-1	文字の書式
3-3-2	段落の書式
3-3-3	書式のコピーとクリア
3-3-4	箇条書きと段落番号の設定
3-3-5	段組み
3-3-6	ヘッダーとフッターの設定
3-4	表の作成
3-4-1	表の作成
3-4-2	表の操作
3-4-3	表のデザイン
3-4-4	Excel との連携
3-5	グラフィック要素 1
3-5-1	ワードアートの挿入
3-5-2	画像の書式設定
3-5-3	画像の挿入と配置

3-5-4	スマートアートの挿入
3-6	グラフィック要素 2
3-6-1	テキストボックスの挿入と設定
3-6-2	図形の挿入と設定
3-6-3	図形の応用
4 章	Excel 編で学ぶ内容
4-1	Excel の基本
4-1-1	Excel の起動と終了, 保存フォルダーの作成
4-1-2	Excel の画面
4-1-3	シートの作成と削除
4-1-4	ブックの保存
4-1-5	ブックの読み込み
4-1-6	テンプレート
4-1-7	シートの印刷
4-2	セル操作の基本
4-2-1	セルとシートの基本
4-2-2	データの入力と修正
4-2-3	データの消去, セルの削除・挿入
4-2-4	データのコピーと移動
4-2-5	オートフィル
4-2-6	セルの表示形式
4-3	表の作成と編集
4-3-1	配置
4-3-2	フォント
4-3-3	罫線
4-3-4	塗りつぶし
4-3-5	表のスタイル
4-3-6	表の検索と置換
4-3-7	表の並べ替えとテーブルの削除
4-4	数式と参照
4-4-1	合計の計算
4-4-2	関数を使った合計や平均の計算
4-4-3	相対参照
4-4-4	絶対参照
4-4-5	複合参照
4-5	グラフ機能と素材の挿入

4-5-1	円グラフの作成
4-5-2	グラフの移動とサイズ変更
4-5-3	グラフの色やレイアウト, スタイルの変更
4-5-4	棒グラフの作成
4-5-5	グラフの種類や表示の変更
4-5-6	画像, 図形, オンライン画像の挿入
4-6	関数
4-6-1	関数の基本
4-6-2	合計
4-6-3	平均
4-6-4	最大
4-6-5	最小
4-6-6	IF 関数と条件分岐
4-6-7	IFS 関数と複数の条件分岐
5 章	PowerPoint 編で学ぶ内容
5-1	PowerPoint の基本
5-1-1	PowerPoint の起動と終了, 保存フォルダーの作成
5-1-2	PowerPoint の画面
5-1-3	スライドの追加と削除
5-1-4	テンプレート
5-1-5	スライドショー
5-1-6	プレゼンテーションの保存
5-1-7	プレゼンテーションの読み込み
5-1-8	スライドの印刷
5-2	素材の利用
5-2-1	スライドのデザイン
5-2-2	画像の挿入
5-2-3	図形やテキストボックスの挿入
5-2-4	SmartArt
5-2-5	ヘッダーとフッター
5-3	メディアの利用とアニメーション効果
5-3-1	オーディオの利用
5-3-2	アニメーション効果
5-3-3	Excel との連携
5-3-4	ビデオの利用
5-3-5	スライドを切り替えるときの効果

内容	本書は外国人留学生を対象とした Office アプリケーションの入門書である。その中でも、大学や専門学校の学生が頻繁に使用する代表的な Word、Excel、PowerPoint の使い方の基礎を一冊に収め、ひと通り学ぶことができるようになっている。対象は、日本語教育機関を卒業し、高等教育機関に進学したレベルの日本語力を持っている留学生である。 本書は 15 回の授業を想定した構成になっているため、専門学校や大学の半期分で使いやすい構成になっている。先に挙げた 2 冊と同様に、はっきりとした見やすい総ルビで、漢字の苦手な読者をサポートしている。また、練習問題で入力する文字にも、ふりがなを振ってある。Office 文書を作りながら学べるよう、サンプルと練習問題も豊富である。また、ローマ字対応表、IME、キーボードやパソコン操作の基本も盛り込んでいるので、パソコンの入門書としても使える。
----	--

⑨

書籍名	留学生のための PowerPoint 2016 ワークブック ルビ付き
著者／編者	相澤裕介
発行元	株式会社カットシステム
価格	900 円＋税
対象	日本語を学習中で、PowerPoint を学ぶ留学生
目次	Step 01 タイトル スライドの作成 Step 02 ファイルの保存と読み込み Step 03 PowerPoint の画面構成 Step 04 スライドの追加と箇条書き Step 05 スライドのデザイン Step 06 文字の書式指定 (1) Step 07 文字の書式指定 (2) Step 08 段落の書式指定 (1) Step 09 段落の書式指定 (2) Step 10 スライドとコンテンツの領域の操作 Step 11 画像や動画の挿入 Step 12 表の作成と編集 (1) Step 13 表の作成と編集 (2) Step 14 表の作成と編集 (3) Step 15 グラフの作成と編集 (1) Step 16 グラフの作成と編集 (2) Step 17 グラフの作成と編集 (3)

	Step 18 SmartArt の作成と編集 (1) Step 19 SmartArt の作成と編集 (2) Step 20 SmartArt の作成と編集 (3) Step 21 図形の描画 Step 22 テキストボックスの活用 Step 23 スライドショーとリハーサル Step 24 画面切り替えの指定 Step 25 アニメーションの指定 Step 26 配布資料の作成 Step 27 発表用原稿の作成 Step 28 ヘッダーとフッター Step 29 発表者ビューの操作 Step 30 数式の入力
内容	研究成果などの発表を行うときは、スライドを提示しながら発表内容を説明していくのが一般的である。ただし、このような発表を行うには、事前にスライドを作成しておく必要がある。このスライド作成に使用するソフトウェアである PowerPoint を使って表やグラフ、図表などを手軽に作成できるようにするための教材が本書である。本書は必要な内容を 30 ステップに分け、1 日 1 ステップずつでも無理なく覚えられるワークブック形式になっている。また、1 ステップごとに演習問題を付けてあるので、自分の学習力が確認でき、PowerPoint 学習のはじめの一步に最適である。ルビが振ってあるため、漢字が苦手な留学生にも読みやすくなっている。

⑩

書籍名	留学生のための Python [基礎編] ワークブック ルビ付き
著者／編者	滝澤成人
発行元	株式会社カットシステム
価格	900 円＋税
対象	Python を学びたい留学生
目次	Step 01 Python とは Step 02 四則演算 Step 03 変数 Step 04 組み込み型 文字列① Step 05 組み込み型 文字列② Step 06 組み込み型 リスト① Step 07 組み込み型 リスト②

	Step 08 組み込み型 タプル Step 09 組み込み型 辞書 Step 10 組み込み型 集合 Step 11 組み込み型 まとめ Step 12 条件分岐 if 文① Step 13 条件分岐 if 文② Step 14 繰り返し for 文① Step 15 繰り返し for 文② Step 16 繰り返し while 文 Step 17 関数① Step 18 関数② Step 19 関数③ Step 20 クラス① Step 21 クラス② Step 22 クラス③ Step 23 モジュール Step 24 パッケージ Step 25 入出力 Step 26 例外 Step 27 ライブラリ Step 28 迷路アプリケーション① Step 29 迷路アプリケーション② Step 30 迷路アプリケーション③ 付録 A Python のインストール 付録 B 対話モードで実行する 付録 C Python スクリプトの実行
内容	本書は日本語を学習中で、Python を学ばれる人に向けて、既刊書「情報演習 33 ステップ 30 Python [基礎編] ワークブック」の漢字にルビをふったテキストである。Python の基礎を習得することが目的の書籍となっている。 また、すでに他の Python 入門書籍・サイト・ビデオなどで学習していて、それら学習内容の定着具合を確かめたい人にも活用可能な教材である。自身の習熟度合い・理解度を客観的に見ることは難しく、プログラムを書いたり読んだり、レビューをもらったり、それらを繰り返して自分に足りない部分を学んでいくのが一般的である。しかし、本書は演習問題が付属したワークブック形式となっているため、習熟度・理解度の確認が容易になっている

	る。
--	----

(2) 日本人を対象とした情報や IT に関する基礎的な教材・書籍・資料等

①

書籍名	社情 311 最新社会と情報 新訂版
著者／編者	監修：山極隆 編修・執筆：岡本敏雄、阿濱茂樹、糸井和宏、岡本尚志、桶 雄一、香山瑞恵、北野堅司、佐藤万寿美、高瀬敏樹、高橋参吉、天良和男、西野和典、西端律子、藤岡健史、布施 泉、山下智之
発行元	実教出版
対象	日本人の高校生
目次	1 章 情報社会と私たち 1 節 情報社会 2 節 情報とメディア 3 節 情報モラルと社会のルール 2 章 情報機器とデジタル表現 1 節 情報機器とデジタル 2 節 デジタル表現 3 章 表現と伝達 1 節 表現の工夫 2 節 表計算ソフトの利用 3 節 プレゼンテーション 4 章 コミュニケーションとネットワーク 1 節 コミュニケーション 2 節 ネットワーク 3 節 情報セキュリティ 5 章 情報社会と問題解決 1 節 情報システムと人間 2 節 問題解決 3 節 情報発信 章末問題解答 用語解説 著作権法

	情報で使用する単位
内容	・情報社会の中で、生徒が、被害者および加害者にならないように、個人情報、著作権、モラルなどについて、身近で具体的な事例をあげながら、わかりやすく解説した。 ・身近な情報システムやコンピュータなどについての仕組みを知ることにより、知識に裏付けられた行動や判断ができるようにした。 ・相手の状況や環境を配慮して、誰もが安心して生活することができる社会に貢献できるような態度を養えるようにした。 ・生徒の習熟度にばらつきが予想される表計算ソフトウェアを基本的な部分から扱った。 ・情報モラルや統計処理などを扱っており、他教科との連携を図れるように配慮した。 ・ソフトウェアを利用する場面などでは、具体的な画面を掲載し、わかりやすく解説をした。

②

書籍名	社情 312 高校社会と情報 新訂版
著者／編者	監修：山極隆 編修・執筆：岡本敏雄、阿濱茂樹、岡本尚志、桶 雄一、香山瑞恵、北野堅司、佐藤万寿美、高瀬敏樹、高橋参吉、天良和男、西野和典、西端律子、藤岡健史、布施 泉、水野修治、山下智之
発行元	実教出版
対象	日本人の高校生
目次	1 章 情報社会 1 情報と情報社会 2 社会の変化と個人の責任 3 情報社会の問題 4 個人情報とその保護 5 メディアとその特徴 6 メディアリテラシー Supplement コンピュータの発達 Supplement コンピュータの構成 2 章 コミュニケーション 1 コミュニケーション 2 電子メールの利用

	3 ネットワーク 4 共通の取り決め 5 インターネットの仕組み 6 Web ページの閲覧とメールの仕組み 7 インターネットを利用したサービス - Supplement 社会の中の情報システム 8 情報の共有化と合意形成 - Supplement 人に優しい情報技術
	3 章 情報安全 1 個人による安全対策 2 組織による安全対策 3 安全のための情報技術 4 暗号化 - Supplement PLUS 暗号化の仕組み 5 法規による安全対策 6 知的財産権の概要と産業財産権 7 著作権 8 著作物の利用
	4 章 デジタル化 1 デジタル情報の特徴 2 静止画像の扱い 3 数値や文字の表し方 4 音のデジタル化 5 色のデジタル表現 6 画像のデジタル化 - Supplement PLUS 動画と立体表現 7 圧縮の種類 8 圧縮の仕組み 9 さまざまな計算
	5 章 問題解決 1 問題を解決するには 2 情報の収集 - Supplement 検索と論理演算

	3 情報の整理と管理 4 分析のための工夫 5 関数と統計 6 表とグラフの活用 7 分析の実際 8 問題解決の実際 Supplement 論理的な文章構成 Supplement 表現の工夫 9 プレゼンテーションの方法 10 Web ページによる情報発信 巻末資料
内容	学習要素が一般論で説明されていて、特定のコンピュータやアプリケーションソフトに依存していない。例題や事例が豊富である。個人情報、著作権、モラルなどについて、身近で具体的な事例をあげながら、わかりやすく解説している。クラウドコンピューティングやビッグデータなど最近の話題・興味深い話題が盛り込まれている。「POINT」で重要事項がまとめられている。内容を補足したり関連したりする事柄が「参考」として掲載されている。

③

書籍名	情科 307 最新情報の科学 新訂版
著者／編者	監修：山極隆 編修・執筆：岡本敏雄、阿濱茂樹、岡本尚志、桶 雄一、香山瑞恵、北野堅司、佐藤万寿美、高瀬敏樹、高橋参吉、天良和男、西野和典、西端律子、藤岡健史、布施 泉、水野修治、山下智之
発行元	実教出版
対象	日本人の高校生
目次	序章 情報社会と私たち 1 章 情報とコンピュータ 1 節 情報の表し方 2 節 コンピュータでのデジタル表現 3 節 コンピュータの仕組み 2 章 ネットワークの仕組みと情報システム

	1 節 ネットワークの仕組み 2 節 情報システムと情報セキュリティ 3 章 問題解決のためのコンピュータ活用 1 節 問題解決 2 節 アルゴリズム 3 節 モデル化とシミュレーション 4 章 ネットワークとデータベースの活用 1 節 ネットワークの活用 2 節 データベース 5 章 情報技術と社会 1 節 情報化による生活の変化 2 節 情報技術による社会の発展 巻末資料
内容	ソフトウェアを利用する場面などでは，具体的な画面が掲載されていてわかりやすい。 豊富な図版による展開で，理解しやすい。 例題の解説に「考え方」「考察」が適宜入っており，ポイントがわかりやすい。 中学校での進度に配慮し，復習を兼ねて，コンピュータの仕組みについて掲載されている。 情報倫理や統計処理などを扱っており，他教科のとの連携を図りやすい。

④

書籍名	情科 308 情報の科学 新訂版
著者／編者	監修：山極隆 編修・執筆：岡本敏雄、阿濱茂樹、岡本尚志、桶 雄一、香山瑞恵、北野堅司、佐藤万寿美、高瀬敏樹、高橋参吉、天良和男、西野和典、西端律子、藤岡健史、布施 泉、山下智之
発行元	実教出版
対象	日本人の高校生
目次	1 章 情報とコンピュータ 1 図形をデジタル化してみよう

	2 図形を数値化して伝達しよう 3 カラー画像について調べてみよう 4 画像サイズについて考えてみよう
	2章 ネットワーク 5 旗を使って情報を送ろう 6 遠くて正確な伝達方法を考えてみよう 7 送信情報のエラーを見つけて正しくしよう
	3章 アルゴリズムとプログラム 8 パズルを解く手順を考えてみよう 9 コンピュータでパズルを解く手順を考えてみよう 10 数あてゲームを作って遊ぼう 11 操作手順を記録してみよう
	4章 モデル化とシミュレーション 12 徒歩案内図を作ってみよう 13 用意する釣銭の枚数を決めよう
	5章 データベース 14 条件に合うデータを効率よく探してみよう 15 モノや情報の管理について考えてみよう
	6章 問題解決 16 みんなでたくさんのアイデアを出してみよう 17 質問紙調査をしてみよう
	7章 情報システム 18 チケットや商品購入時の情報の流れについて考えてみよう
	8章 セキュリティ 19 情報セキュリティを高める方法を考えよう 20 暗号を作ろう
	9章 情報社会の発展と知的財産権 21 見やすい情報を作成しよう

	【ステップ編】 1 章 情報とコンピュータ 1 情報と情報量 2 デジタル化 3 ハードウェアとソフトウェア 2 章 ネットワーク 1 ネットワークとは 2 プロトコル 3 インターネットの仕組み 4 インターネットのサービスの仕組み 3 章 アルゴリズムとプログラム 1 アルゴリズム 2 アルゴリズムの応用 4 章 モデル化とシミュレーション 1 モデル化 2 シミュレーション 5 章 データベース 1 データベースとは 2 データベースの概要 3 データベースの特徴 6 章 問題解決 1 問題解決の方法と手順 2 問題解決の手法 3 情報の収集 4 データの分析 5 解決案と実施・評価 7 章 情報システム 1 情報システムとは
--	--

	2 提供する情報と提供されるサービス 3 サービスの活用と課題 8章 セキュリティ 1 情報社会の安全を脅かすもの 2 セキュリティ技術 3 安全を確保するための法律 9章 情報社会の発展と知的財産権 1 情報技術の進展と生活 2 知的財産権 3 よりより情報社会をめざす 【ジャンプ編】 1章 情報とコンピュータ 1 10進数・2進数・16進数の特徴と関係を探る 2 論理演算とはどのような演算か考える 3 標本化周波数や音声・画像のデータ量を計算する 2章 ネットワーク 4 エラー検出で変化したデータを探す 3章 アルゴリズムとプログラム 5 パズルを解くプログラムを作成する 4章 モデル化とシミュレーション 6 最大の利益が得られる値段を設定する 7 席替えで公平に席を決める 5章 データベース 8 データベースで部活動登録を管理する 8章 セキュリティ 9 暗号作成ツールを作る
内容	ソフトウェアを利用する場面などでは、具体的な画面が掲載されていてわ

	かりやすい。 パズルなどの生徒が興味をもつ題材で展開されており，楽しみながら自発的に学習できるよう配慮されている。 豊富な図版による展開で，理解しやすい。 実習課題や例題の解説には「まとめ」や「考察」が入っており，ポイントがわかりやすい。 中学校での進度に配慮し，復習を兼ねて，コンピュータの仕組みについて掲載されている。 情報論理等については，他教科との連携を図りやすい。 コンピュータを使わない実習は，紙ボール・コイン等の準備だけで，特別な機材の必要がない。
--	--

⑤

書籍名	高等学校情報教科書（新課程）社会と情報
著者／編者	本郷 健 松原 伸一 ほか 12 名
発行元	開隆堂出版
対象	日本人の高校生
目次	もくじ 情報社会とわたしたち ①情報とわたしたちの生活 ②情報 ③メディア 1 情報モラル ①社会にあふれる情報 ②情報化の影響と課題 ③情報の信ぴょう性と信頼性 ④情報の信ぴょう性と信頼性の評価 2 コミュニケーション ①コミュニケーションとその過程 ②コミュニケーション手段の歴史 ③通信サービスによるコミュニケーション ④効果的なコミュニケーション手段の選択 3 デジタル化 ①デジタル情報 ②情報の量の基本単位 ③数値や文字の表現方法

	④音のデジタル化の方法 ⑤画像のデジタル化の方法 ⑥動画の表現方法 ⑦大容量のデータを扱うときの技術 ⑧デジタル化された情報の特徴 4 情報の表現と伝達 ①情報の伝達 ②情報の収集と加工・統合 ③情報の表現の工夫 ④表現した情報の評価と改善 ⑤適切な情報の伝達 5 情報通信ネットワーク ①情報通信ネットワーク ②情報通信ネットワークのきまり ③データの道のり ④インターネット上のサービスのしくみ 6 情報セキュリティ ①セキュリティの確保 ②事故や災害，犯罪への対応 ③ネットワークのセキュリティ対策 7 情報社会における法 ①知的財産権 ②著作権の適切な利用 ③プライバシーと法 ④情報社会を支えるさまざまな法 8 情報システム ①産業における情報システム ②交通の情報システム ③防災の情報システム ④そのほかの情報システム ⑤情報システムの連携 9 問題解決 ①問題と問題解決 ②問題解決の流れ 望ましい情報社会へ ①情報システムの恩恵と課題
--	---

	②情報社会を創造するわたしたち 2 進数の計算・ディベート 法令集 用語集 タブレット端末の各部名称と基本操作の例 キーボード配列、キーの読み
内容	◎START「情報社会とわたしたち」を全体の導入とし、これからの学習の前提となる知識や考え方を学習できるよう配慮されている。 ◎UNIT 1「情報モラル」、UNIT 6「情報セキュリティ」、UNIT 7「情報社会における法」では、情報社会を安全で快適に生きるためのルールやモラル、セキュリティについて、質、量ともに充実した内容が体系的に記述されている。また、具体的な事例を織り込みながら生徒が主体的に考えられるようになっている。 ◎UNIT 2「コミュニケーション」では、さまざまなコミュニケーション手段の特徴を理解したうえで、例題を通して状況に応じて適切な手段を選択する力が身につくように配慮されている。 ◎UNIT 3「デジタル化」では、デジタル化に関する内容を図や表を用いながらコンパクトに学習できるように構成されている。 ◎UNIT 4「情報の表現と伝達」では、目的と場面に応じて情報を適切にかつ効果的に表現できるように、プレゼンテーションを通して学習できるように考えられている。 ◎UNIT 5「情報通信ネットワーク」では、情報社会を支えている情報通信ネットワークの基礎的な技術について幅広く取り上げて説明されており、情報社会へ参画する際に必要十分な知識を学べるように配慮されている。 ◎UNIT 8「情報システム」では、社会で活用されている情報システムに関して身近な例を中心に理解できるように配慮されている。 ◎UNIT 9「問題解決」では、問題解決に関する内容を、例題を通して無理なく自然に学習ができるように工夫されている。 ◎GORL「望ましい情報社会へ」では、情報社会の在り方やそこに内在する課題を取り上げ、情報通信ネットワークや資料などを活用して討議しながら、情報化が社会に及ぼす影響についての認識を深める学習ができる工夫がされている。

⑥

書籍名	社会と情報 Next
著者／編者	坂村健、越塚登、重定如彦、清水謙多郎、加納寛子

	大橋真也、志賀潔、武沢護、滑川敬章、松本吉生
発行元	数研出版
対象	日本人の高校生
目次	第1章 情報とメディアの特徴 第2章 コンピュータの活用 第1章 人・社会とのかかわり 第2章 技術とのかかわり 第3章 法とのかかわり 第1章 情報のデジタル表現 第2章 情報の表現と伝達 第1章 コミュニケーション手段の発達 第2章 インターネットのしくみ 第1章 情報社会における問題解決 第2章 情報システム
内容	情報モラル・セキュリティ、デジタル情報と情報の活用が特に重視されており、実践的な能力が養えるよう実習が豊富に盛り込まれた教科書である。また、情報の処理や表現の実践力を身に付けるために、本文にプレゼンテーション、表計算ソフトウェアの使い方を掲載し、それらを利用する編末の実習も充実している。 著作権の必要性・アナログとデジタルなど、表面的な説明ではなく、原理や理由が論理的にいていねいに記述されており、知識がしっかりと身につくようになっている。 本文の内容は、見開き単位で極めて簡潔な文章でまとめ、主に図解によって、詳細を説明しているので、生徒は興味を持続させながら学習できる。

⑦

書籍名	改訂版 高等学校 社会と情報
著者／編者	坂村健、越塚登、重定如彦、清水謙多郎、加納寛子、大橋真也、志賀潔、武沢護、滑川敬章、松本吉生、赤松正人、阿部英一、氏家悟、奥野康弘、近藤雅文、白石紳一、神能佳子、長岐孝一、中澤透
発行元	数研出版
対象	日本人の高校生
目次	序編 第1章 A 情報とは何か B 情報源と情報の検証 第2章 A 情報の表現・伝達と発信 B メディアの変換

	第1編	第3章	A	アナログとデジタル
			B	アナログ情報とデジタル情報の特徴
		第4章	A	インターネットの特性
			B	インターネットの活用
		第1章	A	情報社会が人に及ぼす影響
			B	インターネットでのコミュニケーション
			C	ネットトラブル
			D	ネット詐欺
			E	電子メールによるコミュニケーション
		第2章	A	情報セキュリティ
			B	セキュリティ対策のための情報技術
			C	コンピュータウイルス
			D	情報の流出とサイバー攻撃
	第2編	第3章	A	知的財産権
			B	情報社会と個人の権利
		第1章	A	コンピュータの構成
			B	ソフトウェア
		第2章	A	デジタル情報の表現
			B	数のデジタル表現
			C	文字のデジタル表現
			D	音のデジタル表現
			E	画像のデジタル表現
			F	動画のデジタル表現
			G	データの圧縮
		第3章	A	情報の発信とメディア
			B	情報発信時の注意点
			C	表現の工夫
		第4章	A	プレゼンテーションとは
			B	プレゼンテーションの流れと注意点
	第3編	第1章	A	通信とその進展
			B	マスコミュニケーションの進展
		第2章	A	コンピュータネットワーク
			B	情報の伝達手段と表現形式
			C	パケット通信
			D	通信の信頼性
			E	IPアドレスとドメイン名

	F WWW のしくみと URL G 電子メールの送受信のしくみ 第 4 編 第 1 章 A 情報技術の発達と情報の爆発 B ユビキタスコンピューティング C あらゆるところに組みこまれるコンピュータ D 通信技術の発達と私たちの生活 E ユーザビリティとアクセシビリティ F ユニバーサルデザイン 第 2 章 A 問題解決のプロセス B データの分析
内容	情報の科学的理解, 情報モラル・セキュリティ, インターネットのしくみが特に重視されており, 実践的な知識と能力が養える教科書である。また, コミュニケーション力を重視しており, プレゼンテーションに関する記述も充実している。 著作権の必要性・アナログとデジタルなど, 表面的な説明ではなく, 原理や理由が論理的にいていねいに記述されており, 知識がしっかりと身につくようになっている。 実践力を養うときに必要なアプリケーションの使い方も, 簡潔にまとめて巻末で扱っており, パソコンの使用経験の異なる生徒にも十分に対応できるようになっている。

⑧

書籍名	改訂版 高等学校 情報の科学
著者／編者	坂村健、越塚登、重定如彦、清水謙多郎、加納寛子、大橋真也、志賀潔、武沢護、滑川敬章、松本吉生、赤松正人、阿部英一、氏家悟、奥野康弘、近藤雅文、白石紳一、長岐孝一、中澤透
発行元	数研出版
対象	日本人の高校生
目次	序編 第 1 章 A 情報とは何か B 情報源と情報の検証 第 2 章 A 情報の表現・伝達と発信 B メディアの変換 第 3 章 A アナログとデジタル B アナログ情報とデジタル情報の特徴 第 4 章 A インターネットの特性 B インターネットの活用

	第 1 編	第 1 章	A	コンピュータの構成
			B	ソフトウェア
		第 2 章	A	デジタル情報の表現
			B	数のデジタル表現
			C	文字のデジタル表現
			D	音のデジタル表現
			E	画像のデジタル表現
			F	動画のデジタル表現
			G	データの圧縮
	第 2 編	第 1 章	A	通信とその進展
			B	マスコミュニケーションの進展
		第 2 章	A	コンピュータネットワーク
			B	情報の伝達手段と表現形式
			C	パケット通信
			D	通信の信頼性
			E	IP アドレスとドメイン名
			F	WWW のしくみと URL
			G	電子メールの送受信のしくみ
	第 3 編	第 1 章	A	問題解決のプロセス
			B	モデル化
			C	データの分析
		第 2 章	A	アルゴリズムとプログラミング
			B	シミュレーション
		第 3 章	A	データベース
			B	データベースの管理
	第 4 編	第 1 章	A	情報技術の発達と情報の爆発
			B	ユビキタスコンピューティング
			C	あらゆるところに組みこまれるコンピュータ
			D	通信技術の発達と私たちの生活
			E	ユーザビリティとアクセシビリティ
			F	ユニバーサルデザイン
		第 2 章	A	情報社会が人に及ぼす影響
			B	インターネットでのコミュニケーション
			C	ネットトラブル
			D	ネット詐欺
			E	電子メールによるコミュニケーション

	第3章 A 情報セキュリティ B セキュリティ対策のための情報技術 C コンピュータウイルス D 情報の流出とサイバー攻撃 第4章 A 知的財産権 B 情報社会と個人の権利
内容	情報の科学的理解, 情報モラル・セキュリティ, インターネットのしくみが特に重視されており, 実践的な知識と能力が養える教科書である。情報モラルに関しても, 社会と情報と同程度に詳しく, ていねいに扱われている。著作権の必要性・アナログとデジタルなど, 表面的な説明ではなく, 原理や理由が論理的に ていねいに記述されており, 知識がしっかりと身につくようになっている。 実習などで使う表計算ソフトウェアの使い方も, 巻末で簡潔に扱っており, パソコンの使用経験の異なる生徒にも十分に対応できるようになっている。

⑨

書籍名	高等学校 社会と情報
著者／編者	坂村健、越塚登、重定如彦、清水謙多郎、加納寛子、大橋真也、志賀潔、武沢護、滑川敬章、松本吉生、赤松正人、阿部英一、氏家悟、奥野康弘、近藤雅文、白石紳一、神能佳子、長岐孝一、中澤透
発行元	数研出版
対象	日本人の高校生
目次	序編 第Ⅰ章 A 集中から分散へ B 情報の爆発と情報流通のスピード化 C あらゆるところにうめこまれるコンピュータ D 社会, 経済の効率化 E 安心, 安全の実現 第Ⅱ章 A 情報とは何か B 情報の信頼性と検証 第Ⅲ章 A サーチエンジン B インターネット上の百科事典 C インターネット上のさまざまな情報の検索 第Ⅳ章 A 情報の表現 B 失われる情報・つけ加わる情報 C いろいろなメディアとその意味

	第 1 編	第 1 章	A	情報社会が人に及ぼす影響
			B	ネットトラブル
			C	ネット詐欺
			D	コンピュータウイルス
		第 2 章	A	情報セキュリティ
			B	情報セキュリティを高めるために
			C	情報の流出とセキュリティ対策
		第 3 章	A	知的財産権
			B	情報社会の個人の責任と法律
	第 2 編	第 1 章	A	アナログとデジタル
			B	アナログ情報とデジタル情報の特徴
		第 2 章	A	コンピュータの構成
			B	ハードウェア
			C	ソフトウェア
		第 3 章	A	デジタル情報の表現
			B	数のデジタル表現
			C	文字のデジタル表現
			D	音のデジタル表現
			E	画像のデジタル表現
			F	動画のデジタル表現
			G	データの圧縮
		第 4 章	A	情報の発信とメディア
			B	情報発信時の注意点
			C	表現の工夫
			D	プレゼンテーション
	第 3 編	第 1 章	A	通信とその進展
			B	マスコミュニケーションの進展
			C	コンピュータによる通信
			D	新しいコミュニケーション
		第 2 章	A	通信プロトコル
			B	インターネットの通信プロトコル
			C	ネットワークインタフェース層のとり決め
			D	パケット通信
			E	通信の信頼性
			F	IP アドレスとドメイン名

	G インターネットのパケット通信のしくみ H 電子メールの送受信のしくみ I WWW のしくみと URL 第 3 章 A インターネットの特性 B インターネットの活用と注意点 C 電子メールの活用と注意点 第 4 編 第 1 章 A ユーザビリティとアクセシビリティ B ユニバーサルデザイン 第 2 章 A 問題解決のプロセス
内容	情報の科学的理解, 情報モラル・セキュリティ, インターネットのしくみが特に重視されており, 実践的な知識と能力が養える教科書である。また, コミュニケーション力を重視しており, プレゼンテーションに関する記述も充実している。 著作権の必要性・アナログとデジタルなど, 表面的な説明ではなく, 原理や理由が論理的にいていねいに記述されており, 知識がしっかりと身につくようになっている。 実践力を養うときに必要なアプリケーションの使い方も, 簡潔にまとめて巻末で扱っており, パソコンの使用経験の異なる生徒にも十分に対応できるようになっている。

⑩

書籍名	高等学校 情報の科学
著者／編者	坂村健、越塚登、重定如彦、清水謙多郎、加納寛子、大橋真也、志賀潔、武沢護、滑川敬章、松本吉生、赤松正人、阿部英一、氏家悟、奥野康弘、近藤雅文、白石紳一、神能佳子、長岐孝一、中澤透
発行元	数研出版
対象	日本人の高校生
目次	序編 第 I 章 A 集中から分散へ B 情報の爆発と情報流通のスピード化 C あらゆるところにうめこまれるコンピュータ D 社会, 経済の効率化 E 安心, 安全の実現 第 II 章 A 情報とは何か B 情報の信頼性と検証 第 III 章 A サーチエンジン B インターネット上の百科事典

		C インターネット上のさまざまな情報の検索
	第Ⅳ章	A 情報の表現
		B 失われる情報・つけ加わる情報
		C いろいろなメディアとその意味
第 1 編	第 1 章	A 情報社会が人に及ぼす影響
		B ネットトラブル
		C ネット詐欺
		D コンピュータウイルス
	第 2 章	A 情報セキュリティ
		B 情報セキュリティを高めるために
		C 情報の流出とセキュリティ対策
	第 3 章	A 知的財産権
		B 情報社会の個人の責任と法律
第 2 編	第 1 章	A アナログとデジタル
		B アナログ情報とデジタル情報の特徴
	第 2 章	A コンピュータの構成
		B ハードウェア
		C ソフトウェア
	第 3 章	A デジタル情報の表現
		B 数のデジタル表現
		C 文字のデジタル表現
		D 音のデジタル表現
		E 画像のデジタル表現
		F 動画のデジタル表現
		G データの圧縮
	第 4 章	A 情報の発信とメディア
		B 情報発信時の注意点
		C 表現の工夫
		D プレゼンテーション
第 3 編	第 1 章	A 通信とその進展
		B マスコミュニケーションの進展
		C コンピュータによる通信
		D 新しいコミュニケーション
	第 2 章	A 通信プロトコル
	"	
		B インターネットの通信プロトコル

	C ネットワークインタフェース層のとり決め D パケット通信 E 通信の信頼性 F IP アドレスとドメイン名 G インターネットのパケット通信のしくみ H 電子メールの送受信のしくみ I WWW のしくみと URL 第 3 章 A インターネットの特性 B インターネットの活用と注意点 C 電子メールの活用と注意点 第 4 編 第 1 章 A ユーザビリティとアクセシビリティ B ユニバーサルデザイン 第 2 章 A 問題解決のプロセス
内容	情報の科学的理解, 情報モラル・セキュリティ, インターネットのしくみが特に重視されており, 実践的な知識と能力が養える教科書である。情報モラルに関しても, 社会と情報と同程度に詳しく, ていねいに扱われている。 著作権の必要性・アナログとデジタルなど, 表面的な説明ではなく, 原理や理由が論理的に ていねいに記述されており, 知識がしっかりと身につくようになっている。 実践力を養うときに必要なアプリケーションの使い方も, 簡潔にまとめて巻末で扱っており, パソコンの使用経験の異なる生徒にも十分に対応できるようになっている。

⑪

書籍名	新・社会と情報
著者／編者	水越敏行、村井 純、生田孝至、ほか 37 名
発行元	日本文教出版
対象	日本人の高校生
目次	序章：「社会と情報」とは ※オリエンテーション的な位置づけの章です。 情報社会について学ぶ意義 自己評価（情報モラル、基本操作と基礎知識）など 第 1 章：情報社会に生きるわたしたち ※「社会と情報」の冒頭で学習したい生徒の身近な問題と、情報安全に関連する内容を学ぶ章です。

	インターネットの広がり ソーシャルメディア（資料） サイバー犯罪 知的財産、個人情報、プライバシーなど ＋アカデミック・スキルズ（1）「レポートの作成」 第2章：情報社会とデジタル技術 ※情報技術のしくみについて学ぶ章です。 情報のデジタル化 コンピュータネットワークのしくみなど ＋アカデミック・スキルズ（2）「プレゼンテーション」 第3章：情報社会と情報システム ※社会を支える情報システムについて学ぶ章です。「情報の科学」で扱う内容も「資料」の位置づけで扱っています。 情報システム 情報セキュリティ モデル化とシミュレーション（資料） データベースとビッグデータ（資料） アルゴリズムとプログラミング（資料）など ＋アカデミック・スキルズ（3）「数値データの活用」 第4章：情報社会と問題解決 ※問題解決の手順や手法について学ぶ章です。また、未来の情報社会を題材として討議する学習の場面も用意しています。 情報格差、テクノストレス 問題解決とは 問題解決で使える手法 [議論]未来の情報社会など ＋アカデミック・スキルズ（4）「仮説と検証」
内容	「社会と情報」の学習内容を、要点を厳選して解説。資料的な内容は「資料」と示すことで基礎的な内容とは区別している。 また問題解決を支える情報活用の実践力を確実に身に付けることを目的として、各章の「アカデミック・スキルズ」を充実させている。

⑫

書籍名	新・情報の科学
著者／編者	水越敏行、村井純、生田孝至、ほか 40 名
発行元	日本文教出版
対象	日本人の高校生
目次	序章：情報社会に生きるわたしたち ※オリエンテーション的な位置づけの章です。 情報社会と情報の科学 学習に入る前に「チェックリスト」など <ネットワーク編> 第1章：コンピュータによる情報の処理と表現 ※コンピュータの計算のしくみと情報のデジタル化について解説した章です。 コンピュータの動作のしくみ CPU と論理回路 コンピュータにおける数値、文字、音、画像の表現 圧縮のしくみなど 第2章：ネットワークがつなぐコミュニケーション ※コンピュータネットワークのしくみの解説を中心とした章です ネットワークの構成要素 プロトコル インターネットのしくみなど 第3章：情報システムが支える社会 ※情報システムが社会を支える重要な基盤となっていること、またその安全性を守るためのセキュリティについて法的な側面も含めて解説した章です。 情報システムを支えるしくみ ネットワークを利用した犯罪 情報セキュリティ技術 暗号化と認証技術 技術・文化の発展と知的財産権など

	<問題解決編> アカデミック・スキルズ ※問題解決の基本的な流れを学び、また、統計的手法を含めた問題解決のさまざまな手法を学ぶ章です。 問題解決とは 情報収集と調査 データの統計的分析など 第4章：問題の解決と処理手順の自動化 ※アルゴリズムとプログラミングについて学ぶ章です。例題形式で展開しています。また、JavaScript と VBA を併記しました。 アルゴリズムとフローチャート アルゴリズムの基本構造とプログラム アルゴリズムの比較など 第5章：モデル化と問題解決 ※モデル化とシミュレーション及び、データベースについて学ぶ章です。第4章同様、例題形式で展開しています。 モデル化と問題解決 確率的に変化する現象のモデル化とシミュレーション データベース リレーショナルデータベースの作成 [コラム]ビッグデータと NoSQL など 第6章：情報通信ネットワークと問題解決 ※グループで取り組む問題解決のテーマを紹介した章です。 身近な地域マップ 統計的手法とグラフ メディアの情報をチェックする
内容	「科学的な理解」と「問題解決」が中心となる「情報の科学」の学習内容を、知識・理解主体の「ネットワーク編」と知識の活用がメインの「問題解決編」に分けて構成。その中間に問題解決のベースとなる「アカデミック・スキルズ」を位置づけた。

⑬

書籍名	社会と情報
著者／編者	水越敏行、村井純、生田孝至、ほか 31 名
発行元	日本文教出版
対象	日本人の高校生
目次	第 1 章 情報の活用と表現 情報とメディアの特徴 情報の表現と伝達 情報のデジタル化 第 2 章 情報通信ネットワークとコミュニケーション コミュニケーションとメディア 情報通信ネットワークの活用とコミュニケーション 情報通信ネットワークのしくみ 第 3 章 望ましい情報社会を構築するために 情報化が社会に及ぼす影響と課題 情報社会における情報システム サイバー犯罪とセキュリティ対策 よりよい情報社会を目指して
内容	情報化が社会に及ぼす影響や課題について理解し、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。 メディアの特性を踏まえ、情報を適切に収集・処理し、信憑性を判断したうえで、責任をもって発信する力を身につける。 情報機器や情報通信ネットワークを活用し、他者とコミュニケーションをとりながら協働して問題を解決する力を身につける。 情報機器や情報通信ネットワークのしくみを理解し、進展する情報社会に対応する基礎的な知識を習得する。

⑭

書籍名	見てわかる社会と情報
著者／編者	水越敏行、村井純、生田孝至、ほか 31 名
発行元	日本文教出版
価格	円＋税

対象	日本人の高校生
目次	第1章 情報機器を使いこなそう 情報機器の基本的な使い方 情報機器を利用するときの注意点 第2章 情報を整理して伝えよう 問題解決の手順と方法 情報をわかりやすく伝える 第3章 望ましい情報社会を構築するために 情報化が社会に及ぼす影響と課題 情報セキュリティの確保 情報社会における法と個人の責任 第4章 情報社会のしくみを知ろう 情報通信ネットワークとコミュニケーション 情報のデジタル化 情報通信ネットワークのしくみ 望ましい情報社会を築く
内容	情報化が社会に及ぼす影響や課題について理解し、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。 メディアの特性を踏まえ、情報を適切に収集・処理し、信憑性を判断したうえで、責任をもって発信する力を身につける。 情報機器や情報通信ネットワークを活用し、他者とコミュニケーションをとりながら協働して問題を解決する力を身につける。 情報機器や情報通信ネットワークのしくみを理解し、進展する情報社会に対応する基礎的な知識を習得する。

⑮

書籍名	情報の科学
著者／編者	水越敏行、村井純、生田孝至、ほか 31 名 目次
発行元	日本文教出版
対象	日本人の高校生
目次	第1章 コンピュータによる情報の処理と表現

	コンピュータと情報処理 情報のデジタル化 第2章 ネットワークがつなぐコミュニケーション メディアとコミュニケーション ネットワークの動作としくみ 情報セキュリティ 第3章 情報システムが支える社会 情報社会と情報システム 安全な情報社会を目指して 第4章 問題の発見・分析と解決の方法 問題解決とは 問題解決のための方法 問題解決の実践 第5章 問題の解決と処理手順の自動化 基本的なアルゴリズムとプログラム いろいろなアルゴリズム 第6章 モデル化と問題解決 モデル化とシミュレーション 情報の蓄積・管理とデータベースのしくみ 第7章 情報通信ネットワークと問題解決 グループで行う問題解決 課題解決学習実践例
内容	社会を支える情報技術の役割や影響を理解し、情報と情報技術に関する基礎的な知識と技能を習得する。 情報技術の進歩が人間や社会に及ぼす影響を理解し、その特性を踏まえた適切なルールやマナー、情報の安全性などに関する基礎的な知識と技能を習得する。 情報機器や情報通信ネットワークに関する基礎的な知識や技能の習得を通して、問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方を習得

	する。
--	-----

⑩

書籍名	新・見てわかる社会と情報
著者／編者	水越敏行、村井純、生田孝至、ほか 39 名
発行元	日本文教出版
価格	円＋税
対象	日本人の高校生
目次	第 1 章：情報社会に生きるわたしたち ※スマートフォンが身近なツールである高校生に、コンピュータを活用することのメリットなども伝え、将来のキャリアに必要なスキルであることを意識させたいと考えました。 情報社会で活躍しよう コンピュータを道具にしよう ルールやマナーを守ろう インターネットはみんなが見ているなど ＋漫画コラム「言葉を豊かに、心を細やかに」 第 2 章：コンピュータを使いこなそう ※コンピュータの基本を学ぶ章です。文字入力、ファイル操作とともに、著作権等についての配慮もしながら文書処理ソフトウェアの実習に取り組みます。 コンピュータを使う前に 文字を入力してみよう データを保存するときに 文書処理ソフトウェアの使い方（操作実習）など ＋漫画コラム「スマートフォンを駆使してコミュニケーションしよう」 第 3 章：情報を整理して伝えよう ※問題解決の手順を追いながら、表計算ソフトウェアとプレゼンテーションソフトウェアを活用する実習に取り組みます。 問題解決をしてみよう データを分析してみよう 表計算ソフトウェアの使い方（操作実習） 情報をわかりやすく伝えよう

	プレゼンテーションソフトウェアの使い方（操作実習）など +漫画コラム「何とかするには、やはり行動しなくちゃ」 第4章：情報社会の課題について考えよう ※情報社会の課題について学ぶ章です。「見てわかる」のコンセプトを活かし、簡潔な説明と図解による豊富な事例でわかりやすく解説しています。 サイバー犯罪、詐欺 個人認証とアクセス制御 個人情報の保護 知的財産権など +漫画コラム「著作権の許諾も WIN-WIN の発想で」 第5章：情報社会のしくみを知ろう ※メディアや情報通信技術、情報システムのしくみを学ぶ章です。理解が難しい技術的な内容もわかりやすく図解しています。 情報とメディアの特徴 情報のデジタル化のしくみ ネットワークでデータを送るしくみ 社会における情報システムなど +漫画コラム「備えあれば憂いなし」
内容	学校現場での授業の流れを参考にした章構成をさらに洗練させている。 コンピュータの基本操作と情報モラルを前半に、情報技術や情報システムのしくみは後半にまとめている。 また、各章末には情報モラルに関連したテーマの漫画コラムを掲載している。

「IT 実務日本語」教材開発情報収集

- (1) 日本の IT 及びデジタルコンテンツ系産業に従事する外国人材に対する IT 日本語教育を目的とした教材・書籍・資料等

①

書籍名	しごとの日本語 IT 業務編
著者／編者	村上吉文
発行元	株式会社アルク
価格	2,400 円＋税
対象	外国人 IT エンジニア
目次	はじめに 本書の使い方 目次 (第 1 章ウォームアップ) 日本で仕事を見つけよう 1 求人ポスター 2 電話で問い合わせる 3 職務経歴書 4 面接 5 ビザの取得 (第 2 章場面で覚える) プロジェクトチームの一員になろう 1 自己紹介 2 要件定義書の読解 3 内容確認 4 担当業務の通知 5 詳細設計所を書く 6 仕様変更 7 単体テスト終了報告 8 進捗状況の報告 9 遅延報告 10 担当モジュール完成報告 11 結合テスト 12 デバッグ終了報告とシステムテストの準備 13 システムテスト 14 オペレーションデモの準備 15 オペレーションデモ (第 3 章仕様書を読む) 文章表現に慣れておこう 1 販促対象検索処理

	2 受注処理 3 発注処理 〈聞き取り練習〉 スクリプト 〈やってみよう！〉 解答と解説 索引
内容	近年の目覚ましい情報技術の発展に伴い、IT エンジニアたちが国境を越えて活躍しており、日本国内の IT 企業や国外の日系企業などさまざまな場で、外国人と日本人と一緒に働く機会が増えている。こうした状況の中、問題になるのが言葉の壁であり、IT に関する専門的な知識や技術があっても、日本語で伝えられずもどかしいという外国人エンジニアの声を聞き誕生した教材である。 主な対象レベルは日本語学習の中級程度だが、少なくとも初級前半を終えており、動詞の活用など初歩的な事柄をマスターしていれば、総合テキストと平行して使用できる。 IT の技術者がどのような日本語を開発現場等で使うことになるかが分かりやすいため、IT 分野の実務日本語を学ぶ際には最適の教材である。

②

書籍名	Japanese for IT Business: Japanese Textbook for IT Professionals
著者／編者	村上美穂子、飯嶋雅代（著） 小池慶（編集）
発行元	有限会社ジャパンオンラインスクール
価格	PDH 版：無料 Amazon Kindle 版：99 円
対象	IT 関連職を目指す JLPT N2 相当以上の非日本語母語話者
目次	Unit 1 ： 面接 ・面接の流れを理解する ・職務経験・保有スキルを説明する ・コラム：面接のポイント Unit 2 ： 新しい職場で ・自己紹介する ・作業を依頼する ・作業内容を確認する ・コラム：自己紹介のポイント

	Unit 3 : 指示を受ける ・指示を受け、期限を確認する ・次の指示を聞き、優先順位を確認する ・要件定義書と要求定義書の違いを知る ・コラム：日本人のおかしなカタカナ英語 Unit 4 : 打ち合せ ・担当業務について質問する ・業務の詳細を詰める ・コラム：「センスの良い質問」と「センスの悪い質問」 Unit 5 : 開発中のやりとり ・注意を受ける ・ミスを認めて謝る ・アドバイスへのお礼を言う ・コラム：誠意が伝わる謝罪のコツ Unit 6 : 進捗報告 ・会議で作業の進捗を報告する ・スケジュール遅延の相談をする ・コラム：ハウレンソウは上司活用の手法！？ Unit 7 : 単体テスト・結合テスト ・状況を説明する ・エラーの原因を説明する ・コラム：事前にエラーを防ぐために Unit 8 : システムテスト ・内線電話に対応する ・仕様変更依頼に対して代替案を示す ・コラム：「少し気になる」は「とても気になる」？ Unit 9 : 顧客デモ ・デモ環境セッティングの手伝いを申し出る ・顧客の過大な要求に応える ・コラム：プレゼンテーションで失敗しないコツ
--	---

	Unit 10 : 顧客検収テスト ・アフターサポート ・様々な状況を仮定する ・検収テストの結果を伝え聞く ・コラム：仕事ができる外国人ビジネスパーソン
内容	外国人 IT エンジニアが、職場で必要とされる日本語能力を効率的に習得できるように構成された日本語学習教材である。元 IT エンジニアの日本語教師が、IT 企業の監修のもと開発した。 日本で働き始めるところから始まり、開発に携わり、そして顧客デモ、アフターサポートまでの一連の流れを場面ごとに学ぶ構成になっている。また、各 Unit の最後には「コラム」「おさらい」があり、耳寄りな情報を得たり、日本のビジネス文化を学ぶ機会を設けている。おさらいは、各 Unit の習熟度の指標になる。 現役エンジニアの他、エンジニアを目指している学生への日本語教育にも使用可能で、大学等でも使用されているようだ。

③

書籍名	デジタルコンテンツを学ぶ留学生のためのカタカナ語表現練習帳
著者／編者	富田美知子、田所直子、中村たか子、藤巻和代、遠藤樹子（著）
発行元	株式会社古今書院
価格	2,300 円＋税
対象	初級終了から中上級レベルのデジタルコンテンツ分野にいる日本語学習者
目次	ユニット 1 コンテンツ セクション 1 セクション 2 セクション 3 セクション 4 復習問題 ユニット 2 クリエイティブ セクション 1 セクション 2 セクション 3 セクション 4 セクション 5 復習問題

	ユニット3 ビジネス セクション1 セクション2 セクション3 セクション4 セクション5 セクション6 セクション7 復習問題 ユニット4 IT セクション1 セクション2 セクション3 セクション4 セクション5 復習問題 ユニット5 デジタルコミュニケーション セクション1 セクション2 セクション3 復習問題 解答編 索引
内容	音声を聞いてディクテーションをしたり、“聞く・書く・言う”の3ステップで学べる。日常生活やビジネス場面で使えるカタカナ語も学べる。日本語・中国語の説明と英語訳で意味を確認できる。 日本語学習者が苦手とするカタカナ語をターゲットとした教材である。当該分野の様々なカタカナ語を網羅している。書籍名に「留学生の」とついていますが、ビジネスにまつわるテーマもあり、実際に働いている外国人材にとっても有用である。

(2) 日本人を対象とした、IT のビジネス現場で使用する実践的な IT 英語の教材・書籍・資料等

①

書籍名	エンジニアのための英会話超克服テキスト―実戦!テクニカル・ミーティング
著者／編者	平井通宏（著），フランシス・J. クディラ（著），Francis J. Kurdyla（原著）
発行元	オーム社
価格	2,400 円＋税
対象	日本企業に勤務し英語を使用する技術者
目次	序章 技術者が必要とするコミュニケーションの基本要素 第 1 部 基礎編：技術的コミュニケーションの基本的表現 1 自己紹介する 2 会議を設定する 3 会議を進める 4 説明する；叙述する 5 質問する；質問をさばく 6 意見を述べる 7 依頼をする；依頼をさばく 8 提案する；交渉する 9 円滑にコミュニケーションする 10 その他の表現 第 2 部 応用編：ソフトウェア開発委託のケーススタディ 1 外注委託（アウトソーシング）先を評価する 2 外注委託先を決定する 3 電子メールを送る 4 プロジェクトの発足（第 1 回会議 その 1） 5 議題を確認する（第 1 回会議 その 2） 6 目的を確認する（第 1 回会議 その 3） 7 仕様について議論する（第 1 回会議 その 4） 8 プロジェクトの日程について討論する（第 1 回会議 その 5） 9 会議を終了する 1（第 1 回会議 その 6） 10 会議を終了する 2（第 1 回会議 その 7） 11 仕様変更の連絡；議事録の送付 12 前回議事録の確認（第 2 回会議 その 1） 13 仕様変更の確認；関連する問題点の討論（第 2 回会議 その 2）

	14 日程をチェックする（第2回会議 その3） 15 受入れ検査の要約（第3回会議） 16 プロジェクトの総括（第4回会議 その1） 17 次のフェーズを話合う（第4回会議 その2） 付録 実務上のポイント ボキャブラリ
内容	主として日本企業に勤務する技術者(エンジニア)が外国人と仕事する際に 欠かせない技術打合せで遭遇する典型的な英語表現を集めた本。前半には、 局面毎の有用表現をまとめ、後半は、外注開発委託のプロジェクト進行に沿 って、連続ドラマ仕立てでスキットを連ねてある。 技術士の知見と英語教師の経験を効果的に結合し、実務の現場で拾った、実 戦即応の表現を満載。実体験に基づいたリアリスティックな物語展開によ り、読み物としての面白さも追求している。 利便性を考え、索引を3段階で構成：(1) そのまま暗記して使える「決ま り文句」、(2) 一味違った表現を集めた「気の利いた言い回し」、(3) その 他一般的語彙 効率的な英文議事録の書き方を提唱。

②

書籍名	プレゼンを100%成功させる!! ITエンジニアの英語
著者／編者	板垣 政樹（著），小坂 貴志（著）
発行元	秀和システム
価格	2,000 円＋税
対象	日本企業に勤務し英語を使用する技術者、英語でプレゼンテーションを行 う人
目次	Part 1 プレゼンテーションで使う基本表現 Chapter 1 プレゼンテーションの基本 1-1 プレゼンテーションの構成 1-2 プレゼンテーションの注意点 Chapter 2 イントロダクション（導入） 2-1 あいさつ/自己紹介をする 2-2 概要の説明 Chapter 3 ボディー（本論） 3-1 簡潔に説明する 3-2 強調する 3-3 トピックを変える

	3-4 理由を述べる Chapter 4 コンクルージョン（結論）/質疑応答 4-1 まとめ/結論を述べる 4-2 今後について述べる 4-3 質疑応答を行う Part 2 IT プロフェッショナルのための英語表現 Chapter 5 プロジェクト管理 5-1 概要 5-2 要件 5-3 タスク 5-4 依存関係 5-5 優先順位 5-6 計画 5-7 スケジュール 5-8 プロジェクトチーム Chapter 6 システム管理 6-1 アーキテクチャ 6-2 パフォーマンス 6-3 メンテナンス 6-4 セキュリティ 6-5 ビッグデータ 6-6 クラウド Chapter 7 システム開発 7-1 コーディング 7-2 テスト 7-3 ユーザーエクスペリエンス Chapter 8 数字/グラフ 8-1 基本的な数字・数式の読み方 8-2 グラフの種類 8-3 グラフを使って説明する
内容	海外の IT エンジニアがプレゼンテーションで使う、「本場」の英語表現をまとめた表現集。挨拶や質疑応答といったプレゼンテーションの基本表現から、プロジェクト管理やシステム開発といった IT トピックに沿った表現まで、あらゆる表現を 1 冊で学べる。また、1 分で伝わるプレゼン例やすぐに使えるフレーズなど、良質なサンプルが満載。

所見	全英文サンプルのネイティブ音声のダウンロードサービス付き。
----	-------------------------------

③

書籍名	IT エンジニアのゼロから始める英語勉強法
著者／編者	牛尾剛
発行元	日経 BP 社
価格	1,400 円＋税
対象	日本企業に勤務し英語を使用する技術者
目次	【第一部】 衝撃的な勉強法との出会い ペラペラは簡単だった ・ 1 章 英語勉強前夜 【第二部】 実践 ・ 2 章 英語勉強法の原則 ・ 3 章 英語習得プラクティスの全体像 ・ 4 章 英語脳を生成セヨ ・ 5 章 ネイティブ的ボキャブラリを育成セヨ ・ 6 章 これが終ればすでにペラペラ ・ 7 章 英語の映画で感動できる英語力 ・ 8 章 爆発的ボキャブラリ増加の実現 【第三部】 学習の計画とフィードバック ・ 9 章 あなたにぴったりのカスタマイズ方法 ・ 10 章 フィードバックとコントロール ・ 11 章 IT 英語をイテこませ! ・ 12 章 まとめ 【付録】
内容	実体験に基づいた英語学習法の書き下ろしで、英会話に疎かったエンジニアである著者が英語を 8 カ月で無理なくモノにした独習法をすべて伝授。

④

書籍名	エンジニアのための英文メールライティング入門
著者／編者	上田秀樹
発行元	朝日出版社
価格	1,700 円＋税
対象	日本企業に勤務し英語を使用する技術者（特に日常業務で英文メールをやりとりするエンジニア）

目次	[第 1 章] 技術情報を伝える英文メールの構成パターン [第 2 章] 英文メールで技術情報を効果的に伝えるための原則 [第 3 章] 技術情報をすばやく読み取れる構成にするキーポイント [第 4 章] 技術情報を分かりやすく伝えるキーポイント [第 5 章] 技術情報を正しく伝えるための、100 の必須表現パターン ●製品開発の状況・日程を伝える ●製品の機能を伝える ●製品の構造を伝える ●インストール方法を伝える ●操作方法を伝える ●動作を伝える ●問題事項を伝える ●問題の解決策を伝える ●参考資料について伝える ●製品・部品の資料の送付希望を伝える ●見積もりの送付希望を伝える ●先方の見積もりに対する回答を伝える
内容	ネイティブにスムーズに情報を受けとめてもらえるメールの論理的な構成、メールの各文章、用語の選択などについてのポイント、さらにはすぐ使える例文集(IT系を中心に、スケジュール管理、製品についての説明、操作方法、トラブル時の問題解決、内容照会、見積などまで)をまとめた。正確に情報を伝えるための英文必須 100 パターン、500 例文を収録。スムーズかつ正確に伝わるメールの構成、文章のためのキーポイントを詳細に解説。

⑤

書籍名	BeNative! IT の英語
著者／編者	株式会社 SMATOOS
発行元	アルク
価格	1,600 円＋税
対象	日本企業に勤務し英語を使用する技術者（英語中級～）
目次	はじめに ピクサー&ディズニー・アニメーション・スタジオ：エドウィン・キャットマル 「Pixar 社長が語る クリエイティブの源泉」 Evernote：フィル・リービン 「100 年持続するスタートアップへの道のり」

	オキュラス VR：パーマー・ラッキー 「バーチャルリアリティーが実現する世界」 Instagram：マイク・クリーガー 「世界の瞬間を捕らえてシェアする Instagram の機械学習」 Facebook：マイク・シュレーファー 「世界を変える Facebook の技術 10 年構想」 Microsoft：ペギー・ジョンソン 「Microsoft のパートナービジネス戦略」 スラック：スチュワート・バタフィールド 「オフィス内コミュニケーション革命」 Google：イェンス・リーゲルスバーガー 「Google が描く新たなユーザー体験のあり方」 IBM：ロブ・ハイ 「IBM が推進するコグニティブコンピューティングの可能性」 Dell：マイケル・デル 「希代の起業家 Dell CEO の経営論」 エヌビディア：ダニー・シャピーロ 「自動車産業を変革する次世代ビジネス」 Twitter：マイク・デビッドソン 「Twitter 流問題解決のためのデザイン優先アプローチ」
内容	Google、Facebook、Evernote、Slack など、巨大企業から急成長中の IT ベンチャー企業の一流経営陣やキーパーソンが実際の会話で使っている、リアルな英語から効率よく学習することができる。 扱うトピックは、人気アプリの開発過程、人工知能の今後、VR と AR の世界など、昨今の IT 業界で大きな話題となっているものを取り揃えている。さらにこれらのインタビュー・プレゼンをもとに、業界必須の重要ワード&フレーズを BeNative 独自のデータマイニング方法で抽出。BeNative が保有する、最新のビジネス英会話動画などを蓄積した膨大なデータベースから選りすぐった業界必須の表現が学べる。 昨今の世界的なビジネスカンファレンスでのインタビューやプレゼンを中心に構成されており、まさに IT 業界の「今」がつかめる。

⑥

書籍名	現場で困らない！IT エンジニアのための英語リーディング
著者／編者	西野 竜太郎（著）
発行元	翔泳社

価格	1,800 円＋税
対象	日本企業に勤務し英語を使用する技術者（英語中級～）
目次	CHAPTER0 IT 英語との付き合い方 01 仕事中に英語で悩んだことはありませんか？ 02 現代の IT エンジニアに英語は必須 03 避けて通れないのが「リーディング」 04 なぜ英語が読めるようにならないのか？ 05 どうすれば読めるようになるのか？ CHAPTER1 リーディングに必要な知識とテクニック 01 リーディングに必要な 4 つの柱 02 リーディングの基礎となる「語彙」 03 IT 英語を読むために押さえておくべき「文法」 04 文章全体の「ディスコース構造」に注目 05 「専門知識」は日本語で仕入れておく 06 すばやく読むためのテクニック CHAPTER2 仕事でよく見かけるドキュメントの読み方（1）～独特の表現に注意が必要なドキュメント～ 01 UI 02 コミット・メッセージ 03 API リファレンス 04 使用許諾契約 05 メール 06 アプリのレビュー CHAPTER3 仕事でよく見かけるドキュメントの読み方（2）～情報量が多いので効率的に読みたいドキュメント～ 01 ニュース 02 技術ブログ 03 マニュアル 04 仕様書 05 Q&A サイト CHAPTER4 英語ができない人のための必須ツール 01 基本となる英和辞典

	02 英和辞典を使う際の注意点 03 さらに知りたいときに使う辞書 04 ポップアップ辞書ツールを使って速読する 05 語彙レベル・チェッカーで難易度を見積もる CHAPTER5 仕事に使える英語サイト情報収集術 01 Google 検索で演算子を活用する 02 的確な検索キーワードで情報を見つける 03 RSS リーダーで効率的に情報収集 04 気になるキーワードは Google アラートで追跡 05 SNS でリアルタイムの情報を見つける CHAPTER6 ライティングとリスニングでも役立つテクニック 01 メールは構成パターンを使って書く 02 手順の説明は命令形と you を使う 03 コミット・メッセージは書き始めの動詞をうまく選ぶ 04 機械翻訳ツールを上手にを使って英文を書く 05 字幕を活用して英語スピーチを聞き取る 06 いまさら人に聞けない読み方を Google 翻訳で確認
内容	IT 英語のリーディングについて解説。長文のサンプルをじっくりと大量に読んで基礎体力を鍛えるというよりも、明日から役立つ技術を短期間で習得できる内容。 まず、リーディングに必要な4つの柱について解説する。 その後、IT エンジニアに必要なさまざまなドキュメント・タイプ（UI、使用許諾契約、API リファレンス、仕様書、マニュアルなど）を11取り上げ、タイプごとの特徴を説明。各タイプの特徴をつかんでおけば、楽に英文を読むことができるようになる。さらには便利なツールや情報収集のテクニックも紹介。

⑦

書籍名	IT プロジェクトの英語
著者／編者	塚本 俊 (著), 小坂 貴志 (著)
発行元	ジャパントイムズ
価格	1,800 円＋税
対象	日本企業に勤務し英語を使用する技術者（英語中級～）
目次	Chapter 1 立ち上げ

No.1	企画書の作成
No.2	見積りと提案
No.3	稟議と決裁
No.4	プロジェクト計画の作成
Chapter 2 プロジェクト計画 No.5 プロジェクト憲章の作成	
No.6	開発手法の決定（アーキテクチャとフレームワーク）
No.7	プロジェクトスコープの定義
No.8	WBS の作成
No.9	成果物の定義
No.10	プロジェクトスケジュールの作成
No.11	組織計画の作成（プロジェクト体制）
No.12	要員計画の作成
No.13	コスト計画の作成
No.14	テスト計画の作成
No.15	コミュニケーション計画の作成
No.16	プロジェクト標準の作成
No.17	開発環境計画の作成
No.18	機器導入計画の作成
No.19	移行／展開計画の作成
No.20	プロジェクト管理計画の作成
No.21	キックオフミーティングの実施
Chapter 3 実行	
No.22	現行分析
No.23	要件定義
No.24	機能設計
No.25	非機能設計
No.26	開発（コーディング／単体テスト）
No.27	統合テスト
No.28	システムテスト
No.29	ユーザーテスト
No.30	システム導入
No.31	移行リハーサル
No.32	本番移行
No.33	本番リリース／展開

	No.34 保守 Chapter 4 管理 No.35 プロジェクト管理 No.36 進捗管理 No.37 コスト管理 No.38 品質管理 No.39 変更管理 No.40 問題管理 No.41 リスク管理 No.42 要員管理 No.43 構成管理 No.44 セキュリティ／個人情報管理 No.45 ステークホルダー管理 No.46 コミュニケーション管理 No.47 チームビルディング Chapter 5 終結 No.48 プロジェクト完了手続き No.49 プロジェクトの評価 No.50 プロジェクトの成功と失敗の記録
内容	IT 業界ではプロジェクト単位で仕事が進むものであり、本書ではプロジェクト内で使われる英語表現を解説。第一線で大規模プロジェクトに携わってきたプロフェッショナルが、企画・設計・開発から、保守・管理・評価まで、IT プロジェクト全体の流れを解説しながら、役立つ英語表現を紹介。多数のメンバーが関わる IT プロジェクトを成功に導くための円滑なコミュニケーションを可能にする 1 冊。 プロジェクトマネジメント力と英語力がダブルで身につく。

⑧

書籍名	IT エンジニアのための場面別英会話&キーフレーズ
著者／編者	細谷竜一 (著), 大須賀正之 (著), 浅川佐知子 (著)
発行元	ナツメ社
価格	1,700 円＋税
対象	日本企業に勤務し英語を使用する技術者（英語初中級～）
目次	Part 1 紹介・プレゼンテーション

	Part 2 検討・決議 Part 3 交渉・説得 Part 4 会議体・合議・問題解決 Part 5 対面以外のコミュニケーション形式
内容	仕事で英語を話す機会が増えた、あるいは英語を話さないと仕事にならないと感じている SE（システムエンジニア）のための会話例とフレーズ集。SE が身に着けるべきグローバルコミュニケーションスキル獲得の助けになるように書かれている。各場面に応じた会話・会議の進め方や国際的な人材の集まりの中で個々人が取るべき姿勢を、筆者の実務経験にもとづいて伝えることを重視している。表現は中学校英語の文法レベルのため、英語が苦手な方でも理解しやすい。

⑨

書籍名	SE のための IT 英語入門—SE の現場シリーズ
著者／編者	板垣 政樹（著）、小坂 貴志（著）
発行元	翔泳社
価格	1,900 円＋税
対象	日本企業に勤務し英語を使用する技術者、キャリアアップを目指す SE
目次	第 1 部 基礎編～リーディング基本を抑える 1. コンピュータ、コミュニケーション、英語 2. エンジニアのための検索術 インターネットの浮き輪 情報科学の 3 大要素 カタカナ IT 英語 英語で検索 3. リーディング基礎 いま読むな サイトの絞り込み 斜めに読む 検索エンジンでスキヤニング Web 構成 速読法 「読む」習慣 4. 英文技術情報を読む オープンソースの英語

5. 英文ビジネスモデル特許を読む
知的所有権
ビジネスモデル特許
特許の構成
6. 英文仕様書を読む
IT ドキュメント
7. 企業 Web を読む
企業分析する
雇用情報
8. e ラーニングで IT を学ぶ
米国 e ラーニング事情
e ラーニングの種類
事例
クラスの流れ
 第 2 部 実践編～最新テクノロジーを英語で読み解く
 1. Linux
2. Java
3. Web Services
4. IPv6
5. Mobile Technology
6. Microsoft DirectX
7. Database
8. Network Security
9. Wireless Local Area Networks
10. XML
11. Bioinformatics
 Column
 全体を意識する SE 英語学習法
ロジックによる英語学習法
プログラミングのロジック
タグの発想を英語に活用したら？
SE 英語は短い英語

	インターフェイスにある英語 β 的発想の英語学習 英語にいちばん近い SE インターフェイス英語は SE 英語の基本 Web は SE のための無料英語学習ツール TOEIC を超える SE 英語 失敗から学ぶ SE 英語
内容	「インターネット検索術」「リーディングの基礎」からはじまり「英文技術情報」「英文仕様書」の読み方など、SE 業務に特化した英語の学習法を紹介。後半では、米国テクニカルライター（A.J.Shifano）によって書かれた最新技術コンテンツを TOEIC 形式で読み解き、実践的な英語力のアップを狙う。

⑩

書籍名	IT エンジニアが覚えておきたい英語動詞 30
著者／編者	板垣 政樹（著）
発行元	秀和システム
価格	1,800 円＋税
対象	日本企業に勤務し英語を使用する技術者
目次	Part 1 スピード会話力を身につけるための 10 の基本動詞 Chapter 1 Do いろいろな場面で会話が一気に楽になる“万能動詞” Chapter 2 Have 「There is/are 構文」から卒業しないとダメ！ Chapter 3 Get 1 「ゲットする」よりはるかに使い道が広いのです！ Chapter 4 Get 2 この get が使えるようになると表現力がグンと伸びる！ Chapter 5 Get 3 「?になる」にはもう become を使わない！ Chapter 6 Give give は“考え”だってあげちゃう！ Chapter 7 Make make を使いこなすには「作る」という意味を忘れよう！ Chapter 8 Take 最も手ごわい基本動詞。これが自在に使えたら上級者！ Chapter 9 Put 「置く」というより「入れる」と考えよう！ Chapter 10 Go 「プロセスが進む」という意味の go をマスターしよう！ Chapter 11 Come 「来る」というより「現れる」をイメージしよう！ Chapter 12 Look 「見る」と「見える」きちんと使い分けられますか？

	Part 2 実践的に使いこなしたい 20 の動詞 01 Be 動詞 : “is that + 文章” (?は?だということ) 02 Need (必要だ) 03 Work (作業する→やる) 04 Find (分かる) 05 Run (?について意見をもらう) 06 Follow up (引き続き議論する) 07 Update (最新の情報を教える) 08 Help (助かるよ) 09 Happen (たまたまそうなる) 10 Seem (?みたいだ) 11 Discuss (?について話をする) 12 Learn (新しいことを知る) 13 Call out (しっかり言う) 14 Block (作業ができない) 15 Capture (捕まえる→洗い出す) 16 Execute (実行する→やる) 17 Conduct (実行する→やる) 18 Store (保存する) 19 Talk (相談する) 20 Align (すり合わせる) Part 3 グローバル IT 現場のシミュレーション
内容	米国 Microsoft のシニアプロジェクトマネージャーである著者が日常の IT 会話の 6 割をカバーする基本動詞 30 を取り上げ、現場でどのように使われているか、実例とともに詳しく解説。たった 30 の動詞で IT 会話をスムーズに交わすコツが満載。 IT 版瞬間英作文として、英会話の基礎力を身に着けたい方におすすめ

⑪

書籍名	IT・デジタルワーカーのための英会話
著者／編者	長澤 大輔 (著), ジョン レイナー (著), John Rayner (原著)
発行元	ベレ出版
価格	1,900 円 + 税
対象	デジタルワーカー (デジタルの世界で創造的な仕事をしている人すべて)
目次	Lesson1 自己紹介

	Lesson2 オフィスにて Lesson3 パソコンの操作 Lesson4 パソコンのトラブル Lesson5 グラフィックデザイン (1) Lesson6 ウェブ制作 Lesson7 オフィス系ソフトウェアの操作 Lesson8 社内ミーティング Lesson9 クライアントとの打ち合わせ Lesson10 E メールを使ったコミュニケーション Lesson11 ソーシャルメディアを使ったコミュニケーション Lesson12 交流会でのふれあい Lesson13 電子メール Lesson14 パソコンでの作業 Lesson15 トラブル対処についての英語 Lesson16 グラフィックデザイン (2) Lesson17 ウェブデザイン Lesson18 プレゼンテーション Lesson19 プロジェクト会議 Lesson20 クライアント先での会議 Lesson21 交渉する Lesson22 ソーシャルメディア ビジネス実務・自己啓発 ランキング
内容	パソコンを使った仕事の多い IT 系企業に勤める方や、オンラインコンテンツ制作、デザイン業務、デジタル系の仕事に携わっている方など、恒常的に仕事でパソコンを使用する方たちの日常的なシーンごとのダイアログと文法説明、そして重要表現の紹介をはさみ、「文章の読み方」「聞き取り力も高める発声練習」「単語の覚え方」の 3 つのメソッドで「デジタルワーカー」にとって必要な英語力を身につけていく。

⑫

書籍名	パソコンと IT に強くなる英会話—これで私もオフィスの主役
著者／編者	橋本 行英 (著), クリス ツァファーロフ (著), 渋谷外語学院 (監修)
発行元	朝日出版社
価格	1,905 円＋税
対象	日本企業に勤務し英語を使用する技術者
目次	1 章 基本 (パソコン基本操作 ; コンピューターを買う ほか)

	2章 パソコン使用（インターネットに接続する；メールが消えた ほか） 3章 海外（シリコンバレーに行く；インターネットカフェ ほか） 4章 セキュリティ（クレジットカード；コンピューターウイルス ほか） 5章 その他（デジタルカメラ；インターネットラジオ ほか）
内容	パソコンと IT 関連で使われる言い回しを取り上げた英会話の教本。「ウイルスに感染した」、「パソコンが固まった」といった表現を多数紹介しており、海外出張などで役立つ。海外で電子メールを使用したり、英文サイトでオンライン・ショッピングする方法なども英語で紹介してある。

⑬

書籍名	パソコン様 IT 英語を教えて!—パソコンにまつわる様々な事象から学ぶ (IT 英語を教えて!シリーズ)
著者／編者	小坂 貴志 (著)
発行元	ソフトリサーチセンター
価格	1,900 円＋税
対象	日本企業に勤務し英語を使用する技術者
目次	第 1 章 パソコンを買ってから箱を開けるまで 第 2 章 パソコンを起動する～作業する 第 3 章 ソフトウェア使用上の注意を知る 第 4 章 マニュアルを読む～書く 第 5 章 パソコンのトラブルに対処する 第 6 章 パソコンと英語とコミュニケーション
内容	本書は、「もっとも英語に近い IT エンジニア」が、これまた「もっとも英語に近いパソコン」にまつわる英語を一挙に学べるように紹介している。日常の作業の中に英語学習の機会を見出す事が効率的な IT 英語の習得に役立つという視点から、「パソコンの購入から起動」等の各章において具体的な場面を想定し解説。英語能力習得に悩んでいる IT エンジニア向けの一冊。

「キャリア学習」教材開発情報収集

(1) 外国人留学生を対象とする日本での就職・キャリア形成に関する教材・書籍・資料等

①

書籍名	これで安心! 外国人留学生のための日本就職オールガイド
著者／編者	野澤 和世/石川 和美/岩下 恵子/柳本 新二/末松 和子【著】
発行元	凡人社
価格	1,900 円＋税
対象	日本で就職活動を行う外国人留学生および指導者。
目次	「就活知識」自己診断テスト 留学生の就職の現状 就職活動の流れとポイント ビザ 日本企業が求める外国人像とは？ 自己分析 業界・企業研究 エントリーシート 履歴書 会社説明会 筆記試験 面接 内定から入社まで 先輩の体験談 手紙・Eメールの書き方
内容	長年、留学生の就職指導を行ってきた講師が集結して書かれた本。 自己分析、企業・業界研究、エントリーシート作成などの基本的な就職活動の方法に加え、留学生向け情報も満載。 「在留資格変更が可能な仕事って?」「面接で『帰国する予定は?』って聞かれたら?」...など留学生の就活の疑問に答える。

②

書籍名	留学生のための就職内定ワークブック
著者／編者	久保田 学（著）
発行元	日本能率協会マネジメントセンター
価格	1,500 円＋税
対象	日本で就職活動を行う外国人留学生
目次	日本で就職するということ

	キャリアを考える 自分がどういう人かを考える 自分がどうしたいかを考える 業界を知る 企業と出会う 企業を知る・選ぶ 履歴書とエントリーシート エントリーシート対策 筆記試験対策 面接対策 内定・入社後と日本のビジネス慣習について
内容	全国の外国人留学生就職支援に 10 年以上携わった著者が外国人留学生だから陥りやすいポイントを解説。 外国人留学生の就職率は日本人学生に比べるとかなり低い。その障害のひとつとなる、世界から見ると独特な日本の就職活動を学びながら、キャリア教育の観点から、留学生自身がこれからのキャリアに向き合い、企業から求められる強みや能力を意識できるようにした、書き込めるワークブック。 本書を用いることで、早期の意識づけができ、就職活動に出遅れずに準備してもらおうツールとしても期待ができる。

③

書籍名	外国人留学生のための就職活動テキスト
著者／編者	アークアカデミー（著）
発行元	インプレス
価格	2,200 円＋税
対象	日本で就職活動を行う外国人留学生（N2～）
目次	はじめに 自立学習のすすめ 本書の構成／登場人物紹介 各課の学習の流れ 目次 第 1 章 日本で働く 第 1 課 マナーと身だしなみ 第 2 課 就職活動の流れ 就活のプロに質問！留学生 Q&A 1 第 2 章 仕事を探す

	第1課 仕事の探し方 第2課 業界研究・企業研究 就活のプロに質問！留学生の Q&A 2 第3章 敬語 第1課 敬語の基本 第2課 企業担当者との会話マナー 第3課 企業担当者とのメールのマナー 就活のプロに質問！留学生の Q&A 3 第4章 自己分析・志望動機・自己 PR 第1課 自己分析 第2課 志望動機 第3課 自己 PR 就活のプロに質問！留学生 Q&A 4 第5章 面接・内定 第1課 面接 第2課 内定後のマナー 就活のプロに質問！留学生の Q&A 5 模範解答 索引 スタッフリスト 奥付
内容	日本企業へ就職したい外国人留学生のためのハンドブック。日本の就職活動術と、内定がもらえる日本語を両方マスターできる。 日本流の就職活動の流れを丁寧に説明。 （仕事の探し方、学業と就職活動の同時進行、業界・企業研究、自己分析、エントリーのしかた、メールでのやりとり、面接のしかた、内定や内々定後のやりとり） 就職活動で必要なことを、丁寧に説明。 （「身だしなみ」：ジョブフェア・面接などでの服装や身だしなみ、「言葉づかい」：敬語の使い方、「書類やメールの書き方」：エントリーシート、履歴書、自己 PR、メールの書き方） 直接書き込めるワークシート付き。

④

書籍名	シャドーイング 日本語を話そう 就職・進学・アルバイト面接編
著者／編者	斎藤仁志、深澤道子、酒井理恵子、中村雅子

発行元	くろしお出版
価格	1,800 円＋税
対象	日本で就職活動を行う外国人留学生
目次	Unit 1 アルバイトの面接 1-1 スモールトーク 1-2 電話アポイントメント 1-3 アルバイト面接 1-4 通し練習 Unit 2 大学・専門学校入試の面接 2-1 大学・専門学校入試の面接 2-2 通し練習 Unit 3 就職面接 3-1 グループ面接 グループディスカッション 3-2 個人面接 1:自己 PR 3-3 個人面接 2:志望動機 3-4 個人面接 3:通し練習
内容	就職面接から進学、アルバイト、スモールトーク(面接前の雑談)まで様々な場面の面接会話を練習できる。特に就職の志望動機を重点的にトレーニング。面接の心得、留意点、よく使うフレーズなど、すぐに実践で使えるアドバイスも満載。

⑤

書籍名	伸ばす! 就活能力・ビジネス日本語力: 日本で働くための「4つの能力」養成ワークブック
著者／編者	植木 香 (著), 木下 由紀子 (著), 藤井 美音子 (著), 小島 美智子 (監修), 学校法人 長沼スクール東京日本語学校 (編集)
発行元	国書刊行会
価格	1,800 円＋税
対象	日本で就職活動を行う外国人留学生
目次	学習の前に 1 目標設定 Ⅱ 就活能力 1 自己紹介

	2 自己分析 3 業界・業種・職種 4 勤務の条件 5 自己PR 6 志望動機 7 履歴書・送付状 8 面接の受け方 III 社会文化能力 1 異文化理解 2 日本の地理 IV 社会人基礎力 1 プレゼンテーション 2 チームビルディング 3 ケーススタディ① 4 ケーススタディ② 5 報告・連絡・相談（報・連・相） V 仕事の日本語力 1 敬語 2 挨拶 3 電話 受ける 4 電話 かける 5 電話 アポイントを取る 6 訪問 7 会議 8 ビジネスメール CAN-DO チェックリスト 重要単語リスト ワークシート 別冊 解答・解説
内容	日本で働くための「4つの能力(就職活動能力・社会文化能力・社会人基礎力・仕事の日本語力)」を育てるワークブック。この1冊で自己分析、履歴書・送付状の書き方などの就職活動に必要なスキルと、「報連相」、電話のル

	ールといったビジネス日本語の基礎が学べ、さらに異文化理解力やコミュニケーション能力も育成できる。 購入者には「指導者用手引き」を用意。(出版社 HP より申請)
--	--

(2) 日本人の学生を主な対象とする就職・キャリア形成に関する教材・書籍・資料等

①

書籍名	高校生のキャリアノート
著者／編者	全国高等学校進路指導協議会
発行元	実務教育出版
価格	各テーマ 170 円
対象	高 1～高 3
目次	【キャリアノートの 26 のテーマ】 1.高校生活レッツスタート 2.入門 自分発見 3.職業 いろいろ発見 4.インタビュー 職業人 5.高校 3 年間の設計図 6.進学 いろいろ発見 7.進学 リアル体験 8.学習・研究スキルズ 9.レッツスタート高校 2 年生 10.あなたの個性と適性 11.企業とその仕事を知る 12.職場 リアル体験 13.自己実現のためのライフプラン 14.進学先をリサーチしよう 15.進路先が決まったら 16.進路先へジャストフィット 17.仕事選びのステップ 18.学校選びのステップ 19.自己 PR スキルズ 20.コミュニケーションスキルズ 21.高校生活いきいき術 人間関係トレーニング 22.進学 マネープランニング 23.進学・就職 合格文章術 志望理由書の書き方 24.面接試験トレーニング 25.「働く」を守る 26.「大学」見極め術
内容	自己理解から体験学習まで、多様な進路課題をテーマ別に分冊編集した教材。全 26 テーマの中から、各校の指導計画や進路状況に合わせたテーマで

	構成した教材として、高 1～高 3 まで系統的な指導を実現することが可能。各テーマ 10 分程度で展開できる WORK を複数組合せ、計 50 分程度でテーマを学習できるよう作られている。進路学習にまとまった時間が取れない場合でも、数回に分けての展開が可能。 ホームルーム活動における進路学習教材としてはもちろんのこと、「総合的な学習の時間」や「産業社会と人間」におけるキャリア学習の教材として、また、職業や進路に関わる啓発的な経験を盛り込んだ「学校行事」の事前・事後指導時のワーク教材として使用できる。
--	---

②

書籍名	みらいのジブンの設計図
著者／編者	実務教育出版
発行元	実務教育出版
価格	各 700 円（税込）
対象	高 1～高 3
目次	●スタート編のテーマ プロローグ 未来の可能性 テーマ 1 学校に通うということ テーマ 2 働くということ テーマ 3 自分はどんな人？ テーマ 4 高校での学びは将来に役立つのか テーマ 5 高校を卒業したら エピローグ 「みらいのジブン」に向かってスタート ●ジャンプ編のテーマ プロローグ 社会はこれからどうなっていく？ テーマ 1 自分がやる気になる学びとは テーマ 2 自分に合った働き方 テーマ 3 どんな進路選択があるのか テーマ 4 これから直面するかもしれないトラブルとその対処方法 テーマ 5 今を生きるか、未来に備えるか エピローグ 「みらいのジブン」に向かってジャンプ
内容	“現代の高校生”が主体的に学べるキャリア教育教材。自己理解、高校生活

	への適応、職業観の育成、進路選択、将来設計について、ビジュアル豊富な読み物とワークで楽しく学習できる。 主に1年生向けの「スタート編」と、主に2、3年生むけの「ジャンプ編」の2冊で構成しており、それぞれが、キャリア教育で押さえておきたいポイントを網羅している。 キャリア形成のために、知っておきたいこと、考えておきたいこと、調べておきたいことを生徒が自ら読み進めながら学ぶことができる。新入生のガイダンスや職業体験の事前事後指導、夏休みの課題教材として使用できる。
--	---

③

書籍名	高校生の進路ノート ベーシック
著者／編者	全国高等学校進路指導協議会
発行元	実務教育出版
価格	700 円（税込）
対象	高1～高3
目次	第1エリア 自分を知ろう ワークシート1 自分の個性を発見しよう ワークシート2 適性とは何だろう チェックシート 自分の適性を調べよう ワークシート3 ポジティブチェック 第1エリアのまとめ 第2エリア 上級学校を考えよう クローズアップ1 上級学校の種類を知ろう ワークシート1 職業と専門学校の関係は ワークシート2 興味・関心と学問分野の関係は チェックシート わたしに合った学習分野を見つける クローズアップ2 オープンキャンパス入門講座 クローズアップ3 進学後の留学 第2エリアのまとめ 第3エリア 職業を知ろう ワークシート1 職業の特色について考えよう

	ワークシート 2 会社の中のさまざまな仕事 チェックシート わたしがやってみたい仕事 クローズアップ 職業能力を高めよう 第 3 エリアのまとめ 第 4 エリア 未来予想図をつくろう ワークシート 1 生き方について考えよう ワークシート 2 あなたの未来予想図をつくろう チェックシート 未来への準備 めざせオンリーワン クローズアップ 1 豊かな人生 進行中 クローズアップ 2 人生 100 年時代 第 4 エリアのまとめ 第 5 エリア 進路選択能力を高めよう ワークシート 1 学ぶ意義を考えよう ワークシート 2 科目の選択を考えよう ワークシート 3 進学と就職の選択を考えよう ワークシート 4 選択にのぞむ態度を身につけよう 第 5 エリアのまとめ わたしのプロフィール 情報のページ 1 進学のマネープランニング 情報のページ 2 資格・免許が必要な職業 インタビューシート 1 職業インタビュー インタビューシート 2 先輩たちの生き方インタビュー インタビューシート 3 先輩たちの進路選択インタビュー 高校生活の記録 知りたい情報はここにアクセス
内容	幅広い進路学習の中でも、一度はふれておきたい重要な必須テーマだけを厳選した、ワークシートタイプの進路学習用教材。基本に絞った内容をビジュアルにわかりやすく編集することにより、生徒が進路を考えることへの気づきを促す。 2019 年度より、ビジュアルイメージを一新し、ポートフォリオやグローバ

	ル化などの現代的な要素を新たに取り入れた内容にリニューアル。 進路への意識を形成していくというストーリー性のある展開となっている。各テーマでの進路学習上のポイント、取り組み方を、二人のナビゲーターが対話とワークの中で、リアルに生徒に伝えていく。 学習内容を、生徒には理解しやすく、先生方にも展開しやすいよう噛み砕いて表現。各テーマとも、1テーマ 50 分で展開できる内容に絞ってあるので、少ない指導時間でも、やり残すことなく、進路学習の基礎固めができる。また、「教師用マニュアル」をクラス数分進呈。指導の進め方をテーマごとにわかりやすくまとめている。
--	--

④

書籍名	高校生の進路ノート スタンダード
著者／編者	全国高等学校進路指導協議会
発行元	実務教育出版
価格	900 円（税込）
対象	高 1～高 3
目次	テーマ 1 変わる社会と求められる資質・能力を考えよう 2 充実した高校生活を送ろう 3 学びを未来につなげよう 4 自分の個性を知って生かそう 5 職業についての理解を深めよう 6 上級学校での学びを知ろう 7 コミュニケーション・スキルを伸ばそう 8 身近にあるチームの力を見直そう 9 自分を PR するスキルを伸ばそう 10 地域の特性を探して生かそう 11 学校選びのポイントをつかもう 12 仕事選びのポイントをつかもう 13 人生の軸となるものを考えよう 14 生き方とライフプランを考えよう 15 豊かな人生を送ろう <体験学習用ワークシート> レポート 1 職業人インタビュー

	レポート2 進学した先輩インタビュー レポート3 インターンシップ（職場見学） レポート4 オープンキャンパス キャリアパスポート わたしの高校生活の記録
内容	高校3年間を通して、自己理解から職業観の育成、進路の選択・決定まで、生徒の進路意識を高めながら、主体的に進路を選択する力を育てていく進路学習教材。 高校3年間の進路学習に欠かせないテーマで構成した『高校生の進路ノート 総合版』を、新学習指導要領の理念を取り入れたテーマ構成に大幅改訂。 主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点を生かした授業展開が可能。 “体験学習”にも役立つワークシートは、事前準備や事後指導の際の先生の負担を軽減。さらに、指導の進め方を、テーマごとにわかりやすくまとめた「教師用マニュアル」進呈。

⑤

書籍名	受かる！自己分析シート
著者／編者	田口 久人【著】
発行元	日本実業出版社
価格	1200 円＋税
対象	就職活動を行う大学生
目次	第1章 自己分析について 第2章 自己分析シート 第3章 他己分析シート 第4章 企業研究について 第5章 履歴書・エントリーシートについて 付録 自己PR事例集
内容	41のワークシートから自分の価値が見えてくる。 ワークシートは独自のもので、大きく分けて 「自己分析」→「他己分析」→「企業研究」の3段階から成る。 基本構成として、左ページには質問に対する回答事例と著者のポイント解説、右ページには実際に書き込めるワークシート欄がある。 順番に回答していくことで、自分の強み・エピソードを徹底的に洗い出し、エントリーシート・履歴書の作成はもちろん、面接にも大いに応用することができる。

	巻末には自己 PR 事例集がある。
--	-------------------

⑥

書籍名	絶対内定 2021 自己分析とキャリアデザインの描き方
著者／編者	杉村 太郎 (著), 熊谷 智宏 (著)
発行元	ダイヤモンド社
価格	1800 円＋税
対象	就職活動を行う大学生
目次	まえがき/本質は「自己分析の結果を知ること」ではない。 「自分と向き合うこと」だ 第 0 章/「絶対内定」するために知っておきたいこと ・最新の就職傾向を押さえる/2020 年卒の「絶対内定」 第 1 章/就職活動を始める前に「夢」を描こう 第 2 章/なぜ「就職」するのか。「働く」とは何か 第 3 章/どうすれば「絶対内定」できるのか 第 4 章/「選ばせる」ため、「結果を出す」ための条件 第 5 章/就職活動で勝つためにすべき、たった 4 つのこと 第 6 章/内定のために必要な「デキル人」になる方法 第 7 章/ワークシートでキャリアデザイン、自己分析をする 第 8 章/実際にワークシートを書いてみよう 第 9 章/ワークシートをより効果的に進める方法 第 10 章/人生を後悔せずに生きるために ■おもなワークシート ・一晩でできる我究 ・過去を振り返るワークシート ・現状を整理するワークシート ・社会と自分の未来を考えるワークシート ・自分の価値を向上させるためのワークシート ・就職対策用ワークシート ・本番対策用ワークシート ・自己 PR 用ワークシート ・志望動機を完成させるためのワークシート ・面接対策のためのワークシート
内容	「9 年連続大学生協第 1 位!」の就職活動の定番本。 企業の人事部門や大学のキャリアセンター担当者や就職担当の先生など、

	多くの採用担当者からも支持されている。 94 の自己分析ワークシートが収録されており、このワークシートを順番に解いていくだけで、自己分析だけでなく、エントリーシート対策や面接対策まで出来る。他の就活本と比べてもその情報量は圧倒的。 しかし、情報量があまりにも多いのであまり時間のない人にはおすすめ出来ない。就活が本格化する 3 月以前に取り組むのが良い。
--	--

⑦

書籍名	マイナビ 2021 オフィシャル就活 BOOK 内定獲得のメソッド 自己分析適職へ導く書き込み式ワークシート
著者／編者	岡 茂信 (著)
発行元	マイナビ出版
価格	1280 円＋税
対象	就職活動を行う大学生
目次	序章 就職活動における自己分析の役割とは？/ 第 1 章 自己分析 1：自分を掘り下げよう 第 2 章 自己分析 2：客観的に自分を見つめてみよう 第 3 章 自己分析 3：自己分析のまとめ 第 4 章 適職分析を行おう 第 5 章 自己 PR・志望動機の作成
内容	マイナビ 2021 オフィシャル就活 BOOK「自己分析」のための書き込み式ワークシート。 自身の特徴、個性、能力などの整理から、適職診断、業界、業種と自己をつなげる志望動機への発展までを具体的な WORK(ワークシートへの書き込み作業)を元に進めていくことが出来る。 また、持ち運びに便利な別冊「書き込み式就職ノート」に、用途の違う数種類のワークシートを用意しているので、この一冊で自己分析、そしてエントリーシート、面接等で活かせる自己 PR や志望動機への対策が効果的に行うことが出来る。

⑧

書籍名	「納得の内定」をめざす 就職活動 1 冊目の教科書
著者／編者	就活塾 キャリアアカデミー (著)
発行元	KADOKAWA
価格	1600 円＋税
対象	就職活動を行う大学生

目次	第1章 「自己分析」からはじめよう 第2章 想いが伝わる「エントリーシート」の作り方 第3章 自分にとっての優良企業を見つける「企業研究」 第4章 「インターンシップ」を有効に活用しよう 第5章 効率重視で突破！「筆記試験&Webテスト」対策 第6章 「グループディスカッション」は戦略的にのぞもう 第7章 内定を勝ち取る「面接」のルール 第8章 信頼度がアップする就活の「マナー」 第9章 よくある就活のQ&A 付録 内定者インタビュー&採用担当者座談会
内容	自己分析／企業研究／ES／面接／GD／マナー・服装と就職活動のすべてを1冊にまとめた本。「就活のプロ」が教える極意 52。「何からはじめればいい?」「いつやればいい?」「どのくらい準備が必要?」すべてわかる安心の1冊。

⑨

書籍名	「会社四季報」業界地図
著者／編者	東洋経済新報社
発行元	東洋経済新報社
価格	1300 円＋税
対象	就職活動、ビジネス、投資、業界研究
目次	注目業界/ 大化け業界/ 自動車・機械/ エレクトロニクス機器/ 情報通信・印刷・インターネット/ 資源・エネルギー・素材/ 金融・法人サービス/ 食品・農業/ 生活用品・嗜好品/ 娯楽・エンタメ・メディア〔ほか〕
内容	『会社四季報』記者が 172 業界 4030 社の今を読み解く。業界内における企業の業績や順位、提携関係などを「地図」の形にして、視覚的にわかりやすく解説。さまざまな業界を「深く広く」知るには最適。見開きに対して1つの業界がトピックとなり、複数の企業の関係性が図で記載されている。業界研究に役立つ1冊。

⑩

書籍名	この業界・企業でこの「採用テスト」が使われている!
著者／編者	SPI ノートの会
発行元	洋泉社
価格	1200 円＋税
対象	就職活動を行う大学生

目次	第1部 最も効果の高い「採用テスト」対策とは？ 第2部 主要採用テスト 26 種 問題例と解説 第3部 有力「採用テスト」一覧 第4部 有力・人気企業 1200 社の「マル秘使用テスト」速報
内容	SPI 対策の1冊。SPI を含む主要な採用テスト約 70 種を紹介。有力・人気企業 1200 社の「使用テスト速報」を掲載。主要採用テスト 26 種の問題例を掲載。採用テストの「解禁日」と企業の動きがわかる。インターンシップの情報も満載。

⑪

書籍名	高等学校キャリア教育支援プログラム 職業キャリア教育
著者／編者	全国専修学校各種学校総連合会 近畿ブロック協議会 一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会
発行元	一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会
価格	記載なし
対象	高等学校生
目次	01 働くことって何？ 02 職業人として知っておきたいこと 03 職業人の心構えとして知っておきたいこと① 04 職業人の心構えとして知っておきたいこと② 05 職業キャリアマインドって何？① 06 職業キャリアマインドって何？② 07 働くことと社会の関係は？ 08 働くことと自分の関係は？ 09 基礎的な勉強の大切さ 10 一つの仕事に関わる多くの人々
内容	これから進学や就職を迎え自身のキャリアについて考えるべき高校生に向けて作られたキャリア教育教材。まだ社会や働くことの意味についてはっきりとはわかっていない世代にとって、職業とキャリアについて分かりやすいようにイラストも添えて書かれている。

「沖縄の地域文化と産業」教材開発事例収集

(1) 外国人留学生に対する日本文化及び日本の産業に関する教育を目的とする教材・書籍・資料等

①

書籍名	現代日本の暮らし
著者／編者	安部直文（著）、マイケル・ブレーズ（訳）
発行元	IBC パブリッシング
価格	1500 円＋税
対象	中・上級
目次	第 1 章 暮らし 1. 日本人の特質 2. 衣 3. 食 4. 住 5. 冠婚葬祭 6. 行事 第 2 章 宗教 第 3 章 文化 1. 学芸 2. 伝統技芸 3. 現代の文化の特徴 第 4 章 レジャー 第 5 章 観光・イベント
内容	外国人が日本で生活する際に知っておきたい「日本の文化・風習・生活」についてのアレコレを Q&A 形式で理解しながら、暮らしに関する単語や表現を学ぶことができる。日本についてよく聞かれる事柄を説明している。 ふりがな・語彙解説・英語訳付きで読解面・内容面ともに理解しやすいように作成されている。

②

書籍名	留学生のための日本史
著者／編者	東京外国語大学留学生教育教材開発センター（編集）
発行元	山川出版社
価格	1848 円＋税
対象	初中級以上の学習者
目次	1 日本の姿

	いま、どこにすんでいますか 日本は、どこにありますか 日本には、どんな島がありますか 日本は、どんな国ですか 日本のどこに、すんでいますか いつの時代ですか 2 日本の歩み 歴史をまなぶ ひとがすむ—石器から土器へ 米をつくる—農耕と金属器の時代 統一政権の誕生—古墳の時代 古代国家の形成—律令の時代律令国家の変容—貴族の時代 武士政権の登場—貴族と武士の二重政権 武士社会の展開—庶民と戦国大名の台頭 全国統一の完成—ヨーロッパ人の来航と日本 幕藩体制の確立—身分制と鎖国の時代 開港と日本の近代化—明治維新の時代 帝国憲法体制の展開—立憲主義から軍国主義へ 現代日本の出発—敗戦から高度成長の時代
内容	1章の日本の姿では地理的な内容が。2章の日本の歩みでは、日本のこれまでの歴史が、簡単にではあるが網羅的に記されている。留学生向けのため、行間が広く読みやすいデザインとなっている。日本の歴史について概略を知りたい留学生に最適の教科書である。

③

書籍名	日本のしきたり
著者／編者	土屋晴仁（著者）、竹森ジニー（訳）
発行元	IBC パブリッシング
価格	1500 円＋税
対象	中・上級
目次	A 年間行事 B 人生 C 婚礼/葬儀/宗教 D つき合い E 衣・食・住 F その他

内容	外国の人が、つい戸惑ってしまう儀式や慣習を簡潔明瞭に解説。年間行事、冠婚葬祭など何世代にもわたって受け継がれた日本の伝統について、この一冊で理解できる。 ふりがな・語彙解説・英語訳があるため、漢字の読みや内容理解もしやすいようデザインされている。
----	--

④

書籍名	留学生と中学生・高校生のための日本史入門 信長から安保法制まで
著者／編者	庵 功雄 (著)
発行元	晃洋書房
価格	1800 円＋税
対象	中上級
目次	戦国時代から織豊時代へ 幕藩体制の成立と展開 幕藩体制の動揺から開国へ、江戸時代の社会と文化 幕末の動乱から明治維新、文明開化へ 自由民権運動から憲法制定、アジアへの進出 大正デモクラシー、明治大正の文化 昭和恐慌、ファシズムの台頭から日中全面戦争へ 太平洋戦争 占領下の改革、再独立、60 年安保 高度経済成長の光と影 Japan as No.1、バブル、バブルの崩壊 「失われた 20 年」、そして、今
内容	この本では、室町時代から安保法制までの日本の歴史を、多くのコラムなどを使い、留学生、中学生、高校生向けに紹介。「今」を知るための 12 講。知っているようで、実は知らない、読み飛ばしがちな近現代史を紹介する。

⑤

書籍名	クローズアップ日本事情 15 日本語で学ぶ社会と文化
著者／編者	佐々木 瑞枝 著
発行元	ジャパントイズム
価格	2500 円＋税
対象	中上級・上級
目次	Unit 1 : 日本ってどんな国？ Unit 2 : 都市の暮らし・地方の暮らし

	Unit 3 : 日本の旅を楽しもう Unit 4 : いただきます！ Unit 5 : 季節を楽しむ年中行事 Unit 6 : 知っておきたい日本の歴史 Unit 7 : 伝統文化体験 Unit 8 : 現代文化とポップカルチャー Unit 9 : スポーツの楽しみ方 Unit 10 : 前進を続ける科学技術 Unit 11 : 地球のためにできること Unit 12 : 教育と子供たち Unit 13 : 産業構造と経済 Unit 14 : 政治と憲法 Unit 15 : 多文化共生社会を目指して
内容	中～上級学習者向けの日本を多角的に知るための日本事情教材。 過去と現在、都市と地方、日本と海外など、さまざまな角度から考察する文章を読み、その後、多様なタスクを通して、日本について、より深く、より広く、より楽しく理解することができる。巻末には、ユニットで学んだ内容を確認するためのワークシート「内容確認問題」と、各ユニットの「語彙リスト」、読解文の英訳がある。テーマについて詳しく説明した読解文では書き言葉を、そのテーマに関する場面を設定した会話文では話し言葉が学べる。 〈各ユニットの構成〉 ・ユニット扉：そのユニットのテーマを象徴するカラー写真を掲載 ・Section 1 : 読解文とタスク ・Section 2 : 会話文とタスク ・扉の関連情報：扉ページの写真に関する文化的な情報をまとめている。

⑥

書籍名	話そう考えよう 初級 日本事情
著者／編者	「日本事情」プロジェクト 著
発行元	スリーエーネットワーク
価格	1 0 0 0 円＋税
対象	初級～
目次	第1部 生活 （住所を覚える、電話をかける、手紙を出す ほか） 第2部 地理

	(国土、山と川、気候 ほか) 第3部 社会 (衣服、食物、住居 ほか)
内容	初級から日本語の学習進度に合わせ、「現代日本を理解する」ことを目的として、日本について学習する。第1部「生活」では身近な住所、電話、手紙を出す、第2部「地理」では国土、日本の1年、人口、第3部「社会」では食物、住居、出生率と平均寿命などを取り上げている。第2部、第3部は日本の高校の「現代社会」の教科書のような内容が読めるための足がかりとなっている。使用時間の目安は60時間を想定して作られている。

⑦

書籍名	留学生のための 時代を読み解く上級日本語
著者／編者	宮原彬 編著
発行元	スリーエーネットワーク
価格	2000 円＋税
対象	上級
目次	はじめに I 生活 1. 遠距離結婚 2. 「輝く女性」とは何なのか―「女性活躍」の現場― NEW! 3. 父親の育児参加 4. 社内結婚、企業が後押し NEW! 5. 働き方―変わる・変える NEW! II 少子高齢社会 6. なぜ少子化が社会問題なのか 7. 「買い物弱者」 NEW! 8. 離れて暮らす親の見守り NEW! 9. ノーマライゼーションの地域をつくる 10. 高齢社会は怖くない❓ III 教育 11. 学歴とは別のものさしで 12. メディア機器・IT機器の影響 13. 「主権者教育」 NEW! IV 企業と労働 14. 日本型雇用システム (1) 15. 日本型雇用システム (2)

	16. 日本の性別分業とM字型雇用カーブ NEW! 17. どうする？ 長時間労働 NEW! 18. なぜコミュニケーション能力か NEW! V 科学技術と人間 19. インターネットの隆盛 20. ロボットの活用 21. AI は人間の仕事を奪ってしまうのか NEW! 22. 「ビッグデータ社会」 NEW! 23. 本当に「原発は安い」のか NEW! VI 環境と人間 24. タバコのもたらすもの NEW! 25. 検証の壁、挑み続ける科学者—地球温暖化問題— NEW! 26. 人間のおごり 語句の用例
内容	各課は、本文、「漢字の読み方と語句の使い方」「話す練習」「書く練習」で構成され、本文には、現在の日本社会の実情を反映した、「生活」「少子高齢社会」「教育」「企業と労働」「科学技術と人間」「自然と人間」に関する文章を新聞記事、新書から採用。本文を読み、その内容について学習者の母国の状況とも関連させながら、話したり書いたりする作業を通じて、総合的な日本語力をつけることを意図。巻末には、使い方に注意が必要な語句を「語句の用例」として、例文とともにまとめている。 練習問題の解答例は補助教材としてスリーエーネットワークのホームページからダウンロードできる。

⑧

書籍名	マンガで学ぶ日本語表現と日本文化—多辺田家が行く!!
著者／編者	創作集団にほんご (著), 武田 聡子(監修) (監修, 監修), 創作集団にほんご (企画・編集) (編集), 宇田川 のり子(イラスト)
発行元	アルク
価格	2000 円＋税
対象	初中級。・中級
目次	4 月 5 月 6 月 7 月 8 月

	9 月 10 月 11 月 12 月 1 月 2 月 3 月 付録
内容	日本語表現と日本文化をマンガで学べる書。初級～中級で必要な言葉のニュアンスがわかる。語彙解説や練習問題が豊富。日本人の考え方や文化、類義語の使い分け、多義性を持つ言葉なども学べる。 教室教材としても読み物としても使える。マンガは4月から12カ月の季節の風物や話題を題材にした24編。どの課からでも始められる。マンガだけでも十分楽しめる。別冊で「使い方のヒント」が付いている。

⑨

書籍名	ポップカルチャーで学ぶ初中級日本語
著者／編者	花井善朗 [著]
発行元	くろしお出版
価格	2000 円＋税
対象	初中級
目次	第1課 漫画-1 1)～3)日本の漫画 4)5)漫画のキャラクターの描き方 6)漫画のルーツ 7)「大津絵」「鳥羽絵」「漫画」 8)時代背景：江戸時代 第2課 浮世絵 1)浮世絵 2)「神奈川沖浪裏」「庄野・白雨」 3)時代背景：江戸時代 4)「憂き世」「浮世」「浮世絵」 5)浮世絵の西洋の国々への影響 6)浮世絵の影響を受けた作品

	第3課 漫画-2 1)『絵新聞日本地』と『団団珍聞』 2)チャールズ・ワーグマンと『THE JAPAN PUNCH』 3)ジョルジュ・ビゴーと『TÔBAÉ』 4)時代背景：幕末～明治時代 5)北澤楽天 6)アメリカのコマ漫画の影響、子供のためのストーリー漫画 第4課 漫画-3 1)戦時中の漫画と『サザエさん』 2)週刊漫画雑誌 3)手塚治虫 4)色々な漫画の表現：1.吹き出し 5)2.効果線（1） 6)3.効果線（2） 7)4.コマ割り 第5課 アニメ 1)日本のアニメ 2)日本でのアニメーションの発展とその背景 3)セルアニメーションとトーキーアニメーション 4)長編アニメーション 5)戦後の日本アニメ 6)東映動画、虫プロダクション、スタジオジブリ 7)虫プロダクション 8)スタジオジブリ 9)アニメと漫画 第6課 歌-1 1)「上を向いて歩こう」 2)坂本九の子供時代と歌手デビュー 3)時代背景 4)ロカビリーブームと坂本九 5)「上を向いて歩こう」の大ヒット 6)「SUKIYAKI」 7)坂本九が残した言葉
--	---

	第 7 課 歌・2 1)ポピュラー音楽のルーツ 2)戦前のポピュラー音楽 3)戦後の歌謡曲 4)美空ひばり 5)テレビの普及とアイドルブーム 6)J-POP 7)8)英語の歌詞 第 8 課 踊りと芸能 1)阿波踊り 2)阿波踊りの歴史 3)全国に広まる祭りと言能 4)江戸時代の庶民の芸能：文楽、歌舞伎 5)時代背景 6)和太鼓
内容	江戸時代から現代までの日本のポップカルチャー（大衆文化）を学びながら日本語を身につける初中級日本語教科書。初級後半でも学習者の知的探求心に応える読み物と、文化理解を深める 活動が満載。WEB で配信された本文テキストを読解補助ツールで読みこなすなど、新しい試みで効果的に日本語力を高める。 英・中・韓・ベトナム語翻訳単語リスト付きで、それらの言語の話者にはわかりやすい構成となっている。関連サイトとして「ポップカルチャー NEW&OLD ウェブサイト」http://www.learnjpcinjapanese.com/、『ポップカルチャー NEW&OLD ポップカルチャーで学ぶ初中級日本語』のコンテンツ、教科書の内容に係するブログ記事、オンライン教材へのアクセスなどがある。

⑩

書籍名	留学生のための日本事情入門
著者／編者	金津日出美・桂島宣弘・アジアにおける日本研究ゼミナール（著）
発行元	文理閣
価格	2000 円＋税
対象	中上級
目次	1 覚えておきたい日本語の日常表現

	日本語の表記 日本語の漢字 「いいえ」 変化した言葉 本音と建前 短縮句と省略された表現
2	生活事情
	住宅 買い物
3	交通事情
	海上交通 空の交通 陸上交通 電子化と交通 バリアフリーと交通 介護タクシー
4	留学生のための法律知識
	アルバイト アパートなどの住宅契約について
5	日本人の食生活
	食生活の変化 食事風景の変化 外食・中食 今、食に求めるもの 日本料理 日本人の食事マナー 日本の菓子
6	日本の春・夏
	春（3月～5月） 夏（6月～8月）
7	日本の秋・冬
	秋（9月～11月） 冬（12月～2月）
8	京都案内
	観光の街 京の町並み

	京都の祭りとし 学生の街・京都 情報誌紹介 9 日本の祭り 昔ながらの祭り 現代の祭り 10 日本の名所 史跡 自然の名所 11 日本の芸能 能 歌舞伎 狂言 文楽（人形浄瑠璃） 落語/漫才（万歳） 12 日本の芸道 茶道 華道 書道 武道 その他の芸術 13 日本の大学 日本の大学の特徴 日本の大学の種類 日本の大学数 大学への進学率 大学入試について 大学の制度 大学の国際化 留学生奨学金制度 14 大学の四年間 サークル・クラブ活動 ゼミナール・卒業論文 進路決定 恋愛 アルバイト
--	--

	コンパと割り勘 15 日本の教育 日本の学校 教育における社会問題 教育改革 16 現代日本と世界とのつながり 日本と世界のつながり 世界との身近なつながり～食～ ポピュラー文化のつながり 情報通信技術と国際ビジネス 人のつながり 17 現代日本の音楽・映画事情 音楽事情 映画事情 18 現代日本の大衆娯楽 動物園・水族館・遊園地・テーマパーク スポーツ観戦 ゲーム そのほかの娯楽 19 現代日本の家族 家族形態の変化 結婚・離婚について 定年とその後の人生 20 現代日本の若者文化 若者ことば ファッション 携帯電話・スマートフォン 21 働く人々の諸問題 タテ社会 多様化する就業形態 女性の社会進出 通勤ラッシュアワー 日本の労働の問題点 22 日本の国土・資源・人口・特産品 日本の国土(1) 日本の国土(2)
--	--

	23 日本の政治と経済 明治維新と第二次世界大戦後の改革 日本の政治 日本の経済 24 憲法と平和問題 日本国憲法 平和主義の憲法 25 日本のあゆみ 日本の対外関係史 日本の対外戦争 天皇 26 宗教 民俗信仰 神道 仏教 キリスト教 新宗教 日本人は無宗教か 27 日本の方言 日本の方言 参考文献・参考 URL 一覧 (もっと知りたい人のために)
内容	日本で実際に生活している学生と留学生の交流から生まれた、まったく新しい日本事情紹介テキスト。日本の四季、祭りや芸能、大学生活、娯楽や文化、政治・経済・歴史・宗教など、留学生の目線に立って編まれた好評書である。日本に関わるあらゆる内容が網羅されているため、日本について知りたい外国人留学生にとっては大変有用な教材である。

⑪

書籍名	体験しよう日本の文化
著者／編者	KEK 国際交流会 (著)
発行元	アプリコット
価格	1602 円＋税
対象	初心者～
目次	伝統文化 折り紙 ちぎり絵

	茶の湯
	生け花
	盆栽
	俳句
	ゆかた
	銭湯
	ふろしき
	中元・歳暮
	お金の贈り方
	花の贈り方
	長寿の祝い
	印鑑
	お見合い
	結納
	神前結婚
	お宮参り
	日本の暦
	年中行事
	お正月
	書きぞめ
	節分の豆まき
	ひな祭り
	彼岸
	お花見
	端午の節句
	七夕
	お月見
	運動会
	七五三
	年の瀬—お正月の準備
	日本の味覚
	和食のマナー
	てんぷら
	刺身
	しゃぶしゃぶ
	炊き込みご飯

	みそ汁 あえ物 うどん のり巻き・いなりずし おにぎり お好み焼き 焼鳥 ぼたもち・おはぎ 梅酒 子どもの遊び じゃんけん はさみ将棋 百人一首 坊主めくり てるてるぼうず
内容	外国の方々に日本の身近な生活や伝統的な文化を、楽しく体験しながら理解してもらえる内容。日本の文化に関心のある外国人の方はもとより、自分自身をとりまく文化を再確認してみようという日本人の方々にも幅広く楽しみながら読んでいただける。日本文化を英語で伝えるための勉強にもなる。 日本の伝統文化・年中行事・味覚・子供の遊びの中から50項目を選び、Activity とQ & Aでわかりやすく日英対訳形式で解説した外国人向けの日本文化手引書。

(2) 日本人を対象とした、日本国内の地域文化及び産業に関する教育を目的とした教材・書籍・資料等

①

書籍名	沖縄県の歴史
著者／編者	安里進・田名真之・真栄平房昭・西里喜行・豊見山和行・高良倉吉（編）
発行元	山川出版社
価格	本体 2,400 円 + 税
対象	一般向け
目次	風土と人間 強い自己意識をもつ島々 1 章 琉球文化の基層 1 沖縄考古学の時代区分 本土とは異なる歴史 ゆれる沖縄考古学の時代区分 2 日本人の起源論と琉球＝沖縄人の形成 日本人の二重構造モデルと沖縄 港川人と貝塚人 琉球＝沖縄人の成立とグスク時代 3 南海の縄文系文化と南アジア系文化 貝塚時代最古の土器の謎 貝塚時代前期の文化と生活 南アジア系文化の北限－先島先史文化 4 交易社会の発達 サンゴ礁の発達と漁労共同体 南海の貝に魅せられた弥生人 交易社会の発達 2 章 大型グスクの時代 1 大型グスク出現前夜の琉球列島 東アジア交易体制と琉球列島 石鍋・カムイヤキ・中国陶磁器の流通 琉球列島の文化的・経済的転換 [コラム]最後の先島先史人－波照間島大泊浜貝塚 2 大型グスクの時代と琉球王国の成立 大型グスクの出現 中山王権の成立と寨官の成長 [コラム]浦添グスク・ようどれの発掘調査成果 琉球王国の成立

	3 章 古琉球王国の王統 1 初期王統の系譜－浦添政権の成立と展開 舜天王統 英祖王統 察度王統 [コラム]察度と黄金宮 2 尚巴志政権(第一尚氏)と三山統一 三山の系譜 尚巴志の三山統一 尚巴志政権 尚泰久の治世－阿摩和利の乱と仏教 3 尚円政権(第二尚氏)の成立 尚円王朝の成立 尚真の中央集権 アカハチ事件 4 章 海外交易と琉球 1 明朝冊封体制と東アジア 冊封体制への参入 進貢貿易の展開 [コラム]『大明会典』にみる進貢品 東南アジア諸国との交易 久米村の成立 2 室町幕府、薩摩と琉球 室町幕府との交流 薩摩島津氏と琉球 十六世紀のアジア－海外交易の衰退 5 章 東アジアの変動と琉球 1 豊臣政権の朝鮮侵略と琉球 朝鮮侵略の波及 「倭情」の通報 2 島津氏の琉球出兵と尚寧政権 琉球出兵の原因 琉球の対応 島津氏の初期琉球統治策 尚豊政権の性格
内容	第2版 市町村合併に対応。

	沖縄考古学の時代区分，大型グスクの出現，尚巴志政権，薩摩島津氏と琉球，士農分離の前史，最後の冊封，廃琉置県処分の諸相，琉球国から沖縄県へ，沖縄県の復活……と，原始時代から現代までを県民の立場から叙述。
--	--

②

書籍名	沖縄の歴史と文化
著者／編者	外間守善
発行元	中公新書
価格	本体 7,000 円＋税
対象	一般向け
目次	序章 太平洋文化圏の中の沖縄 第1章 沖縄歴史のあゆみ 第2章 沖縄の言語と文化 第3章 神歌にみる宮古・八重山の歴史
内容	沖縄は地理的に遠く、日本本土と趣きの異なる歴史と文化をもっているため、歴史を区切る概念も、文化を貫く美意識も、それらを表現する言語も、すべて本土的な尺度では計れない。本書は、単に日本列島の一島嶼群として捉えるのではなく、広く太平洋文化圏の中に位置づけ、日本人および日本文化のルーツの一つともいべき沖縄の歴史と文化を、諸分野の研究成果を取り入れながら紹介する。沖縄の実相を識るための入門書である。

③

書籍名	沖縄の農業 近世から現代への変遷
著者／編者	飯沼二郎
発行元	海風社
価格	本体 2,427 円＋税
対象	一般向け
目次	はじめに 1 現代の沖縄農業（石垣島、波照間島） 1-1 沖縄との出会い 1-2 石垣島農業の現状 1-3 波照間島のユイマール 1-4 石垣島での報告会 2 近世の沖縄農業 2-1 ペリー「日本遠征記」 2-2 琉球王国の行政機構

	2-3 役人の農書 2-4 農民（老農）の農書 3 近代の沖縄農業 3-1 伝統技術と学理農法 3-2 西原叢書 3-3 沖縄農試の試験研究 3-4 近代の沖縄農業「第一期」 3-5 「第二期」 3-6 サトウキビと農民 3-7 「第三期」 3-8 「第四期」 3-9 沖縄農試と沖縄農業 4 現代の沖縄農業（伊江島） 4-1 基地闘争の発端 4-2 苛烈な基地闘争 4-3 伊江島農業の現状 4-4 伊江島農業のもつ意味
内容	表土の流出によって地力は衰え、土砂の流入により青い海も失われつつある今、南島の農業の持つ可能性と現実のギャップを埋めるべく、体系的な農業論と栽培法をまとめた実践農法の書。

④

書籍名	教材 DVD 沖縄の人々の暮らし
著者／編者	なし
発行元	りゅうか商事
価格	本体 2800 円（税込み）
対象	小学生
目次	・ 沖縄の位置 ・ 昔の沖縄と首里城 ・ 沖縄の自然と気候 ・ 沖縄の珍しい動物 ・ 沖縄の台風被害 ・ 沖縄の家屋の造り ・ 沖縄の地形と断水 ・ 沖縄の農業 ・ 沖縄の観光

	・ 平和学習(戦争について) ・ 沖縄の祭り ・ 沖縄のガラス工芸 ・ 沖縄料理
内容	縄の人々の生活シーンをたくさん収めた教材ビデオ。 沖縄の自然、気候、家の造り、平和学習(戦争)、農業、米軍基地等。 授業に合わせた内容なので、子供たちにもわかりやすい。

⑤

書籍名	沖縄観光とホスピタリティ産業
著者／編者	宮城博文
発行元	晃洋書房
価格	本体 2,800+税
対象	一般向け
目次	序章 「沖縄観光とホスピタリティ産業」を論ずるにあたって 第1章 地域形成におけるデスティネーション研究の検討と課題 第2章 ホスピタリティ産業におけるサービス提供過程の課題 第3章 沖縄県におけるホスピタリティ産業の規模と現状 第4章 沖縄県における宿泊業の発展と日本の旅行市場 第5章 沖縄県におけるリゾート・ホテルの形成、及びデスティネーションの発展—ホテルムーンビーチを中心に 第6章 宿泊業におけるサービス・コンセプト実現の仕組み—ザ・テラスホテルズを中心に 第7章 沖縄観光の形成と旅行業の役割—沖縄ツーリストを中心に 終章 沖縄観光の展望と今後のデスティネーション・モデルの課題
内容	「基地」という現実と直面した島であり、交通から見ても不利である島嶼地域の沖縄がどのようにして観光立県となりえたのか。 観光の発展過程を産業クラスター形成と顧客へのサービス・コンセプトから分析。 これまでの政策論的な観光研究に対し、経営学の視点から時系列的、体系的にホスピタリティ産業のクラスター形成、および顧客へのサービス・コンセプトを分析。新しい視座を提示し、沖縄における観光の発展の過程を明らかにするだけでなく、これからの日本の観光政策や地域経済に示唆を与える。

⑥

書籍名	沖縄まるごと大百科〈1〉沖縄の自然
-----	-------------------

著者／編者	宮城 勉（監修）／渡辺 一夫（文・写真）
発行元	ポプラ社在
価格	本体 2,800 円+税
対象	児童向け
目次	沖縄の島じまの地形と気候（南の国沖縄へようこそ 長い夏と短い春の南の島 ほか） 楽しい沖縄の海辺（海の楽しみがある島じまサンゴ礁ってなに？ ほか） 沖縄の植物・動物（沖縄でよく見られる花と木沖縄だから見られる生き物） ヤンバルの森に行こう（生き物の命をささえるイタジイの森ヤンバルの森の沢であそぼう） 沖縄の自然を守る（石垣島のサンゴを守るヤンバルの森を守る ほか）
内容	あたたかい気候と、サンゴ礁の海やヤンバルの森がおりなす沖縄の美しい自然を、多くの資料やあざやかな写真で紹介する。環境保護の問題にもふれている。

⑦

書籍名	沖縄まるごと大百科〈2〉沖縄の暮らし
著者／編者	上江洲 均（監修）／吉田 忠正（文・写真）
発行元	ポプラ社
価格	本体 2,800 円+税
対象	児童向け
目次	沖縄の市場（那覇の市場を探検しよう 色とりどりの魚がならぶ魚屋さん ほか） 沖縄の食べもの（栄養たっぷり！沖縄の家庭料理 どこがちがう？沖縄の「島豆腐」 ほか） 沖縄の住まい（緑の木ぎにかこまれた赤瓦の家 魔物から家を守るシーサーと石敢当 ほか） 沖縄の祭りと行事（沖縄の小学校の1年間の主な行事 運動会と学芸会ではどんなことをする？ ほか）
内容	あたたかい気候を生かした沖縄の暮らしを紹介している。沖縄にはどんな食べものがあるのか。どんな祭りや行事があるのか。といった、身近なことから伝統行事までをとりあげ、沖縄のいまの暮らしがわかる。

⑧

書籍名	沖縄まるごと大百科〈3〉沖縄の産業
著者／編者	城 勉（監修）／渡辺 一夫（文・写真）

発行元	ポプラ社
価格	本体 2,800 円+税
対象	児童向け
目次	沖縄をささえる観光（小さくて大きな沖縄県 観光客をむかえるととのった施設 ほか） 沖縄の農業（沖縄の農業をささえるサトウキビ 沖縄だけのパイナップル栽培 ほか） 沖縄の水産業（魚の牧場、パヤオ エイはよい知らせ、定置網漁 ほか） 伝統の産業と新しい産業（伝統の酒「泡盛」づくり 粟国島の塩づくり） 沖縄の交通とエネルギー（海と空でむすぶ沖縄県内の交通 「ゆいレール」がかえた那覇市の交通 ほか）
内容	美しい景観やマリン・スポーツなどで人気の観光業、サトウキビやパイナップルなどの気候を生かした農業など、沖縄とくゆうの産業を、現地に密着した取材で紹介している。

⑨

書籍名	沖縄まるごと大百科〈4〉沖縄のことばと文化
著者／編者	前原 信喜（監修）／吉田 忠正（文・写真）
発行元	ポプラ社
価格	本体 2,800 円+税
対象	児童向け
目次	沖縄のことば（まずあいさつから始めよう 家族のよび方と敬語を学ぼう 方角や時をあらわすことば ほか） 沖縄の昔話と芸能（沖縄にはどんな昔話がある？ 沖縄のわらべ歌をうたってみよう 三線に挑戦してみよう ほか） 沖縄の工芸（沖縄の主な工芸とその産地 美しい王朝風の型染め・紅型 琉球かすりができるまで ほか）
内容	「沖縄ことば」や昔話・芸能をとおして、沖縄に生きついている文化や風習を学べます。また、華やかな古典舞踊や美しい紅型などの伝統的な芸能や工芸から、琉球ガラスや木工などの新興工芸まで、幅広く紹介している。

⑩

書籍名	沖縄まるごと大百科〈5〉沖縄の歴史
著者／編者	新城 俊昭（監修）／村田 昌三（文）／吉田 忠正（文）
発行元	ポプラ社
価格	本体 2,800 円+税
対象	児童向け
目次	旧石器時代から貝塚時代へ グスク時代 大交易時代 薩摩藩による支配 琉球処分からアジア太平洋戦争へ 戦後の沖縄
内容	大むかしの沖縄のようすから、中国や東南アジアなどとの貿易で栄えた「琉球王国」の時代、そして、平和発信の地となった現代までの沖縄の歴史がわかる。

⑪

書籍名	沖縄地域産業の未来
著者／編者	関満博
発行元	新評論
価格	本体 5,300 円+税
対象	一般向け
目次	沖縄の地域産業／ 第1部 沖縄地域産業の構図（沖縄地域産業の基本構造） モノづくり中小企業の展開 地域資源をベースにする新たな産業化 女性起業家の取り組み 条件不利を乗り越える地域の取り組み） 第2部 離島の地域産業の取り組み（宮古島の地域産業発展 石垣島の地域産業発展 伊江島の地域産業発展 第3部 地域産業の新たな取り組み（情報通信関連産業・金融業と地域振興） 環境変化に合わせ柔軟に変化する商店街－那覇市中心商店街の生成と発展 産学官連携と地域産業振興／琉球の風を「売る」－観光産業と感性文

	化産業で「未来」を築く) 未来に向かう沖縄の地域産業
内容	1972 年 5 月の沖縄の「本土復帰」から数え、2012 年は満 40 年を迎える。復帰当時から、沖縄経済についてはその特質として「基地依存型輸入経済」「第三次産業の異常な肥大化」、および貿易収支のアンバランスを基地収入で補填する「特異な対外収支構造」が指摘されてきた。そして復帰後、ハード面のインフラは大幅に改善されたものの、経済の基本構造は大きく変わっていない。 戦後、経済発展を実現した日本は、71 年のニクソンショック、85 年のプラザ合意以降、急速な円高の中にある。この間、90 年代の初めにバブル経済の崩壊を経験し、日本産業全体が大きな構造転換期に入っている。そのような時代、むしろ、沖縄は新たな可能性を見出しつつあるのではないかと思う。豊かな自然資源の存在、東アジアの中心的な位置にあることから醸成された人びとの意識が、この時代に新たな意味を帯び始めている。そして、改めて沖縄をのぞいてみると、人口減少社会に入っているはずの日本の中で、ほとんど唯一人口を増大させ、一人あたりの県民所得を徐々に上昇させていたのであった。 沖縄の地域産業は明らかに「新たな時」を迎えつつある。戦後 60 年続いた大量生産・大量消費・大量輸出・大量廃棄に基づく発展モデルは終焉し、私たちは新たな仕組みを作り上げていくべき時代の中にいる。そのような状況のもと、私たちは、地道に挑戦を積み重ねている沖縄の地域産業の現場から、来るべき「未来」を予感していくことになろう。本書ではこうした点に注目し、本土復帰 40 年を迎え新たな方向に向かう沖縄の地域産業化の取り組みと可能性を、「現場」から論じていくことにする

⑫

書籍名	47 都道府県調べて楽しい！！あなたのまちの凄い！地場産業めぐり〈3〉 自然と技術の融合 中国・四国・九州・沖縄編
著者／編者	記載なし
発行元	教育画劇
価格	本体 3,500 円+税
対象	小学校中学年から一般向け
目次	はじめに 中国地方 鳥取県 砂丘らっきょう漬

	かに加工品／因州和紙／弓浜緋 島根県 雲州そろばん 宍道湖のしじみ ふくぎ茶／出雲石灯籠 岡山県
内容	< 47都道府県 調べて楽しい！！あなたのまちの凄い！地場産業めぐり > 第3巻は、中国・四国・九州・沖縄編。岡山県のジーンズ、熊本県のおばけの金太、沖縄県の琉球ガラスなど、バラエティ豊かなラインナップ。内容誰もが知っている定番からへと驚く意外なものまで、各地の主要産業・伝統工芸品・近年注目され始めた産業など幅広く網羅している。 なぜその地場産業が栄えたのか？背景を紐解くと、地方の気候や地形、歴史や文化との密接な関係が見えてくる。 そして産業を支えてきた人々の工夫や情熱も見えてきます。 地場産業を通してその地域がわかる一冊。

⑬

書籍名	未来経済都市沖縄
著者／編者	安里 昌利, おきぎん経済研究所
発行元	日本経済新聞出版社
価格	本体 1,600 円+税
対象	一般向け
目次	第1章 日本人の9割が知らない「沖縄の秘密」～沖縄の経済成長～ 第2章 沖縄を中心に「世界地図」が変わる～地理的優位性、国際物流拠点～ 第3章 世界にインパクトを与える「沖縄ビッグバン」～国家戦略、今後30年の展望～ 第4章 なぜ日本の大企業は「沖縄進出」したいのか？～沖縄のビジネスチャンス～ 第5章 ハワイを超える観光客が押し寄せる「沖縄」の魅力～観光、文化～
内容	日本が国家戦略として取り上げる沖縄の経済政策。沖縄経済界の重鎮が、グローバルな視点からその現状と未来図を描き出す、9割の日本人がまだ知らない沖縄経済の実力。 ●沖縄から4時間圏内に20億人のマーケットが眠っている

	地球儀の見方を変えて、沖縄を中心に世界を見ると、ガラリと景色が変わる。1000km の地点に台湾。2000km 圏内には中国沿岸部の主要都市すべてとフィリピンが、3000km ではタイ、マレーシア、カンボジアまですっぽり入る。飛行機で4時間圏内に、世界人口の3分の1にあたる20億人の市場が眠っている。世界経済の6割を占め、大きく拡大するアジアに最も近い沖縄は、貿易・物流の重要な拠点として注目されている。 ●日本で唯一発展を続ける沖縄経済 「2009年以降日本で唯一人口が増えているのは沖縄」 「沖縄は『アジアのゲートウェイ』としての地理的優位性を持っている」 「観光客数も増加、2017年に沖縄を訪れた人はハワイを上回った」 21世紀は人とモノが移動する「物流の時代」。そして、人とモノが動けばお金と情報も集まる。沖縄が経済的に注目されるのは、これから成功するチャンスに溢れているからだ。 本書は、国際物流の拠点として沖縄に注目し上海・香港・バンコク・シンガポールなどに沖縄を中心とした国内4拠点、海外8拠点を築き、高速物流を実現していち早く動いたANAや、精密機械産業やIT企業の集積など、本土企業の動向も取り入れながら、今起こりつつある様々な動きを経済的側面から分析。ビジネスチャンスに溢れる沖縄の姿をわかりやすく解説する。
--	---

⑭

書籍名	ニッポンを解剖する！沖縄図鑑
著者／編者	記載なし
発行元	JTB パブリッシング
価格	本体 1,600 円+税
対象	一般向け
目次	【1章：沖縄ネイチャー】 やんばるの山々／八重岳の桜／慶佐次川／久米島の畳石／吉野海岸 アオサンゴ群落／下地島の通り池／はての浜／バラス島／玉泉洞 いきもの図鑑（魚、サンゴ、動物）／花・植物図鑑 【2章：沖縄カルチャー】 首里城／御後絵／識名園／染め織（紅型、芭蕉布）／やちむん／漆器 ガラス／さんしん／カチャーシー／組踊／宮廷料理／沖縄そば／泡盛 【3章：沖縄本島名所スポット】 今帰仁城跡／座喜味城跡／勝連城跡／中城城跡／斎場御嶽／アガリウマーイ

	中村家住宅／ガンガラーの谷／沖縄美ら海水族館／ニライカナイ橋 牧志公設市場／国際通り／やちむんの里／聖クララ教会 【4章：離島】 西表島／石垣島／宮古島／竹富島／黒島／小浜島 与那国島／波照間島／南大東島／北大東島 【5章：沖縄カレンダー】 ハーリー／旧盆／太綱引き／来訪神 【コラム】 沖縄の気象／人名・地名／アメリカ文化／旧暦のある暮らし
内容	独特の文化と大自然が魅力の「沖縄」をまるごと解剖。 通常のガイドブックでは、あまり知ることのできない沖縄の名所・旧跡の詳細や、自然・歴史・文化を、文章だけではなく多彩な写真やイラスト、表などをふんだんに使い、わかりやすく図解して紹介している。 この一冊で「沖縄」の見方、楽しみ方が変わる。 読んで面白い、知って旅に出たくなる、新しい形のガイドブック。

⑮

書籍名	沖縄島建築 建物と暮らしの記録と記憶 (味なたてもの探訪)
著者／編者	普久原朝充 (監修), 岡本尚文 (写真)
発行元	トゥーヴァージンズ
価格	本体 1,900 円+税
対象	一般向け
目次	取材先 10 軒 ・戦前から残る沖縄最大級の木造建築「津嘉山酒造所」 ・現存する沖縄最古のコンクリート建築「大宜味村役場旧庁舎」 ・琉球王朝時代より続く「玉那覇味噌醤油」 ・世界一小さな現代美術館「キャンプタルガニー」 ・1950 年創業首里唯一の映画館「首里劇場」 ・沖縄最古のホテル「沖縄ホテル」 ・戦後木造建築で営むさしみ屋「親川鮮魚店」 ・与那原の丘の上に建つ「聖クララ教会」 ・沖縄最初のドライブイン「シーサイドドライブイン」 ・沖縄で唯一メガネのレンズを製造していた「OIC Optical Company」 コラム 「石造文化に咲いた花ブロック」、「沖縄住宅の顔・鉄門扉」、

	「占領と外人住宅」、「海辺の村の理容館へ」 etc その他 沖縄建築の系譜図、建築歴史年表、建築マップなど。 目まぐるしく変わりゆく 時代の中で 変わらない沖縄の記憶がここにある。 伊礼 智 (建築家) 建築は人生だ。建築は家族だ。建築は社会だ。 バスターミナルも農連市場もなくなったけど、 路地を歩けば、「ふつうの沖縄」がこんなにも。 岸 政彦(社会学者)
内容	建物から人々の暮らしと時代性を探るビジュアル探訪記「味なたてもの探訪」シリーズ 第2弾は時代の変遷が生み出したさまざまな表情をもつ「沖縄の建築」 木造建築、コンクリート建築、赤瓦、セメント瓦、琉球、日本、アメリカー 多様な文化が混ざり合う沖縄のまちと建築を通して、 時代の流れのなかを生きた人びとの暮らしの「記録と記憶」をまとめた一冊。 琉球王朝時代の名残をとどめる建築、現存する数少ない戦前建築、 そして戦後アメリカ文化の影響を受けた建物まで沖縄の歴史を辿る 10 軒 を取材。 その他、沖縄独特の建築意匠やアイデア、地域の商店などを紹介したコラム、 沖縄本島 4 エリアの見るべき建築を、写真と専門的な解説で紹介したマップなど。 普通のガイドブックでは物足りない方にもオススメな一冊。

⑬

書籍名	三訂版 高等学校 琉球・沖縄の歴史と文化
著者／編者	新城 俊昭 (著)
発行元	編集工房 東洋企画
価格	本体 1,500 円+税

対象	高等学校生
目次	第1章 先史時代の沖縄 第2章 琉球王国の時代 第3章 薩摩の侵略と琉球王国 第4章 琉球王国から沖縄県へ 第5章 十五年戦争と沖縄 第6章 米軍支配下の沖縄 第7章 復帰後の沖縄
内容	沖縄で一生を過ごす人もいれば、沖縄から旅立ち、本土や世界各地で活躍する人も多い。「汝の立つところを深く掘る」ことにより、将来、どこで暮らすことになるだろうとも、あなたを育ててきた「沖縄」という豊かな泉が、あなた自身の力づよい支えとなってくれることでしょう。本書は、琉球・沖縄の歴史と文化を独学でも学習できるようにまとめた、新しいタイプの歴史的教科書である。

⑪

書籍名	新訂版 これだけは知っておきたい琉球・沖縄のこと
著者／編者	沖縄歴史教育研究会 新城俊昭（著）
発行元	沖縄時事出版
価格	本体 556 円+税
対象	沖縄県内の高等学校生
目次	1 琉球・沖縄の歴史 2 琉球芸能 3 琉球・沖縄の伝統文化 4 琉球・沖縄の伝統行事 5 沖縄の世界遺産 6 琉球・沖縄の人物 7 琉球・沖縄の歴史書と文学作品 8 沖縄言葉 9 沖縄の地名・人名 10 沖縄の地理 11 沖縄の自然 12 沖縄の重要な出来事と記念日 13 沖縄の食文化 14 現代の沖縄社会 15 沖縄の観光

内容	元高校教師の著者が、県内の高校生にもっと沖縄を知ってもらおうと出版された琉球・沖縄のことを知るための入門書。クイズ形式で琉球・沖縄関係の事項を網羅的に編集し、手軽に読み進めることができ、自分の興味がある内容からスタートすることもできる。「沖縄のことを知りたい!」「自分の知識力を確かめてみたい」という方にはお薦めの一冊である。解答書は、「問題に対する解答」にとどまらず、適宜に解説を加え、知識の確認と理解を促せるようになっている。
----	--

2019年度 文部科学省委託事業 専修学校による地域産業中核的人材養成事業
地域課題解決実践カリキュラムの開発・実証

**IT系留学生のための「ITビジネス日本語・文化」強化プログラム開発事業
2019年度事業 成果報告書**

2020年3月発行

発行者 一般財団法人 日本検定基盤財団
〒145-0071 東京都大田区田園調布1-8-21
TEL : 03-3722-1788 FAX : 03-3583-1855
<http://www.waken.or.jp/>

本報告書は、文部科学省の生涯学習振興事業委託費による委託事業として、一般財団法人日本検定基盤財団が実施した平成30年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

※禁無断転載